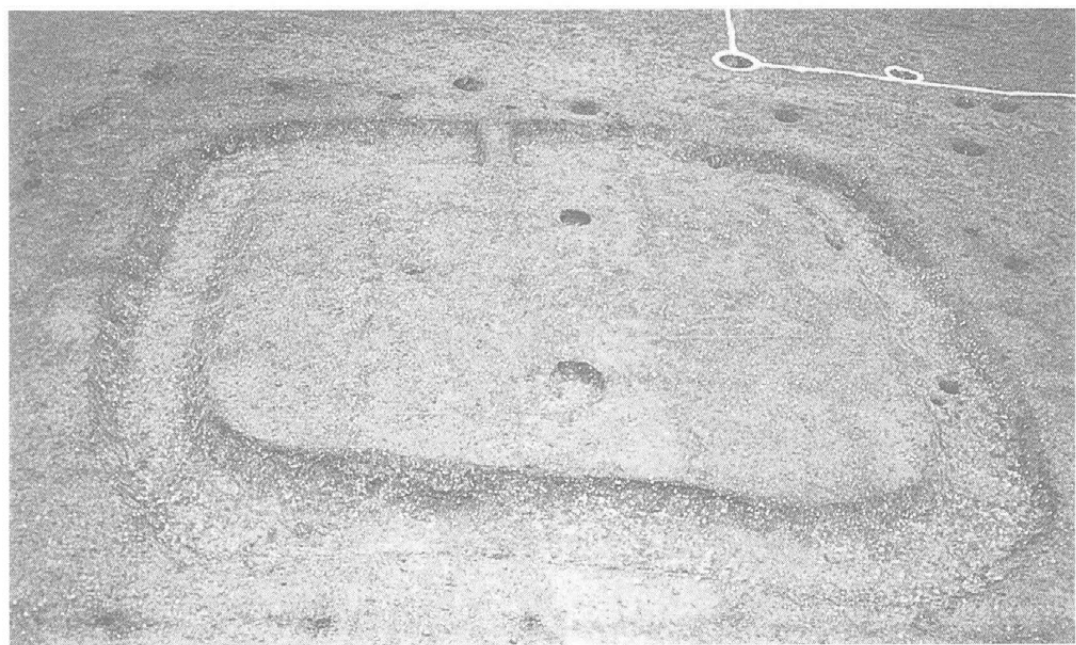


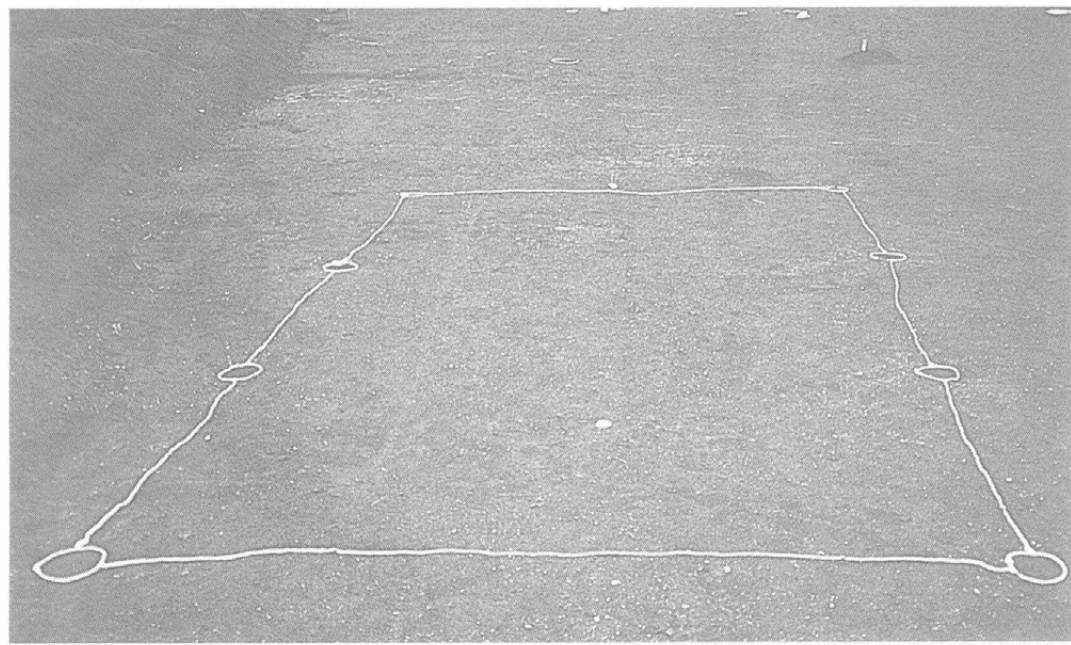
中大五郎第2 SL 3完掘状況



中大五郎第2 SL 2完掘状況



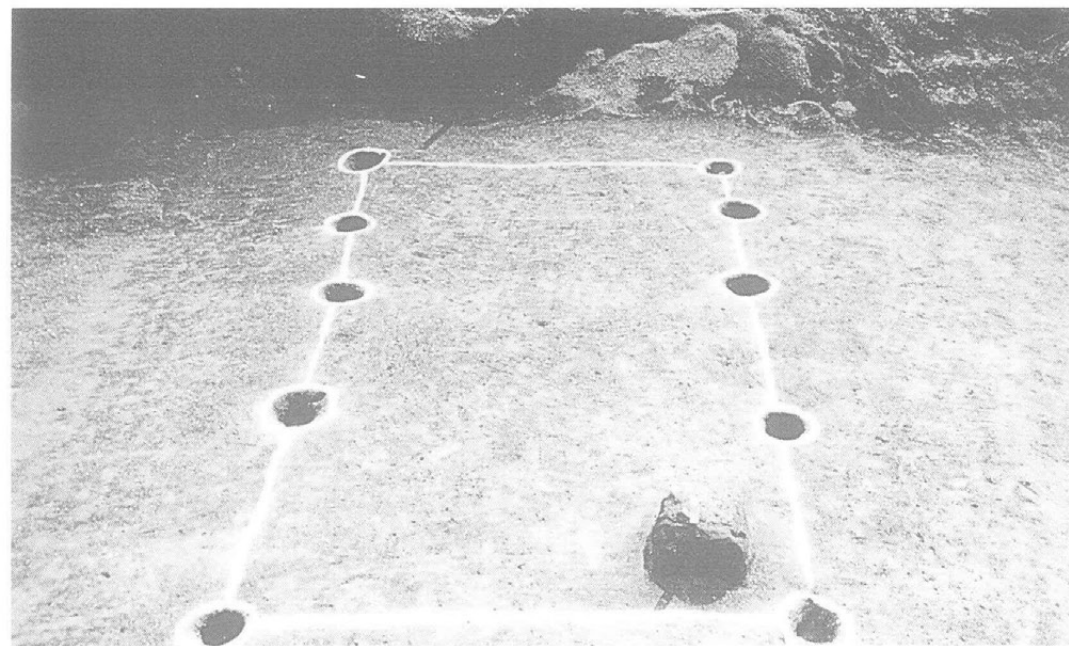
中大五郎第2 SL 1完掘状況



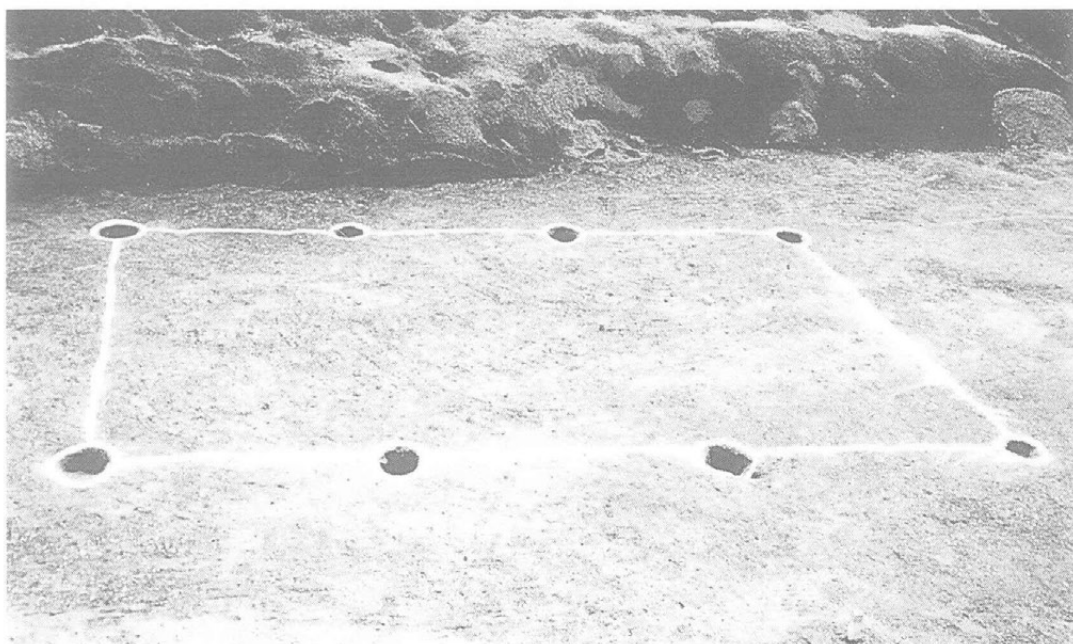
中大五郎第2 SB 1完掘状況(1)



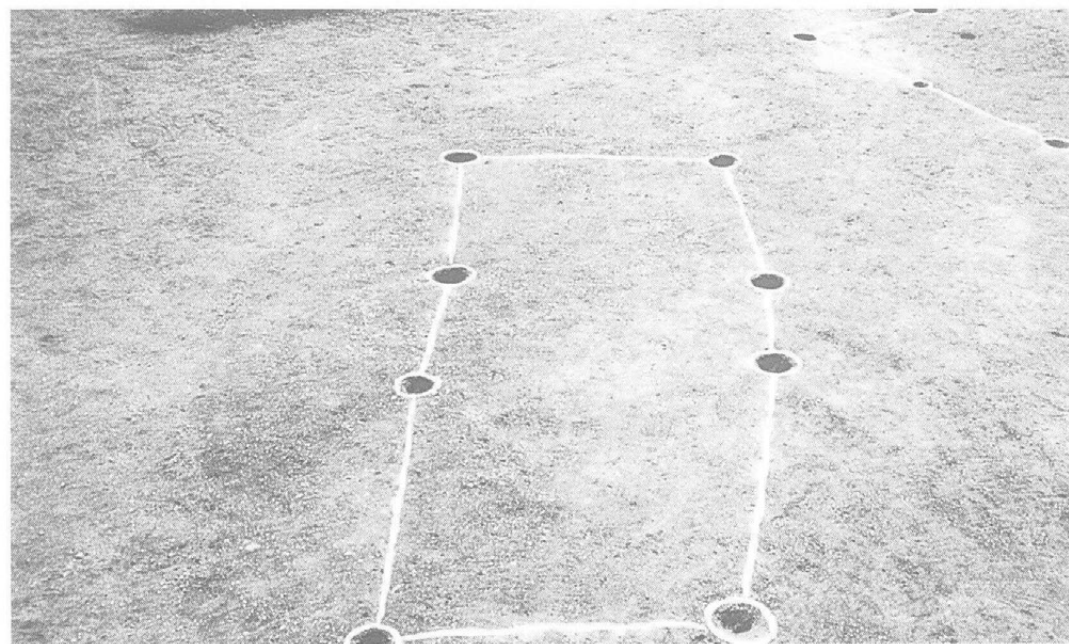
中大五郎第2 SB 1 完掘状況(2)



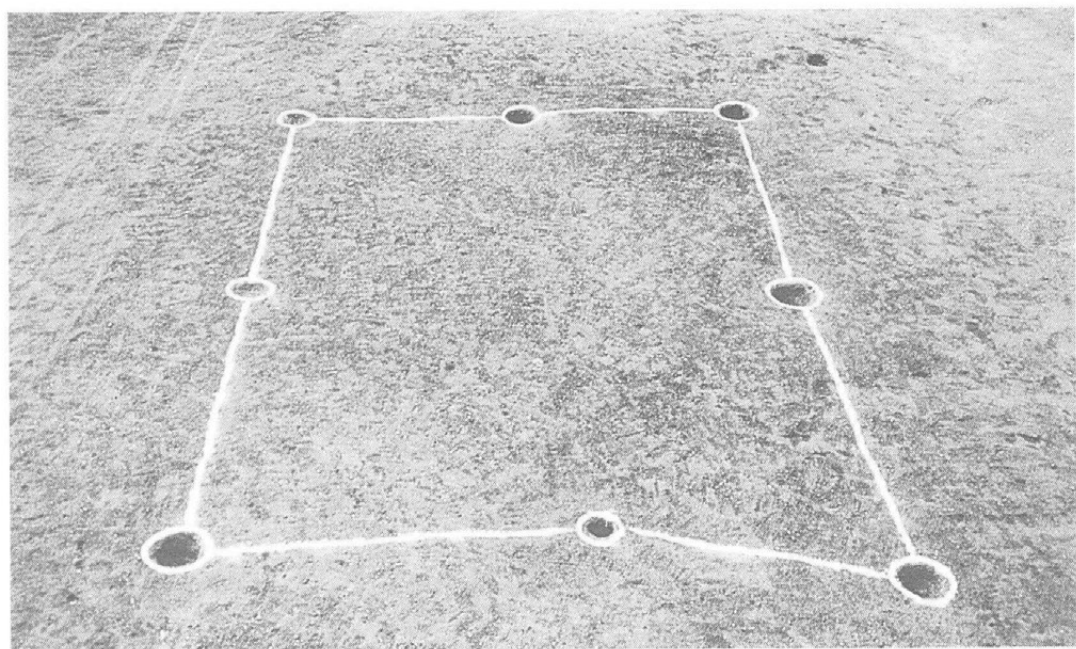
中大五郎第2 SB 2 完掘状況



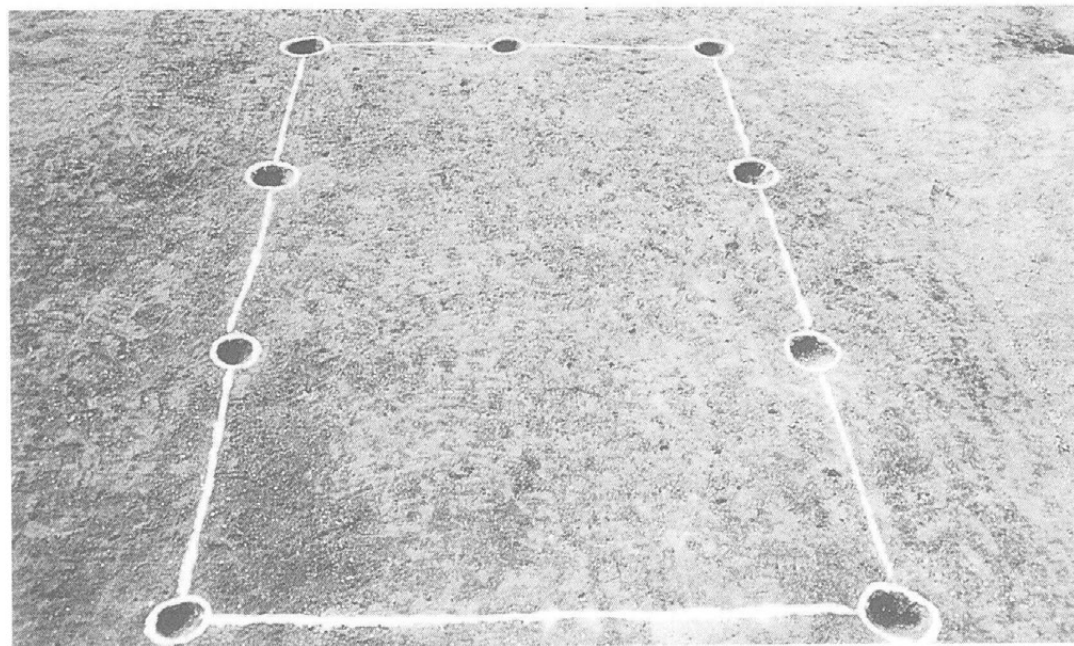
中大五郎第2 SB 3 完掘状況



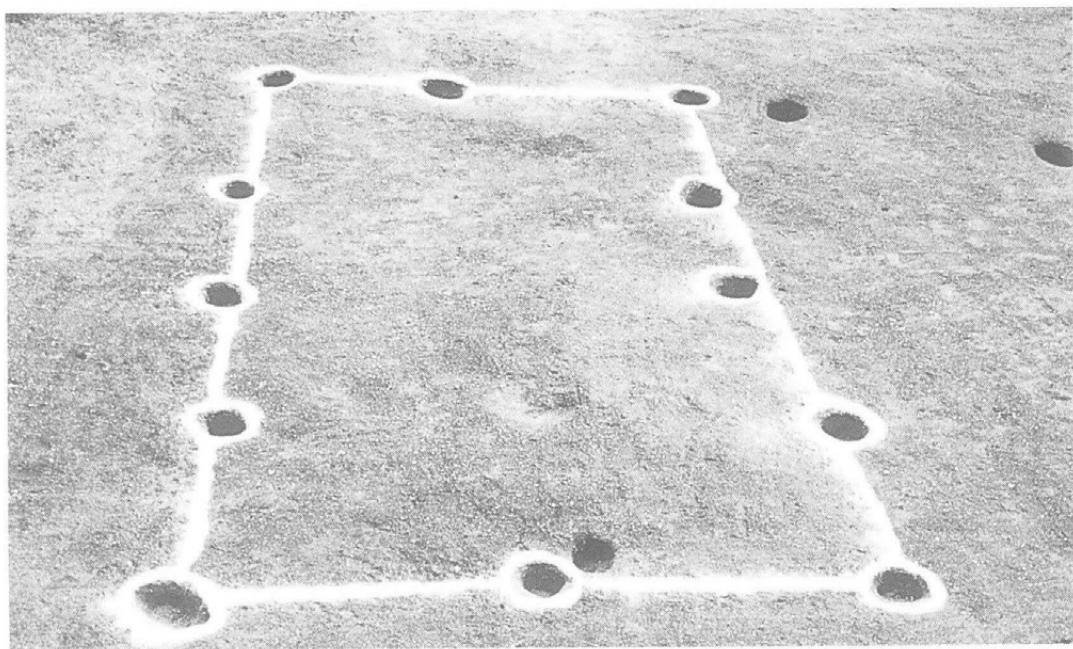
中大五郎第2 SB 4 完掘状況



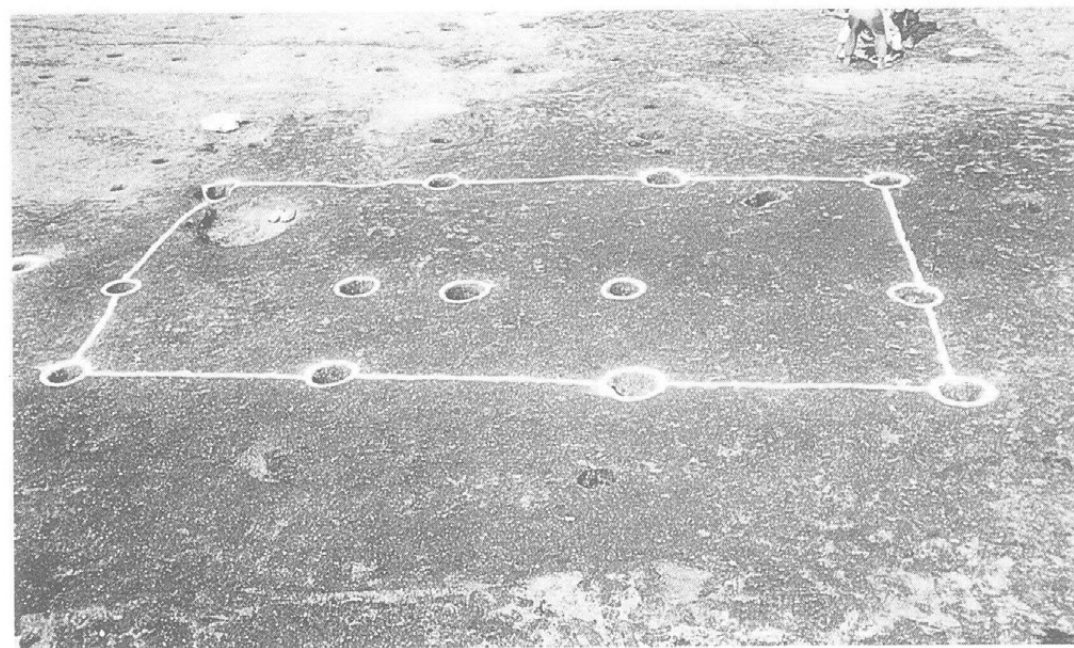
中大五郎第2 SB 5 完掘状況



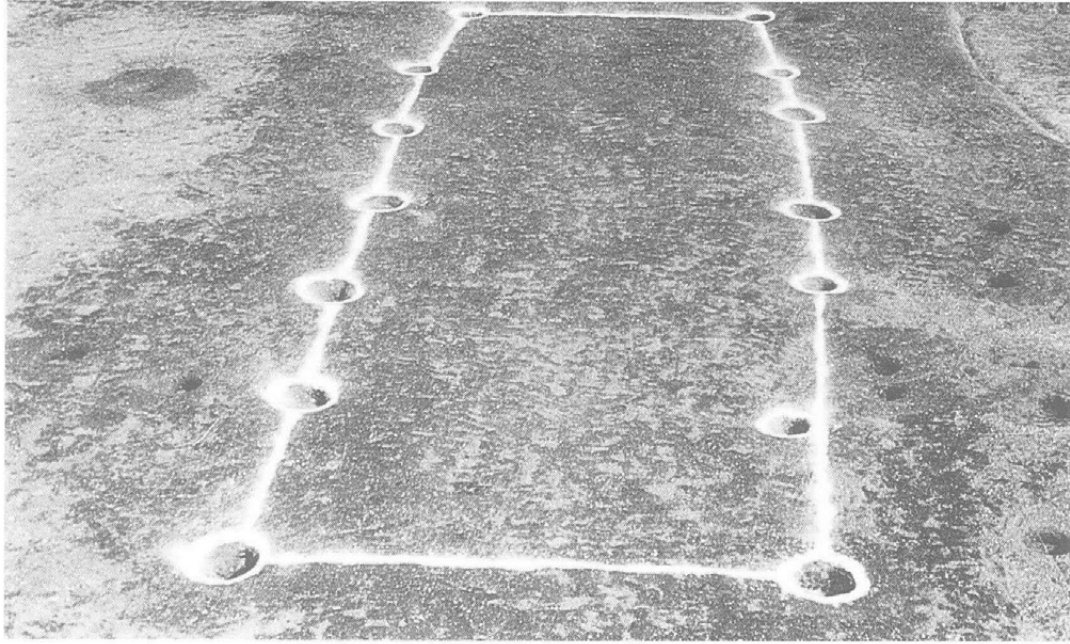
中大五郎第2 SB 6 完掘状況



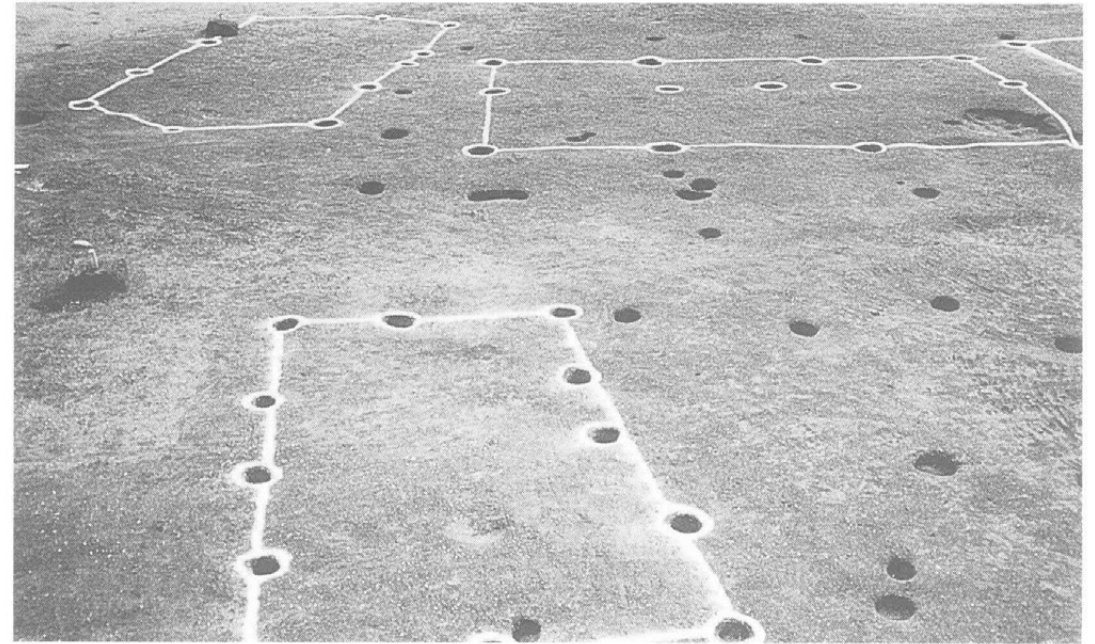
中大五郎第2 SB 7 完掘状況



中大五郎第2 SB 8 完掘状況



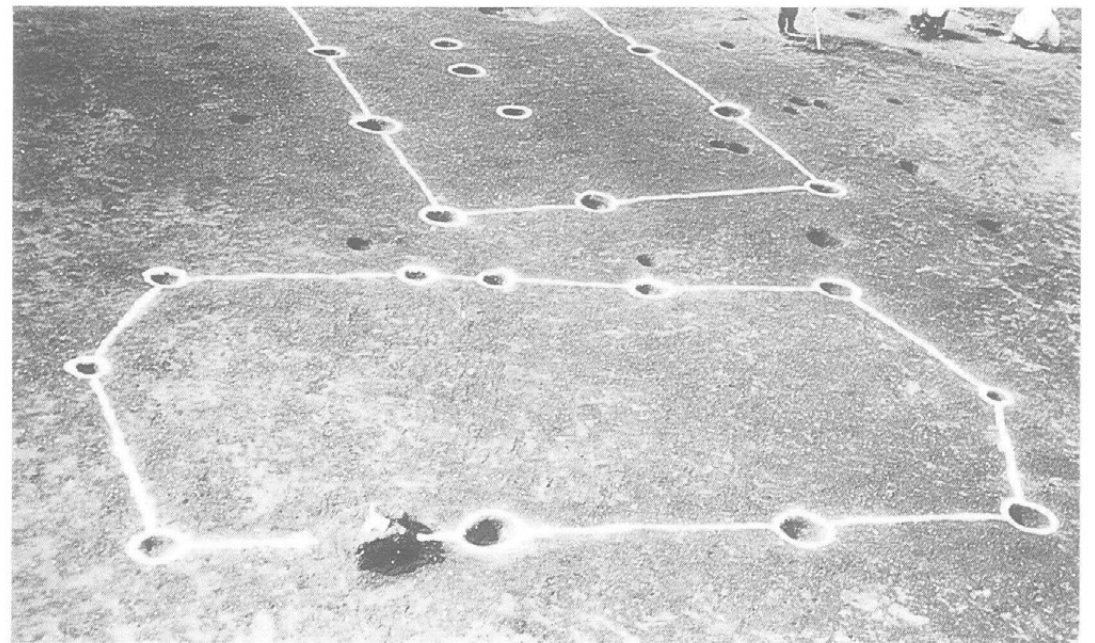
中大五郎第2 SB9完掘状況



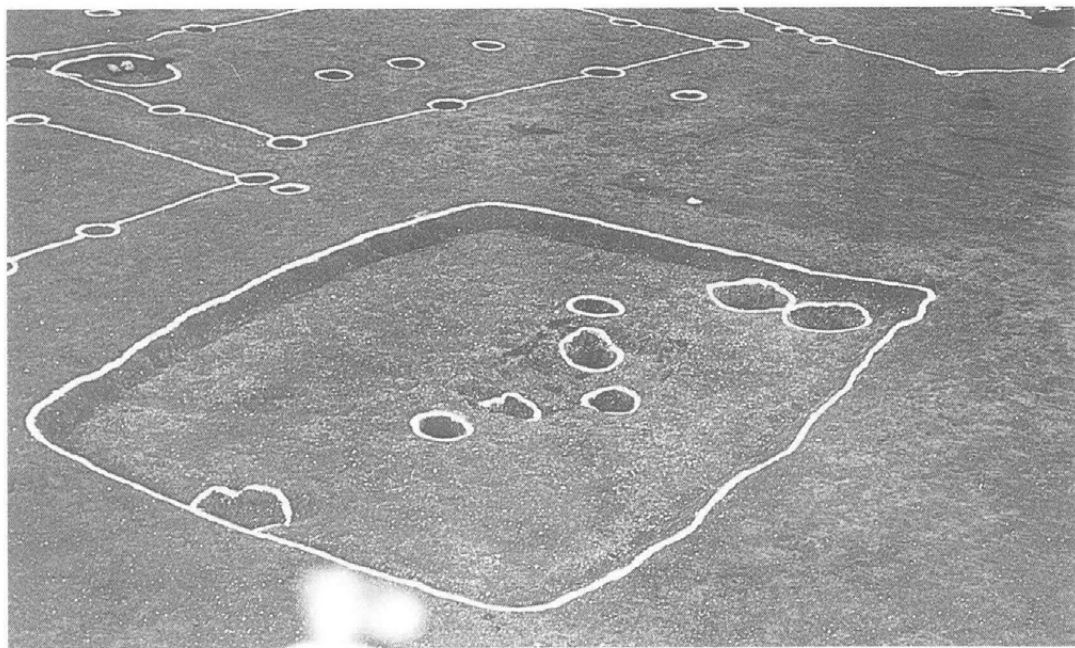
中大五郎第2 掘立柱建物完掘状況(1)



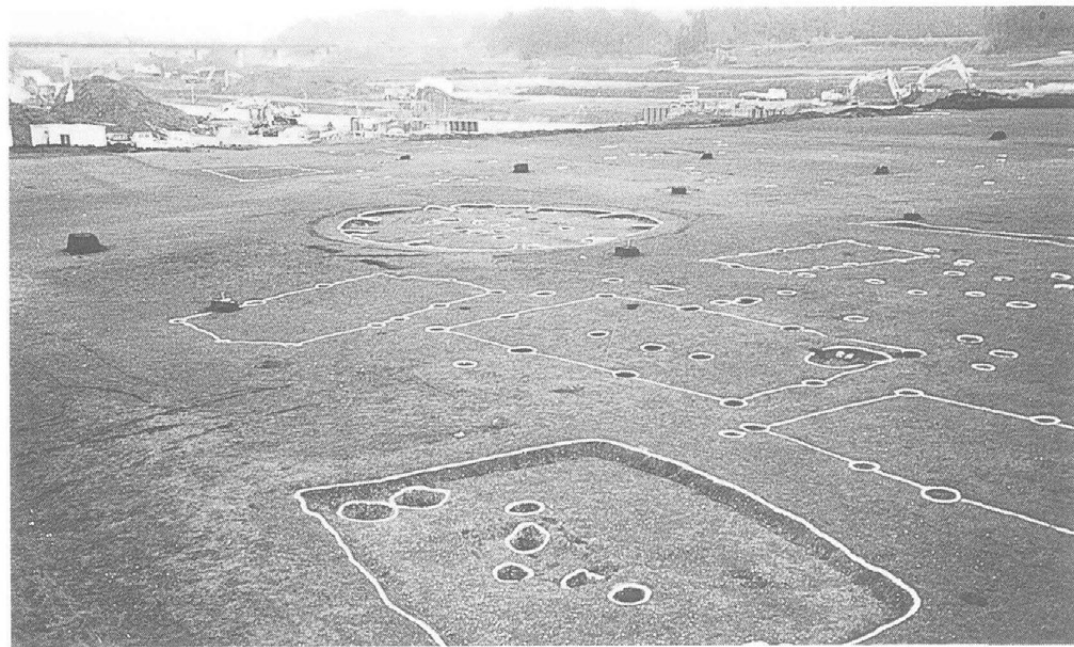
中大五郎第2 掘立柱建物完掘状況(2)



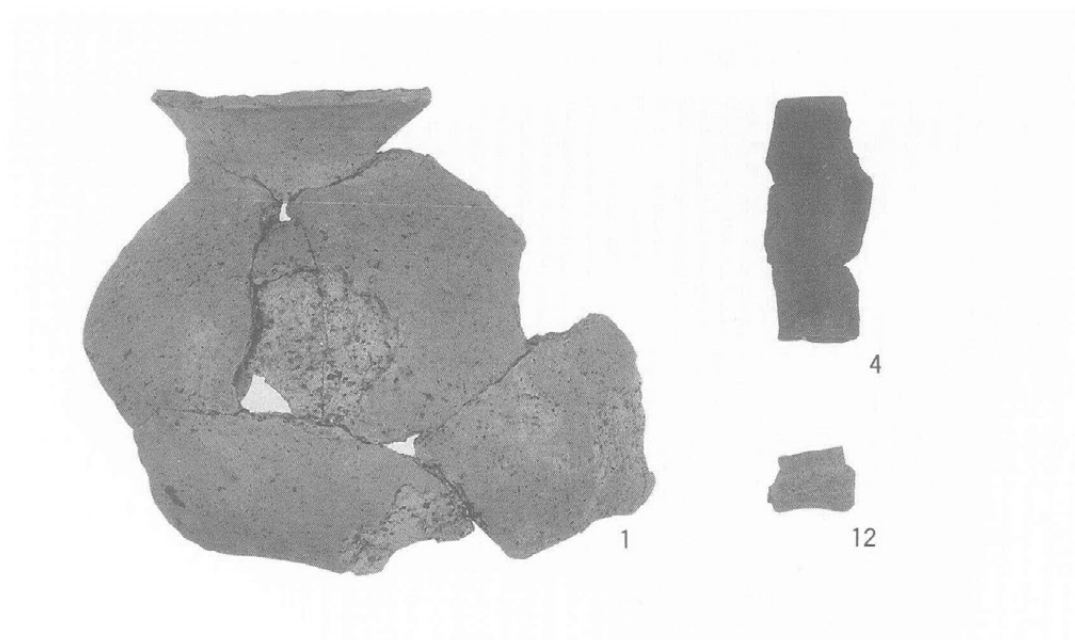
中大五郎第2 掘立柱建物完掘状況(3)



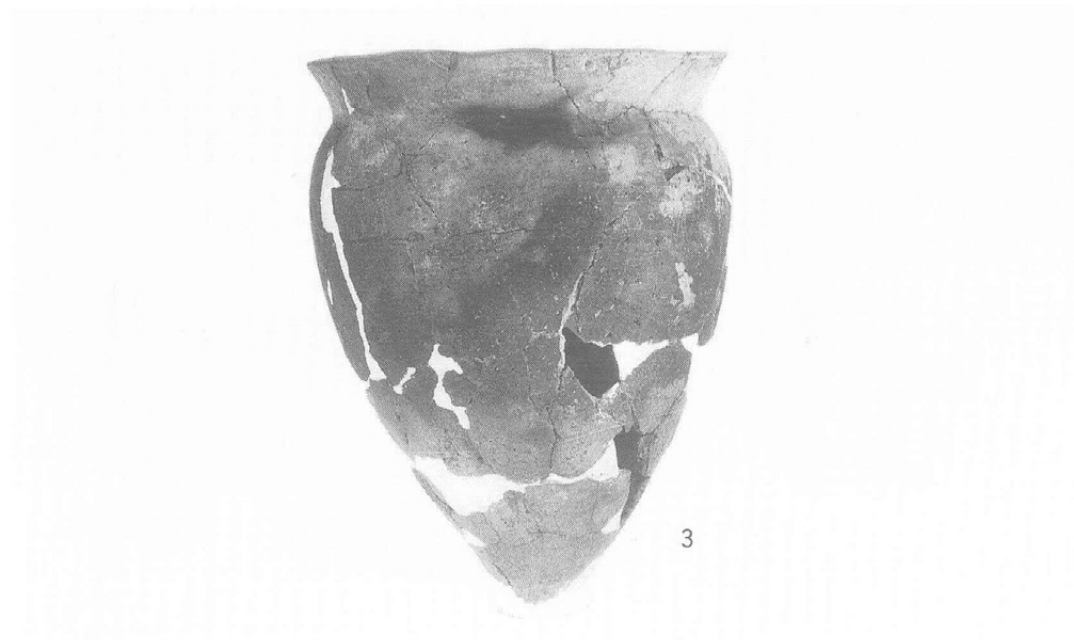
中大五郎第2 完掘状況(1)



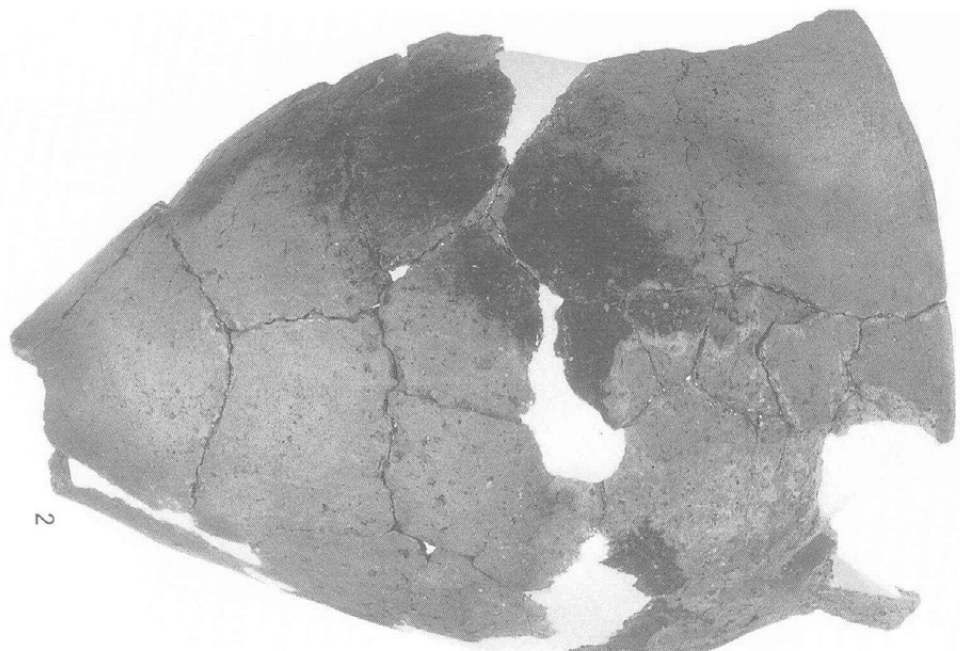
中大五郎第2 完掘状況(2)



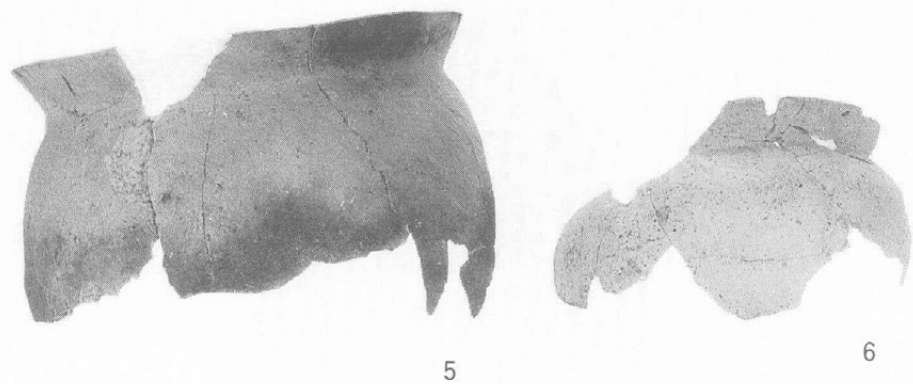
中大五郎第2 SA1出土土器(1)



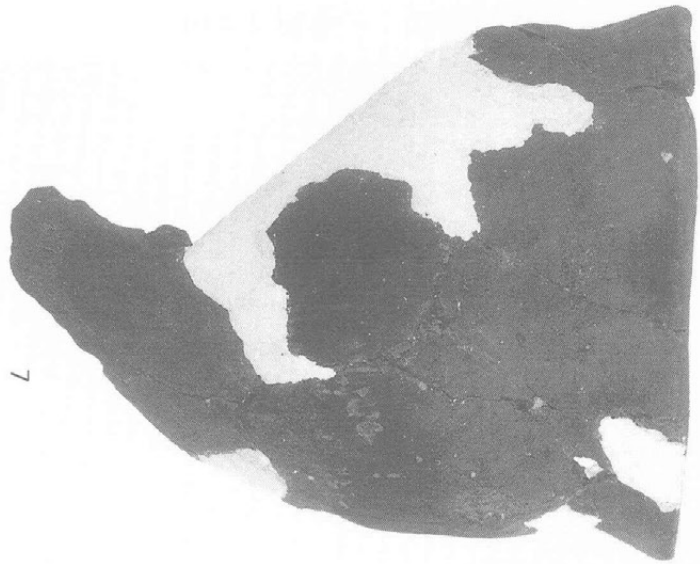
中大五郎第2 SA1出土土器(2)



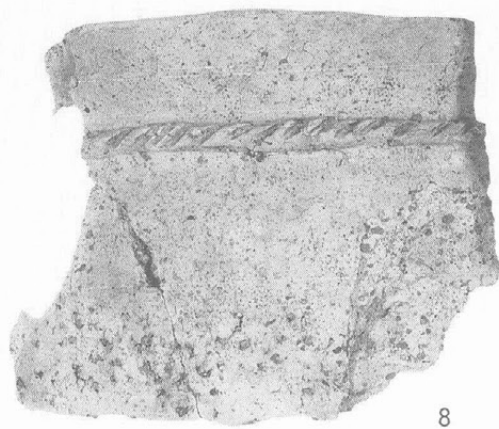
中大五郎第2 SA1 出土土器(3)



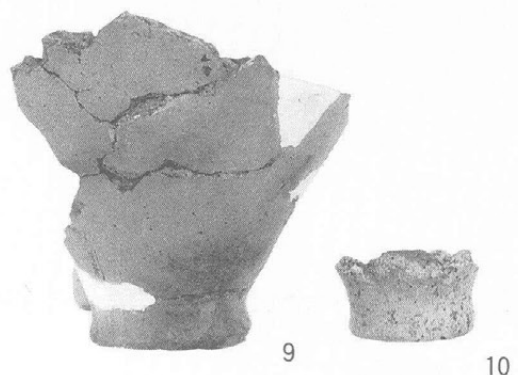
中大五郎第2 SA1 出土土器(4)



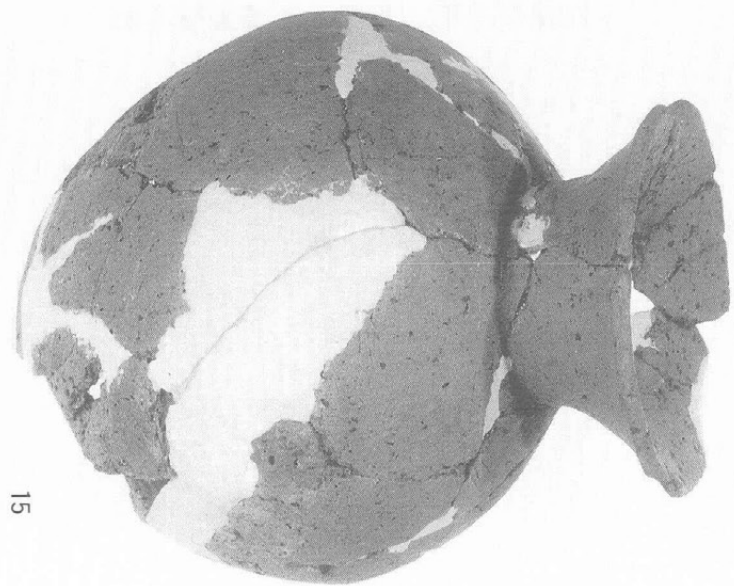
中大五郎第2 SA1 出土土器(5)



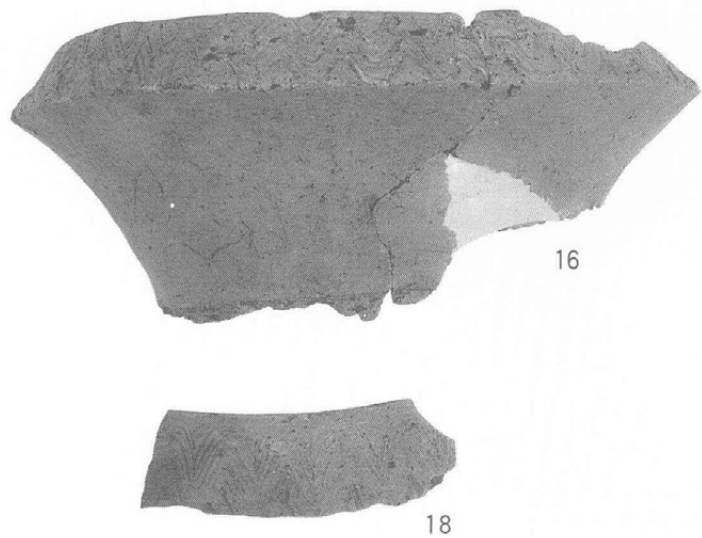
中大五郎第2 SA1 出土土器(6)



中大五郎第2 SA1出土土器(7)



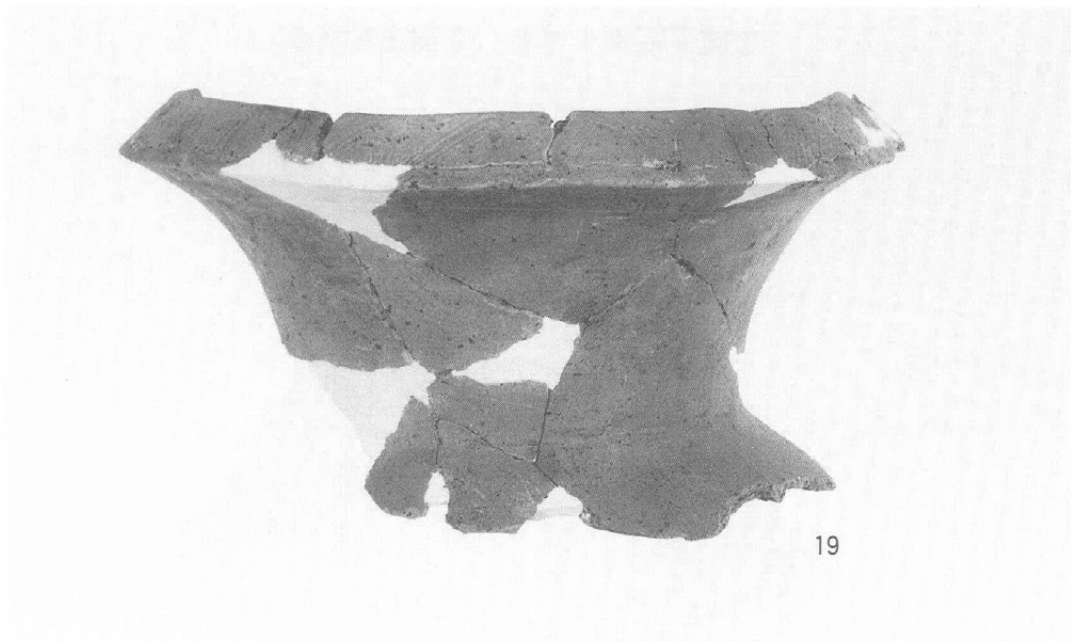
中大五郎第2 SA1出土土器(8)



中大五郎第2 SA1出土土器(9)



中大五郎第2 SA1出土土器(10)



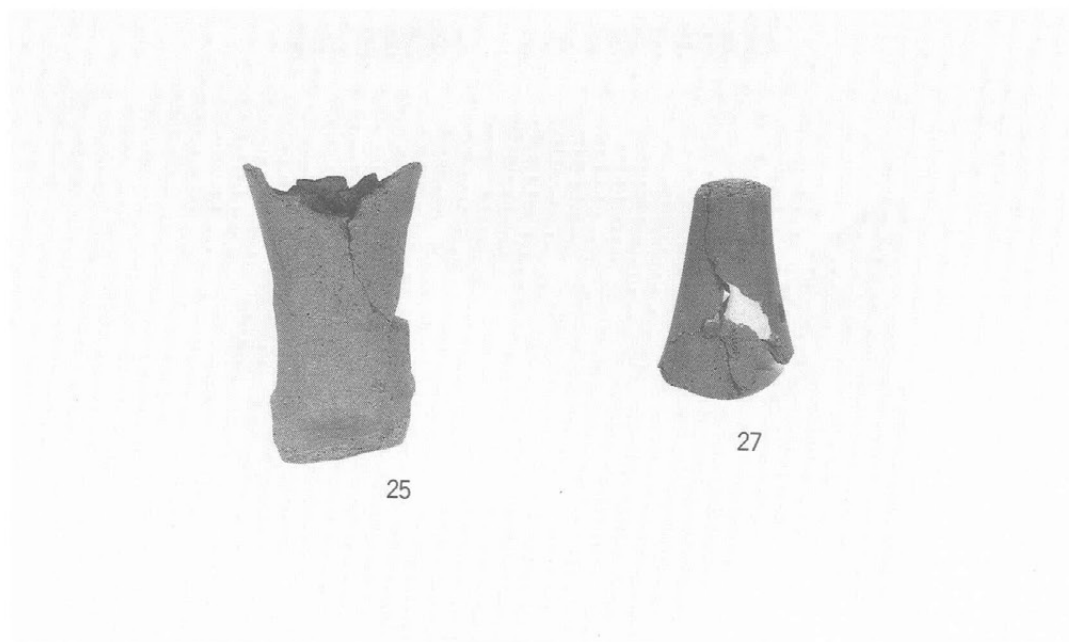
中大五郎第2 SA1出土土器(11)



中大五郎第2 SA1出土土器(12)



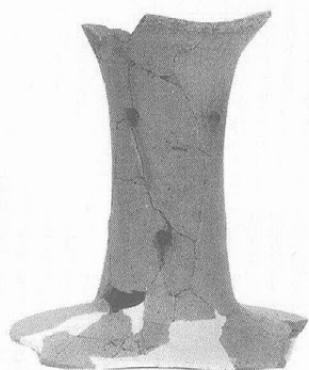
中大五郎第2 SA1出土土器(13)



中大五郎第2 SA1出土土器(14)

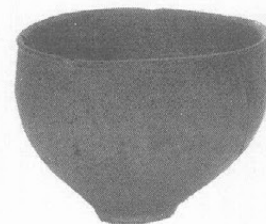


28

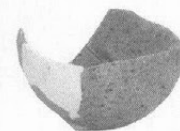


30

中大五郎第2 SA1出土土器(15)

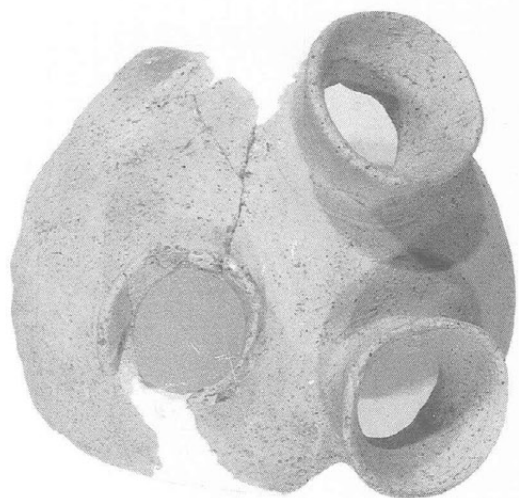


32



34

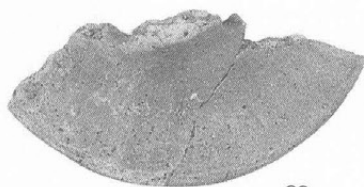
中大五郎第2 SA1出土土器(16)



35

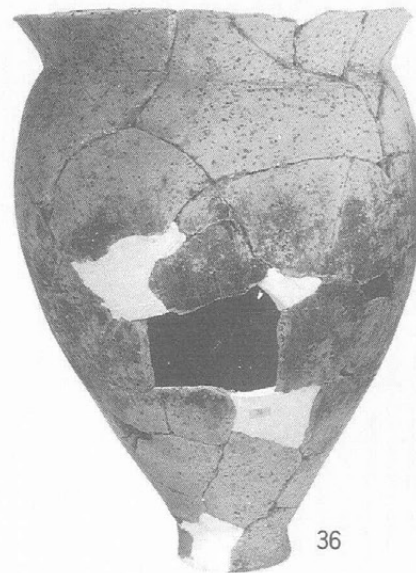


33



29

中大五郎第2 SA1出土土器(17)

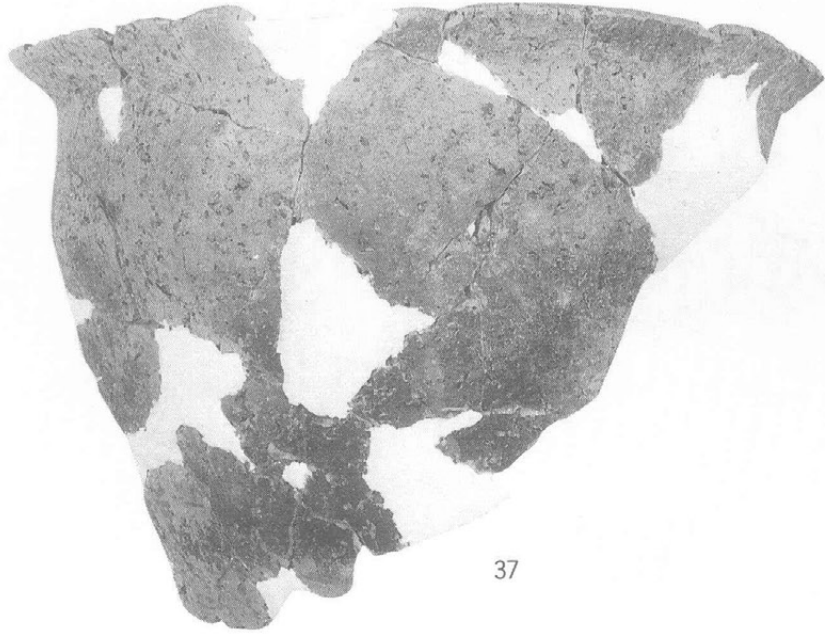


36

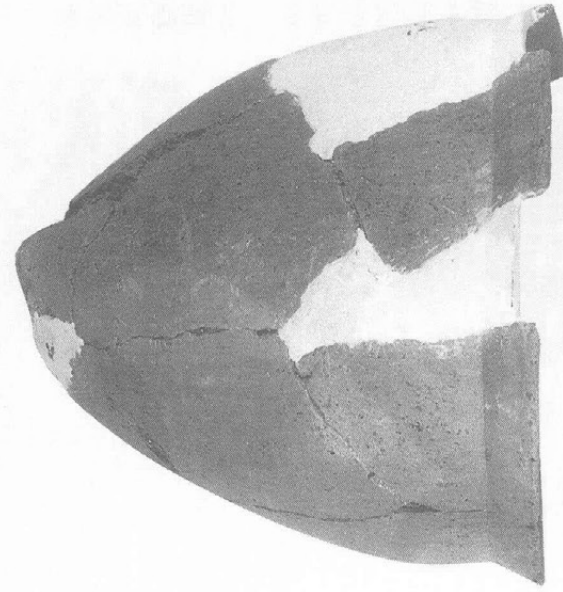


39

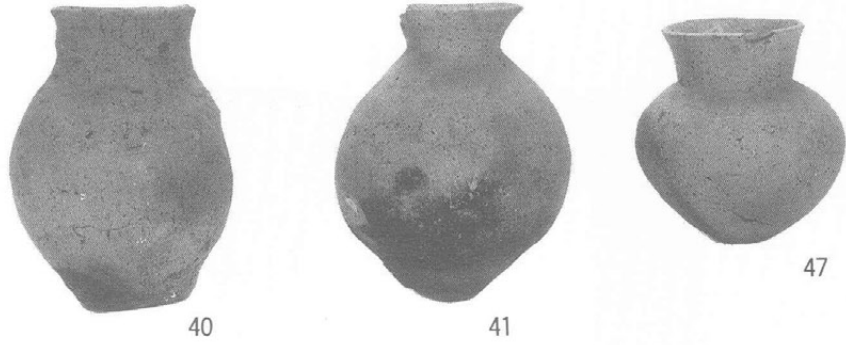
中大五郎第2 SA2出土土器(1)



中大五郎第2 SA 2 出土土器(2)



中大五郎第2 SA 2 出土土器(3)



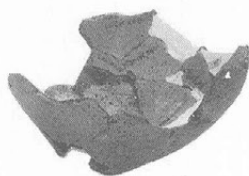
中大五郎第2 SA 2 出土土器(4)



中大五郎第2 SA 2 出土土器(5)

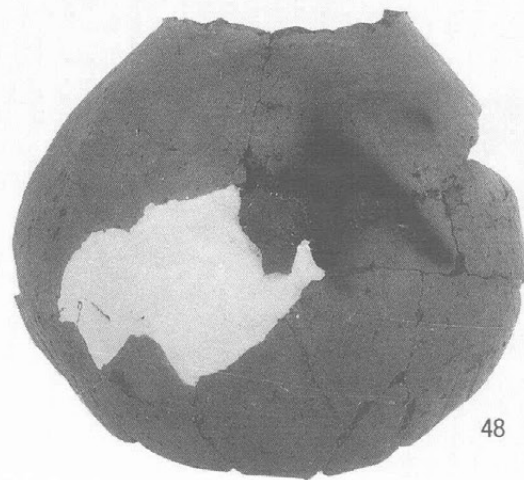


44

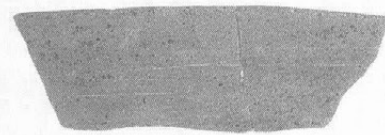


49

中大五郎第2 SA 2・SA 3出土土器

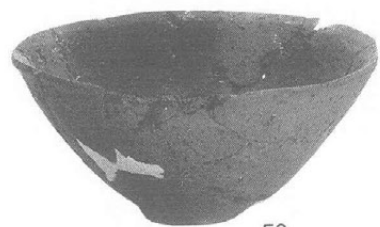


48



46

中大五郎第2 SA 3出土土器

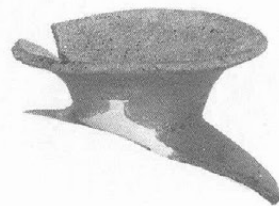


50



67

中大五郎第2 SA 3・SA 5出土土器



59



51



52

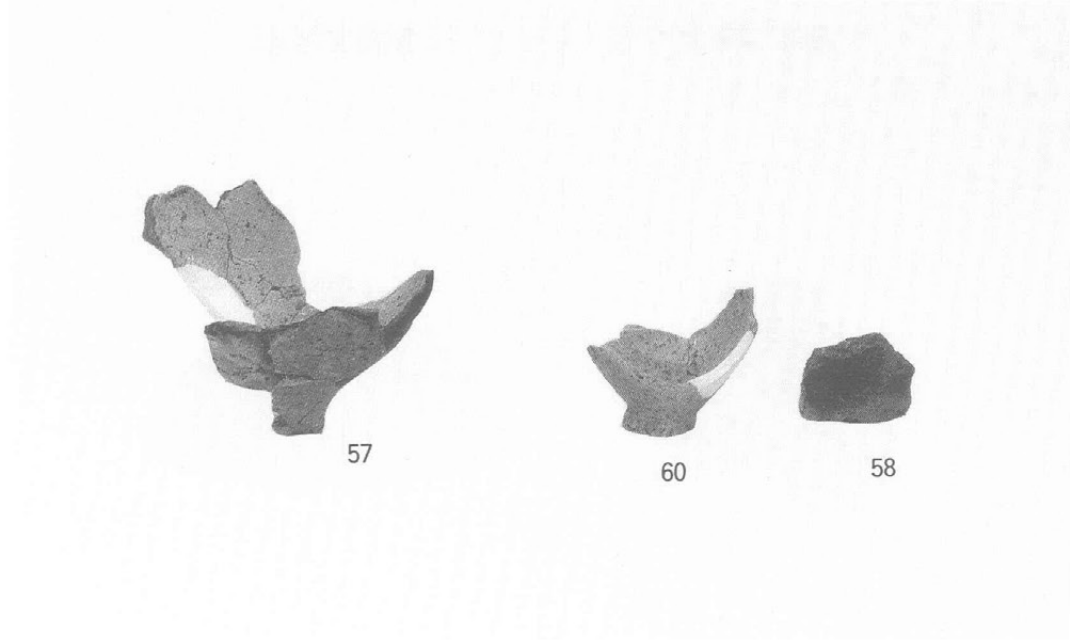


62

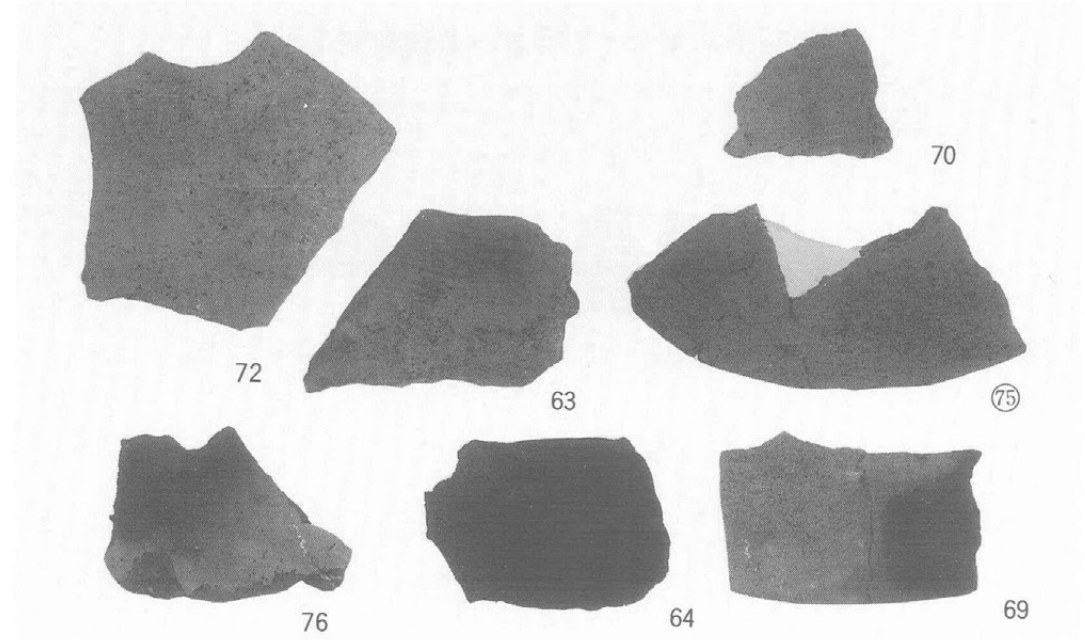


53

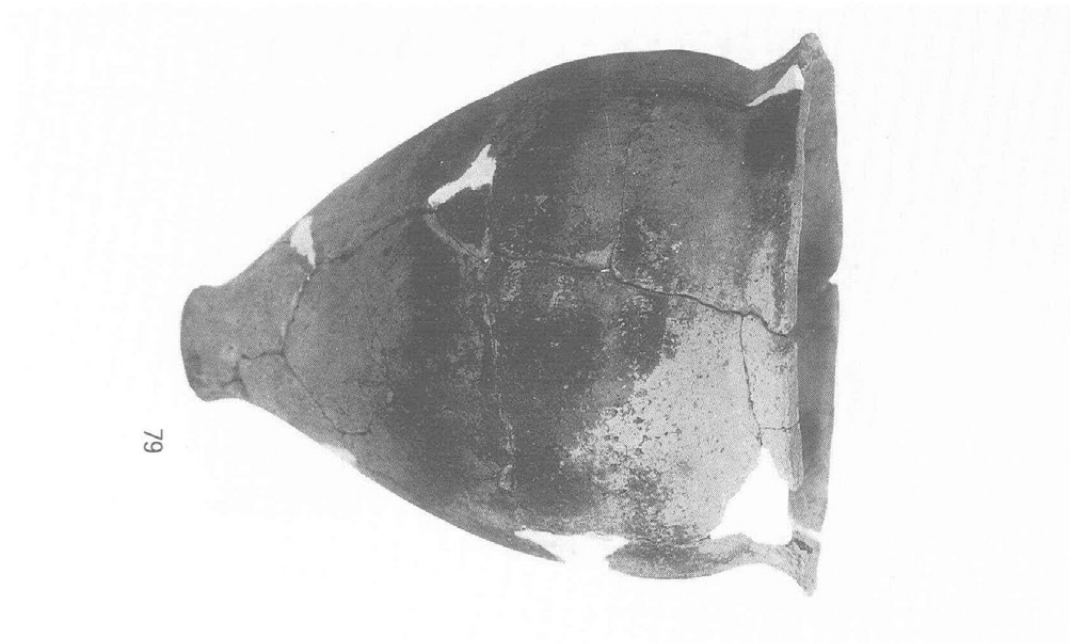
中大五郎第2 SA 3・SA 4出土土器



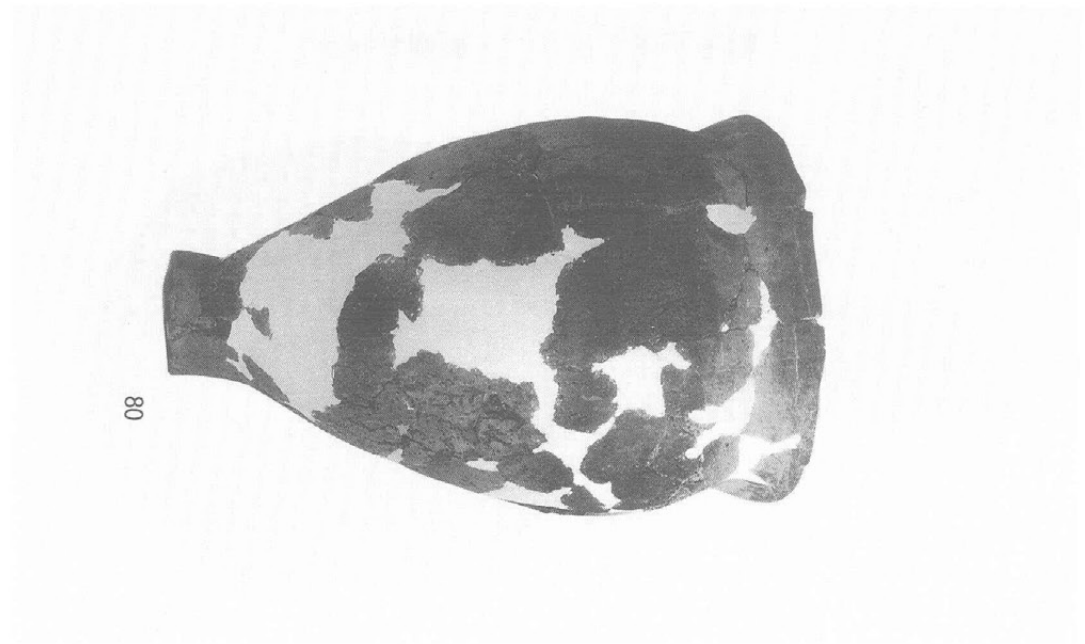
中大五郎第2 SA 4 出土土器



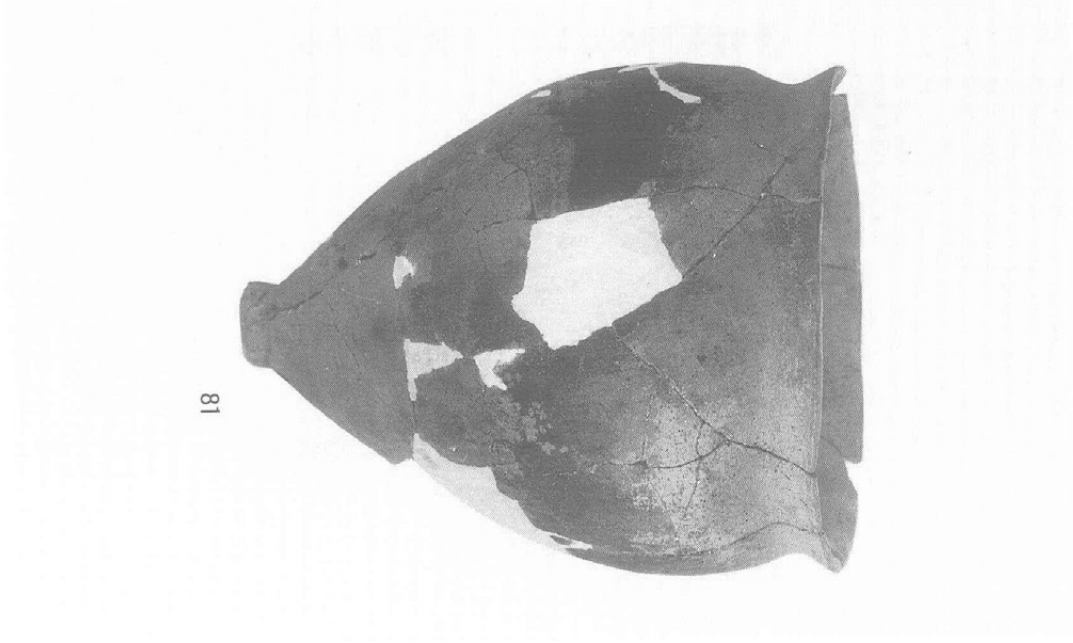
中大五郎第2 SA 4 · SA 5 出土土器



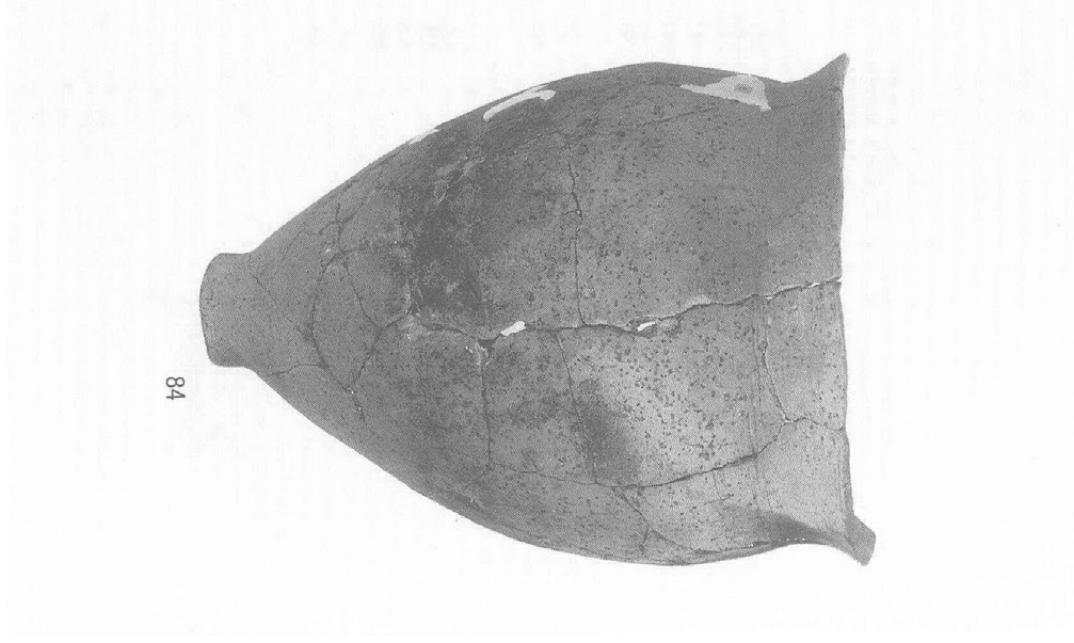
中大五郎第2 SL 1 出土土器(1)



中大五郎第2 SL 1 出土土器(2)



中大五郎第2 SL1出土土器(3)



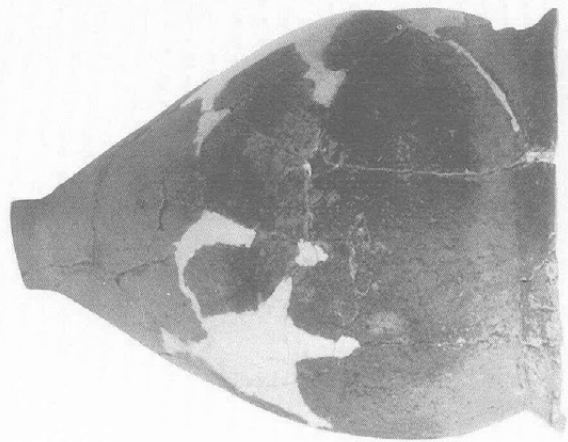
中大五郎第2 SL1出土土器(4)



中大五郎第2 SL1出土土器(5)



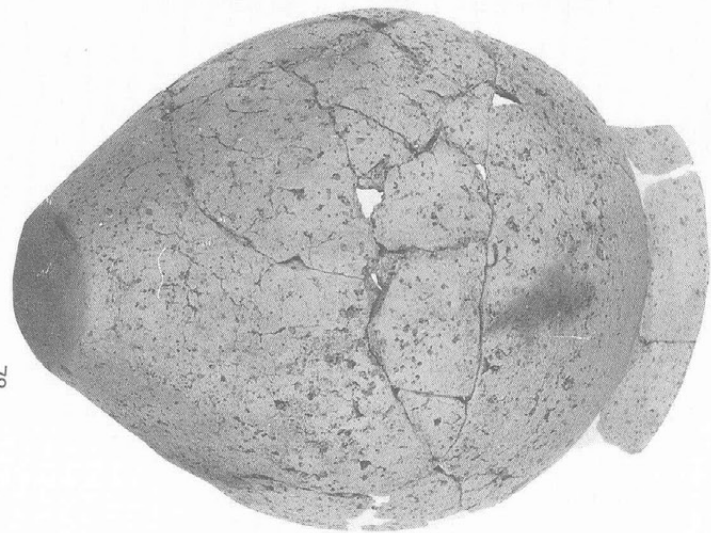
中大五郎第2 SL1出土土器(6)



中大五郎第2 SL1出土土器(8)

88

78



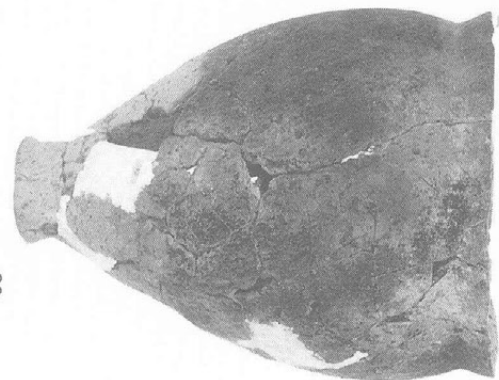
中大五郎第2 SL1出土土器(10)



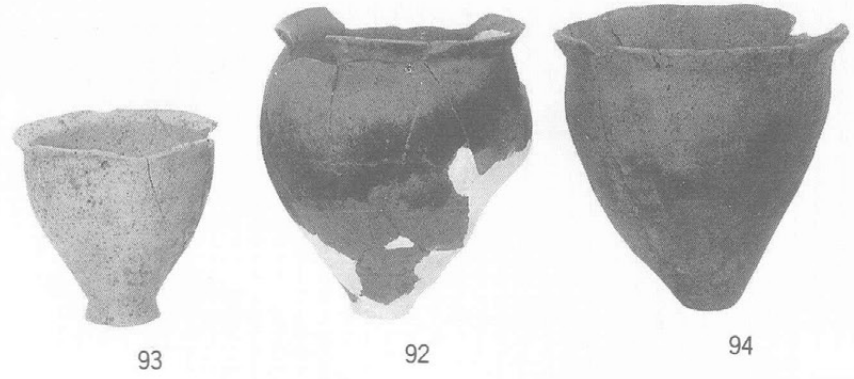
中大五郎第2 SL1出土土器(7)

83

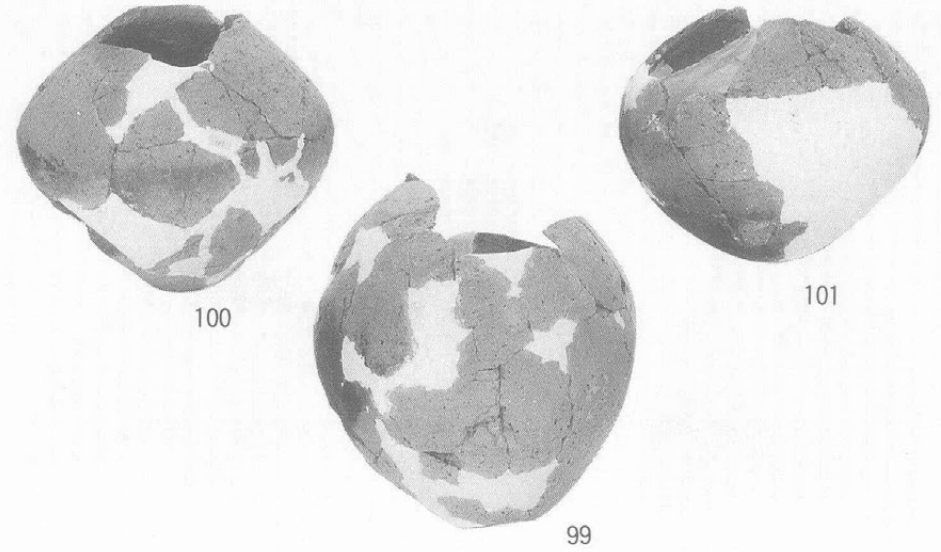
90



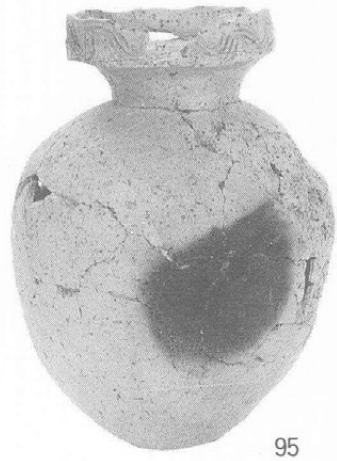
中大五郎第2 SL1出土土器(9)



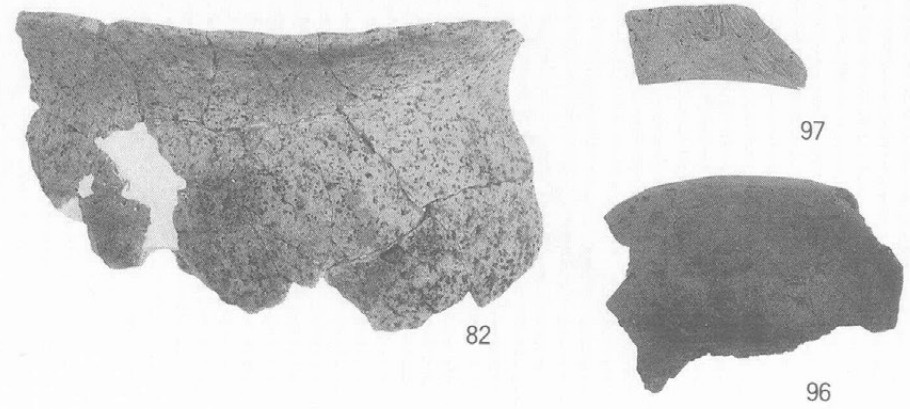
中大五郎第2 SL1出土土器(11)



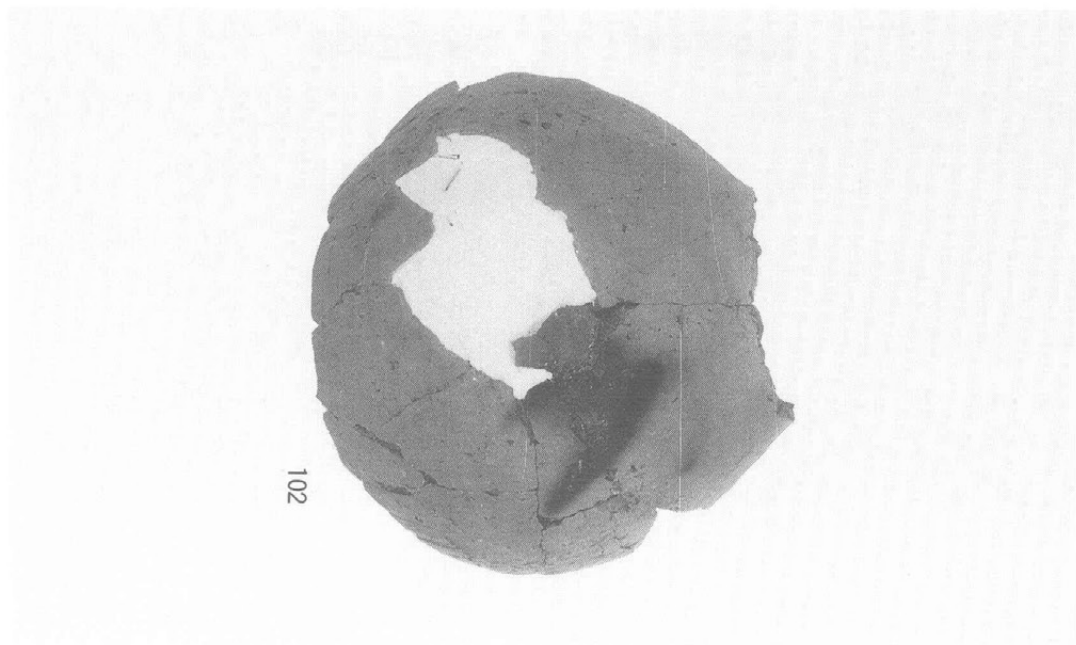
中大五郎第2 SL1出土土器(12)



中大五郎第2 SL1出土土器(13)



中大五郎第2 SL1出土土器(14)



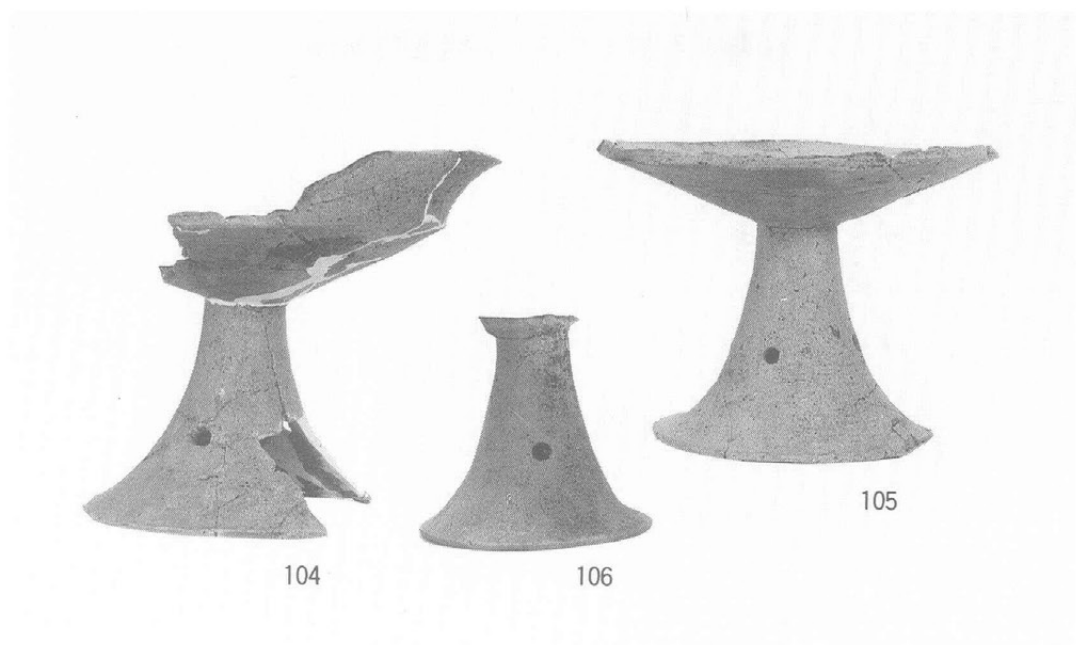
102

中大五郎第2 S L 1 出土土器(15)



98

中大五郎第2 S L 1 出土土器(16)

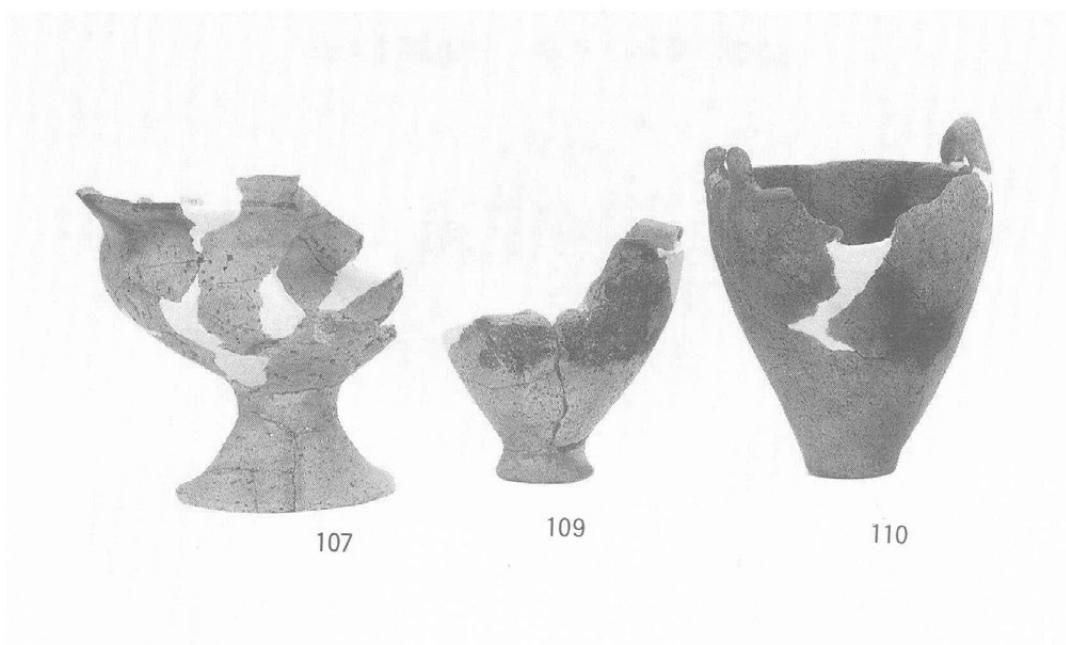


104

106

105

中大五郎第2 S L 1 出土土器(17)

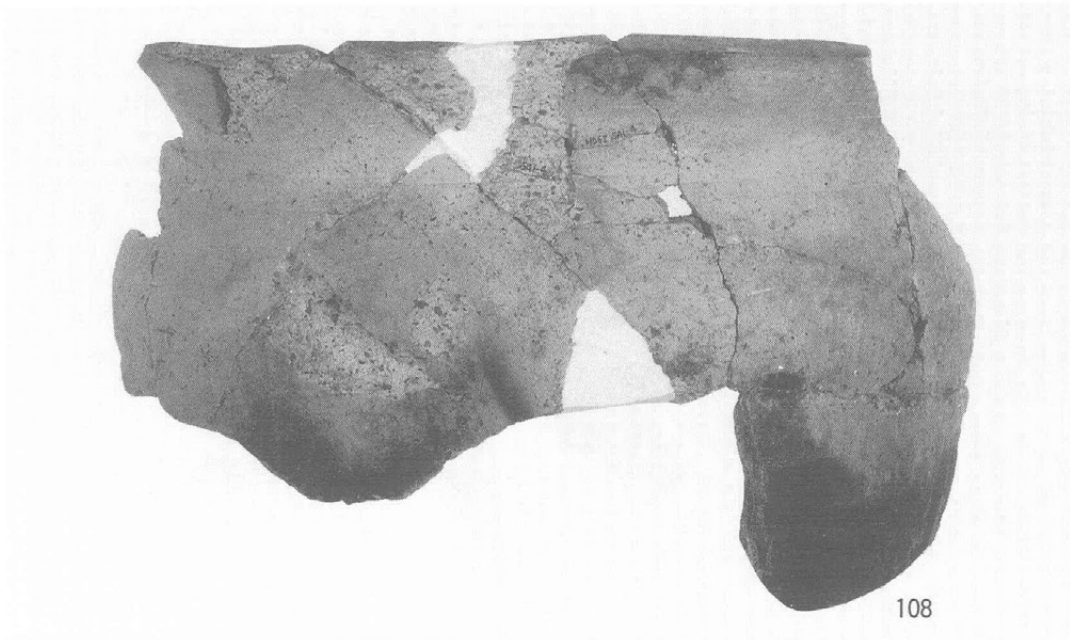


107

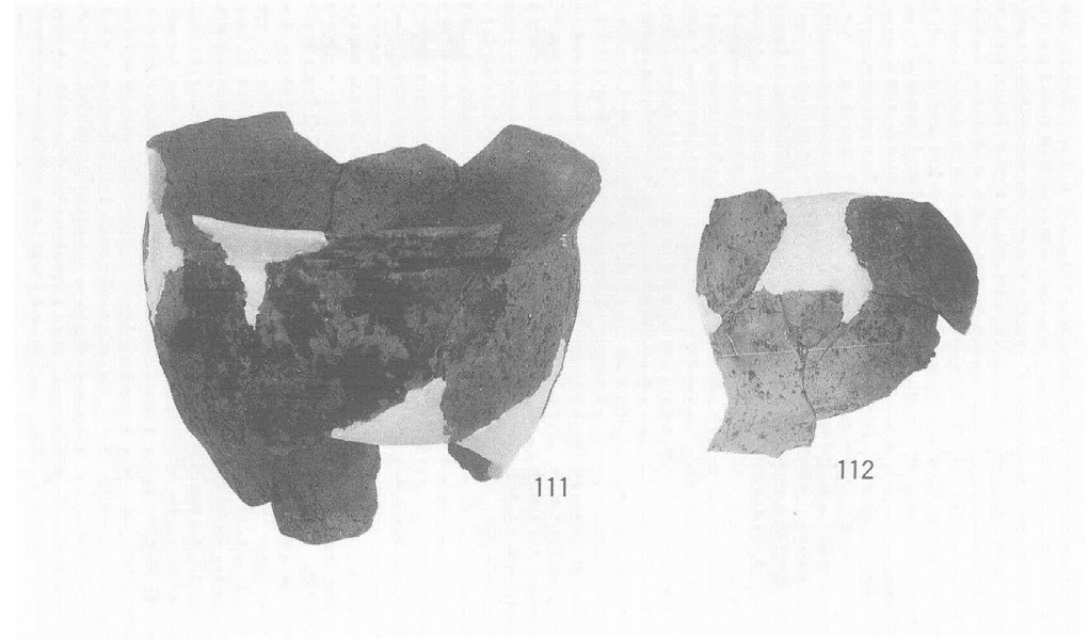
109

110

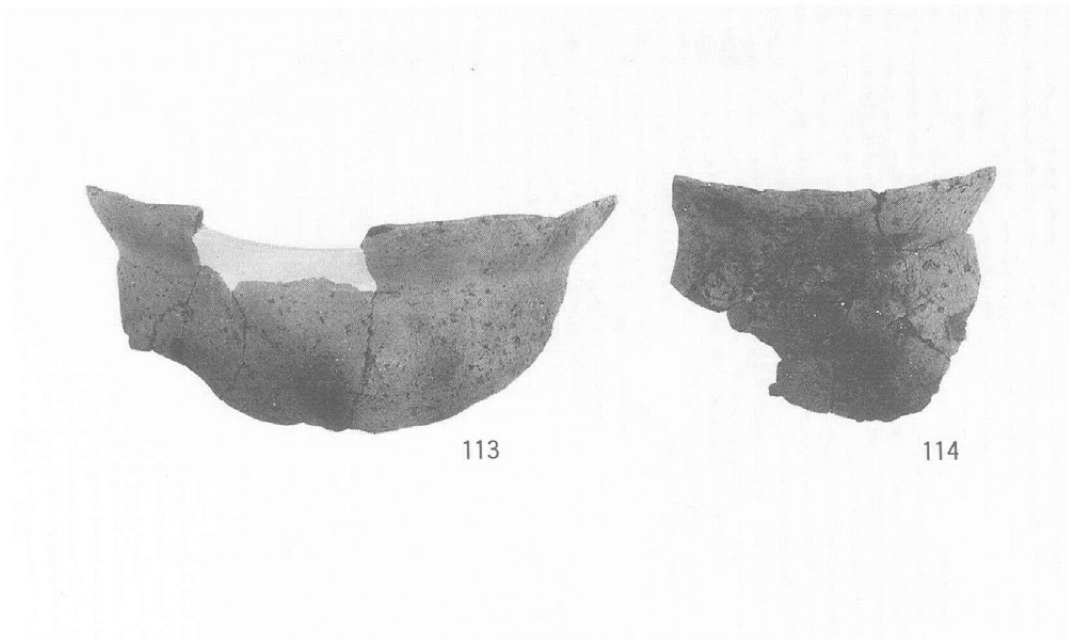
中大五郎第2 S L 1 出土土器(18)



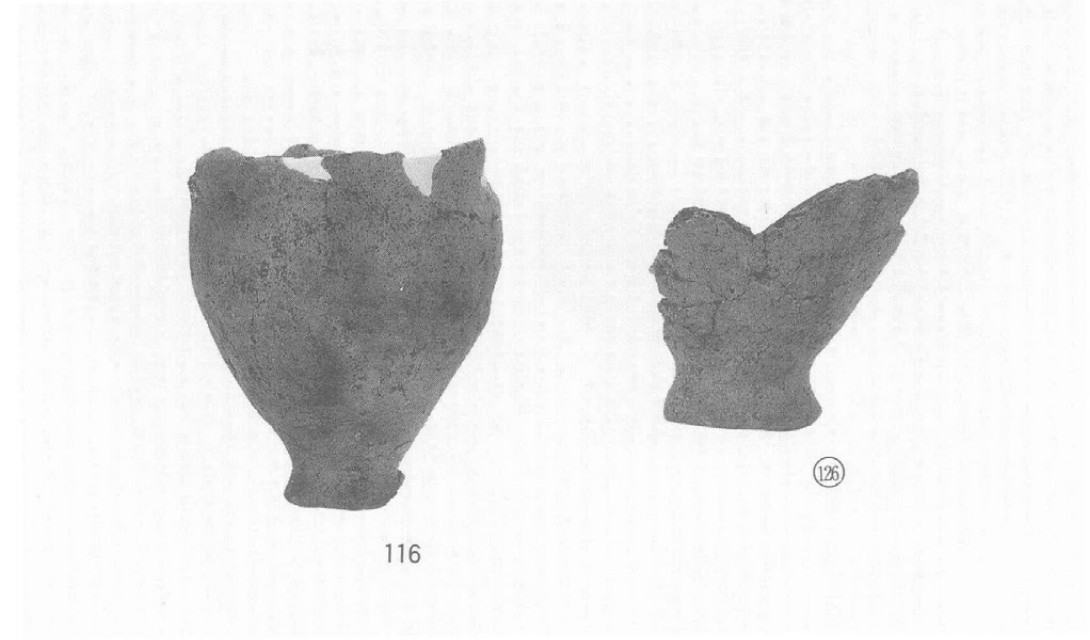
中大五郎第2 SL 1 出土土器(19)



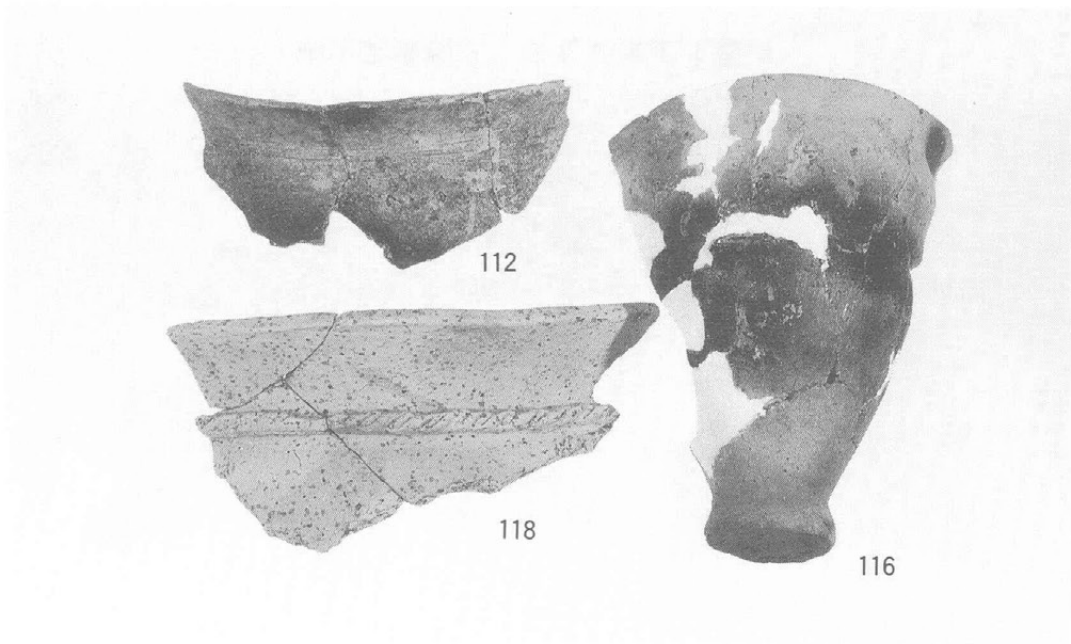
中大五郎第2 SL 2 出土土器(1)



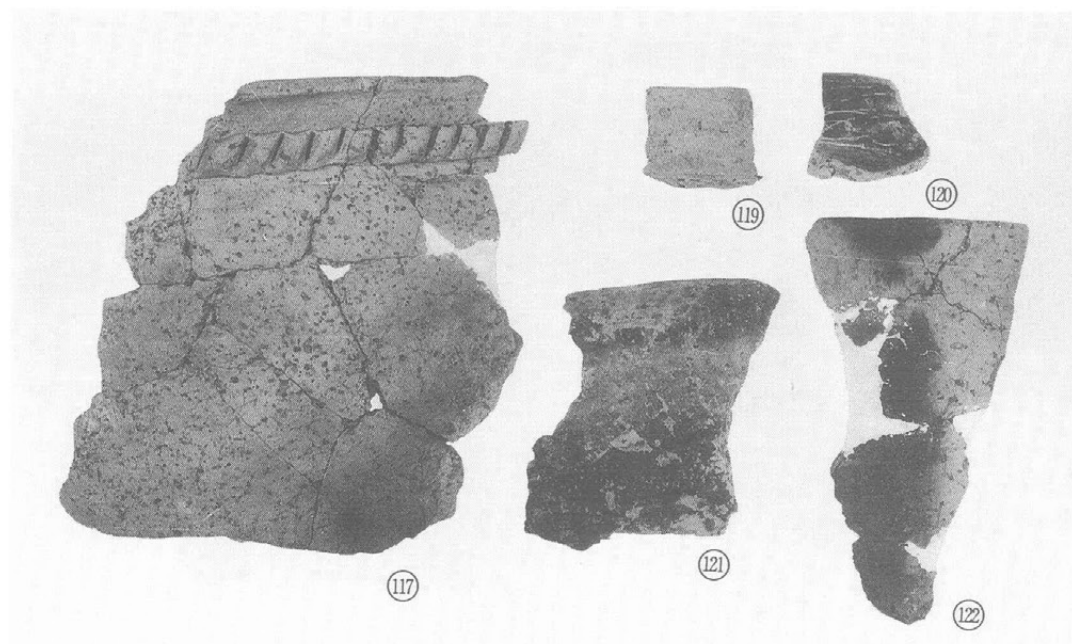
中大五郎第2 SL 2 出土土器(2)



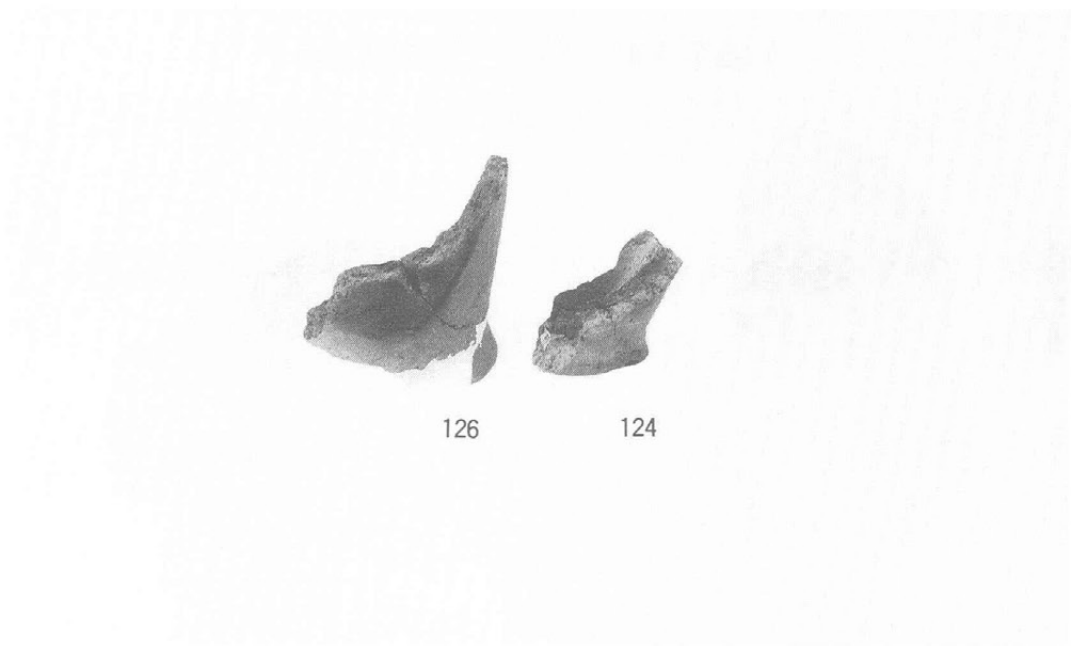
中大五郎第2 SL 2 出土土器(3)



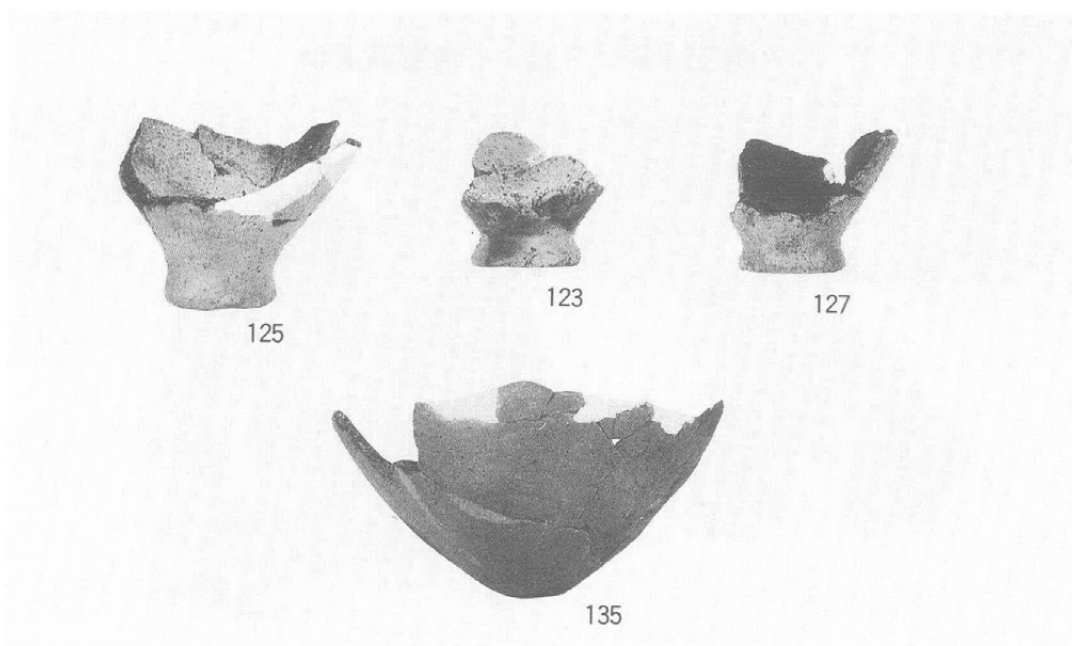
中大五郎第2 SL 2 出土土器(4)



中大五郎第2 SL 2 出土土器(5)



中大五郎第2 SL 2 出土土器(6)



中大五郎第2 SL 2 出土土器(7)

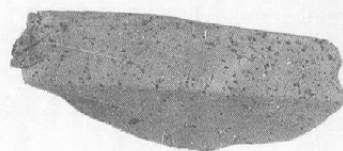


129

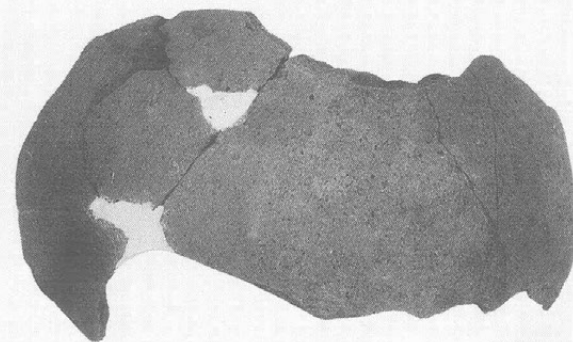


133

中大五郎第2 SL2出土土器(8)



131



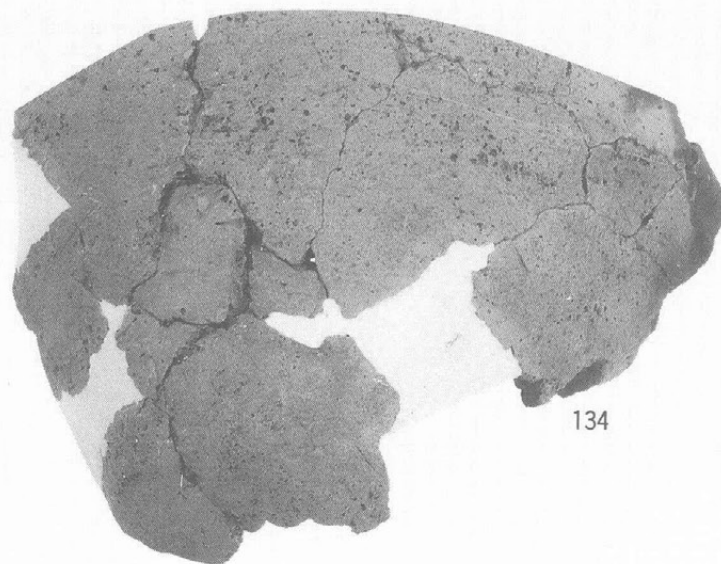
134

中大五郎第2 SL2出土土器(9)



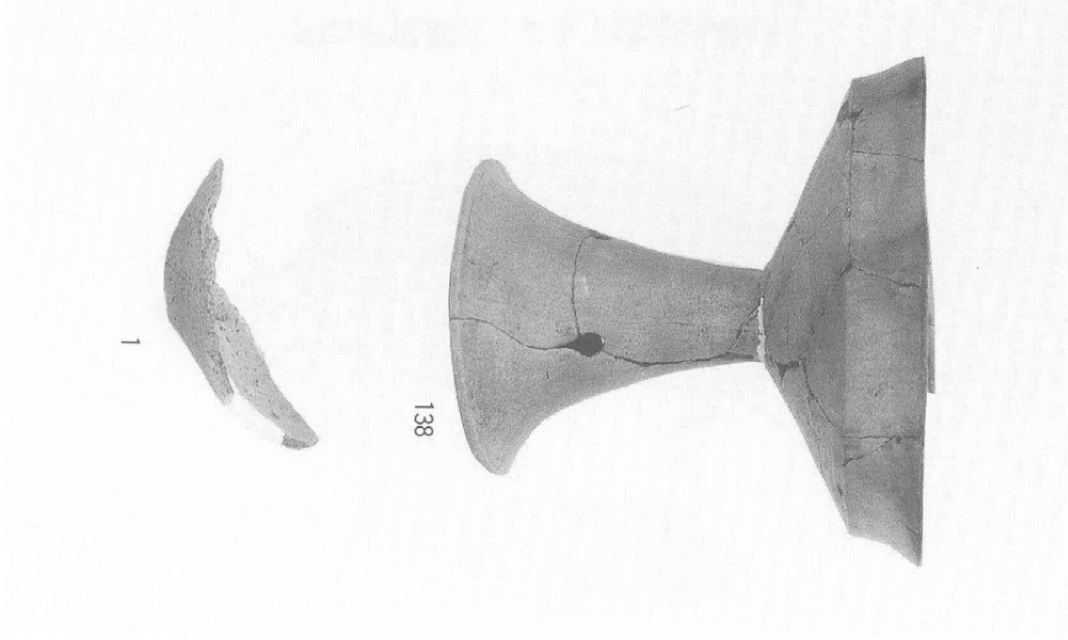
132

中大五郎第2 SL2出土土器(10)

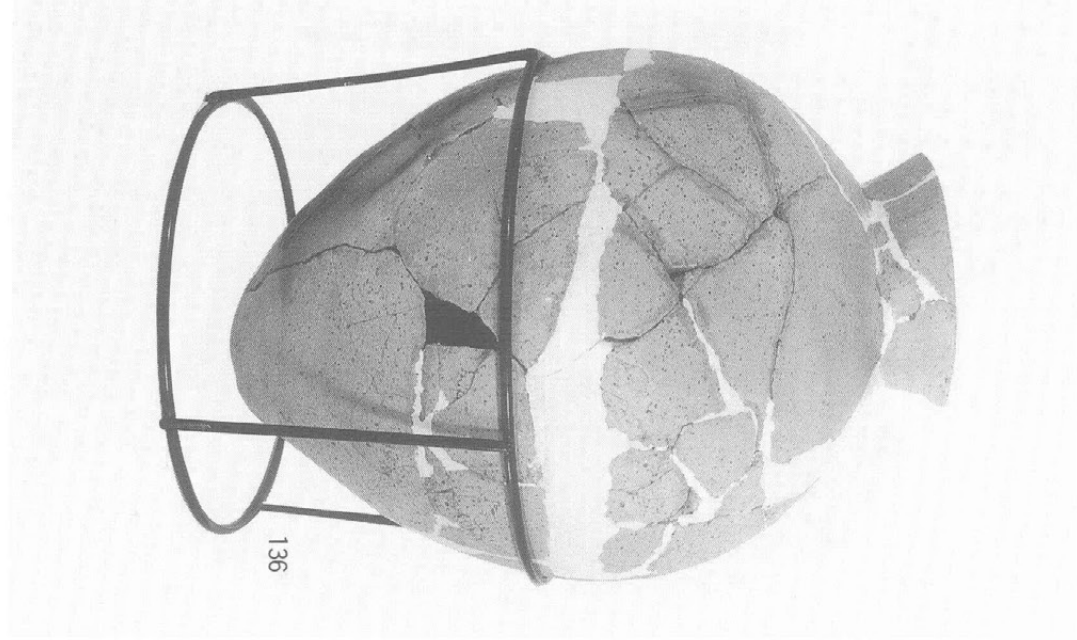


134

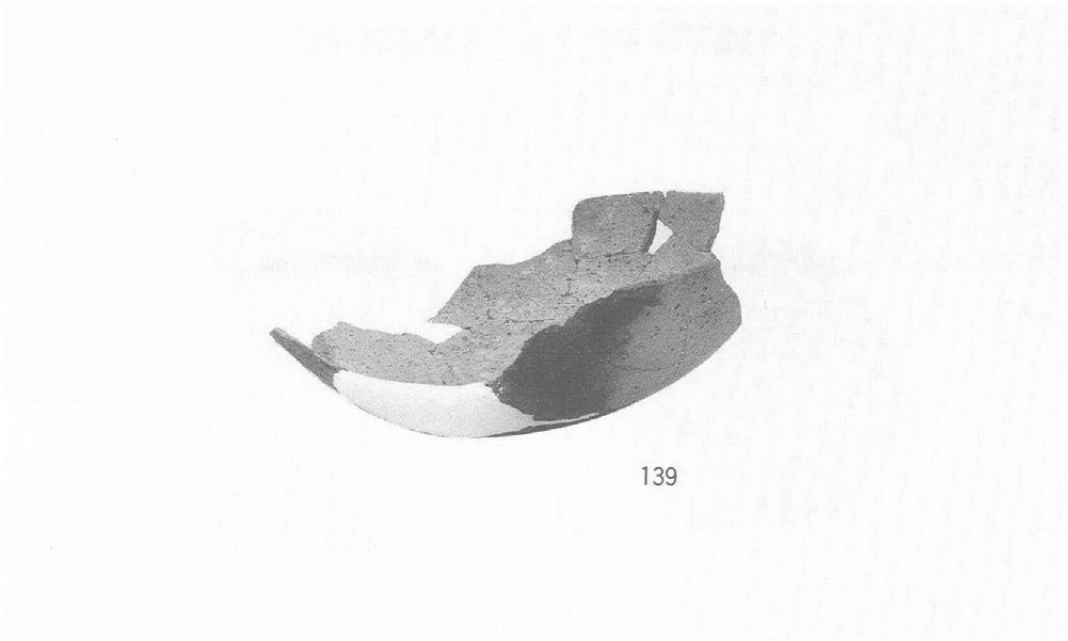
中大五郎第2 SL2出土土器(11)



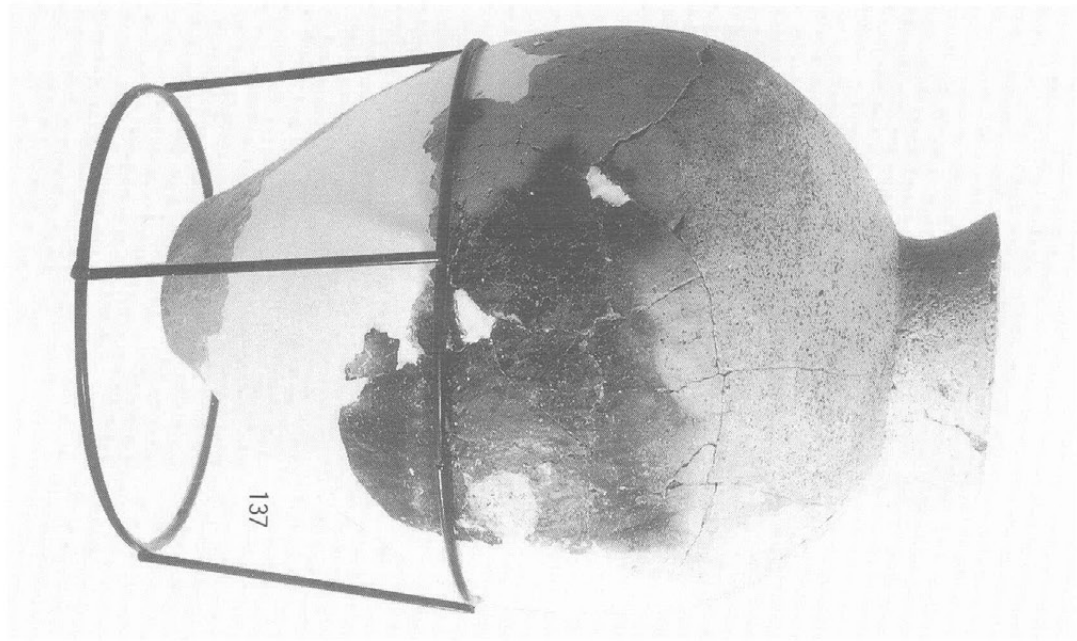
中大五郎第2 SL 2・SB 8 出土土器



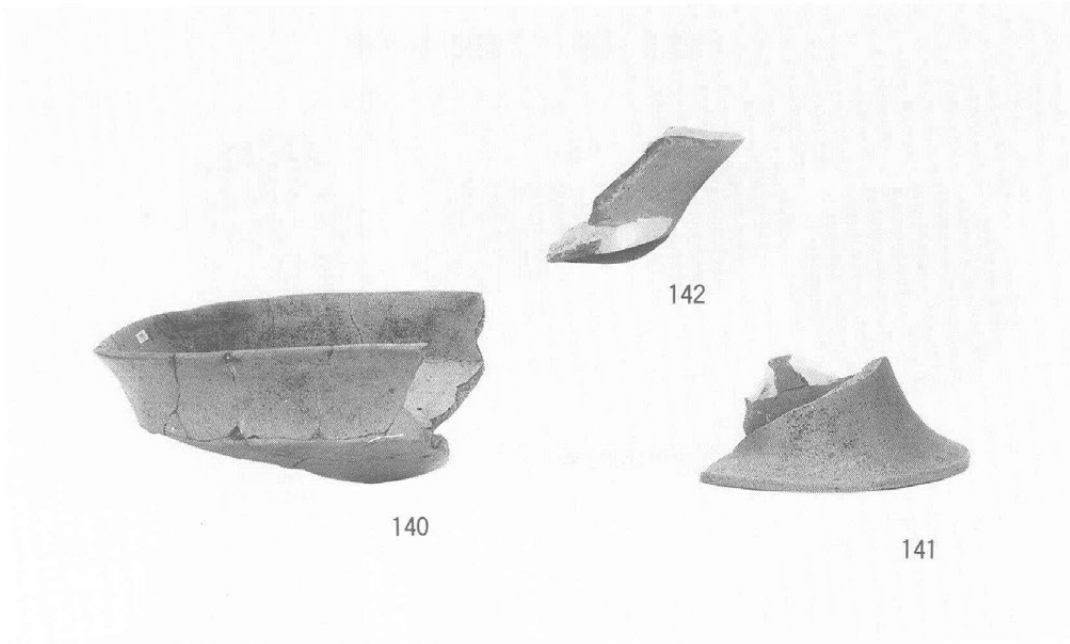
中大五郎第2 SL 2 出土土器(12)



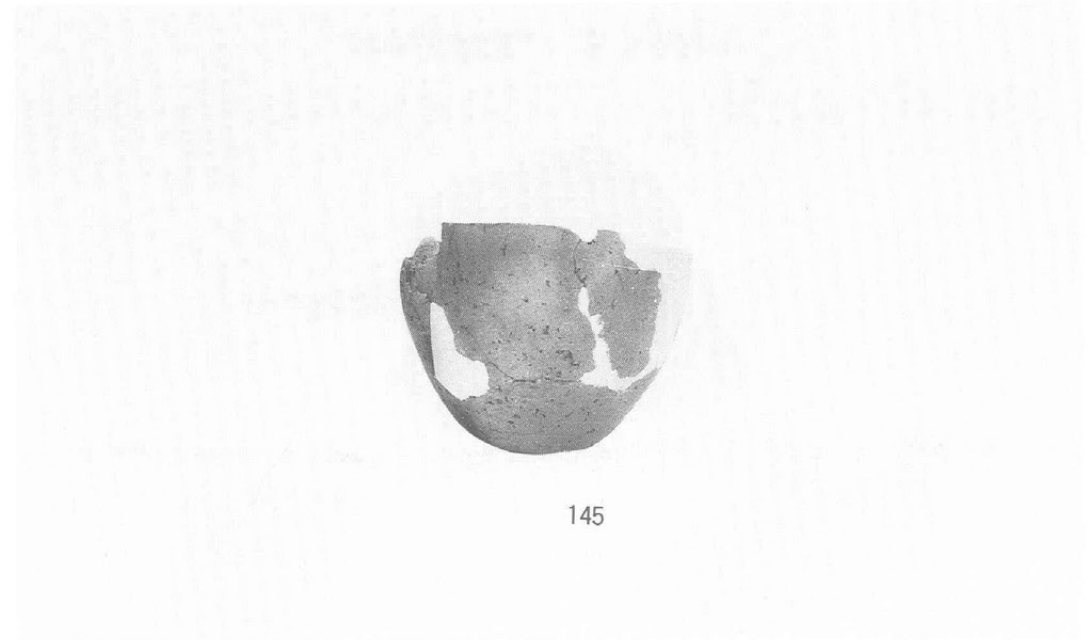
中大五郎第2 SL 2 出土土器(13)



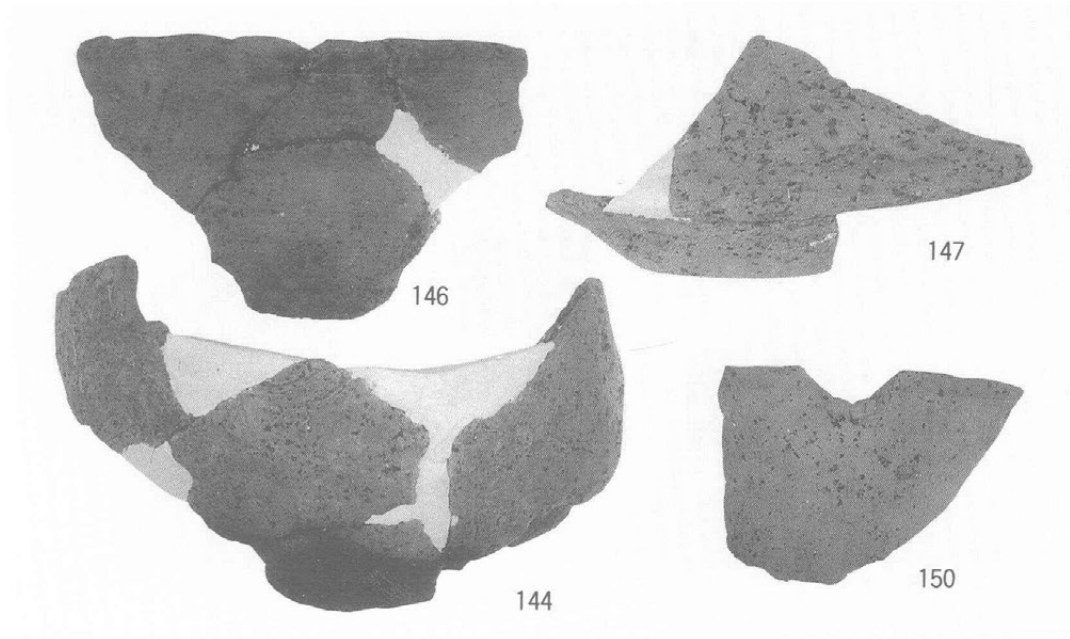
中大五郎第2 SL 2 出土土器(14)



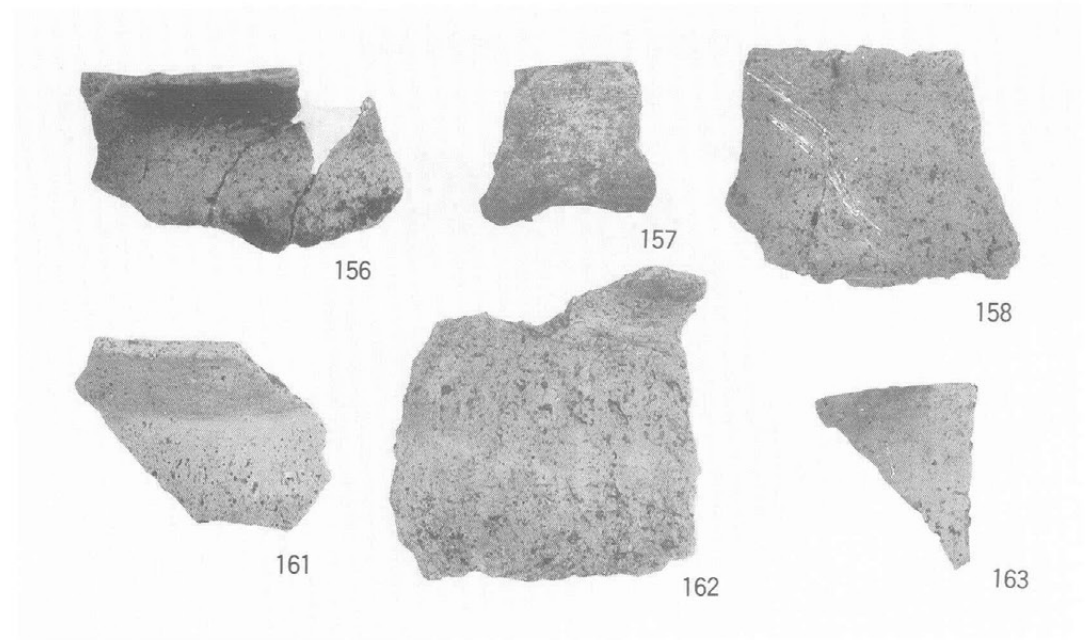
中大五郎第2 SL 2 出土土器(15)



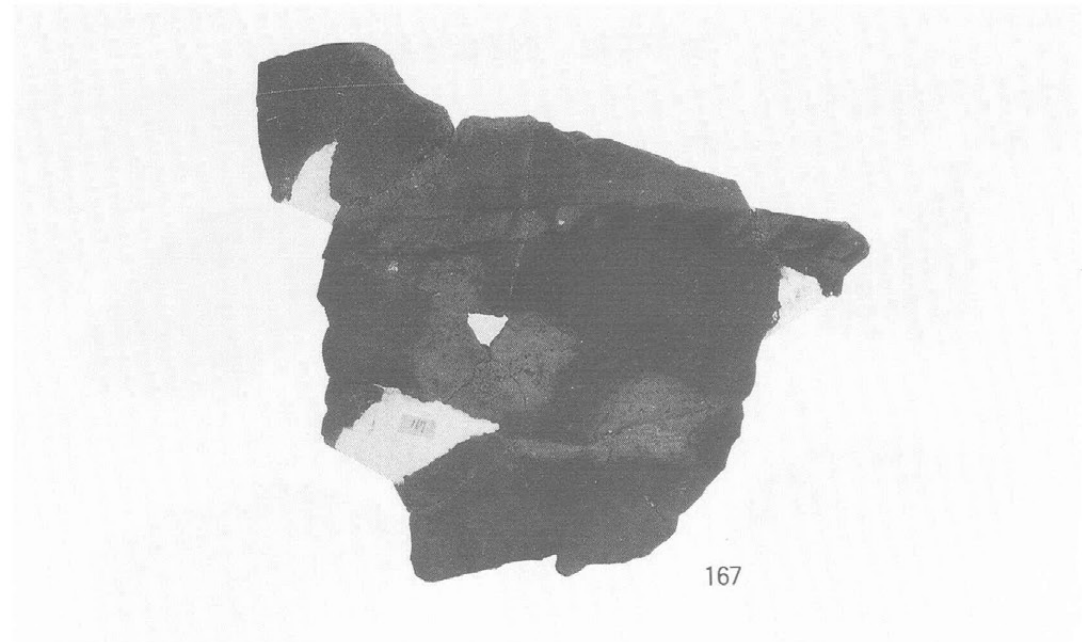
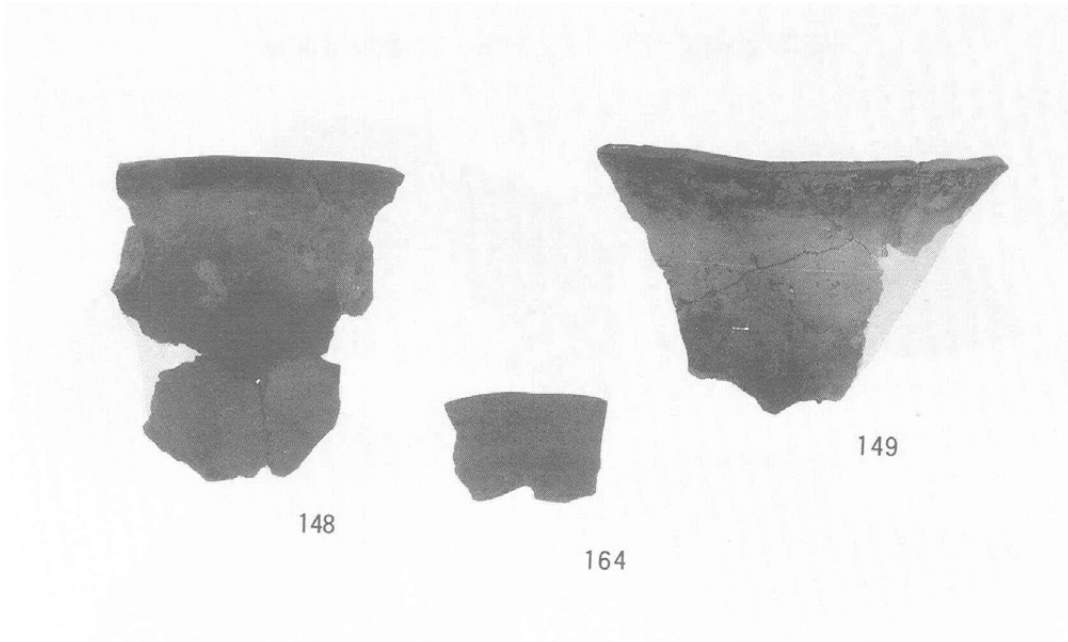
中大五郎第2 SL 2 出土土器(16)



中大五郎第2 SL 2・SL 3 出土土器

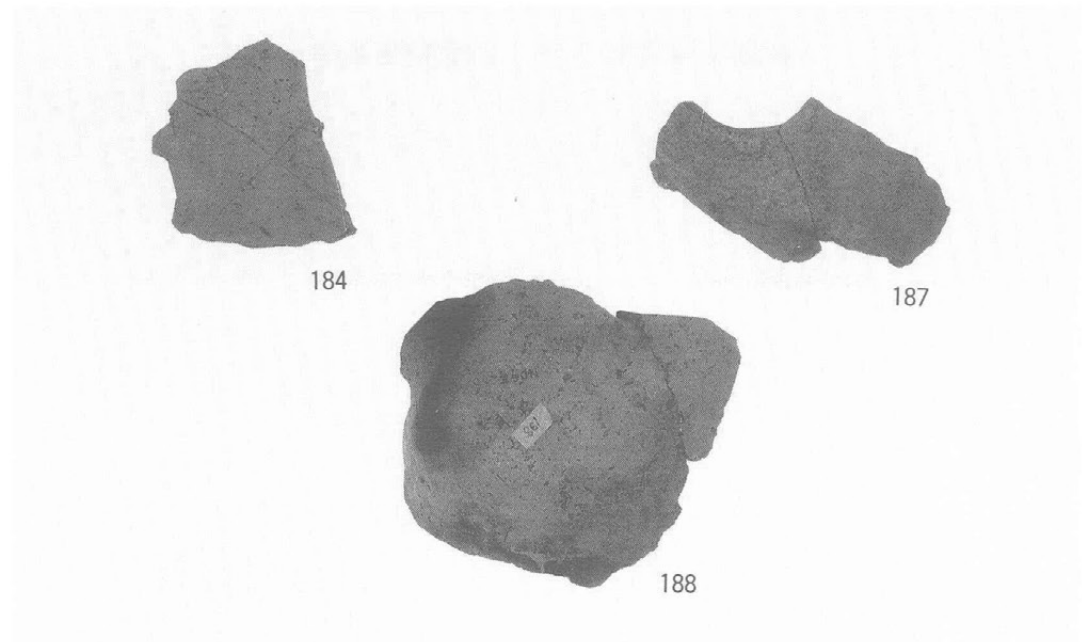
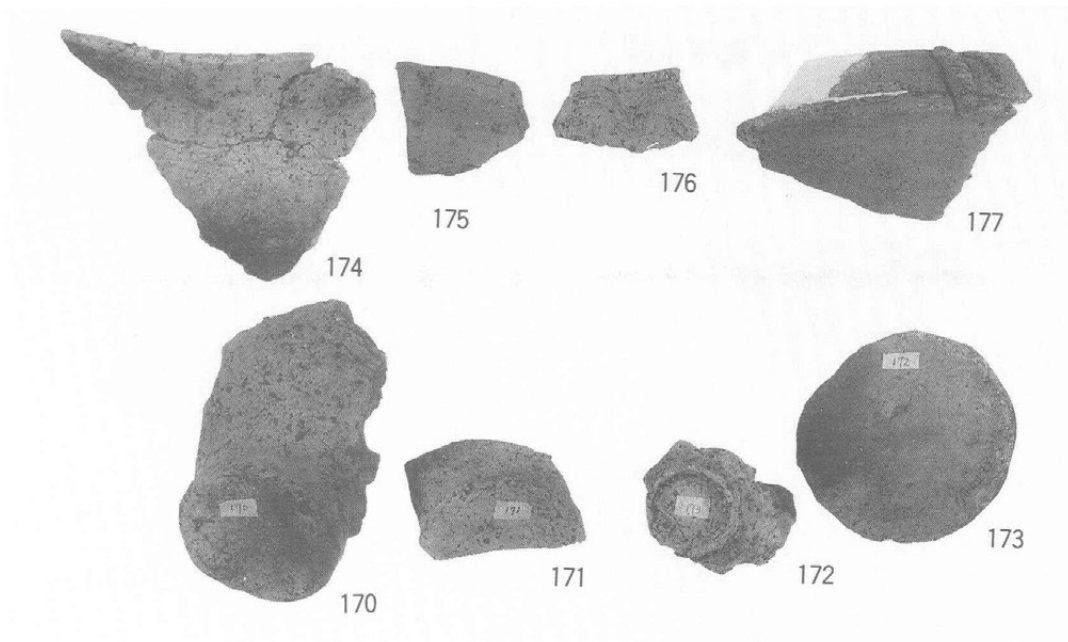


中大五郎第2 出土土器(1)



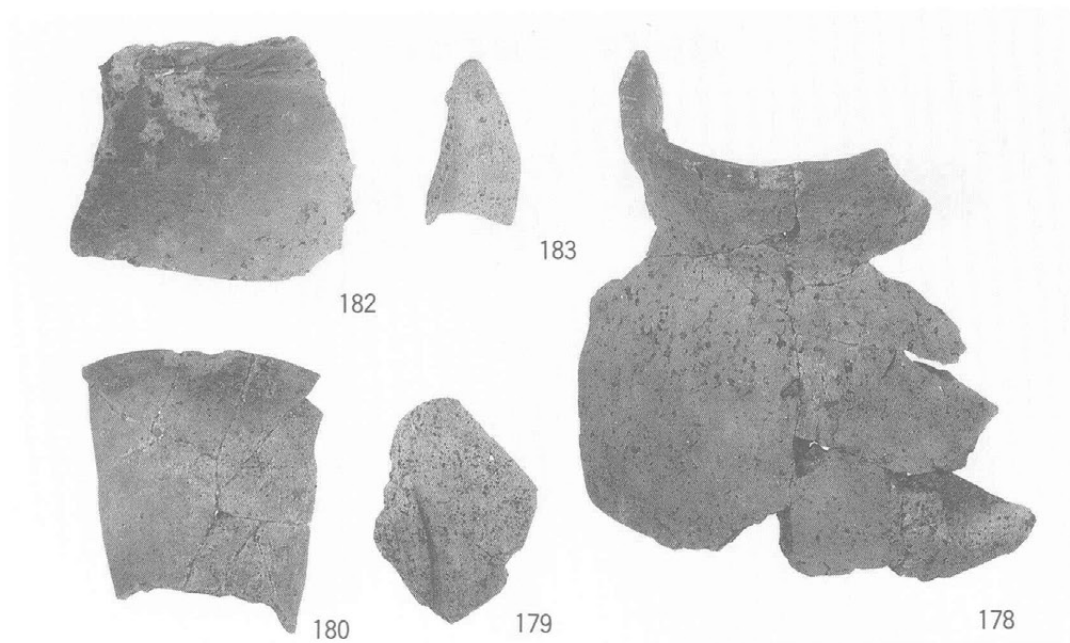
中大五郎第2 出土土器(2)

中大五郎第2 出土土器(3)



中大五郎第2 出土土器(4)

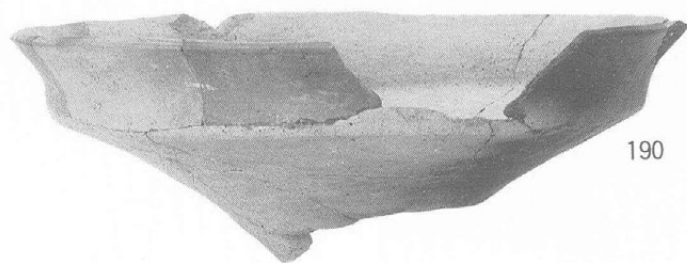
中大五郎第2 出土土器(5)



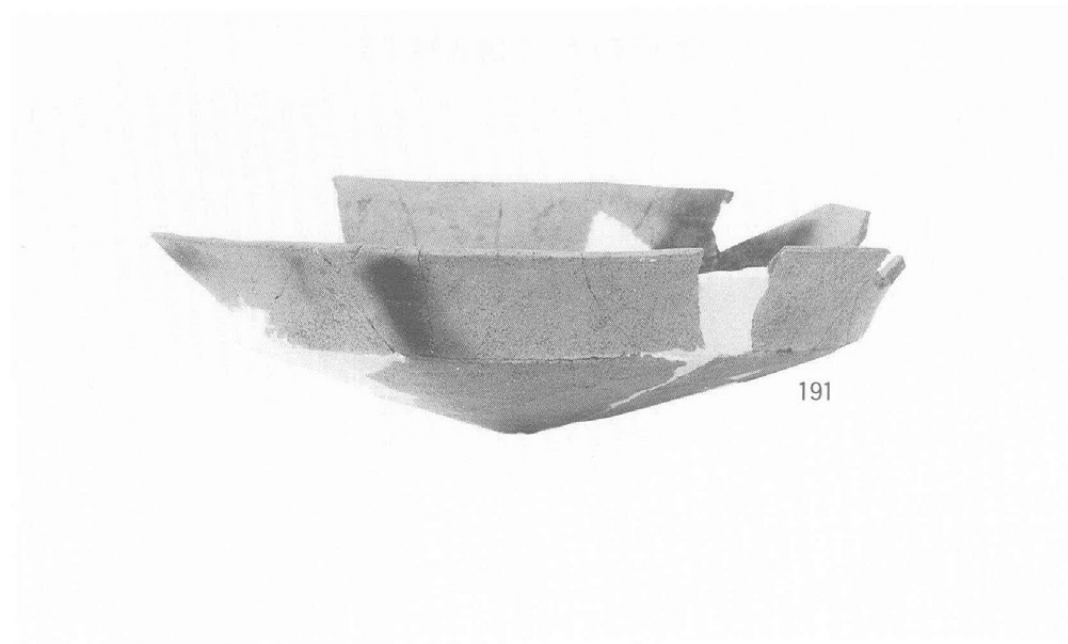
中大五郎第2 出土土器(6)



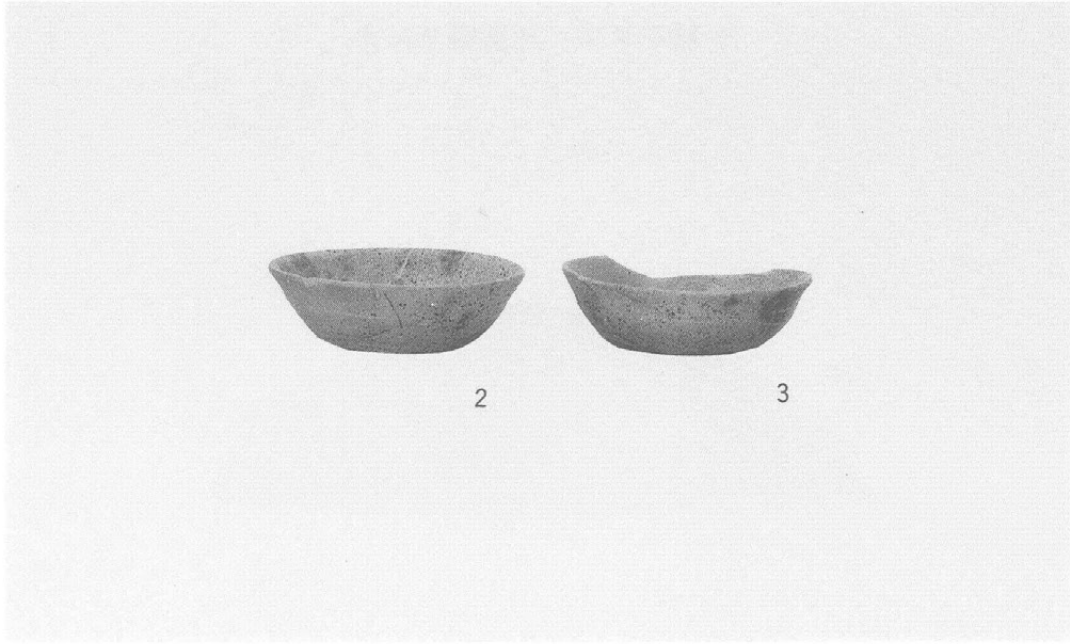
中大五郎第2 出土土器(7)



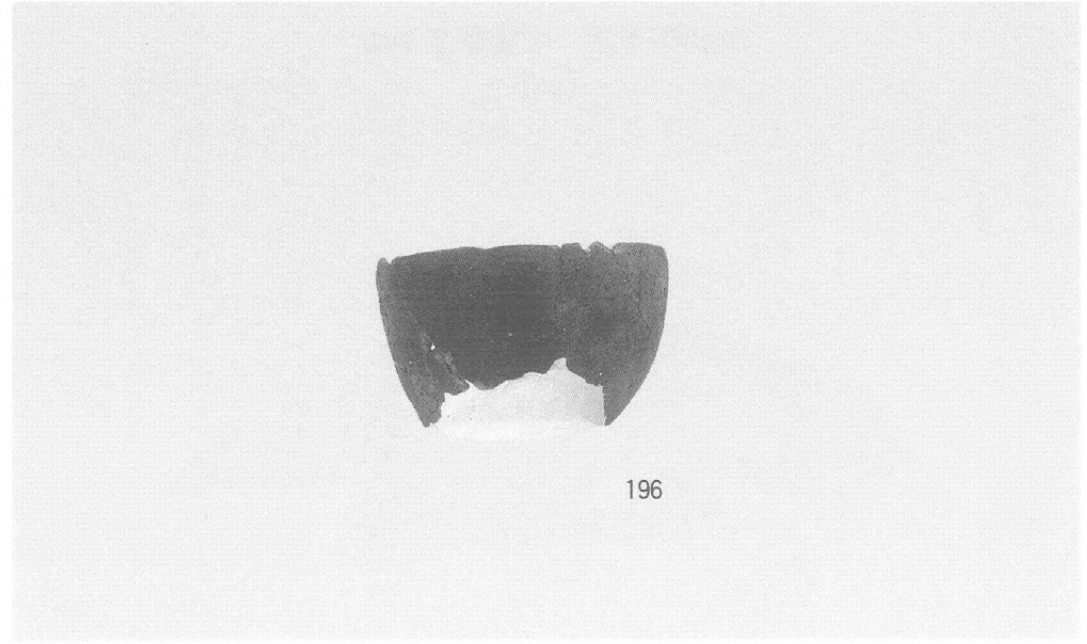
中大五郎第2 出土土器(8)



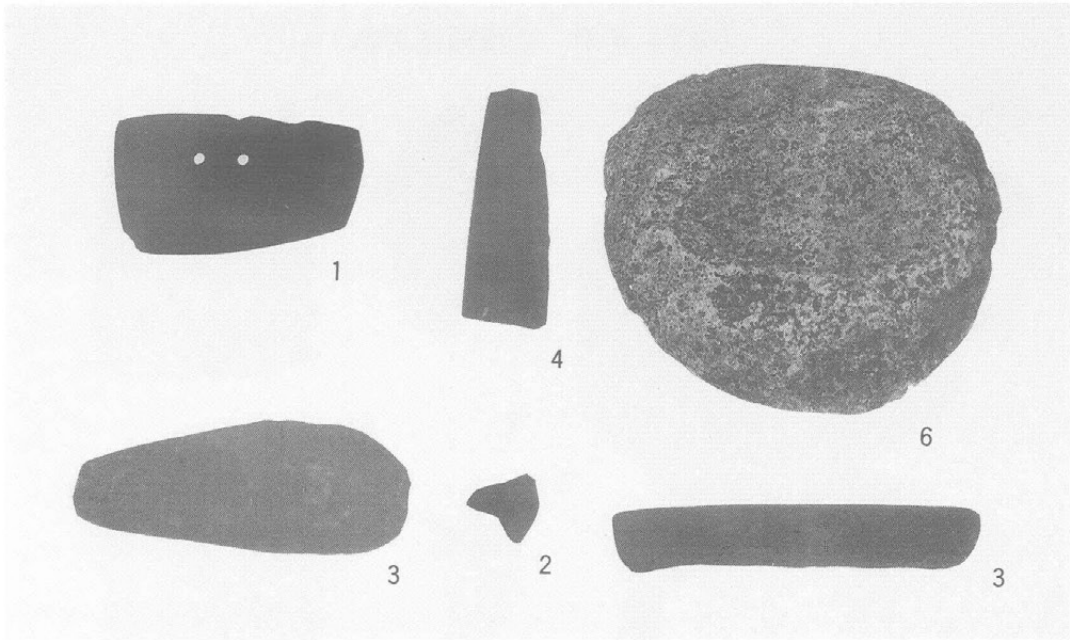
中大五郎第2 出土土器(9)



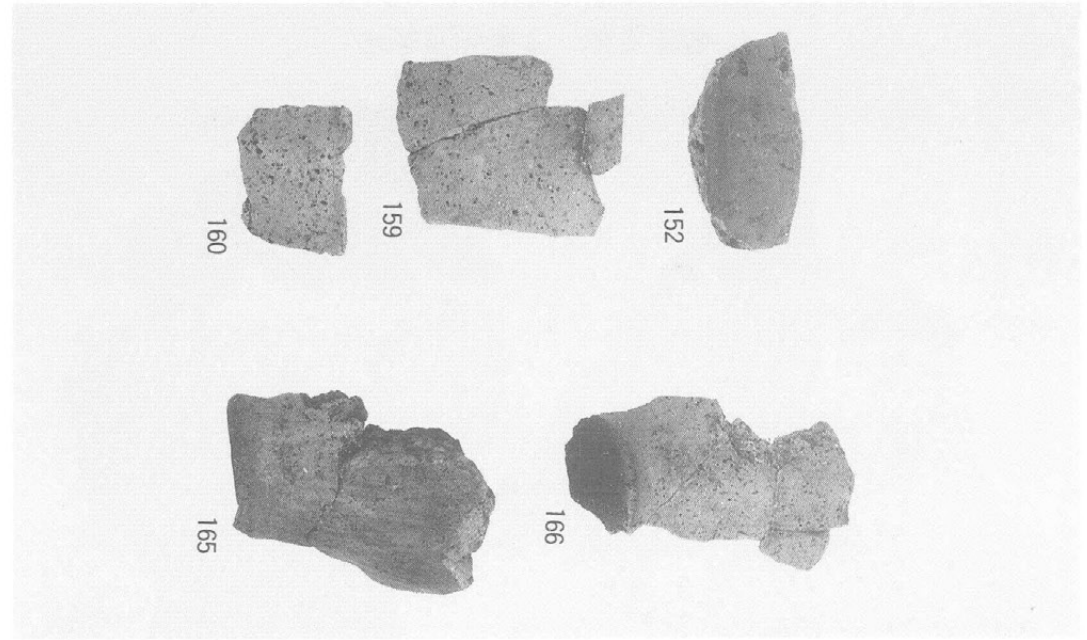
中大五郎第2 出土土器(10)



中大五郎第2 出土土器(11)



中大五郎第2 出土石器



中大五郎第2 出土土器(12)

MOTOIKE

本池遺跡

第4章 本池遺跡の調査

第1節 遺跡の立地と環境

本池遺跡は、都城市丸谷町大字上大五郎字本池に所在する。東流する丸谷川の右岸、標高約142mの低位段丘縁に立地する。平成4年度の発掘調査時には大字から「上大五郎遺跡」と称したが、平成5年度に隣接地を発掘調査する際に小字の確認を行ったところ、字境により4年度調査地と5年度調査地が区分され、前者が「本池」、後者が「上大五郎」であることが判明した。遺構の分布状況や主体となる時期の差から、別個の遺跡として取り扱うことが混乱を避ける意味でも望ましいと判断されたため、それぞれを「本池遺跡」「上大五郎遺跡」として区分することとなった。なお、平成5年度調査の「上大五郎遺跡」については、平成7年3月に本報告が刊行されている。

調査区は二カ所に分かれ、A区=8,000㎡、B区=1,000㎡の合計9,000㎡を対象とした。丸谷川により形成された段丘上には縄文時代以来多くの遺跡が存在しているが、いずれも段丘縁に集中する傾向がある。前年度に調査された中大五郎第1・第2遺跡（今回報告）、平成2年度に河川改修事業に伴い県教育委員会が調査した下大五郎遺跡では、本池遺跡と同様に低位段丘縁で弥生時代の集落跡が検出されている。

丸谷地区遺跡群を含む都城市北東部から山田町、高崎町付近は、伊東氏・島津氏の断続的抗争を経て16世紀中頃に都城盆地を支配下におく北郷氏の本拠地とされる地域である。調査年度は前後するが、本池遺跡A区に隣接する上大五郎遺跡では弥生時代の竪穴住居跡とともに15世紀から16世紀にかけての館跡が検出された。15世紀後半に噴出した桜島起源の文明降下軽石との関係から、館の成立から解体までの様子を追うことができる。また、遺跡の現況は水田であるが、付近の低地部では河川改修に伴い調査された下川原遺跡、谷ノ口遺跡などで中世以降の水田跡も確認されており、当地域の土地利用の様子を伺い知ることができる。

第2節 調査の概要

調査は平成4年10月5日に着手した。A区では、現水田耕作土下に昭和30年代の耕地整理以前のもと思われる旧水田耕作土が見られた。重機による耕作土の除去作業の際に土層の堆積状況の確認を行ったが、耕作土下に堆積する黒色土が30～50cmと比較的厚く、また、黒色土中での遺構確認も困難であろうと予想された。そのため遺物の出土に注意を払いつつ、重機にて黒色土までを除去し、霧島御池火山灰（御池ボラ）の混入する層から精査を開始した。調査にあたり国土座標に合わせた10mグリッドを設定した。現況ではほぼ水平であった地形も、耕作土の除去により旧微地形が観察されるようになり、調査区南東部と西部に向かって若干低くなることが確認された。遺物の多くも微地形的に低くなる部分に集中して出土している。調査は御池ボラを含む黒褐色土を掘り下げ、御池ボラの比率が多くなる暗褐色土（第3図7層）上面で遺構確認を行った。

調査の結果、竪穴状遺構1基、掘建柱建物16棟、溝状遺構1条、土坑数基を検出した（第1

図)。出土遺物は、弥生土器、土師質土器（甕、坏、碗）、黒色土器、布痕土器、須恵器、陶磁器、土錘、鉄鏃、鉄製釣針等がある。土師質の坏、碗の中には墨書が見られるものがあり注目された。検出された掘建柱建物のうち7棟（SB1～7）は、柱穴の径や深さの面で他の9棟と区分される。周辺から出土した遺物により平安時代の所産と推定された。

検出された遺構は個別に実測を行ったが、遺構分布図作成のため空中写真測量を行い、平成5年1月29日に現地調査を終了した。

B区は、A区耕作土除去作業終了後に引き続き調査に着手した。重機により耕作土と黒色土を除去し、御池ボラ混入黒褐色土から精査を開始した。御池ボラの比率が多くなる黒褐色土（第3図6-2層）上面で遺構確認を行った。

調査の結果、竪穴状遺構2基（1基は周溝を伴う）、土坑9基を検出した（第2図）。出土遺物には、縄文土器、弥生土器、陶磁器、石器が見られた。検出遺構の実測・測量の後、空中写真撮影を行い調査を終了した。

第3節 層序

本池遺跡A・B区の層序の確認は、それぞれ調査区東、南壁で行った（第3図）。現在までの土地利用の差により耕作土の深さに違いが見られたものの、基本的には丸谷地区を通して同一層序であるとみてよい。耕作土下には軟質の黒色土が厚く堆積している。地表下約1.5～2mには御池ボラが2、3mの厚みで堆積しており、黒色土と御池ボラの間層は漸移的にボラの比率が高くなる黒褐色土である。縄文時代後期以降、弥生時代から古墳時代にかけての遺物包含層も見られるが、出土レベルにより各時期毎の遺物包含層、旧地表面を認識することは極めて困難である。ボラ混入黒褐色土中に当時の旧地表面が存在すると思われるが、遺構のプランの確認に時間を要するため、御池ボラが多量に含まれる漸移層にて遺構確認・掘り上げを行った。

第4節 本池A区の遺構と遺物

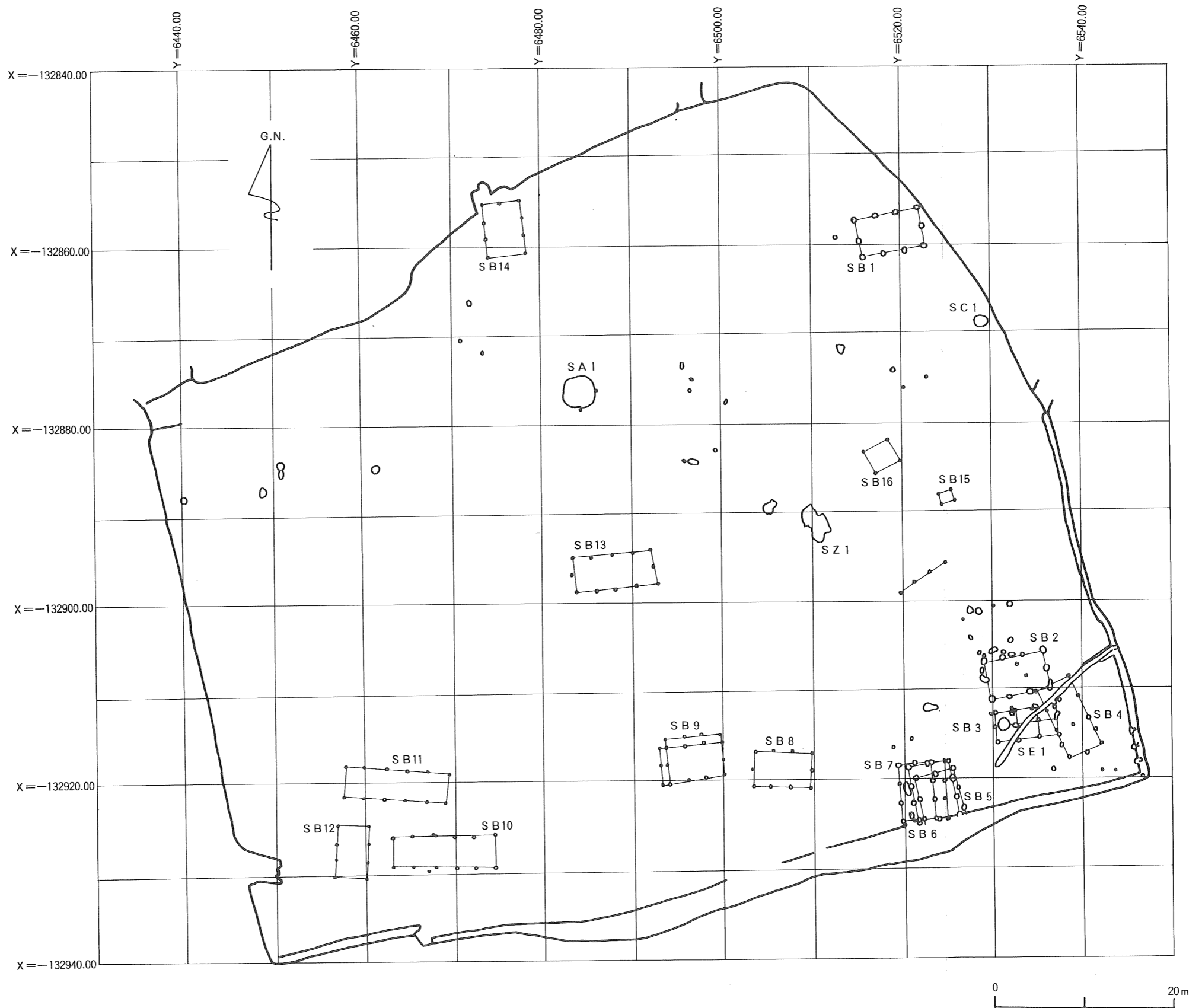
1. 掘建柱建物（第1表）

掘建柱建物は16棟検出された。柱穴の規模により大まかに2分されるが、遺構の分布状況にも偏りが見られた。柱穴規模の大きなSB1～7はA区南東部に集中し、柱穴規模のやや劣るSB8～16は調査区中央から西寄りの範囲に散在している。

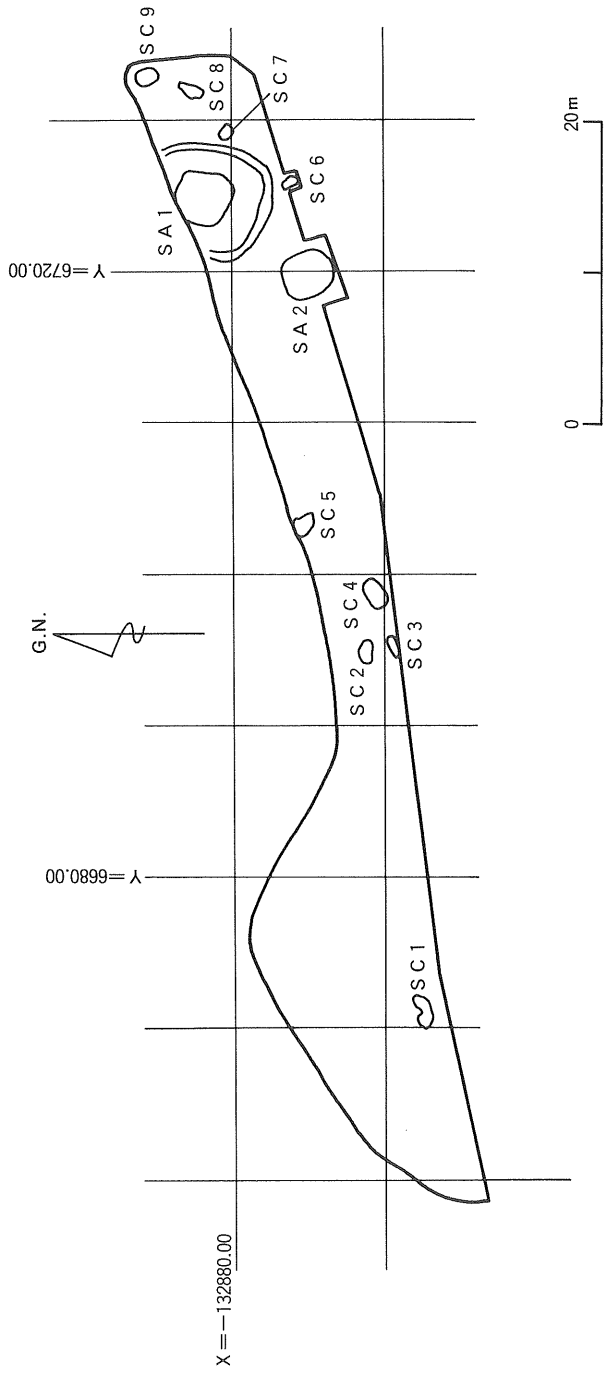
SB1・SB2（第4図）

SB1は、調査区北東隅に検出した。2×3間の東西棟である。桁行710cm、梁行425cmで床面積は約30.7㎡である。焼土等の火処は確認されていない。柱穴は、検出面での径60～70cm、深さが45～60cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。（第6図、SB1-a、SB1-b）。柱根の平均径は20cmである。柱穴から若干の土師質土器片（坏）が出土している。小片のため図示はしていないが、平安時代中期に比定される。

SB2は、調査区南東隅に検出した。2×3間の東西棟である。桁行683cm、梁行428cmで床

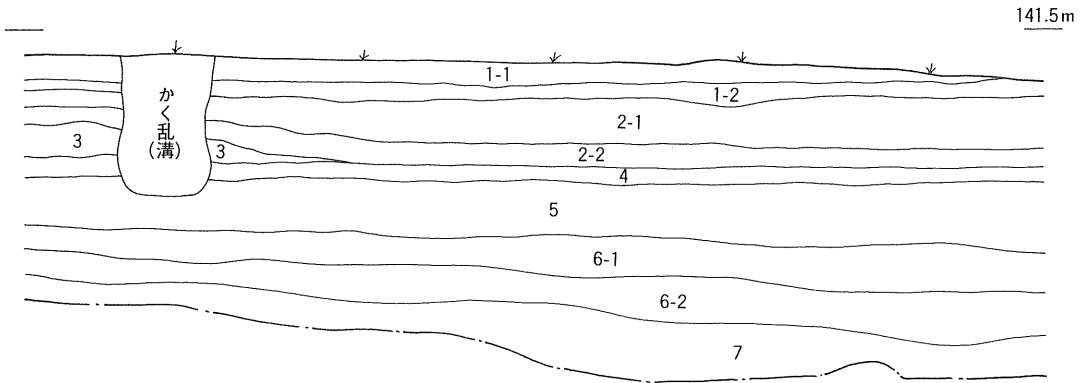


第1図 本池遺跡A区 遺構分布図 (S=1/500)



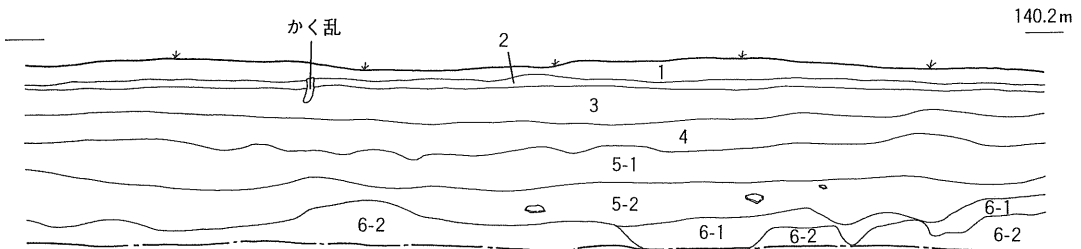
第2図 本池遺跡B区 遺構分布図 (S=1/500)

本池遺跡 A 区

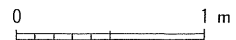


- 1-1 現水田耕作土
- 1-2 水田床土
- 2-1 旧耕作土
- 2-2 赤褐色土 (水田床)
- 3 黒褐色土 部分的に見られる。旧耕作と思われる。
- 4 黒褐色土 新燃岳噴出白ボラを含む。
- 5 黒色土 粘性有り。
- 6-1 黒褐色土 御池ボラを少量含む。
- 6-2 黒褐色土 御池ボラを含む。
- 7 暗褐色土 御池ボラを多く含む。硬くしまる。

本池遺跡 B 区



- 1 表土 (耕作土) 下部に新燃岳噴出白ボラ、酸化鉄の凝集が見られる。
- 2 黒褐色土 白ボラを含む。
- 3 黒色土 粘性有り。
- 4 黒色土 小礫を含む。
- 5-1 黒褐色土 御池ボラ・小礫を含む。
- 5-2 黒褐色土 御池ボラ・小礫を多く含む。
- 6-1 黒褐色土 御池ボラを多量に含む。
- 6-2 黒褐色土 6-1より御池ボラが多い。硬くしまる。



第3図 本池遺跡 A・B区土層断面図 (S=1/40)

面積は約29.1㎡である。焼土等の火処は確認されていない。柱穴は、検出面での径が60～80cm、深さが45～55cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している（第6図、SB2）。柱根の平均径は16cmである。柱穴からは土師質土器片、須恵器片等が出土したが、特に西側梁中央の柱穴には比較的多量の須恵器片（大甕胴部片）が見られ、その出土状態は柱の根固めを意図したものとされる。また、同じ柱穴からは鉄鏟（第24図、229）も出土している。出土した遺物から平安時代中期に比定される。

SB3・SB4（第5図）

SB3は、調査区南東隅、SB2の南側に検出された。2×3間の東西棟で、総柱の掘建柱建物である。桁行685cm、梁行350cmで床面積は約24.2㎡である。柱穴は、検出面での径が50～60cm、深さが30～55cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している（第6図、SB3-a、SB3-b）。柱根の平均径は15cmである。柱穴からは土師質土器片、須恵器片等が出土し、根固めと思われる軽石も見られた。出土した遺物から平安時代中期に比定される。SB3を斜めに横切るように溝状遺構が検出されているが、柱穴との切り合いが見られず前後関係は不明である。また、径約120cmの円形土坑も見られたが、SB3との関係は不明である。焼土等の火処は確認されていない。

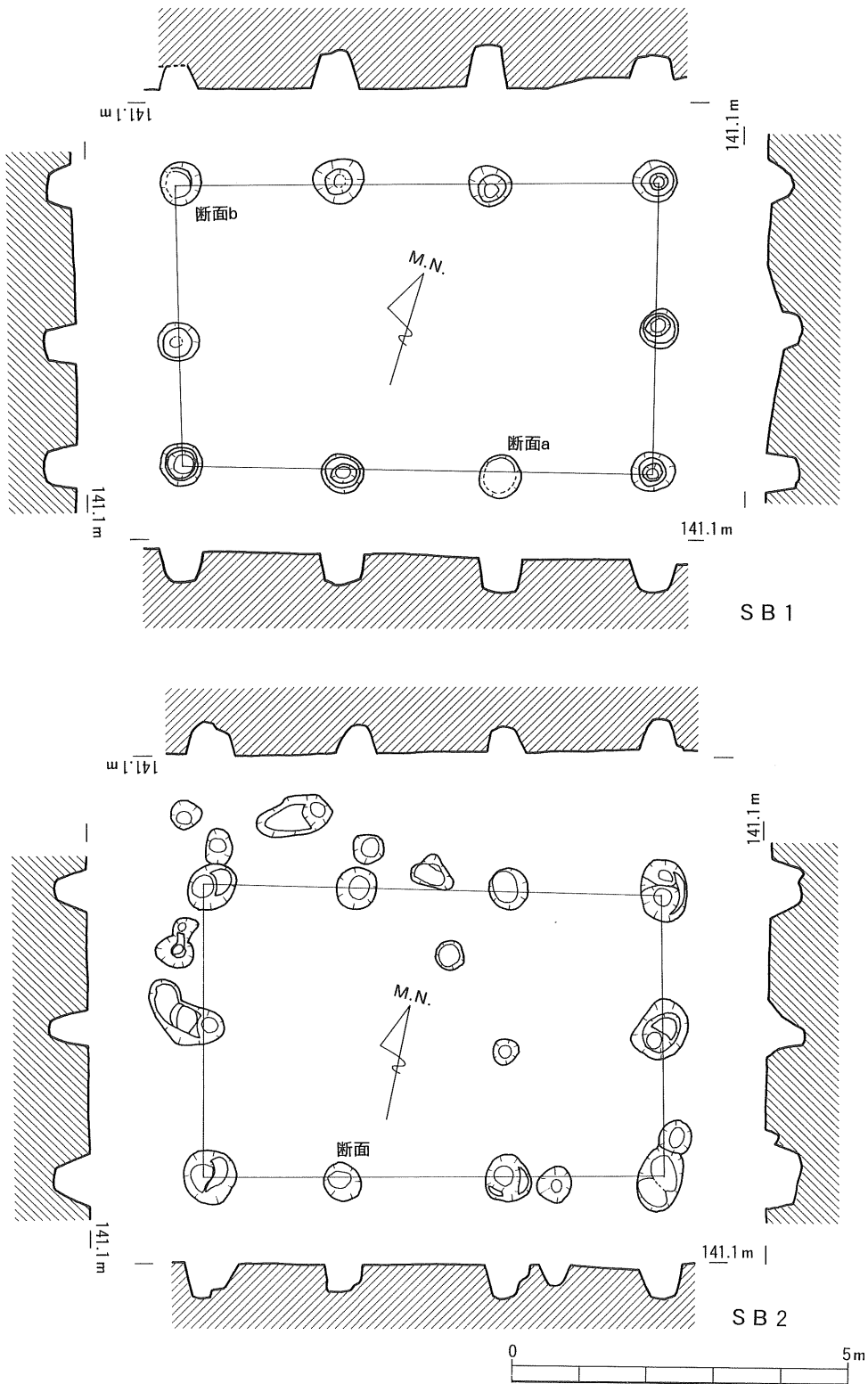
SB4は、調査区南東隅にSB2・SB3と重複して検出されている。2×4間の南北棟であるが、桁南半の柱間が2m以下と狭くなる。桁行838cm、梁行404cmで床面積は約35.2㎡である。柱穴は、検出面での径が40～50cm、深さが15～35cmである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している（第6図、SB4）。柱根の平均径は15cmである。柱穴から遺物等は出土していない。

SB5・SB6・SB7（第7図）

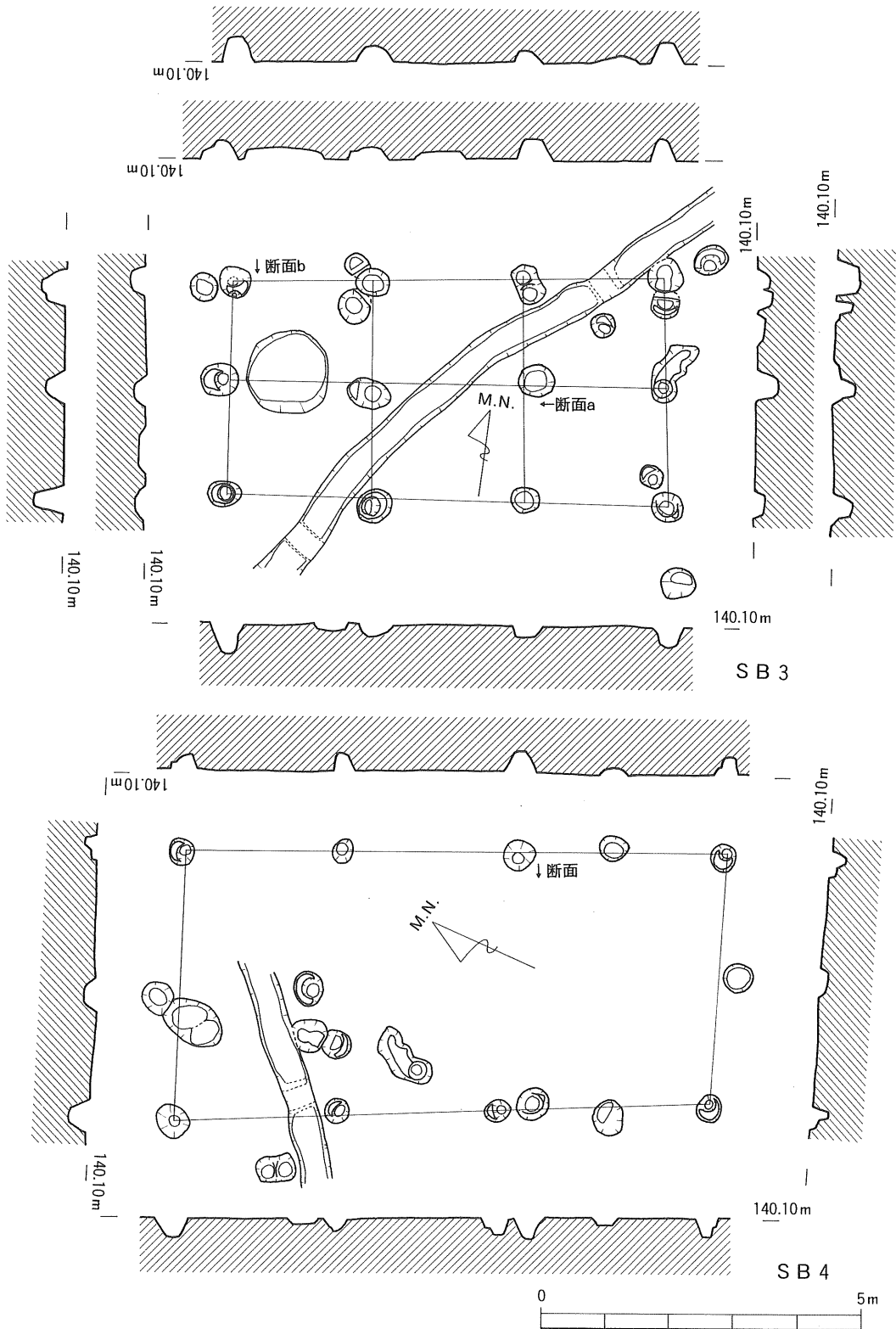
SB5～7は、調査区南東隅に3棟重複して検出された。

SB5は、2×2間が検出されたが、南の梁中央の柱穴が見られないことから、更に南の調査区外へ延びるものと思われる。2×3間として検出されたSB6との棟方位が一致することから、建て替えを想定するならば2×3間とみることができようか。南北棟で、梁行440cmである。柱穴は、検出面での径が50～60cm、深さが35～40cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。柱根の平均径は25cmである。柱穴から平安時代中期に比定される土師質土器片が出土している。

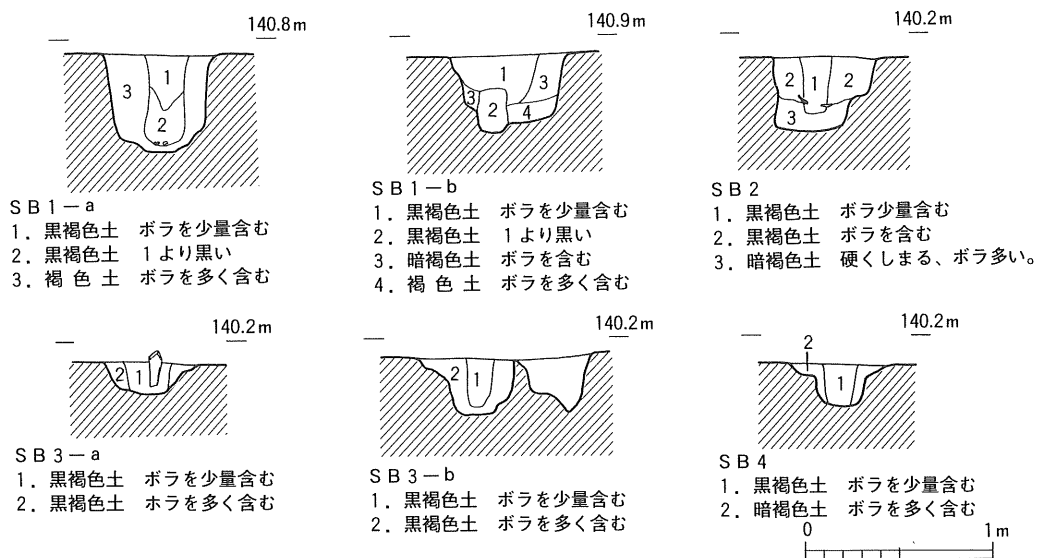
SB6は、2×3間の南北棟である。桁行630cm、梁行475cmで床面積は約30.4㎡である。柱穴は、検出面での径が50～60cm、深さが35～40cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。柱根の平均径は22cmである。柱穴から平安時代中期に比定される土師質土器片が出土しており、また、根固めと思われる軽石も見られた。



第4図 本池A区 SB 1・2 実測図 (S=1/100)



第5図 本池A区 SB 3・4実測図 (S=1/100)



第6図 SB 1～4 柱穴断面図 (S=1/40)

SB 7は、2×3間の南北棟で、東側に庇を持つ。棟方向はSB 5・SB 6とやや異にする。柱穴3基がSB 6と、1基がSB 5との切り合いを見せ、いずれもSB 7が切っている。桁行640cm、梁行375cmで床面積は約25.1㎡、底部を含む面積は32.8㎡である。柱穴は、検出面での径が50～60cm、深さが35～45cmと比較的規模の大きなものである。木質の残存は見られなかったものの、埋土の断面観察では柱痕と思われる比較的軟質の土層を確認している。柱根の平均径は20cmである。柱穴から平安時代中期に比定される土師質土器片、須恵器片が出土しており、また、根固めと思われる軽石も見られた。

SB 8・SB 9 (第8図)

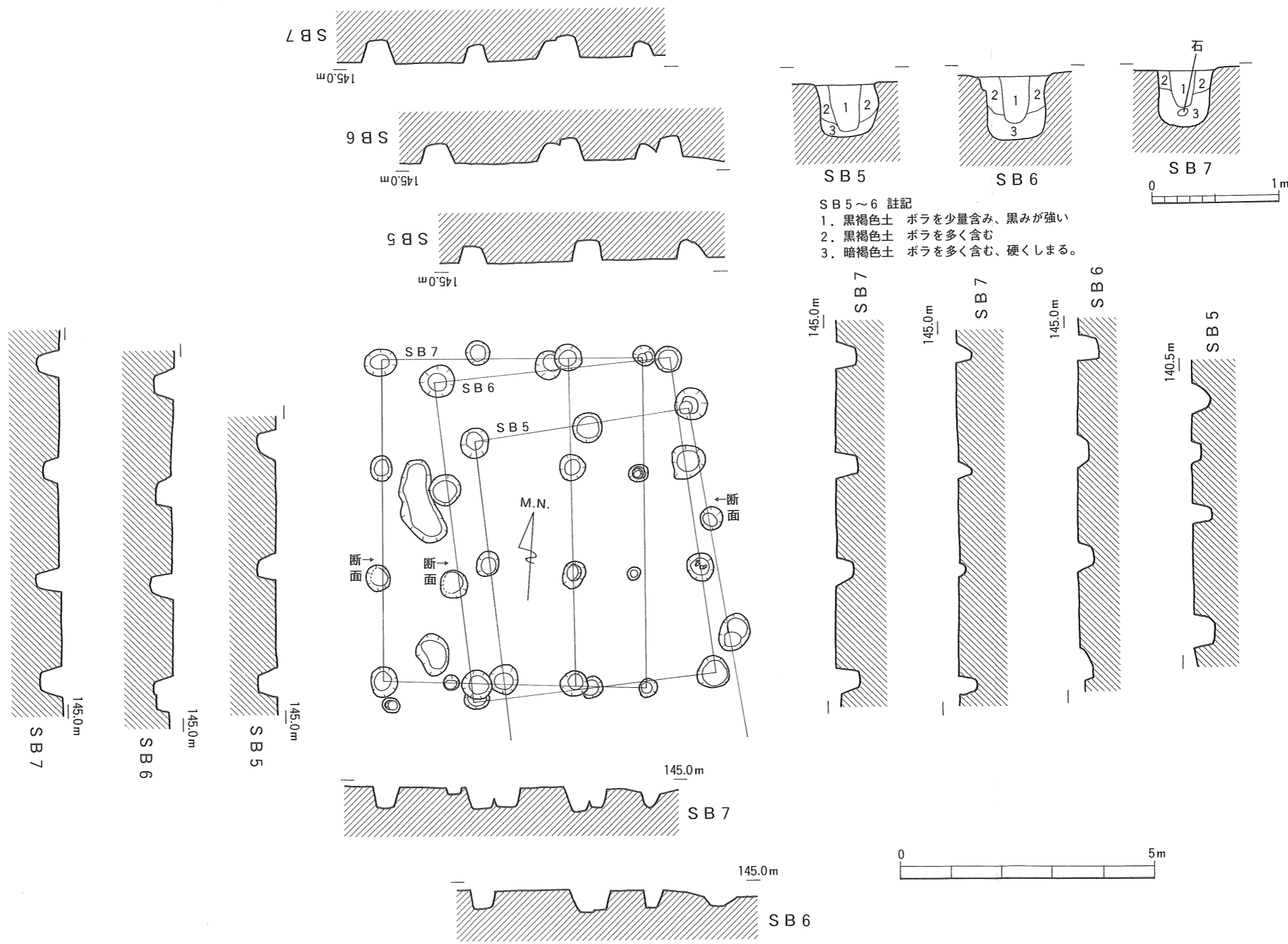
SB 8は、調査区中央やや南寄りの位置に検出された。2×3間の東西棟である。桁行640cm、梁行385cmで床面積は約25.8㎡である。柱穴は、検出面での径が25～30cm、深さが10～35cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

SB 9は、SB 8の西側に検出された。2×3間で東西棟、北側と西側の2面に庇を持つ。桁行615cm、梁行390cmで床面積は約23.9㎡、底部を含む面積は33.0㎡である。柱穴は、検出面での径が25～30cm、深さが15～30cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

SB 10・SB 11 (第9図)

SB 10は、調査区の南西隅に検出された。1×5間の東西棟である。桁行1150cm、梁行345cmで床面積は約40.3㎡である。柱穴は、検出面での径が25～30cm、深さが10～20cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も土師質土器小片が見られたものの時期の判断をし得るものではない。

SB 11は、調査区の南西隅、SB 10の北側に検出された。SB 10と同じく1×5間で東西棟



第7図 本池A区 SB 5・6・7実測図 (S=1/100)

である。桁行1150cm、梁行335cmで床面積は約39.2㎡である。柱穴は、検出面での径が25～35cm、深さが15～25cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

S B 12・S B 13 (第10図)

S B 12は、調査区南西隅、S B 10の西側に検出された。1×3間の南北棟である。桁行580cm、梁行360cmで床面積は約20.5㎡である。柱穴は、検出面での径が25～30cm、深さが10～20cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

S B 13は、調査区中央に検出された。2×4間の南北棟である。桁行890cm、梁行390cmで床面積は約34.8㎡である。柱穴は、検出面での径が25～30cm、深さが15～30cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

S B 14・S B 15・S B 16 (第11図)

S B 14は、調査区北端に検出された。2×3間の南北棟で、南側梁中央の柱穴は検出されなかった。桁行600cm、梁行425cmで床面積は約25.3㎡である。柱穴は、検出面での径が30～35cm、深さが10～15cmである。柱痕は確認できなかった。焼土等の火処は確認されず、遺物も出土していない。

S B 15は、調査区東端に検出された。1×1間の東西棟である。桁行147cm、梁行127cmで床面積は約1.9㎡である。柱穴は、検出面での径が30～35cm、深さが10～15cmである。柱痕は確認できなかった。遺物も出土していない。

S B 16は、調査区東端、S B 15の北西に検出された。1×1間の東西棟である。桁行304cm、梁行278cmで床面積は約8.4㎡である。柱穴は、検出面での径が30～35cm、深さが25～35cmである。柱痕は確認できなかった。遺物は出土していない。

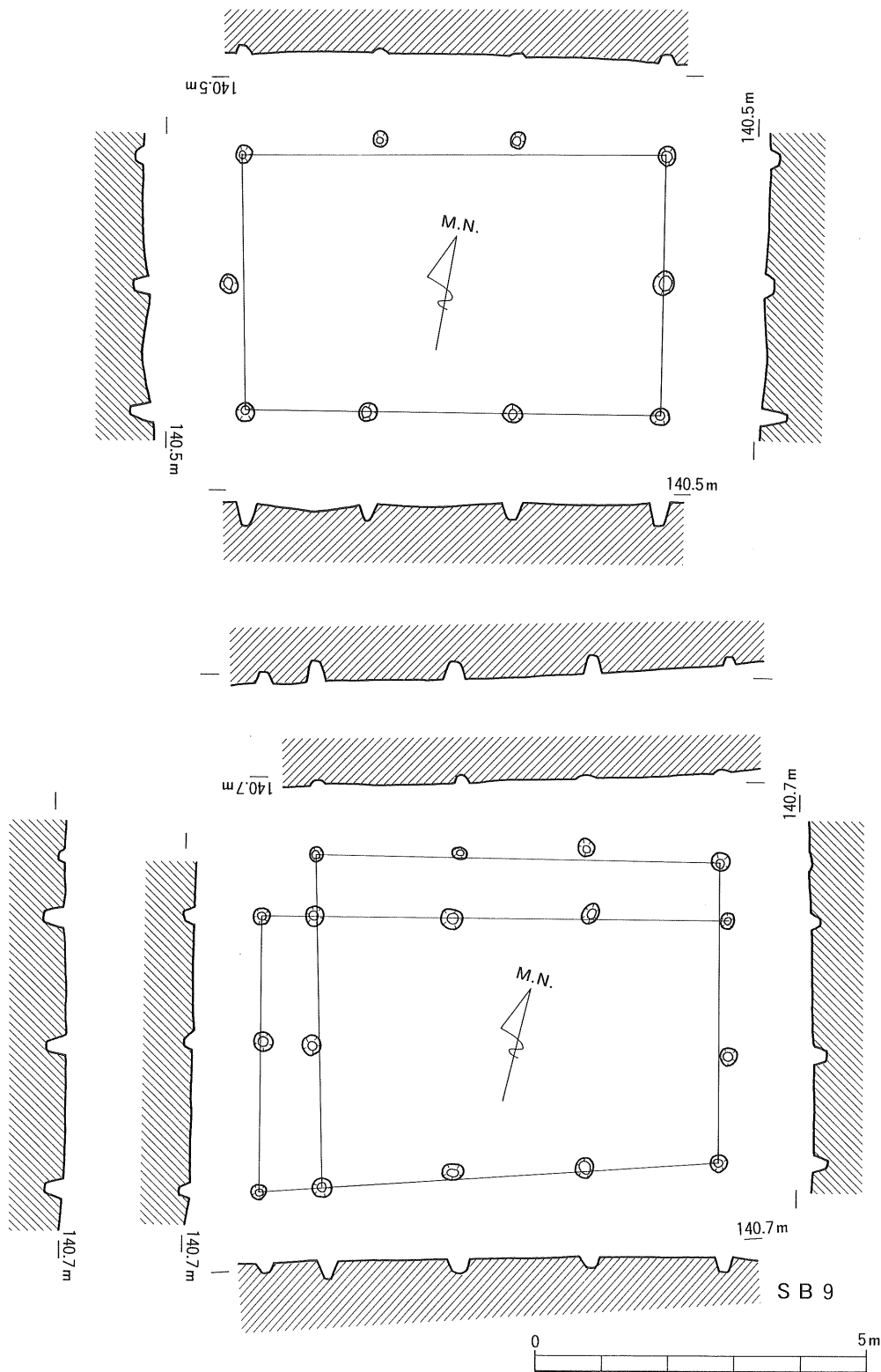
2. 竪穴状遺構

S A 1 (第12図)は、調査区中央やや北寄りの位置に検出された。長軸350cm、短軸345cmの隅丸方形プランで、検出面からの深さは10cmと非常に浅い。御池ボラ層を僅かに掘り込んだ床面には、貼り床、焼土、硬化面等は見られなかった。主柱穴は見られず、壁際に径10cm程度の小ピットが11基検出された。遺物は見られず、時期、性格ともに不明である。

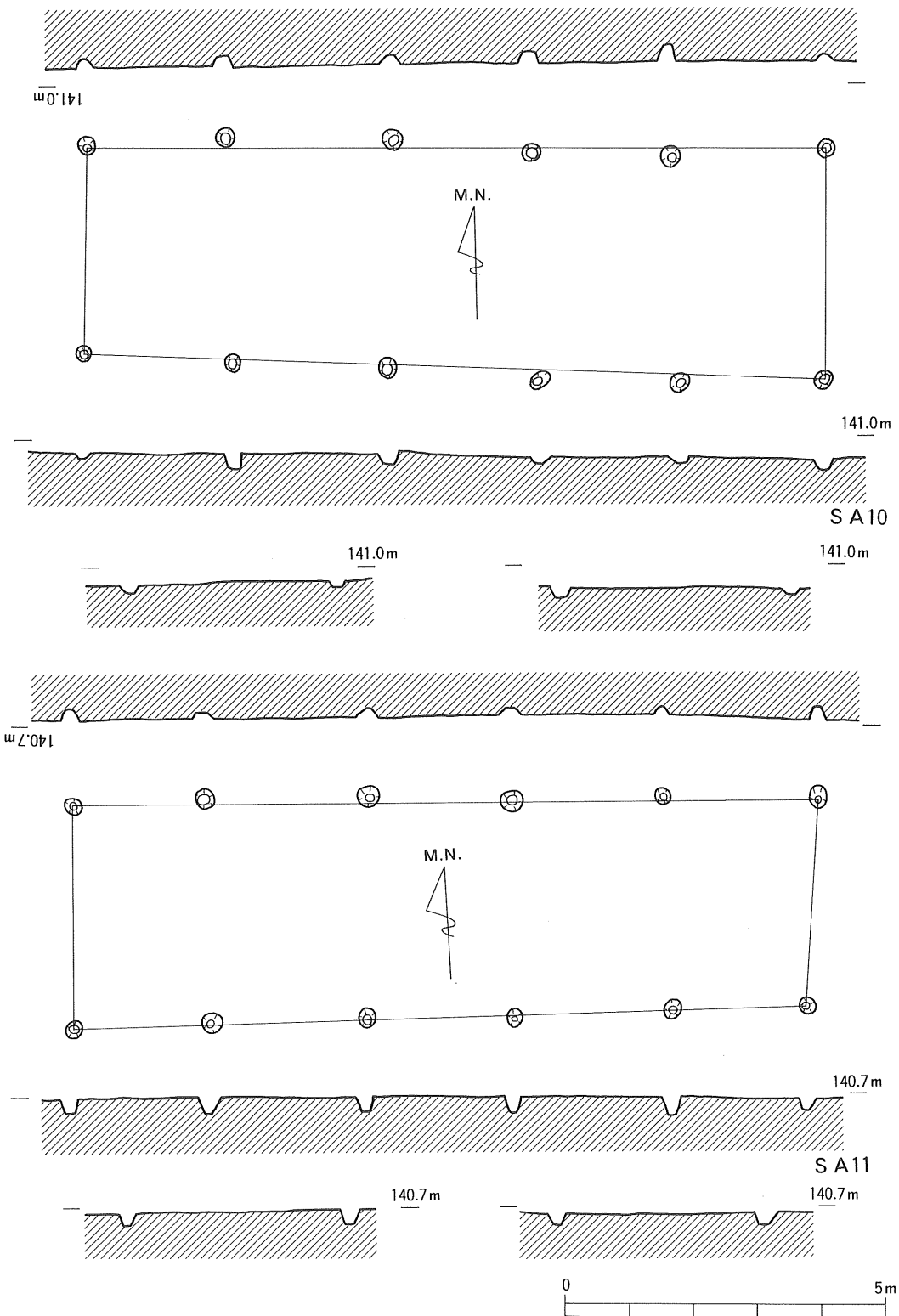
3. 土坑 (第13図)

S C 1は、調査区東端に検出された。長軸160cm、短軸140cmの楕円形プランで、埋土は御池ボラを含む黒褐色土の単一層である。平安時代中期に比定される土師質土器片が出土し、若干の炭化物が見られた。

S Z 1は、調査区中央に検出された。不整形のプランであるが、埋土の観察から北側の張り出しは別個の土坑(S C 3)が切り合ったものと確認された。約1.4mと深い掘り込み部分には、三隅に柱を立てたと思われるピットと壁の挟り込みが見られた。南側には約90cmの段差で入り口状の張り出しが見られる。埋土の下半部は攪乱土の一括堆積で、埋め戻しあるいは壁の崩れ込みと思われる。遺物は見られず、時期・性格ともに不明である。



第8図 本池A区 SB 8・9 実測図 (S=1/100)



第9図 本池A区 SB10・11実測図 (S=1/100)

4. 弥生土器

A区から出土した弥生土器を第14図に示した。調査区西半部に偏って出土しており、南東部に多く出土した平安時代の遺構・遺物群と分布を異にする。遺構は伴わず、御池ボラを含む黒褐色土（6-I層）から出土している。

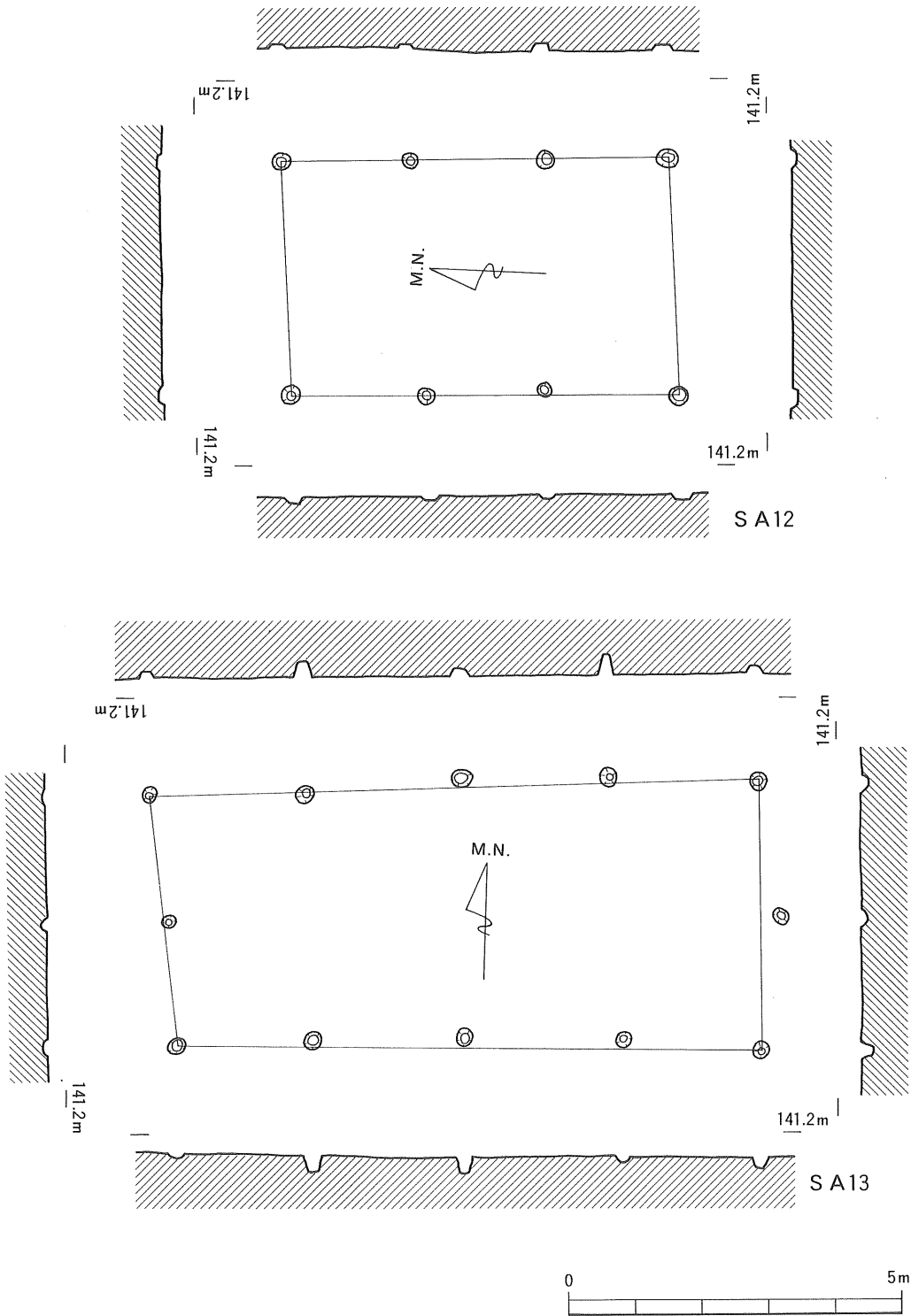
1～12は甕形土器である。1は、口縁部とその下2cmに刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。胎土は精良で、焼成も良好で硬く焼き締まる。他の土器群とやや趣を異にする。2は水平に折り返された口縁に、あまり張らない胴部を持つ。胴部最大径の位置に、2条の貼り付け突帯を持つ。3は、口縁部下に貼り付け突帯を持つ。口縁部はやや内湾気味である。4は、強く屈曲する口縁である。頸部内面に明瞭な稜を持ち、短い口縁は外反する。5は、比較的厚手の器壁を持つ。やや外反気味で、口唇部はナデにより面取りされる。6は、「く」字形に屈曲する頸部を持つ。口縁は直線的に延びる。7・8は、緩やかに外反する口縁を持ち、口径が胴部最大径を凌ぐ。9は、口縁部が外反しながら長く延びる。10・11は甕の底部で、外に張り出し上げ底となる。外器面に指頭痕が明瞭に残る。12はくびれを持たず、口縁部を多少外に向けた砲弾形となる。外に張り出す底部は若干の上げ底となる。13～19は壺形土器である。13は、球形の胴部に短い口縁を持つ。外器面は風化気味であるが、ミガキが見られる。内面は指によるナデ上げが顕著である。14～17は、壺の口縁部である。16は丁寧なナデ、17はタテ方向のミガキが顕著である。18・19は壺底部とともに平底である。18は円盤状の底部を持つ。20～25は、高坏の坏部である。いずれも明瞭な屈曲を持ち、口縁部は外反する。外面はナデ、内面はミガキ調整である。26・27は器台である。26はほぼ垂直に立ち上がる口縁部を持つと思われる。28～31はミニチュア土器である。手づくねによる指頭痕が明瞭に残る。32は、杓子状土製品の把手であろうと思われる。

5. 土師質土器（第15～19図）

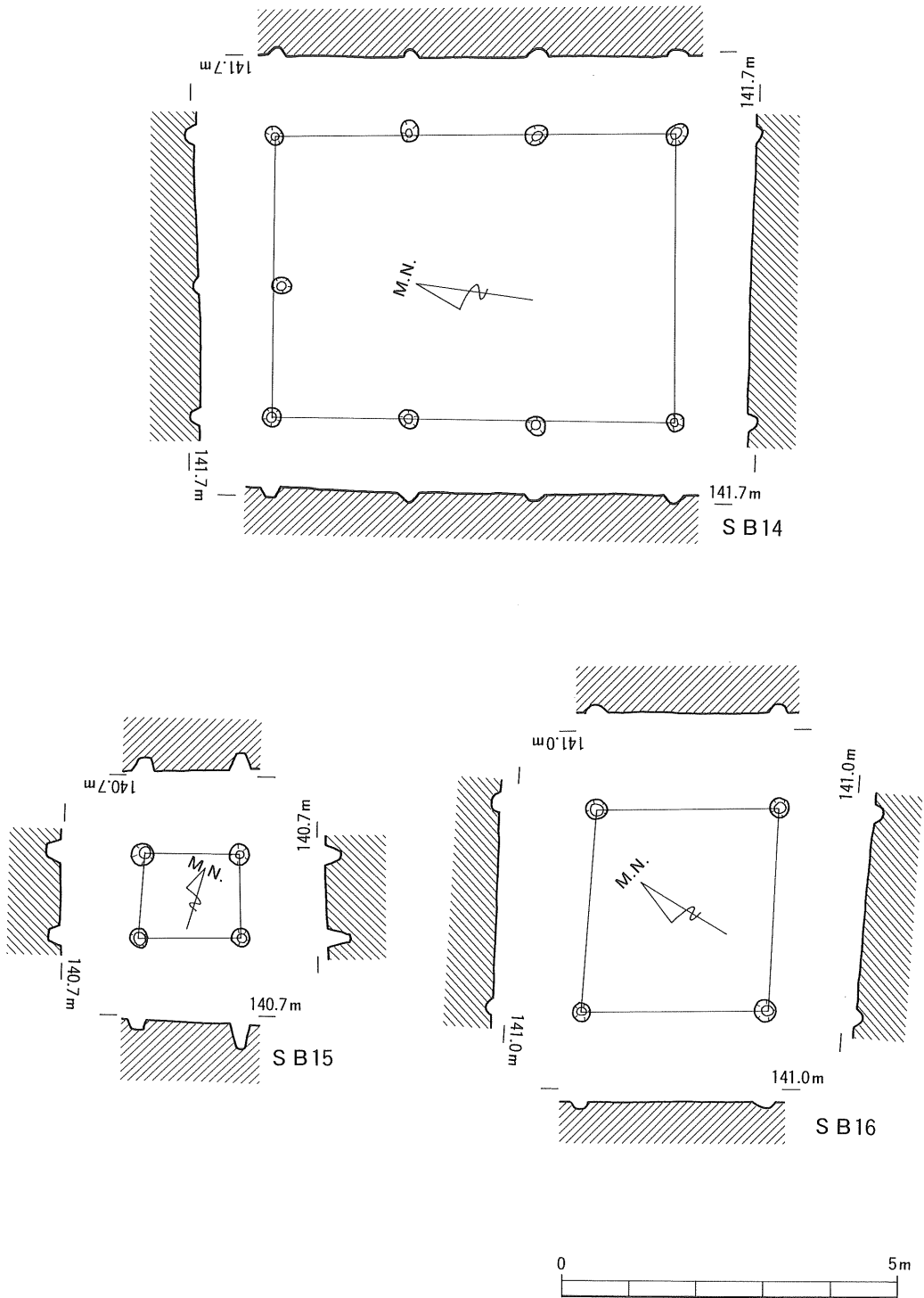
土師質土器は、調査区南東部のSB2～SB7の周辺および柱穴内から出土した。甕、坏、碗等が見られる。

33～60（第15図）は、甕形土器である。胎土は比較的精良で、焼成も良好で硬質である。調整は、外面はナデ、内面にはケズリが見られる。33～37は、口縁部に稜を有する。口唇部は丸く仕上げている。38・39は、短く屈曲する口縁で、直線的で張りのない胴部が続く。胴部最大径は、口径とはほぼ同じかやや下回るものと思われる。40～47も同様の甕口縁部である。48は、頸部が「く」字形に屈曲し、やや張りのある胴部を持つ。49～59は、頸部の屈曲が明瞭でなく外に僅かに折り返す、あるいは緩やかに外反させるものである。内面は、胴部のケズリと口縁部のナデの調整の違いで稜が見られるが、外面には明瞭な稜を持たない。60は、厚手の器壁を外に若干折り返したもので、胴部の傾きから鉢形となる可能性もある。61～71（第16図）は、タタキ調整を施す甕形土器である。縦位、斜位の平行タタキ痕が見られるが、個体によってタタキの太さに若干の違いが認められる。

72～106（第16・17図）は、土師質の坏・皿である。いずれも、底部はヘラ切りである。72・73は円盤状の底部を有し、72は外に張り出す。体部～口縁部にかけては直線的に延びる。74は



第10図 本池A区 SB12・13実測図 (S=1/100)



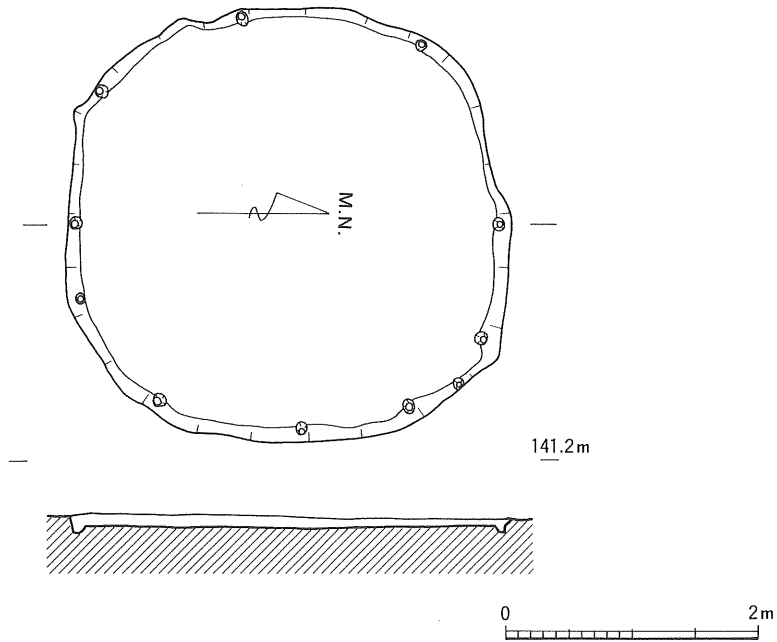
第11図 本池A区 S B14~16実測図 (S=1/100)

第1表 本池遺跡・掘立柱建物一覧表

(単位：cm)

遺構番号	規模(間)	方向	桁		梁		行	棟方位	床面積(m ²)	柱穴状態			時期	備考(出土遺物等)
			実長	柱間	実長	柱間				柱数	Pit.径	Pit.深		
SB-1	2×3	東西	710	230	425	220	220	N76° E	30.7	10	60~70	45~60	20	土師器
SB-2	2×3	東西	683	230	428	213	213	N80° E	29.1	10	60~80	45~55	16	土師器・須恵器・鉄鏃
SB-3	2×3	東西	685	227	350	173	173	N83° E	24.2	12	50~60	30~55	15	総柱・土師器・須恵器 根固軽石
SB-4	2×4	南北	838	165~ 250	404	204	204	N153° E	35.2	12	40~50	15~35	16	平安
SB-5	2×3?	南北	—	240	440	225	225	N169° E	—	10	50~60	35~40	25	土師器
SB-6	2×3	南北	630	215	475	235	235	N169° E	30.4	10	50~60	35~40	22	土師器・根固軽石
SB-7	2×3	南北	640	217	375	190	190	N176° E	25.1	14	50~60	35~45	20	一面庇・土師器・須恵器 根固軽石・32.8m ²
SB-8	2×3	東西	640	213	385	195	195	N91° E	25.8	10	25~30	10~35	—	中世
SB-9	2×3	東西	615	205	390	193	193	N85° E	23.9	17	25~30	15~30	—	中世
SB-10	1×5	東西	1150	220	345	345	345	N90° E	40.3	12	25~30	10~20	—	中世
SB-11	1×5	東西	1150	229	335	335	335	N94° E	39.2	12	25~35	15~25	—	中世
SB-12	1×3	南北	580	195	360	360	360	N4° E	20.5	8	25~30	10~20	—	中世
SB-13	2×4	東西	890	221	390	195	195	N84° E	34.8	12	25~30	15~30	—	中世
SB-14	2×3	南北	600	200	425	210	210	N172° E	25.3	9	30~35	10~15	—	中世
SB-15	1×1	東西	—	147	—	127	—	N72° E	1.9	4	25~30	25~35	—	?
SB-16	1×1	東西	—	304	—	278	—	N64° E	8.4	4	30~35	10~15	—	?

—は不明。桁行、梁行、Pit径、Pit深、柱根径は平均値。備考欄の面積は庇部を含む。

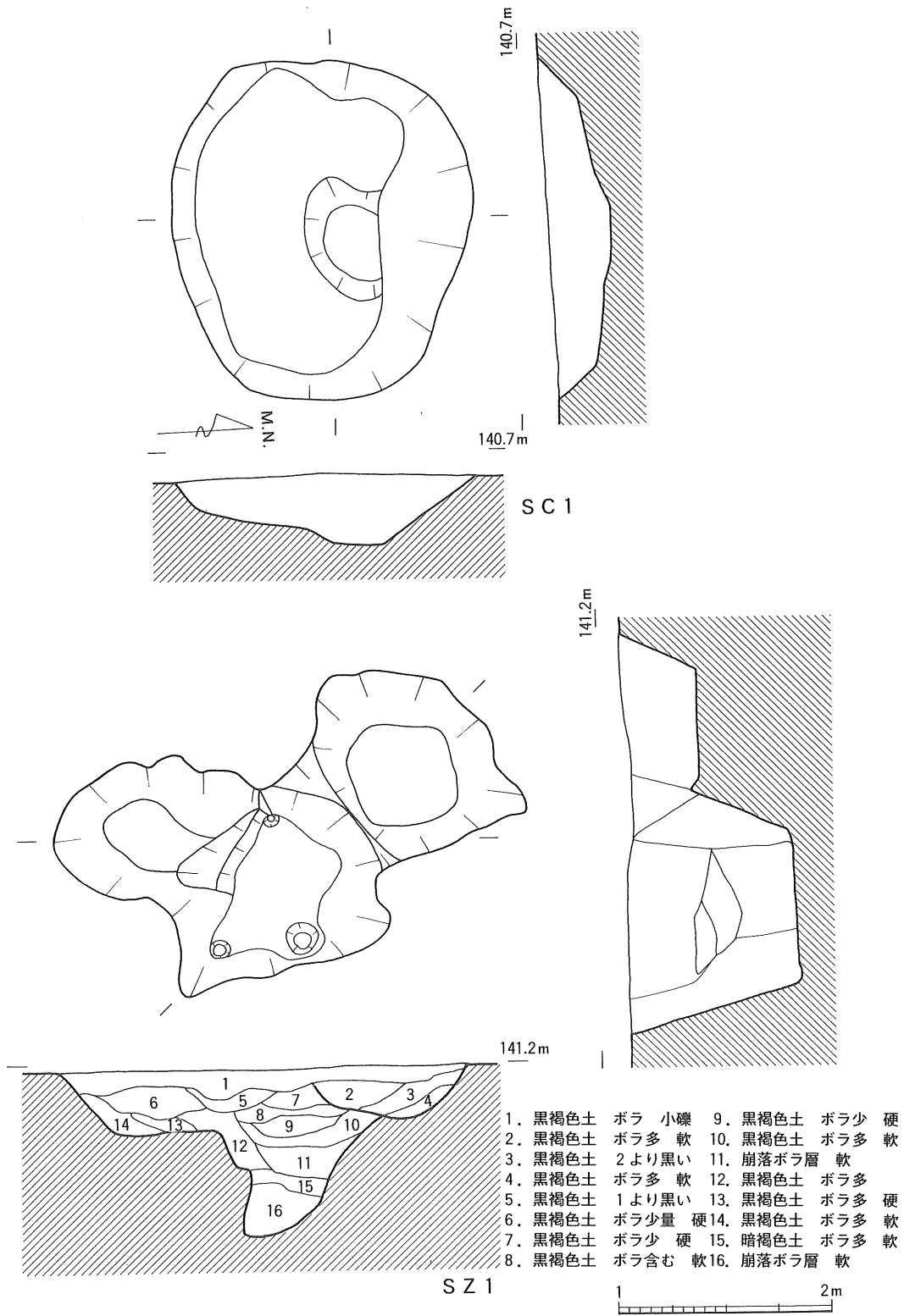


第12図 本池A区 SA1 実測図 (S=1/60)

口径15.4cmとやや大振りなもので、薄手の器壁は直線的に延びるが、底部と体部の付き方はやや丸みを持つものと思われる。75～77は、底部から体部にやや丸みを持って立ち上がる。75は口縁に直線的に延び、76・77はやや内湾気味である。78・79は口径に対し底径が小さく、体部の立ち上がりは緩やかに内湾している。80・81は体部が内湾し丸みを持つ。82はやや湾曲する底部から強く内湾しながら立ち上がり、器高が4.1cmと低い。83・84は口縁部がやや外反する。85は、厚手の器壁に回転ナデの工具痕が顕著である。87は、口径19.8cmと大振りなもので、体部から口縁部は内湾し、やや口縁が肥厚する。88は、口径と底径の差が小さく器高の低い杯と皿の中間的形態となる。強く内湾する。94は皿である。厚手の底部から短く直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く仕上げている。95～106は坏底部である。96は円盤状の粘土を貼りつけている。

107～130 (第17・18図) は、土師質の高台付碗である。107は器高が低く立ち上がりの緩い体部に、あまり開かない高台が付く。108は外に大きく開く足長の高台が付く。110はあまり内湾をみせない直線的な体部に、外に大きく開く高台が付く。113は外に大きく開き高さのない高台内に、線刻の格子文が二重に施される。器面の調整は丁寧なナデで、胎土も他に比べ精良である。114は底部が厚く、高台は大きく開き高さがない。115は底径が大きく、短い高台内は平坦にナデられている。116は長く延びる高台を持ち、底部外面に高台貼り付け時の指頭痕が放射状に見られる。126は体部の立ち上がりが急で、口径の小さな小振りの碗となる。

131～141 (第18図) は、墨書を持つ土師質土器である。131は、坏の底部外面に「奈」の字が見られる。132は、坏底部外面に「廣」の字が見られる。133は、坏底部外面に墨書を持つ。破



第13図 本池A区 SC1・SZ1実測図 (S=1/60)

片のため文字の一部（作りの部分）を欠するが、「𪛗」と思われる。134は、坏底部外面に墨書を持つ。破片のため文字の一部（作りの部分）を欠するが、「くさかんむり」と「女」の文字が見られる。135は、坏底部外面に墨書を持つが、小破片のため釈読は不可能である。136は脚台状の底部外面に墨書を持つ。小破片であるが「了」の字が見られる。137は、坏体部外面に墨書が見られる。釈読は不可能である。138は、坏体部外面に倒位に墨書が見られる。「卅」と釈読される。139は、坏体部外面に正位に墨書が見られる。小破片のため釈読は不可能である。140は、坏体部外面に墨書が見られる。小破片のため釈読は不可能である。141は内黒土器碗で、丁寧にミガキを施した内面に炭素を吸着させている。高台は剥離しているが、高台内に墨書を持つ。記号と思われるが、全体形は不明である。

142～146（第19図）は内黒土器である。内面は丁寧なミガキが行われ炭素を吸着させている。外面はナデ調整である。142～145は碗、146は小型の甕である。

6. 布痕土器（第19図）

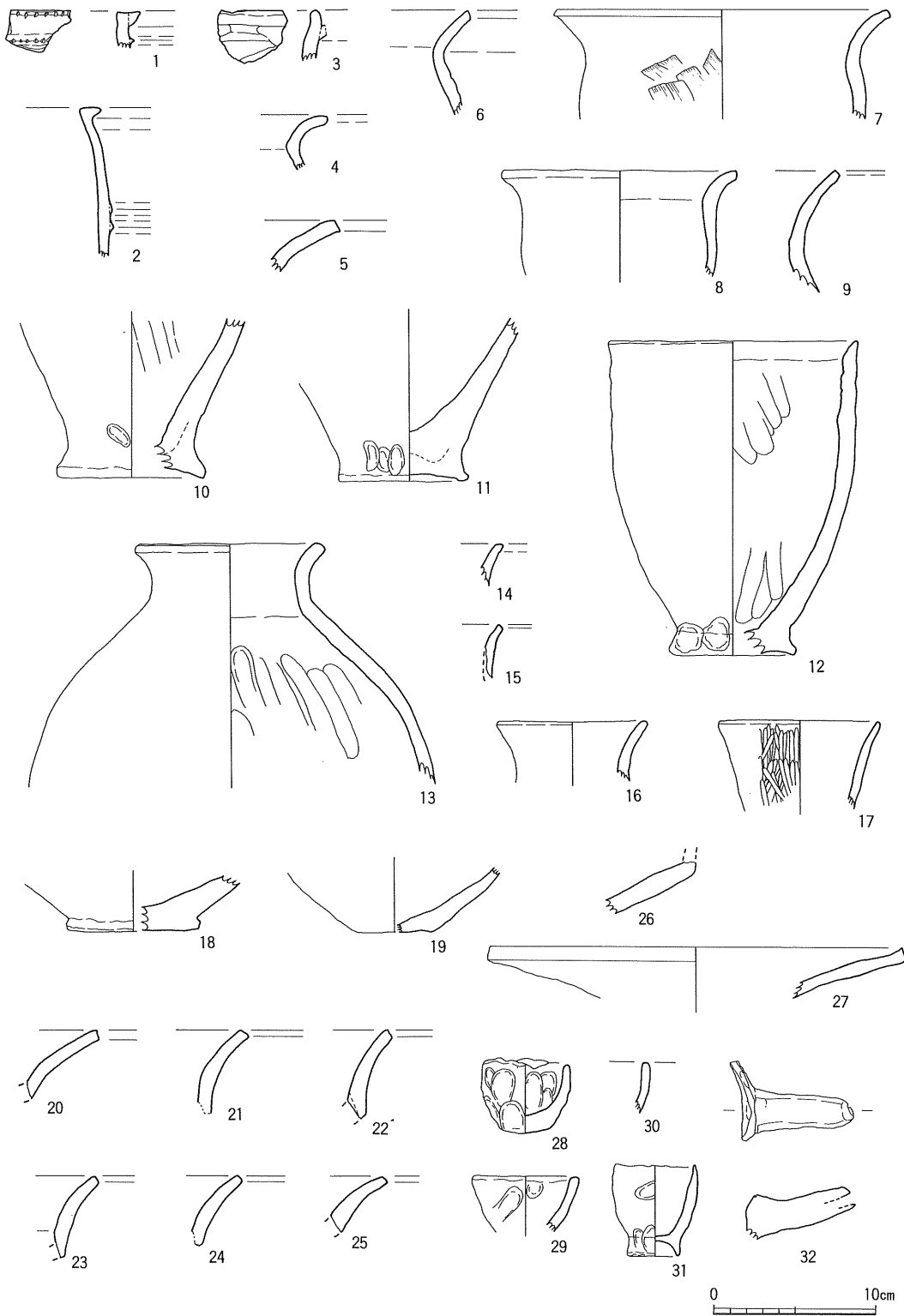
147～158は布痕土器である。製塩や塩の運搬に使用されたと推定される土器で、円錐形の器面は、外面が粗いナデ調整で、内面に布目圧痕が残る。色調は橙色でやや軟質の土器である。

7. 須恵器（第20～23図）

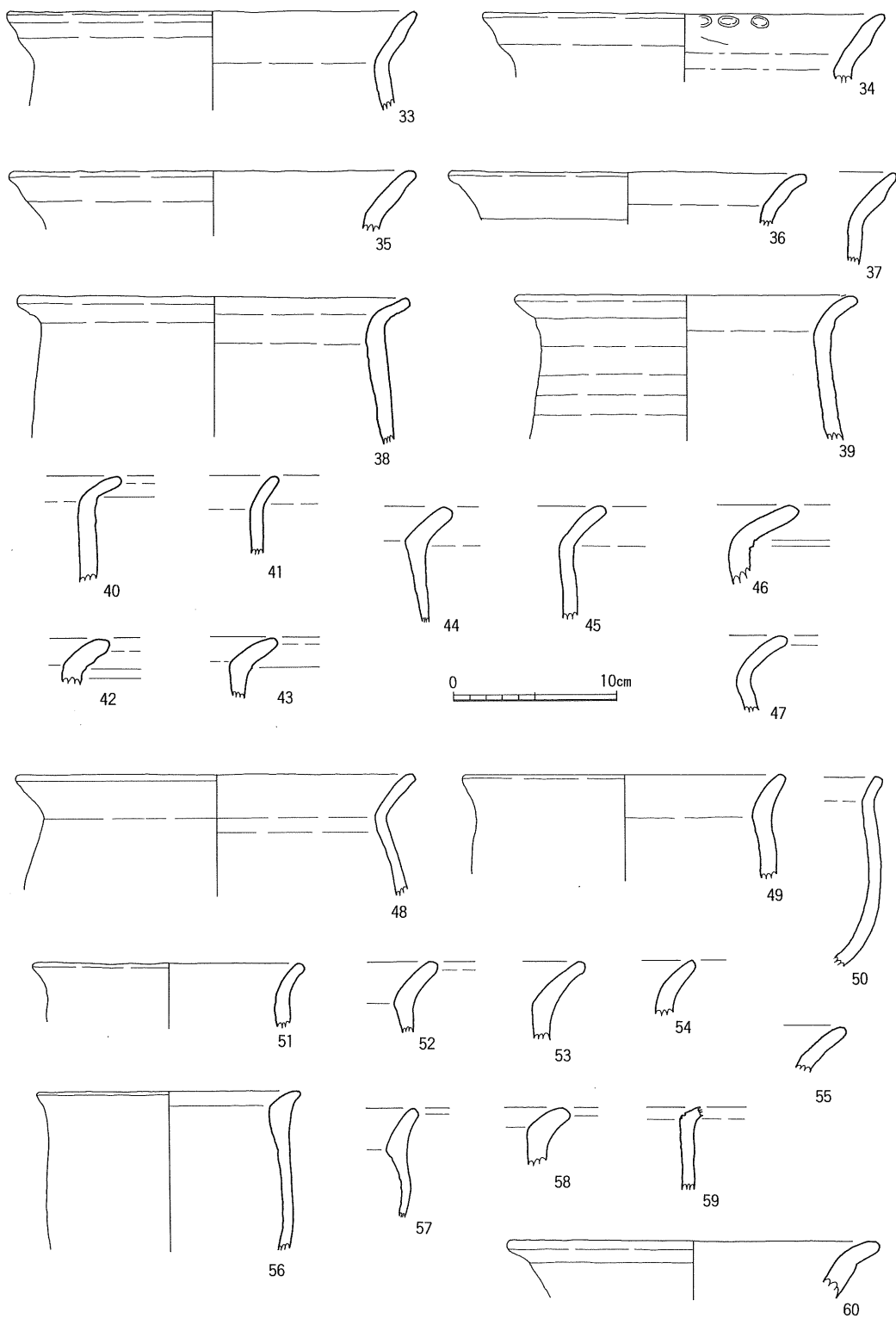
159～166は蓋である。159は蓋のつまみで、偏平で中央が窪む。160～166の蓋は、内面にかえりを持たず、端部を内方へ屈曲させ、坏身の外側に固定させるものである。口径の約2分の1程度の平坦面を有するものの、天井部は全体に丸みを持ち器高は高い。全体の3分の1程度まで回転ケズリが施される。

167～178は坏である。167～172は、口径に対し底径が小さく、底部から体部にかけてやや内湾し、体部から口縁部にかけては直線的に斜めに延びる。高台の有無は不明である。この形態は土師質土器にも共通するもので、須恵器の製作手法が土師質土器に影響を与えたものと思われる。173～178は高台を有する。比較的底径が大きく、高台は斜めに外へ張り出す。畳付を平坦に切るものと先細のものが見られる。

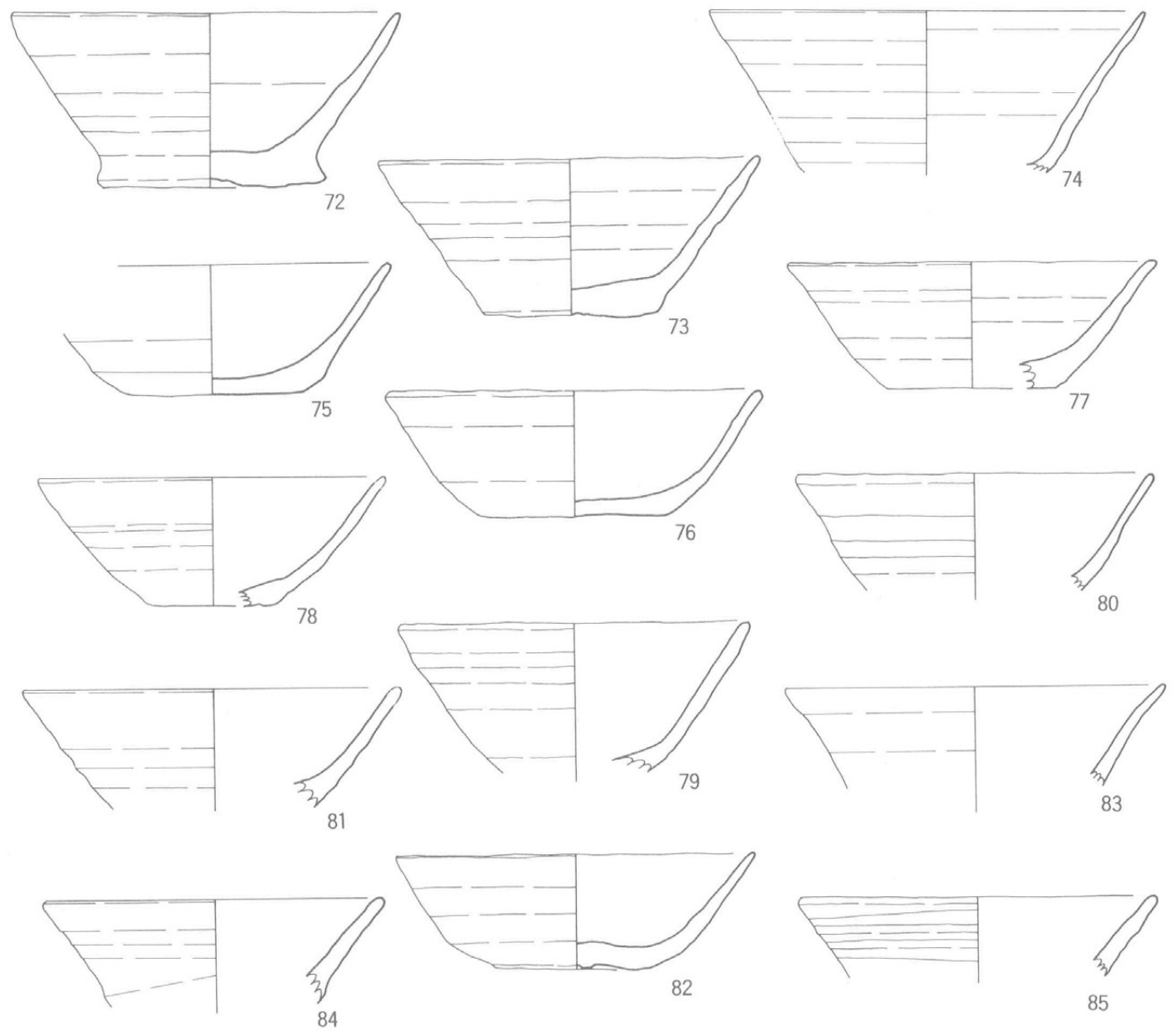
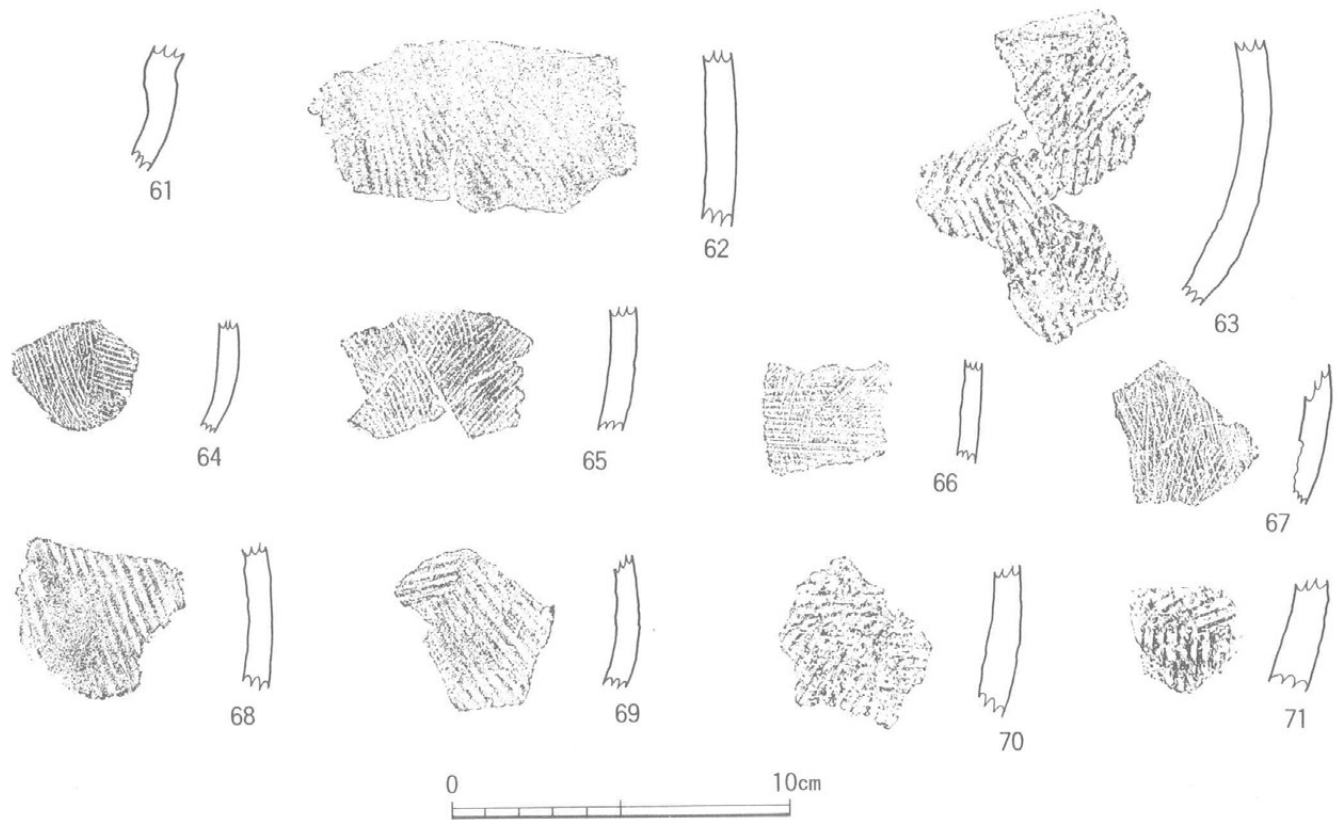
179～199は壺である。179は短頸壺で、外面は格子目タタキ、内面は当て具痕を粗くナデ消している。口縁部は丁寧なヨコナデである。180～186は短頸壺の口縁である。内外面ともにヨコナデ調整である。180は、直線的で外方に屈曲する口縁である。181・182は、内方へ屈曲し受け口となる。183～186は、緩やかに外反する口縁である。187は壺頸部で、頸部と胴部の境に粘土の継ぎ目の段差を残す。188は外面に格子目タタキを残し、内面は当て具痕を粗くナデ消している。189～199は壺の頸部から胴部、底部である。189・190は明確な接合点が無いものの同一個体の可能性が高い。肩部があまり張らずに球形に近いプロポーションとなる。器面調整は回転ナデで、胴部最大径の位置に1条の沈線を持つ。191・192も同一個体の可能性が高い。肩部は強く張る。回転ナデ調整である。193・194は直立に近い錨状突帯を持つ壺の肩部である。比較的薄手の器壁で、丸みを持った胴部になるものと思われる。外面に格子目のタタキが見られ、内面は当て具痕を粗くナデ消している。突帯はタタキ成形の後に張り付けられ上下をヨコナデしている。195・196はタタキ痕が見られず、回転ナデによる器面調整の小型の壺である。197は



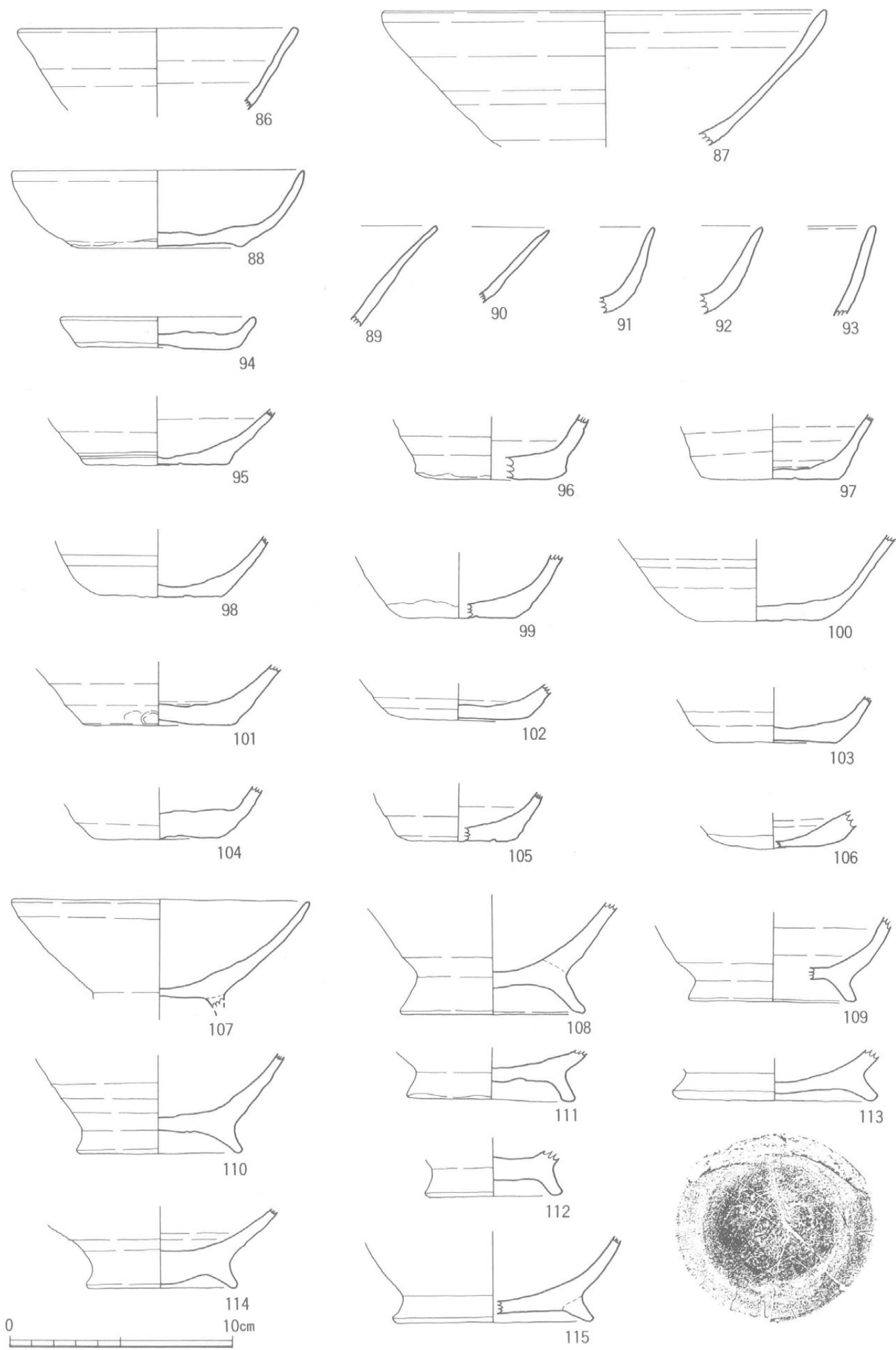
第14图 本池A区出土遺物実測図(1) (弥生 1/4)



第15图 本池A区出土遺物実測図(2)(平安1/4)



第16図 本池A区出土遺物実測図(3) (平安 61~71→1/3, 72~85→1/3)



第17图 本池A区出土遺物実測図(4)(平安 1/3)

やや大振りで、格子目タタキが見られる。

200～210は、大甕である。200・201は、外面に平行タタキ、内面に円弧の当て具痕が見られる。202は、外面に格子目タタキ、内面に平行・円弧の当て具痕が見られる。200～202の破片の多くはS B 2のピット内（西側梁中央）から出土している。その出土状況を見ると、柱痕と思われる比較的軟質の黒褐色土の下部に集中しており、破片を柱の根固めに使用したものと思われる。203～205は口縁部で、頸部から緩やかに外反した後に内方へ屈曲し受け口となる。206は、「く」字形に屈曲する頸部から斜めに直線的に延びる口縁部で、中位に段を有する。胴部には平行タタキと円弧の当て具痕が見られる。207は緩やかに外反する口縁部で、端部はほぼ水平に屈曲した後上方へ折り返される。口唇部は丸く仕上げる。208・210は、外面に格子目タタキ、内面に円弧の当て具痕を持つ。209は、外面平行タタキである。

8. 陶磁器（第24図）

211～219は、中国越州窯産の青磁である。細かな貫入の見られる灰オリーブの釉が施される。211～213・217・218は碗で、やや内湾気味の口縁部と、蛇の目高台の底部である。214～216・219は皿で、やや外反する口縁部と若干上げ底気味の底部が見られる。220は、ヘラ描蓮弁文を有する青磁碗である。221～226は中国産の白磁で、やや内湾気味の玉縁口縁と蛇の目高台の底部が見られる。227は肥前系白磁の瓶で、19世紀後半に位置付けられる。228は陶器の壺である。光沢の無い赤褐色の釉が施される。

9. 鉄器（第24図）

229はS B 2のピット（西側梁中央）から出土した雁又形の鉄鏝である。鏝身は偏平で、篋被、茎部ともに断面長方形である。230は、約9cmと大型の鉄製釣針である。断面形は正方形で、基部に近づくにつれて若干の歪みが見られる。基部端は偏平で鋭角的に折り曲げられる。先端部はやや丸みを帯びるが、直角に折り曲げられ逆刺は持たない。

10. 土 錘（第25図）

包含層中から26個の土錘が出土した。図示し得るものは25個体である。ほぼ全体形を残す21個体の平均重量は20.5g、平均長5.3cm、平均幅2.3cmである。

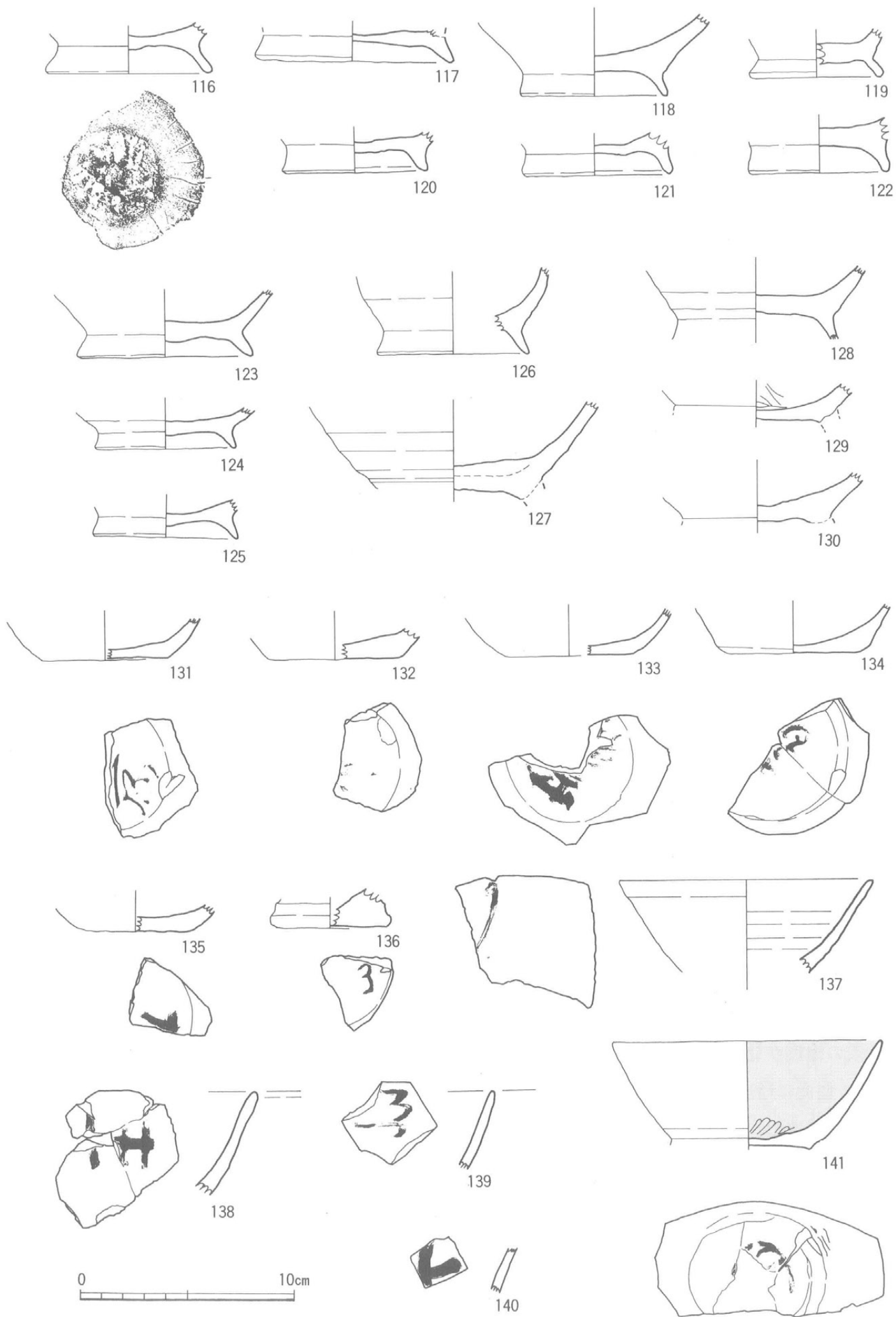
11. 石 器（第26図）

256～258は砂岩製の砥石である。256は3面に研磨痕が認められるが、特に凸面となる部分には2条の擦痕が見られる。断面はV字に近く、かなり硬質のものを研磨したものと思われる。257は4側面に研磨痕が認められた。258は2面に研磨痕が認められた。砂岩であるが比較的細かな粒子構造で、研磨面は光沢を持つ。259・260は軽石製品である。用途は不明であるが、4側面は滑らかに面取り（研磨）されている。

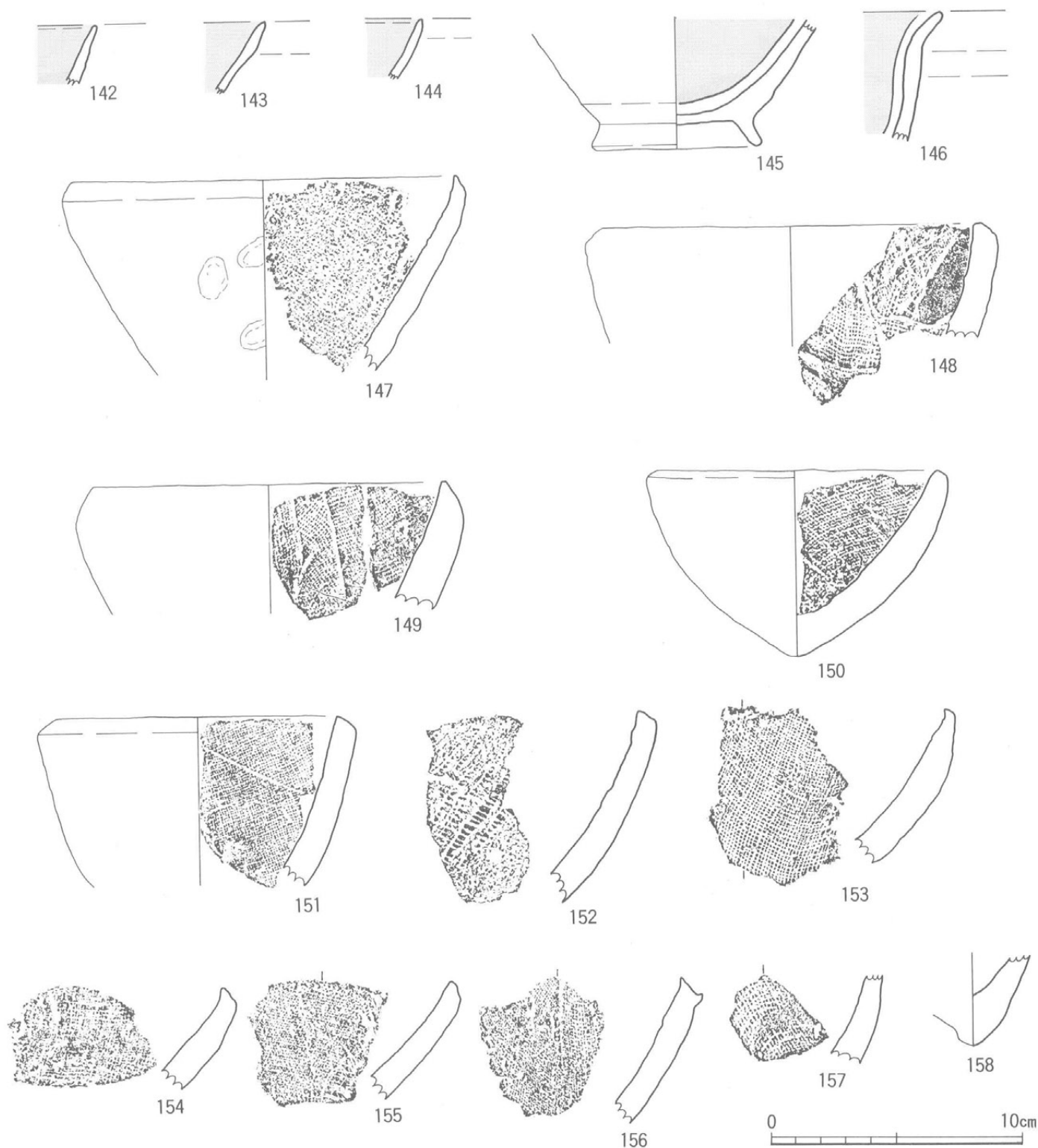
第5節 本池B区の遺構と遺物

1. 竪穴状遺構

S A 1（第27図）は、周溝を伴う方形竪穴である。長軸380cm、短軸350cmの隅丸方形プランで、検出面からの深さは65cmを計る。南壁にステップ状の掘り残しが見られる。床面は御池ボ



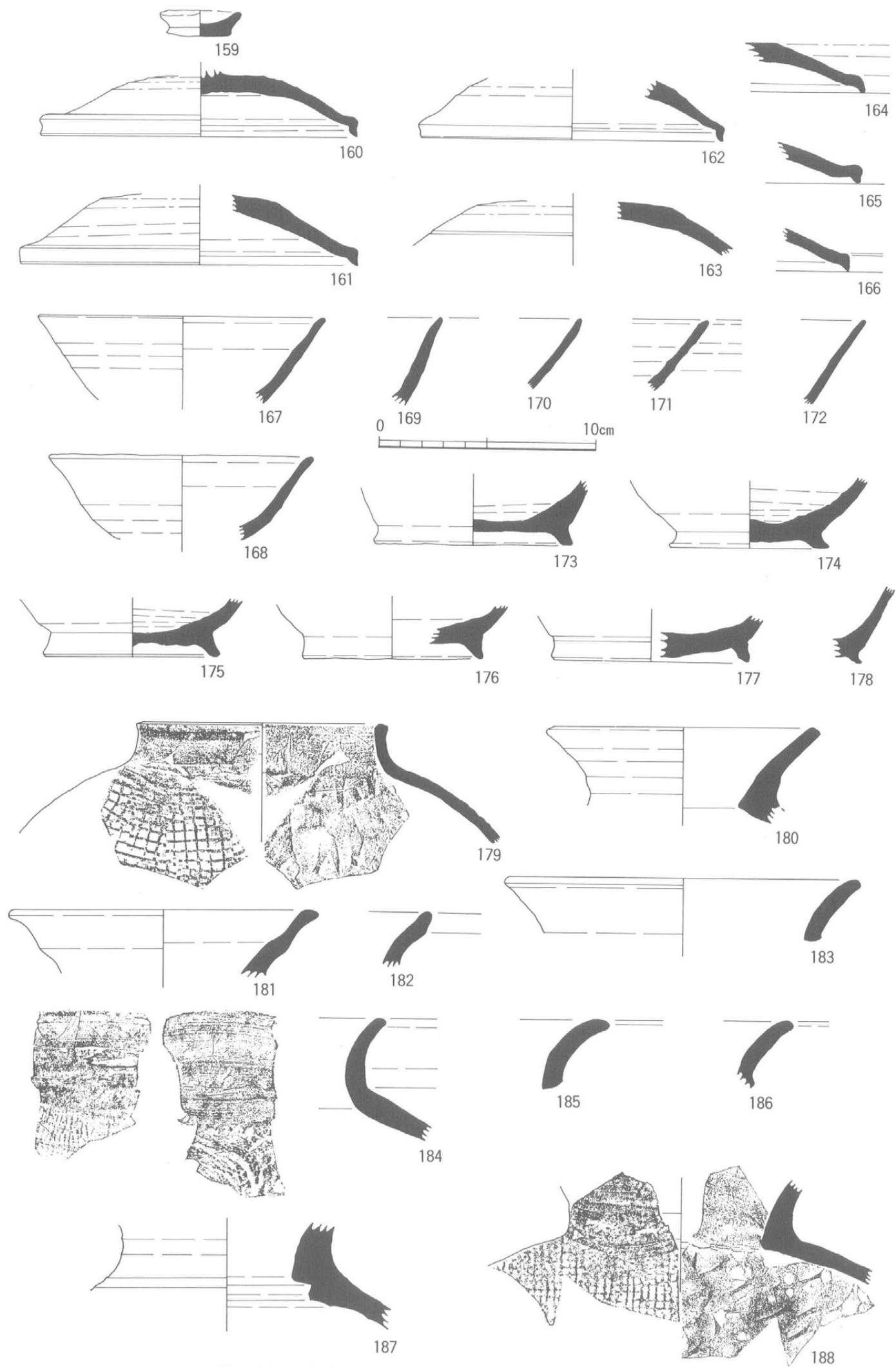
第18図 本池A区出土遺物実測図(5)(平安 1/3)



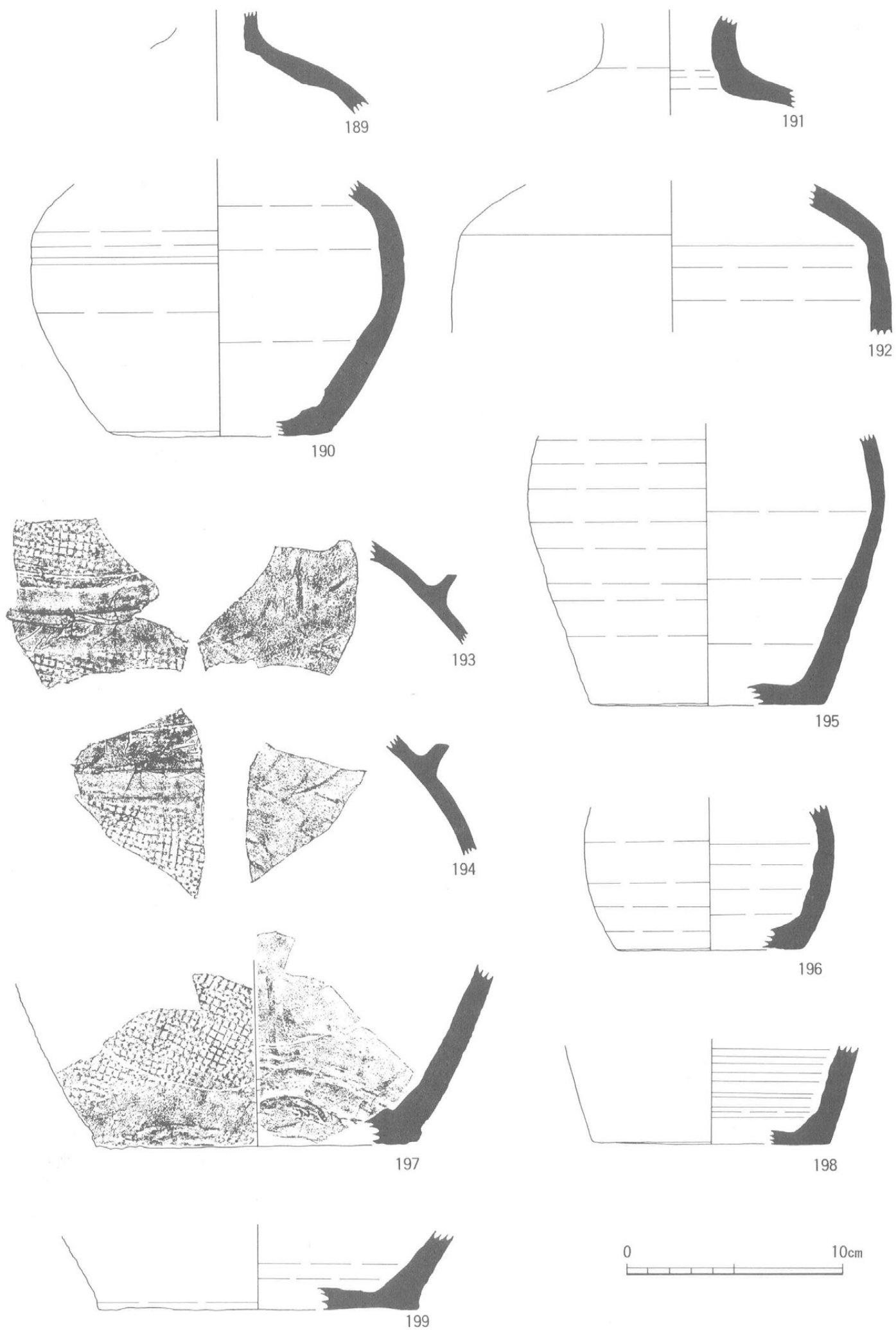
第19図 本池A区出土遺物実測図(6)(平安1/3)

ラ層であるが、踏み固められ硬化した部分も見られた。床上には若干の炭化材が検出された。竪穴部の周囲には、約2mの間隔を置き最大幅60cm、最大深25cmの周溝が巡る。竪穴部の埋土は御池ボラを含む黒褐色土で、一括での埋め戻しの可能性が高い。遺物は、弥生土器片、チャート製打製石鏃(第33図-281、第36図-319)が見られたが、いずれも床面からかなり浮いた状態で出土しており、埋め戻しの際に流れ込んだものと思われる。遺構の時期、性格は不明である。

SA2(第28図)は、長軸340cm、短軸300cmの隅丸長方形プランで、検出面からの深さは75cmを計る。床面は御池ボラ層で、若干の硬化が認められた。また、床上より炭化材が検出され



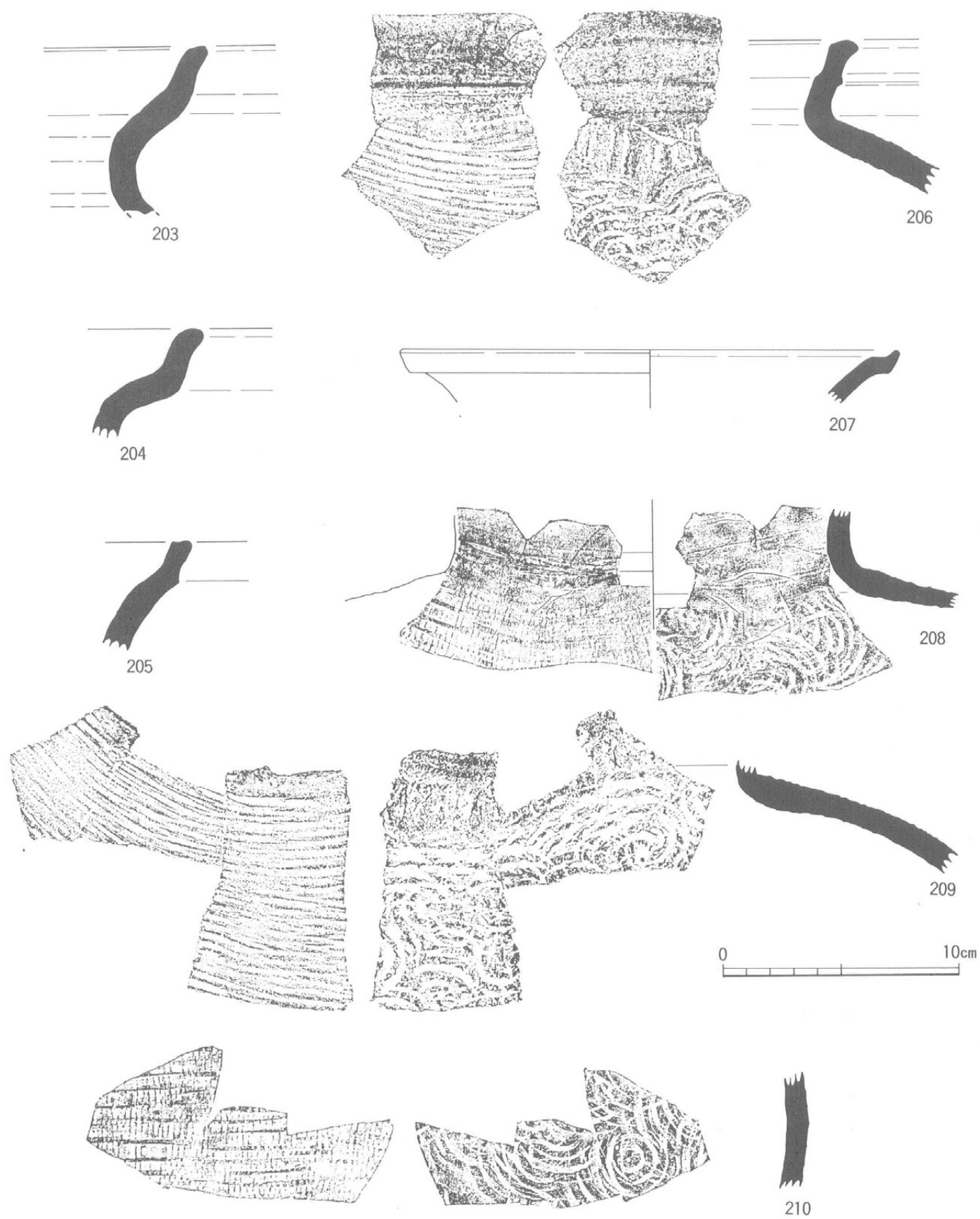
第20図 本池A区出土遺物実測図(7)(須恵器 1/3)



第21図 本池A区出土遺物実測図(8)(須恵器 1/3)



第22図 本池A区出土遺物実測図(9)(須恵器 1/4)



第23図 本池A区出土遺物実測図(10) (須恵器 1/3)

ている。埋土は3層に分けることができるが、人為的な埋め戻しの可能性が高い。遺物は、縄文土器や弥生土器の小片が埋土中に少量見られたが、埋め戻しの際に流れ込んだものと思われ、遺構の詳細な時期、性格については判断の材料を持ち合わせない。

2. 土 坑

SC1 (第28図) は、長軸140cm、短軸90cmの不整楕円形プランである。検出面からの深さは50cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の単一埋土である。完形の壺(第33図、282)が、床面から浮いた状態で出土している。やや胴長の壺で、平底である。屈曲し短く外反する口縁で、端部がやや肥厚する。外器面にはハケ目とミガキの調整が見られる。弥生時代中期後葉に比定されよう。

SC2 (第29図) は、攪乱のため北壁側が乱れているが、本来的には長軸150cm、短軸60cmの長方形プランである。検出面からの深さは40cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の単一埋土である。検出面近くで弥生土器の小片が出土したが、他の遺物は見られず、遺構の時期の詳細は不明である。

SC3 (第29図) は、長軸156cm、短軸52cmの長方形プランである。検出面からの深さは30cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の単一埋土である。遺物の出土はなく時期は不明である。

SC4 (第29図) は、長軸210cm、短軸126cmの楕円形プランである。検出面からの深さは20cmを計り、御池ボラを含む黒褐色土の単一埋土である。床面に見られた落ち込みは、木根による攪乱で、遺構本来のものではない。床面から弥生土器片(第33図-283)が出土している。甕の胴部で、詳細な時期は不明である。

SC5 (第30図) は、長方形プランであろうと思われるが、木根による攪乱のため全体形をつかみ得ない。推定で、長軸140cm、短軸40cmと思われ、検出面からの深さは40cmである。遺物は出土せず、時期は不明である。

SC6・SC7 (第30図) は、ともに不整楕円形プランである。遺物の出土はなく時期は不明である。

SC8 (第31図) は、長方形プランと楕円形プランの組み合わせの二段掘りとなる。長軸172cm、短軸68cm、検出面からの深さは最深部で40cmである。遺物は出土していない。

SC9 (第31図) は、長軸144cm、短軸120cmの楕円形プランで、床面に90cm×70cmの長方形の落ち込みを持つ二段掘りの土坑である。検出面からの深さは最深部で70cmである。遺物は出土していない。

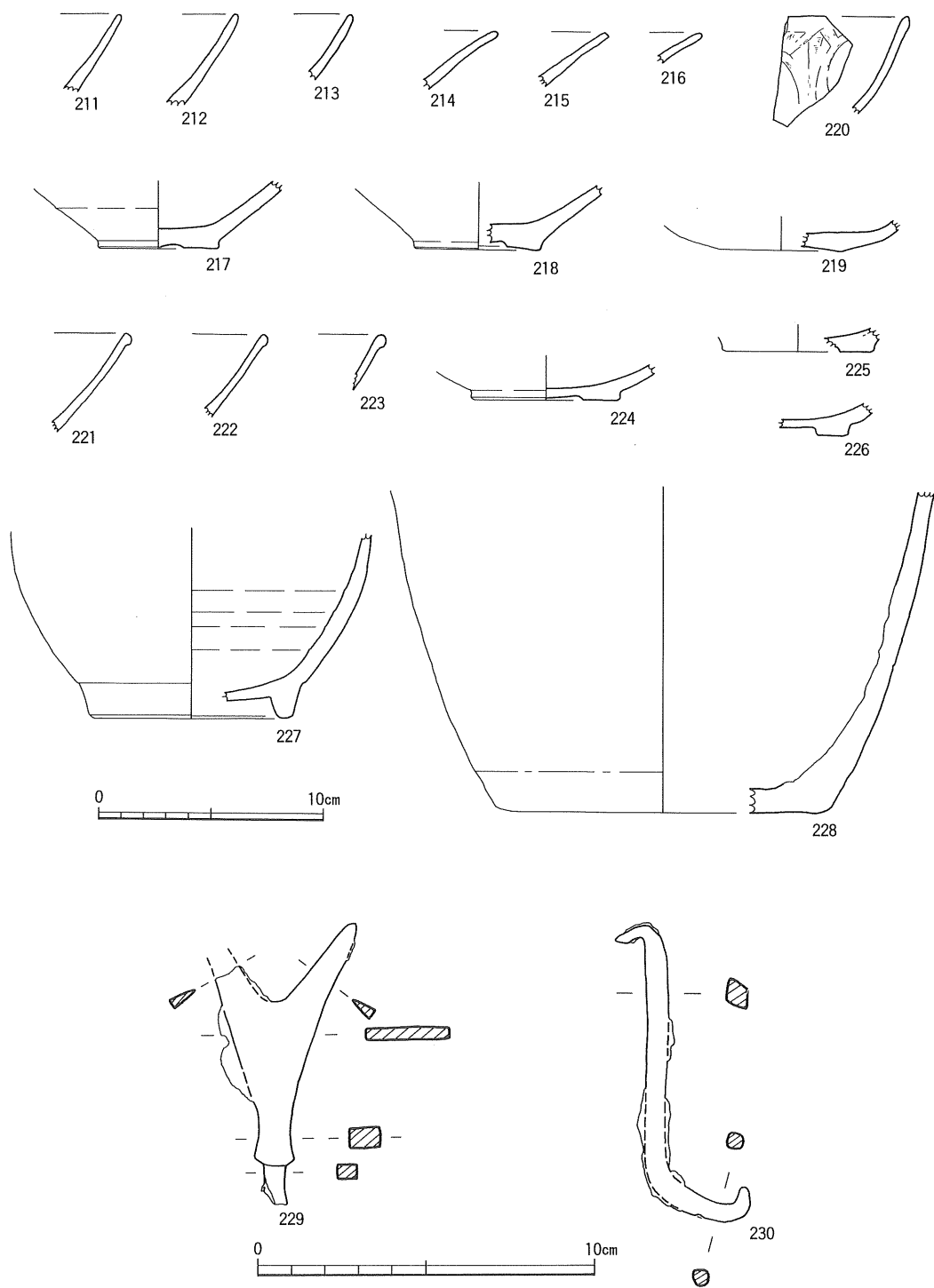
3. 縄文土器 (第32図)

調査区中央から西寄りの位置に、遺構に伴わない形で数十点が出土している。

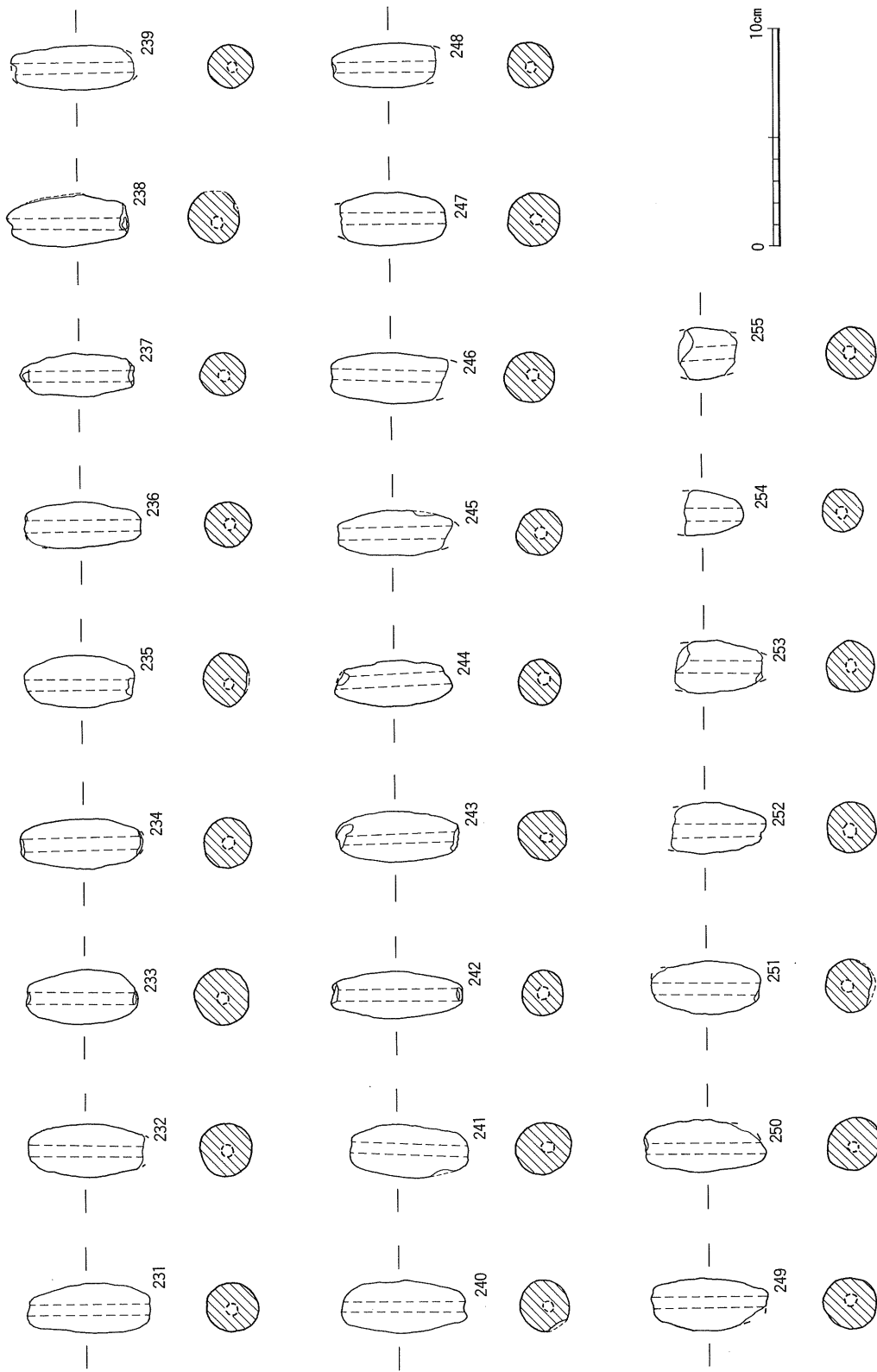
261~263は「松山式土器」である。肥厚させた口唇部に2本の沈線と刺突文の組み合わせがみられる。器面調整は貝殻条痕で、261は波状口縁、262・263は平口縁である。

264~271は「指宿式土器」である。短く外傾する口縁部は肥厚せず、器面調整は貝殻条痕で、沈線と刺突文の組み合わせがみられる。

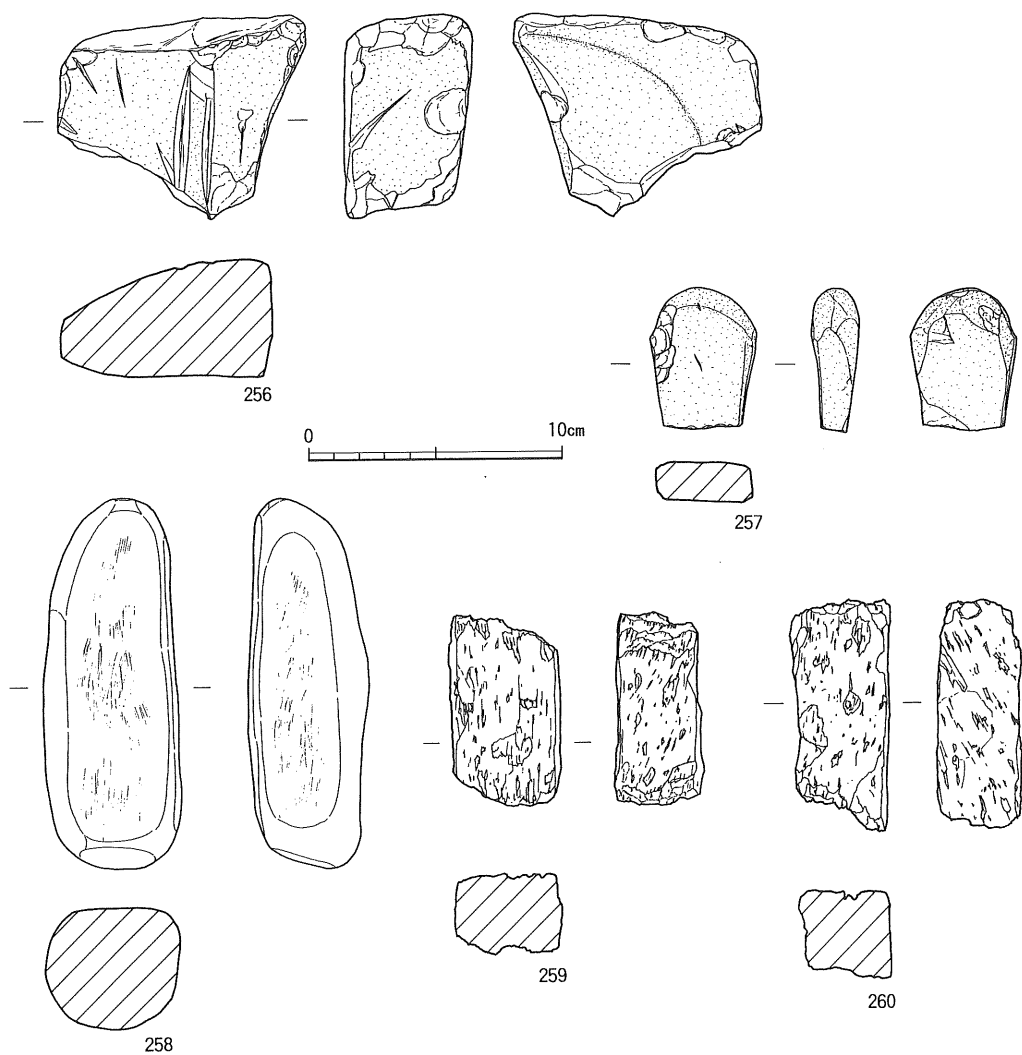
272~274は「市来式土器」である。272は、やや肥厚させた口唇部に貝殻による刺突文と浅沈



第24图 本池A区出土遺物実測図 (1) (陶磁器 1/3、鉄器 1/2)



第25图 本池A区出土遺物素描图 (12) (土鍾 1/3)



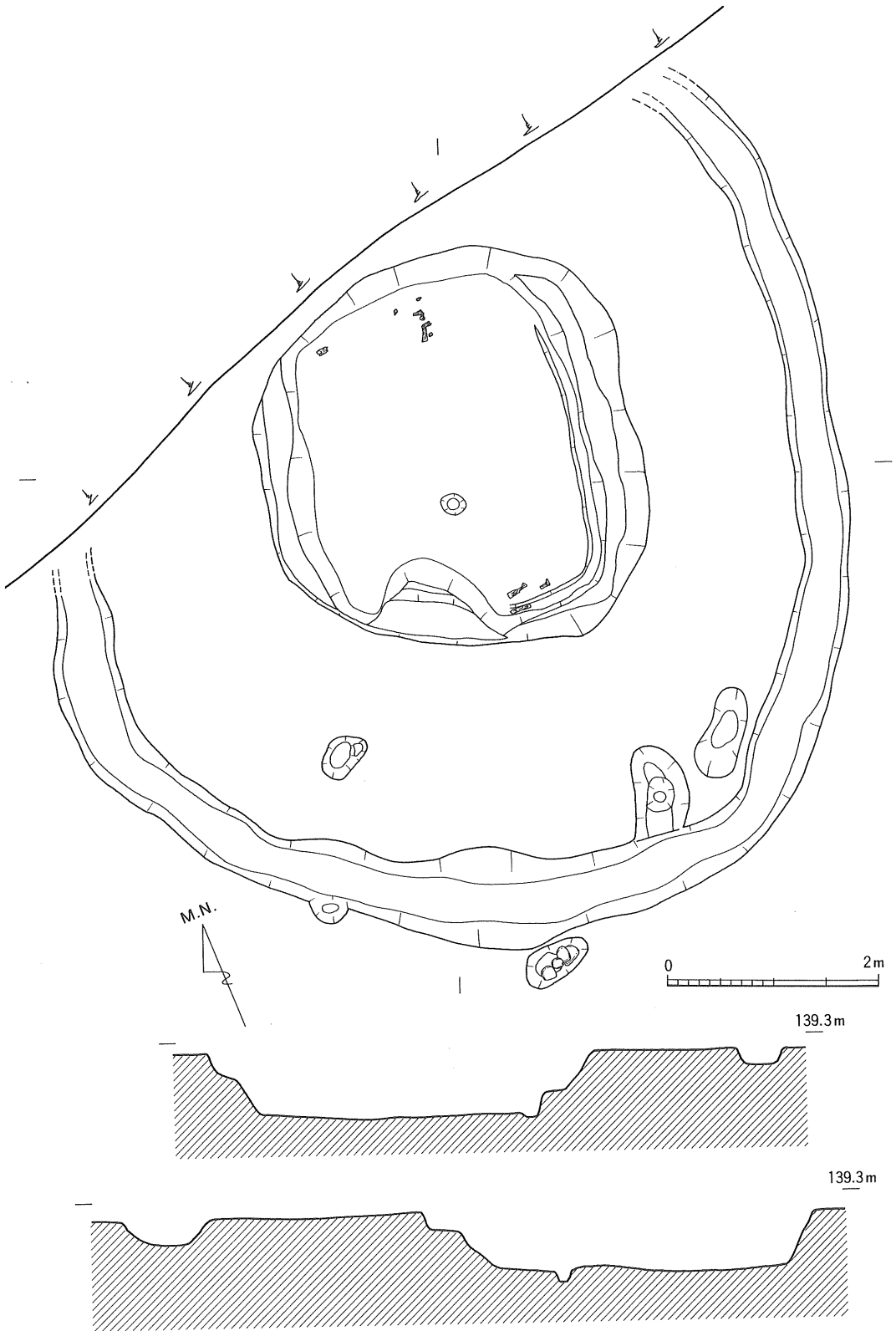
第26図 本池A区出土遺物実測図 (13) (石器 1/3)

線が見られる。器面調整は貝殻条痕である。273・274は、大きく肥厚させた口唇部に貝殻による刺突文と沈線、棒状工具による刺突文が見られる。

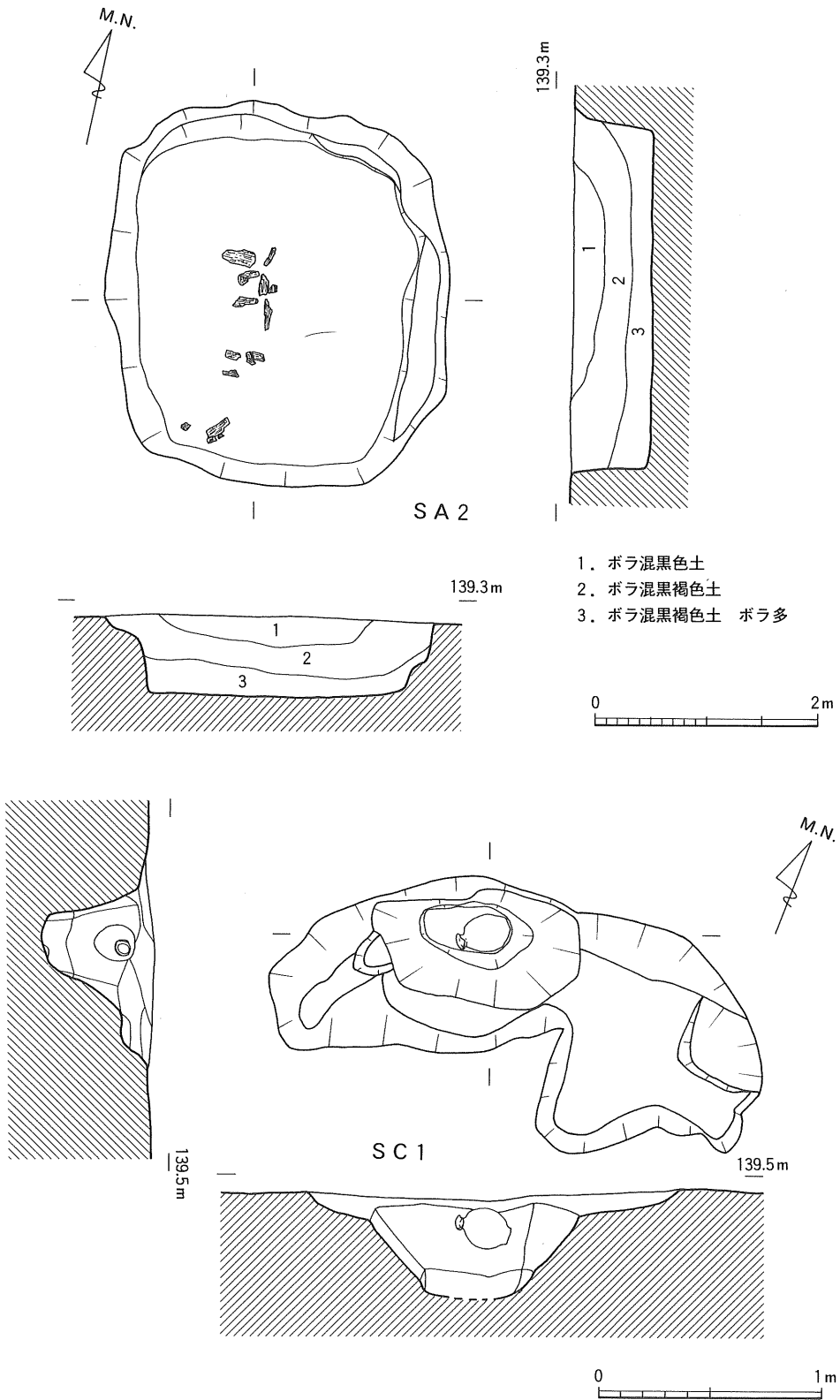
275は、口縁部下に断面三角形の突帯を持つ。突帯上部に2条の沈線を持ち、器面調整はナデである。276は直口縁で、貝殻条痕を粗く擦り消している。277は強く外反する口縁で、内面に1条の沈線を持つ。278は、器壁の厚みが一様でなく、器面調整も非常に粗いナデである。279はやや内湾気味の口縁で、貝殻条痕の上からヨコナデしている。280は、貝殻条痕の上からミガキを施す。

4. 弥生土器 (第33～35図)

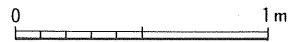
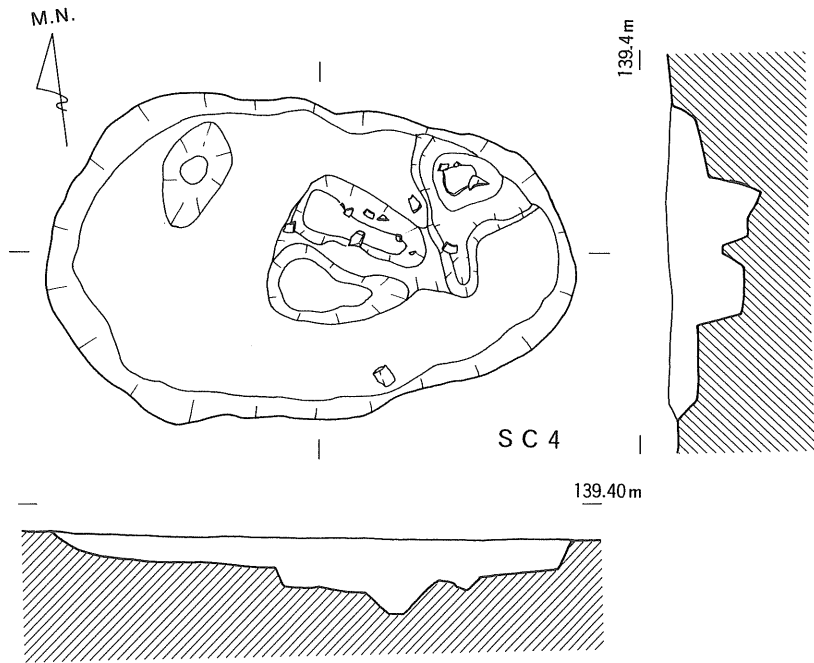
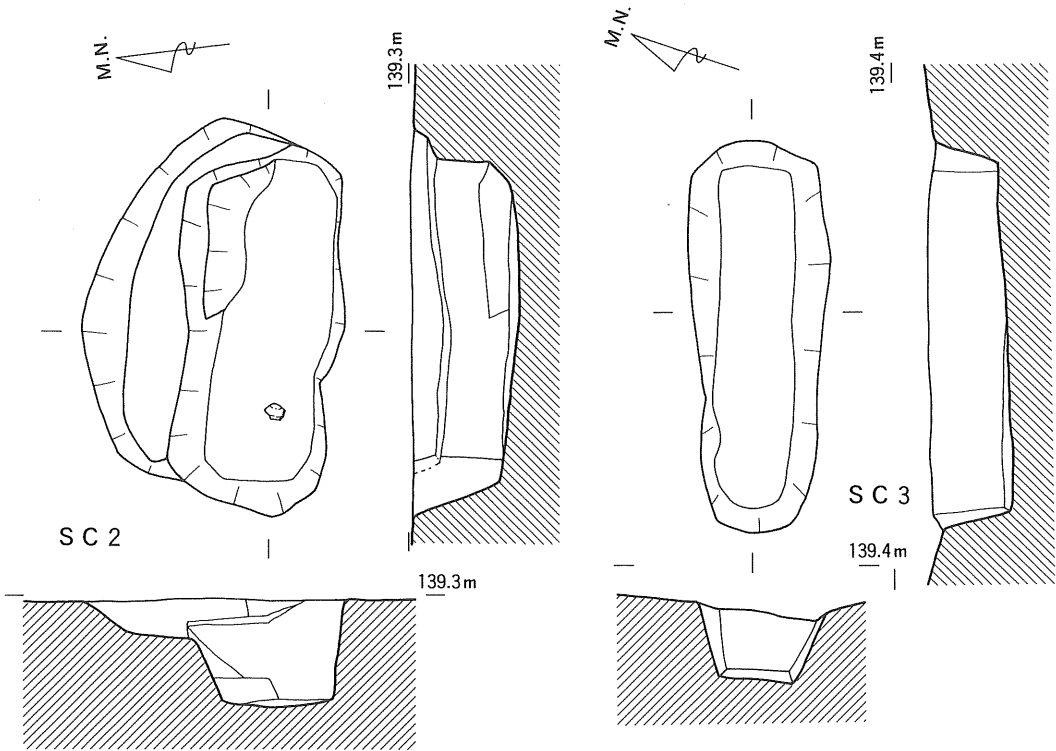
281は、SA1埋土から出土した。小型の壺形土器の口縁部である。内外面ともに丁寧なナデ調整である。284・285は須玖式の甕である。丹塗された器面は風化気味であるが、調整は丁寧なナデである。286～289は短く屈曲した口縁部を持ち、あまり張らない胴上部に1条の刻み目



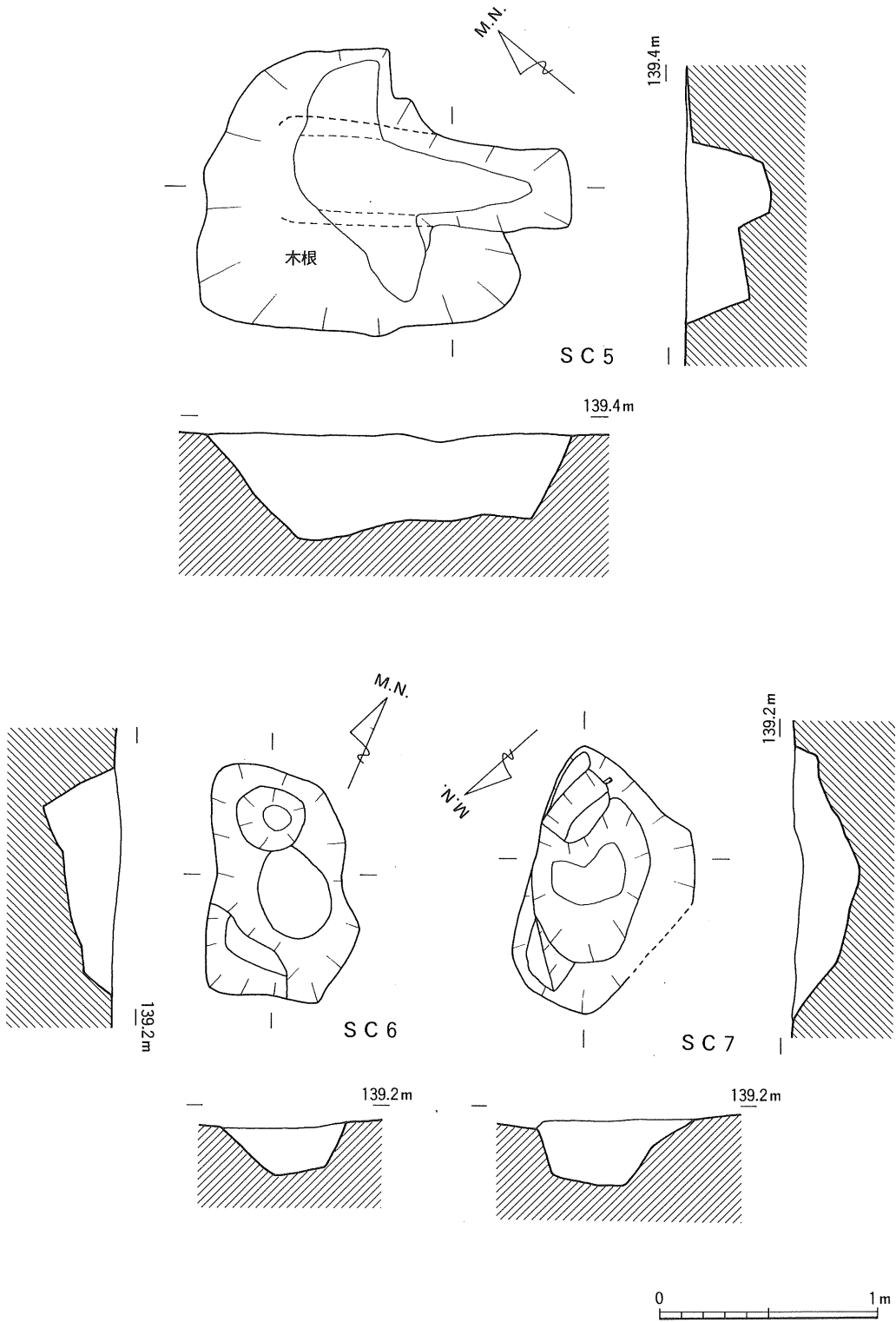
第27図 本池B区 SA1 実測図 (S=1/60)



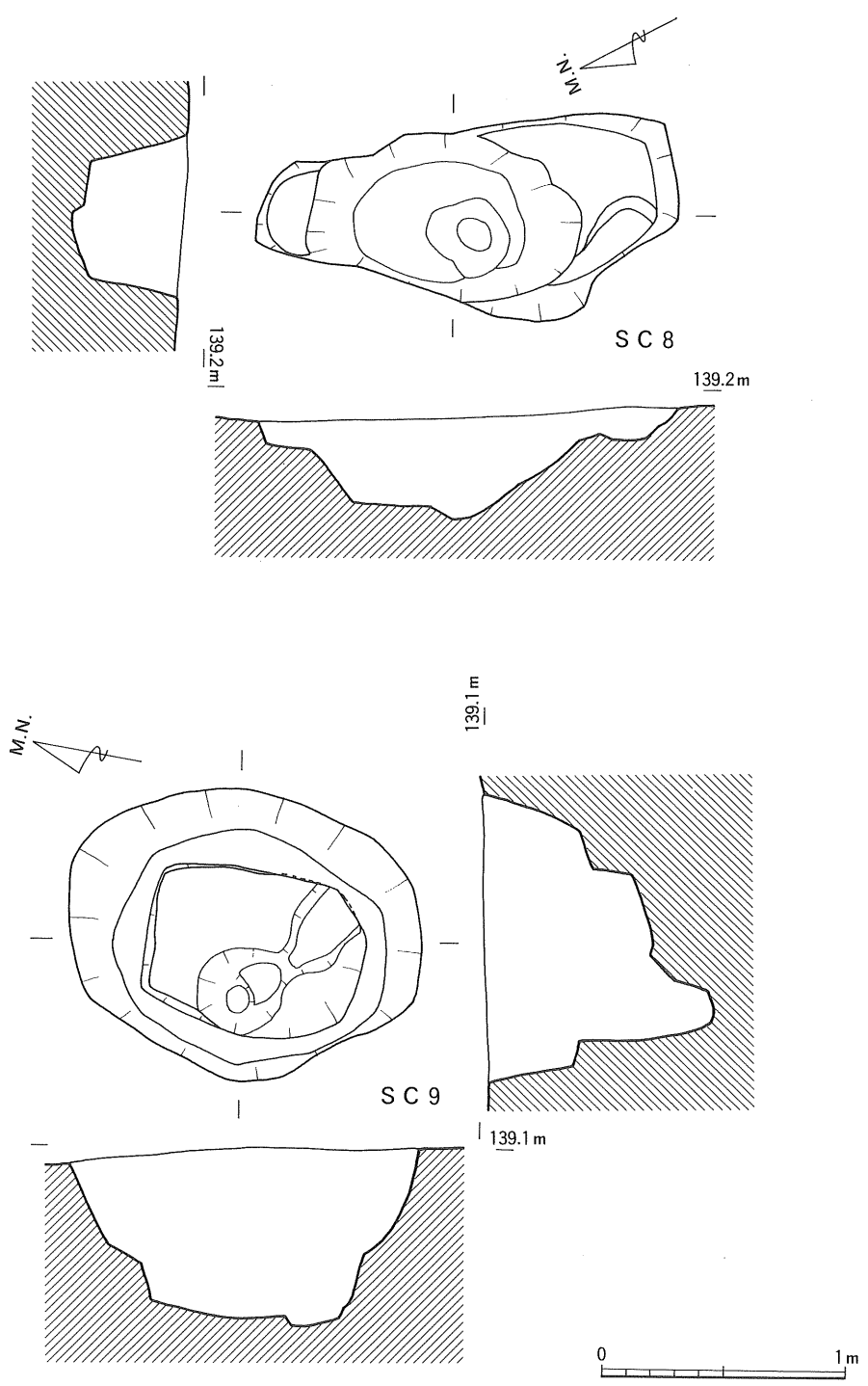
第28図 本池B区 SA 2 実測図 (S=1/60), SC 1 実測図 (S=1/30)



第29図 本池B区 SC 2~4 実測図 (S=1/30)



第30図 本池B区 SC 5~7 実測図 (S=1/30)



第31図 本池B区 SC 8・9実測図 (S=1/30)

突帯が付く。289は突帯が剥離している。290は鋤先条口縁の甕である。口縁部上面はナデ、胴部はハケ目が見られる。291～299は甕の口縁部である。短く屈曲した口縁部は、ほぼ水平になるもの、やや斜め上方に向くもの、屈曲の角度が浅く比較的長く延びるものなどが見られる。300は脚台状の底部を持つ甕である。底部は内部が剥離しているため、脚台が充実していたかは不明である。301は外方に大きく開く脚を持つ。器面はハケ目調整である。302～308は粗製の甕である。器壁は厚く、短く外傾する口縁とやや肩の張る胴部を持つ。肩部には4、5条の貼り付け突帯と、その最下条に付く波状の粘土紐が見られる。他の土器類と趣を異にするが、都城市やえびの市等県南内陸部に特徴的な土器である。309・310は、やや胴長の壺である。「く」字形に屈曲し、短く外傾する口縁を持つ。器面調整は、ハケ目の後に部分的にミガキが見られる。同一個体の可能性が高いが、明確な接点が見られず接合し得なかった。311・312も同一個体の可能性が高いが、明確な接点が見られず接合し得なかった。大きく外反する口縁部に球形の胴部を持つものと思われる。器面は丁寧にミガキが施される。313は壺の口縁部である。外反する口縁端部は丸く仕上げられる。314は壺の胴部で、断面三角形の2条の突帯が見られる。315・316は壺の底部である。315はハケ目、316はミガキが顕著である。

5. 陶磁器 (第35図)

317・318は、端反りの白磁碗である。灰白色の釉薬が薄く施される。

6. 石器 (第36図)

319はS A 1から出土した打製石鏃である。チャート製で、若干基部を抉っている。320～322は磨製石鏃である。頁岩製で、全体に研磨痕が顕著に見られる。基部を若干窪ませている。323は磨製石鏃の未製品である。基部付近に若干の研磨痕が見られる。頁岩製。324は磨製の小型石斧である。刃部は両側から研ぎだしている。全面に研磨痕が明瞭に残る。頁岩製。325は打製の小型石斧である。主要剥離面を残す。周囲を細かく打ち欠き成形している。頁岩製。326は砂岩製の石皿である。

第6節 まとめ

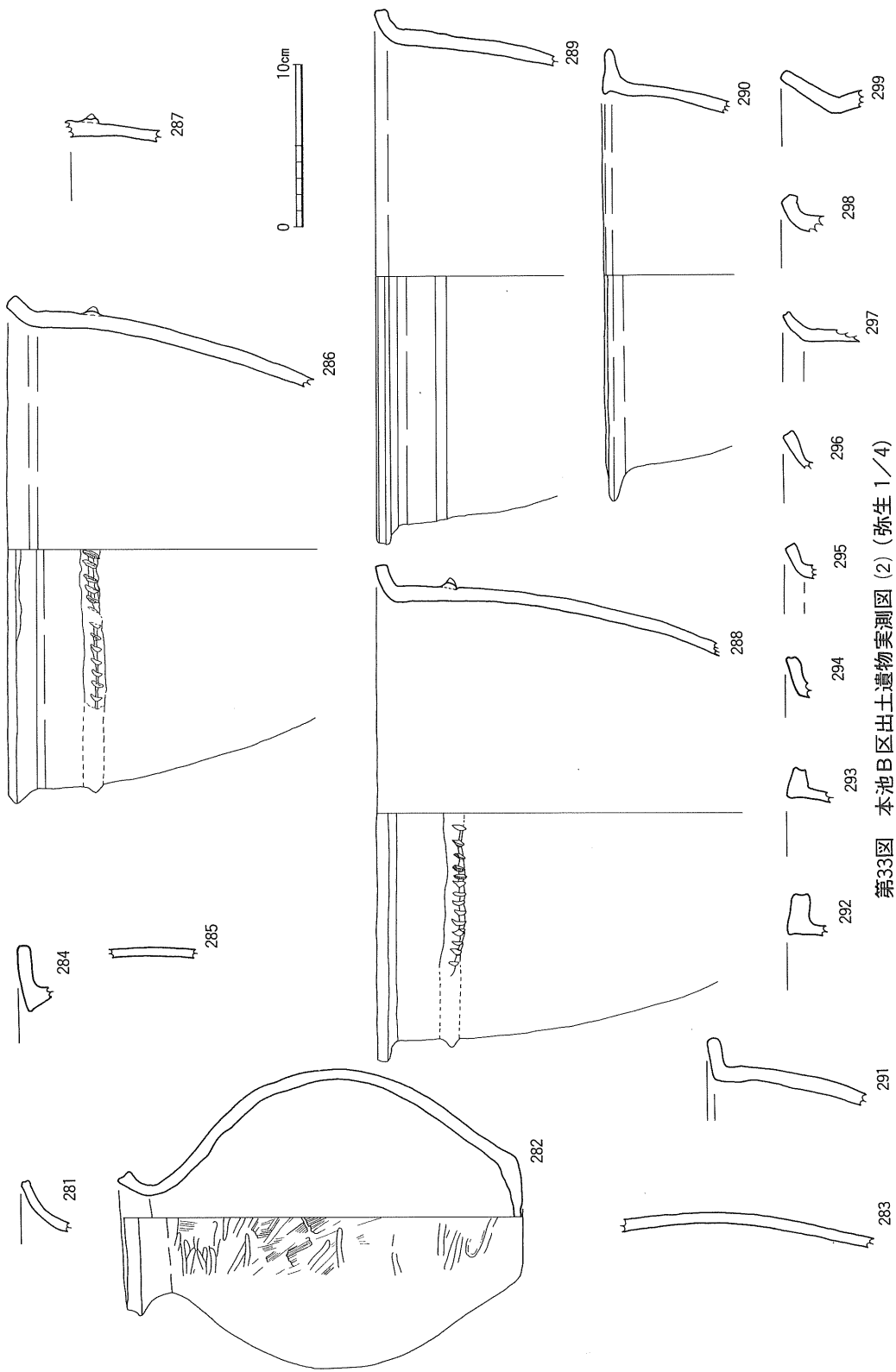
本池遺跡では、前節までに述べてきたように、A区で堀建柱建物16棟、堅穴状遺構1基、溝状遺構1条、土坑数基が検出され、弥生土器、土師質土器、布痕土器、須恵器、陶磁器、鉄鏃、鉄製釣針、石器が出土した。土師質土器には墨書土器が10数点含まれる。B区では、堅穴状遺構2基、土坑9基が検出され、縄文土器、弥生土器、陶磁器、石器が出土した。遺物の多くは遺構外からの出土であり、明確な共伴関係の把握や遺構の時期決定には不十分なものである。しかしながら、当地域の歴史を振り返る上で貴重な資料であることには間違いはない。ここではこれらの遺構・遺物に関して、各時代毎に若干の私見を交えながら解釈を加えまとめにかえたい。

・縄文時代について

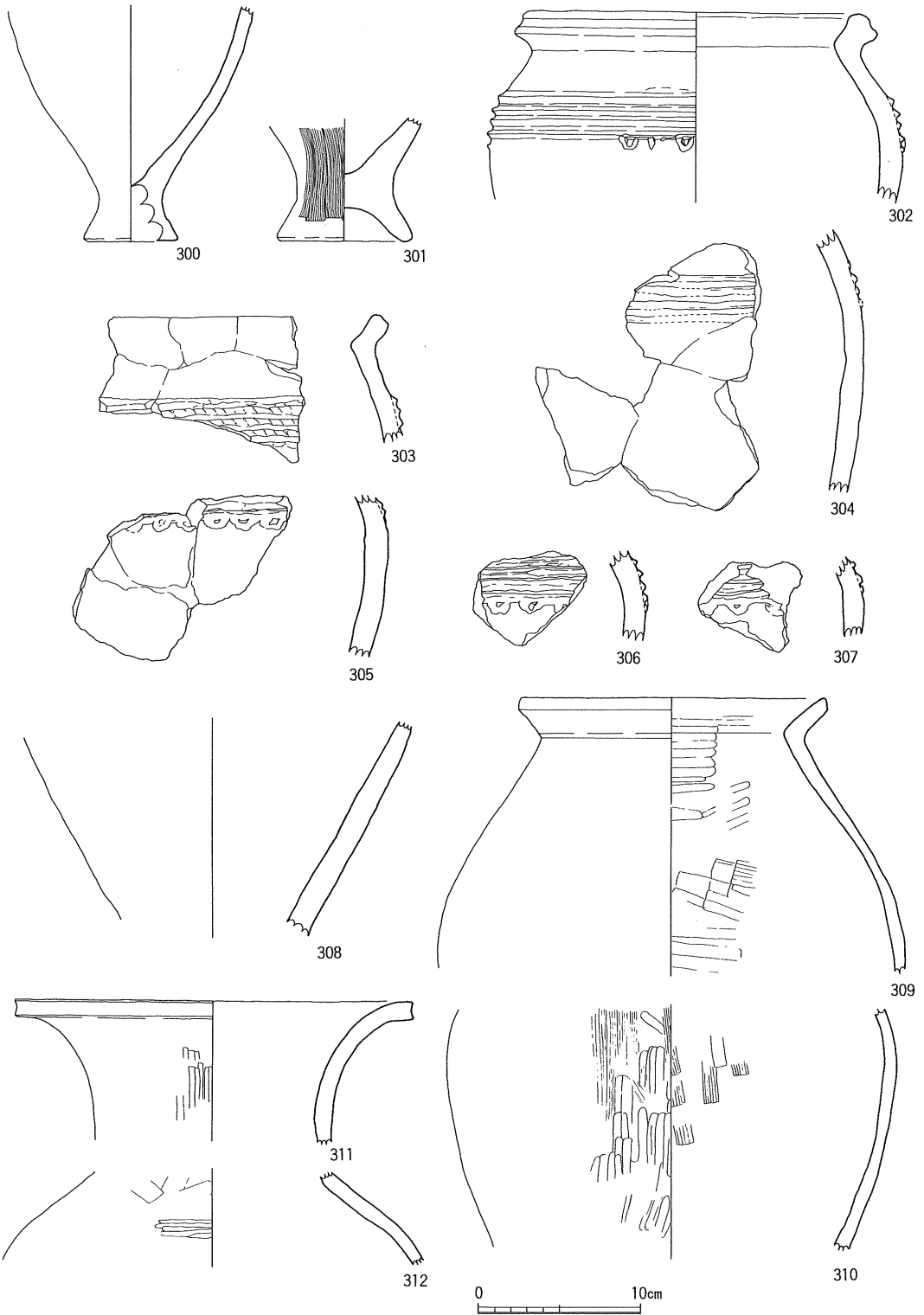
B区において出土した縄文土器は、いずれも遺構に伴わず包含層からの出土である。縄文時



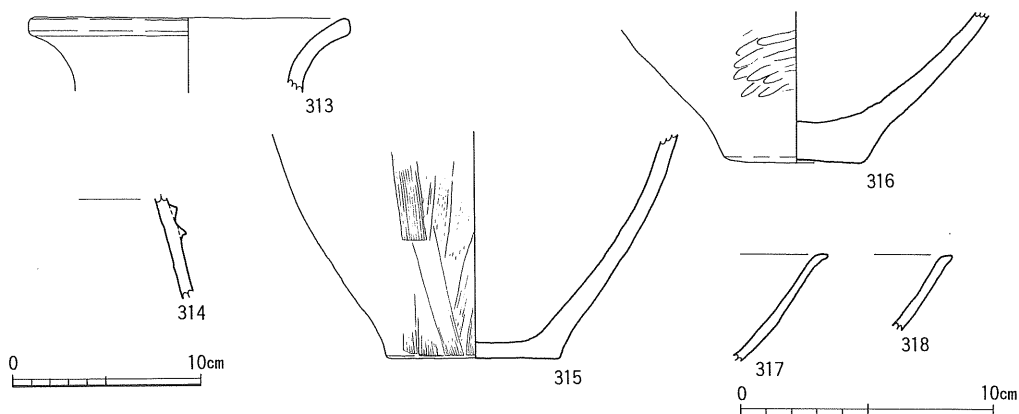
第32図 本池B区出土遺物実測図(1)(縄文 1/3)



第33图 本池B区出土遺物実測図(2) (弥生1/4)



第34图 本池B区出土遺物実測图(3)(弥生 1/4)



第35図 本池B区出土遺物実測図(4) (弥生 313~316→1/4, 磁器 317・318→1/3)

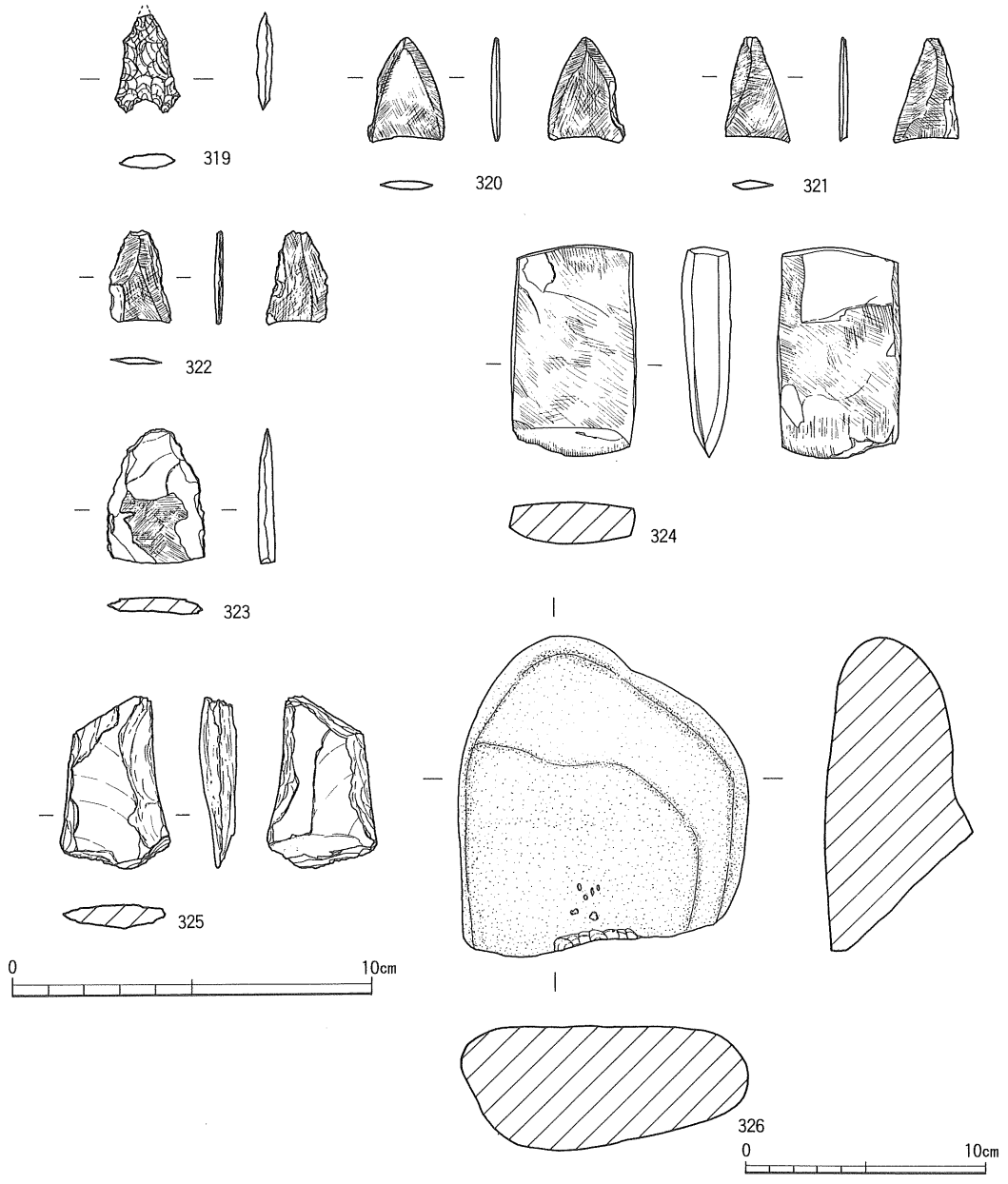
代後期に属するものであるが、松山式、指宿式、市来式等数種の型式が見られ、若干の時期差を含んでいる。該期の遺構が検出されなかった理由として、B区の調査面積が狭小であったことが第一に挙げられるが、ほ場整備事業や河川改修事業に伴う一連の丸谷地区遺跡群の調査においても、縄文時代の遺構・遺物はほとんど確認されておらず、わずかに前畑遺跡SC16と出土土器が見られるに過ぎない。本来的に分布が希薄であることもその要因の一つであろう。縄文時代中期以前については、2~3mと厚く堆積した御池ボラ層の下層となるため調査例が少ない。近辺の遺跡に目を向けると、屏風谷第1遺跡⁽¹⁾で早期の礫群や後晩期の土器が検出されている。また、堂山遺跡⁽²⁾では押型文土器が出土している。いずれも丸谷地区遺跡群に対して一段高い段丘あるいは丘陵上に立地している。他の地域と同様に縄文時代の主たる活動域は、比較的標高の高い大地や丘陵上であったものと思われる。

・弥生時代について

A・B両区から弥生時代中期から後期にかけての土器群が出土した。多くは包含層出土のもので、明確に遺構に伴うものは少ない。1は、いわゆる亀の甲タイプの甕で、中期前半に位置付けられよう。他の土器に比してひととき精良な胎土で、焼成も良好で硬質である。搬入品の可能性もあり、今後周辺遺跡での類例の出土等に注目すべきものである。2は粗製の甕であるが、ほぼ水平となる口縁部形態などから1と同様の時期を考慮しておきたい。他の甕形土器は、上げ底の底部形態などから後期の所産と考えられる。

B区では、丹塗の須玖式甕が出土している。また、逆L字形の口縁をもつもの(292・293)、肥後系の口縁部内面に張り出しを持つもの(290)、やや立ち上がり気味の口縁部とその下に刻み目突帯を持つもの(286~289)、明瞭に「く」字形に屈曲する口縁を持つもの(299)など、中期から後期にかけての特徴を示すものが見られる。甕底部についても、300の充実した脚台を持つもの、301の脚台状の上げ底のものなど中期的なものと同様のものが見られる。

弥生土器の中で、特に異色のものとして302~308の一群が上げられる。厚手で軟質の器壁、



第36图 本池B区出土遺物実測図(5)(石器, 319~325→1/2, 326→1/3)

粗雑な多条の三角突帯、突帯下部に貼り付けられる半円形状の粘土紐などがその特徴である。類例は、都城市大岩田村ノ前遺跡⁽³⁾、同市祝吉第二遺跡⁽⁴⁾、えびの市野久首遺跡⁽⁵⁾、同市本地原遺跡⁽⁶⁾、鹿児島県菱刈町前畑遺跡⁽⁷⁾など南九州内陸部（山間部）の遺跡に見られる。大岩田村ノ前遺跡では、土坑（SC3）から出土しており、共伴土器との検討から中期中葉の時期を当てている。本池遺跡B区出土の一群も、同様の時期を与えるならば、300の甕や311・312の壺等に共伴するものと考えられよう。

・平安時代について

平安時代の遺物は、A区南東部に集中して出土しており、その量も他時代のものに比べ圧倒的に多い。16棟検出された掘建柱建物群のうち7棟（SA1～7）はこの時代のものであると思われる。2×3間を基本とし、柱穴の径が50cm以上と比較的規模の大きなものである。地形や遺構の分布状況から判断すると、更に調査区外南方へ広がりをもつものと思われる。

土師質甕形土器は、内面にヘラ削りが施され、口縁部は斜め外方に延び、張りのない胴部が特徴である。9世紀後半から10世紀前半に否定されよう。土師質の坏、皿、碗類も多く出土したが、形態的特徴から9世紀後半から10世紀前半に否定されよう。その中には高台内に格子目状の線刻をもつもの（113）、墨書の見られるもの（131～141）が見られた。格子目状の線刻は「九字」と称され、道教の符号である。基本的には縦4本、横5本の格子状となる。悪霊を払い、願意が果たされるという意味合いを持つ⁽⁸⁾。本池遺跡出土のものは、焼成後に釘状のもので刻されたものと思われ、二重に、若干ズレた状態で施されている。墨書土器は坏、皿、碗の底部外面あるいは体部外面に、一文字（一記号）が記されている。釈読し得たものには「奈」「廣」「観」あるいは「勸」の文字が見られた。墨書土器については、従来から人名、地名、職名、護符等の意味が想定され、出土する遺跡も寺院、官的施設が多いとされてきた。しかし、近年の研究により一般的集落（村落）からの出土が少なくないこと、祭祀的性格が強いことなどが指摘され、従来のイメージよりも文字の浸透が広く見られることが明らかになりつつある⁽⁹⁾。宮崎県内においても墨書土器の存在が注目されつつあり、集成されていないもののその数は400例を超えるものと推定される⁽¹⁰⁾。今後、墨書の釈読に加え出土遺構・遺跡の性格等を含めた検討が必要となろう。

須恵器は、供膳形態である碗、皿、蓋が見られ、その他壺、甕等も出土している。蓋の口縁端部の形態などから9世紀後半～10世紀前半の時期が与えられよう。壺には、タタキ調整のもの、ナデ調整のものが見られるが、193・194の鐔状突帯壺は特に注目される。タタキ調整の壺肩部に鐔状の縦突帯が貼り付けられる。県内に類例はなく、その産地、年代も更に慎重な検討を要する。県外の類例として、太宰府史跡第18次調査SE400下層出土須恵器壺が挙げられる⁽¹¹⁾。肩部に突帯を持ち、9世紀前半の年代が与えられている。また、長野県飯田市恒川遺跡出土の四耳壺は、胴部にタタキ痕を持ち肩部には1条の突帯が貼り付けられる⁽¹²⁾。10～11世紀の年代が与えられている。本池遺跡出土のものは突帯の形状が異なり薄く鐔状となるが、壺肩部への突帯貼り付けという意識は共通するものであり参考となろう。

・時期不明の遺構について

掘建柱建物群のうちS B 8～16については、遺物を伴わず時期決定の根拠に欠ける。隣接する上大五郎遺跡では、二重の溝に区画された館跡が検出され、32棟の掘建柱建物群を確認した。桜島火山起源の文明ボラとの関係をもとに、15世紀後半から16世紀にかけて、館の成立から解体までの過程を復元し得た⁽¹⁰⁾。館解体後は、溝等によって区画を行わない近世の村落景観が形成されていったものと思われる。本池遺跡において検出されたS B 8～16の掘建柱建物は柱穴の検出面からの深さが浅いこと、棟方位が正方位に近いことなどから、現在のところは近世の所産と考えておきたい。

註

- (1) 都城市教育委員会 1992 『屏風谷第1遺跡』都城市文化財調査報告書第17集
- (2) 都城市教育委員会 1991 「堂山(南地区)遺跡」『平成2年度遺跡発掘調査概報』都城市文化財調査報告書第13集
- (3) 都城市教育委員会 1991 『大岩田村ノ前遺跡』都城市文化財調査報告書第14集
- (4) 都城市教育委員会 1982 『祝吉遺跡』都城市文化財調査報告書第2集
- (5) 宮崎県教育委員会 1994 「野久首遺跡」『九州縦貫自動車道(人吉～えびの間)建設工事にともなう埋蔵文化財調査報告書』第2集
- (6) 宮崎県教育委員会 1994 『本地原遺跡』
- (7) 菱刈町教育委員会 1983 『前畑遺跡』
- (8) 高島英之 1994 「古代東国の村落と文字」『古代東国の民衆と社会』古代王権と交流2名著出版
- (9) 高島英之(8)前掲論文
墨書土器が一般集落にまで浸透しているとしても、文字本来の受容とは必ずしも結びつくものではなく、呪術的、魔力的、標識的記号としての色彩が強いことが指摘されている。
- (10) 宮崎市余り田遺跡(平成7年度宮崎県教育委員会調査、未報告)では、自然流路と思われる溝から200点を超す墨書土器が出土している。えびの市昌妙寺遺跡(平成7年度えびの市教育委員会調査、未報告)では、埋没谷に流れ込んだ遺物群中に100点を超す墨書土器が含まれていた。
- (11) 横田賢次郎 1979 「太宰府出土の土師器に関する覚書き(3)」『九州歴史資料館研究論集』5
- (12) 檜崎彰一編 1979 『世界陶磁全集 2 日本古代』(小学館) p214掲載。
- (13) 都城市教育委員会 1994 『丸谷地区遺跡群・上大五郎遺跡』都城市文化財調査報告書第31集

第2表 宮崎県墨書土器・刻書土器出土遺跡一覧表

No.	遺跡名	出土遺構	土器器種	点数	位置	記銘法	釈文
1	宮崎市 余り田	自然流路	土師坏・須恵碗	200超	底外・体外	墨・刻書	日万、伴、寺、吉、得、内、人、定 十、井、大、木、古、隅舎、伊益奉 天（則天文字） 他
2	陣ノ内	竪穴住居	土師坏	1	体外	刻書	大
3	前原南	竪穴住居	須恵壺	1	口縁外	刻書	磨
清武町							
4	下田畑	竪穴住居	土師坏	1	底外	墨書	宅
5	赤坂	竪穴住居	土師坏	1	底内	刻書	大
6	辻		土師坏	1			
7	若宮田		須恵硯	1			
国富町							
8	西下本庄	溝	土師坏	1	体内外	墨書	「☆」（晴明桔梗印）、日（則 天文字）
新富町							
9	上蘭	竪穴住居	土師坏		底外	墨書	廣 他
都城市							
10	上ノ園第2	包含層	須恵坏・土師坏	4	底外・体外	墨書	秦
11	中尾山・馬渡	包含層	黒色碗	1	体外	墨書	
12	本池	包含層	土師坏・黒色碗	11	底外・体外	墨書	奈、廣、勸か、卅 他
13	ニタ元		土師坏	7	底外・体外	墨書	
14	都之城本丸跡		土師坏	1	体内・底外	墨書	（輪宝）
15	不明	不明	土師坏	1	体外	墨書	青、天か
高原町							
16	立山	表採	黒色碗	1	体外	墨書	大
えびの市							
17	永田原	包含層	土師坏・須恵坏	3	体外	墨書	長、
18	馬場田	溝・包含層	土師坏	4	体外	墨書	文、丘か、口か、打か
19	桑田	包含層	土師坏	1	体外	墨書	十
20	久見迫B	土坑	土師坏	1	体外	墨書	
21	小路ノ下	土坑・柱穴	黒色碗・青磁碗	2	底外・体外	墨書	南か、下
22	法光寺	柱穴・包含層	土師坏・黒色碗	2	体外	墨書	可、光
23	上田代	包含層	土師坏	1	体外	墨書	
24	竹之内	柱穴・包含層	土師坏・黒色碗	1	体外	墨書	大
25	妙見原	包含層	須恵蓋	1	天井外	墨書	駱か
26	昌明寺	埋没谷	土師坏・黒色碗	100超		墨書	石、用、五、金、得、友、春、∞
串間市							
27	櫛間城	柱穴	土師坏	1	体内	墨書	（輪宝）

*墨書・刻書位置については、以下のように略した。 底外=底部外面、体外=体部外面

表3表 本池遺跡出土土器観察表(1)

1/7 器種	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
1	弥生	甕	A区	-	-	-	口縁部上面ヨコナデ、刻み目ヨコナデ	指頭痕ヨコナデ	灰褐	にぶい褐	乳白色、白く光る砂粒、茶色の粒	
2	弥生	甕	A区	-	-	-	スス附着、風化気味2条の突帯	風化気味	灰褐	にぶい黄褐	透明に光る細砂粒、にぶい黄橙・淡黄の粒	
3	弥生	甕	A区	-	-	-	ナデ突帯ヨコナデ	ヨコナデ	橙	橙	黒色・褐色・白色・乳白色の粒、透明に光る粒	
4	弥生	甕	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 粗いヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	褐色・乳白色・灰色の粒	
5	弥生	甕	A区	-	-	-	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	褐灰・灰白の粒	
6	弥生	甕	A区	-	-	-	ナデ風化	ナデ、風化 気味	にぶい黄橙	にぶい黄橙	灰褐・淡黄・にぶい褐の粒	
7	弥生 古瀬	甕	A区	(20.4)	-	-	ヨコナデ一部スス附着斜のハケ目	タテ、斜の ナデ後 一部指頭痕	にぶい橙	にぶい黄橙	灰色・淡黄・褐色の粒	
8	弥生	甕	A区	(14.5)	-	-	ナデ風化気味、スス附着、ナデ	ナデ 工具痕	にぶい褐 橙	にぶい褐	灰褐・淡黄の粒	
9	弥生	甕	A区	-	-	-	ヨコ、斜のナデ	ヨコ、斜の ナデ	にぶい橙	黄橙	褐色・灰褐・黒色の粒	
10	弥生	甕 脚-底	A区	-	9	-	ナデ、黒変指頭痕	工具による ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	茶・灰・灰白の粒、黒・透明の光沢粒	
11	弥生	甕 脚-底	A区	-	7.9	-	一部黒変指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい橙	黒褐	茶・灰色・半透明の粒	
12	弥生	甕	A区	(15.2)	7.8	19.5	指頭痕、タテ方向、工具ナデ、黒変	指頭痕、粗なナデ斜のナデ、指ナデ黒変	明赤褐	橙	灰・茶・黒・赤褐色の粒	
13	弥生	壺	A区	(10.5)	-	-	ナデミガキ	ヨコナデ タテの指ナデ	赤褐	にぶい赤褐	乳白色・灰褐色の粒	
14	弥生	壺 口縁	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	褐灰・褐色の粒	
15	弥生	壺	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	黒色・褐色の粒	
16	弥生	壺 口縁	A区	(9.3)	-	-	ヨコナデ、黒変斜の丁寧なナデ	斜の丁寧な ナデ	淡黄	浅黄橙	褐色・黒色の粒	
17	弥生	壺 口縁	A区	(9.6)	-	-	ヨコナデヨコナデの上からミガキ	丁寧なナデ	浅黄橙	浅黄橙	黒色・褐色の粒	
18	弥生	壺 底部	A区	-	8.1	-	黒く変色丁寧なナデ	黒く変色 丁寧なナデ	灰白	褐灰	茶・灰白・灰・半透明の粒	
19	弥生	壺 底部	A区	-	4.6	-	ナデタテ方向のナデ	ナデ、タテ のナデ 黒変	にぶい橙	にぶい黄橙	茶・灰・半透明の粒	
20	弥生	高坏	A区	-	-	-	ヨコナデ一部風化	黒変、ヨコナデ後タテ方向のナデ、一部にミガキ	浅黄橙	灰白	灰褐・赤褐・浅黄・黒褐の粒	
21	弥生	高坏	A区	-	-	-	ナデ	風化	浅黄橙	灰白	透明な光沢粒、褐灰・赤褐・灰褐の粒	
22	弥生	高坏	A区	-	-	-	ヨコナデナデ、風化気味	ヨコナデ、タテ方向のミガキ黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙	透明な光沢粒、橙・灰白・褐灰の粒	
23	弥生	高坏	A区	-	-	-	ヨコナデ、ヨコナデ後タテ方向のナデ	ヨコナデ、一部風化一部にミガキ	浅黄橙	浅黄橙	灰白・褐灰・黒色・赤褐の粒	
24	弥生	高坏	A区	-	-	-	ヨコナデナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい橙	にぶい橙	黒色・淡黄・赤褐の粒	
25	弥生	高坏	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 一部にミガキ	にぶい橙	にぶい橙	黒色・透明な光沢粒、黒色・赤褐灰白の粒	

第4表 本池遺跡出土土器観察表(2)

I/F 77 群	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
26	弥生	器台	A区	—	—	—	ヨコナデ ヨコ、斜のナデ	ヨコ、タテ、 斜のナデ 一部にミガキ	浅黄橙	浅黄橙	白色、黒色の光沢粒 褐灰・黒色・灰褐・赤褐の粒	
27	弥生	器台	A区 (25.4)	—	—	—	風化	ミガキ 黒変	浅黄橙	にぶい橙 浅黄橙	透明な光沢粒 灰白・灰褐・黒色・茶色の粒	
28	弥生	ミナブ 完形	A区	5.3	3.2	4.7	ナデ	ナデ	明褐 褐	明赤褐 暗赤褐	淡黄色・褐色の粒、黄褐の粒	
29	弥生	ミナブ	A区 (6.6)	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	白色・無色透明な光沢粒 褐色・灰白・褐灰の粒	
30	弥生	鉢 ミナブ か?	A区	—	—	—	ヨコナデ ヨコナデの傍一部 タテ方向のナデ	タテ、斜の ナデ	赤褐	赤褐	浅黄・明赤褐・褐灰の粒	
31	弥生	ミナブ 完形	A区	5	3.4	5.6	ナデ、指頭痕 一部黒変	ヨコナデ	褐灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙	透明な光沢粒 褐灰・淡黄・灰褐の粒	
32	弥生	杓子 取手	A区	—	—	—	ナデ 指頭痕	ナデ ヨコナデ	橙	橙	茶灰色の粒、微細な光沢粒	
33	土師質	甕 口縁	A区 (25.2)	—	—	—	ヨコナデ タテナデ	ヨコナデ、 斜の粗なケズ リ、一部黒変	にぶい褐	にぶい橙	褐色・黒色の粒	平安時代
34	土師質	甕 口縁 ~ 頸部	A区 (25)	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭痕	にぶい橙	にぶい橙	白色に光る微細粒 褐色・淡黄・明赤褐の粒	平安時代
35	土師質	甕 口縁 ~ 頸部	A区 (25)	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ 粗なナデ	にぶい橙	にぶい橙	灰色・淡黄・黒色の粒	平安時代
36	土師質	甕 口縁 ~ 頸部	A区 (22.2)	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	白色・淡黄・黒色の粒	平安時代
37	土師質	甕	A区	—	—	—	指頭跡 ヨコナデ	工具跡 ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	黒色・褐色の粒	平安時代
38	土師質	甕	A区 (23.5)	—	—	—	黒斑 ヨコナデ	黒斑 工具ナデ	にぶい黄橙	灰白	白色に光る粒、褐色の粒	平安時代
39	土師質	甕	A区 (20.4)	—	—	—	口唇部、ヨコナデ 工具ナデ 指頭跡、黒斑	黒斑 ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	褐色・黒色の粒	平安時代
40	土師質	甕	A区	—	—	—	スス附着 ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	茶色・褐色の粒	平安時代
41	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコ方向の ハケ目 ヨコナデ	ヨコ方向の ハケ目 粗いナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	透明な光沢粒 にぶい褐灰色の粒	平安時代
42	土師質	甕	A区	—	—	—	黒斑 ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐	にぶい褐	褐色・白色の粒	平安時代
43	土師質	甕	A区	—	—	—	スス附着 ヨコ、タテ ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	白色・黒色の粒	平安時代
44	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ 工具による 斜の削り	灰黄褐	灰黄褐	白く光る微細粒、淡黄・灰色の粒	平安時代
45	土師質	甕	A区	—	—	—	ナデ ヨコ方向の ハケ目	ヨコ方向の ハケ目 一部ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	褐灰・淡黄・灰色の粒	平安時代
46	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ タテ方向の ナデ	浅黄橙	浅黄橙	透明な光沢粒、灰色・褐色・浅黄の粒	平安時代
47	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ	工具ナデ ヨコナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	透明な光沢粒、赤褐色、淡黄粒	平安時代
48	土師質	甕	A区 (21.6)	—	—	—	ヨコナデ スス附着	ヨコナデ タテ方向の 削り	橙	橙	透明に光る細砂粒 淡黄・褐灰・にぶい褐の粒	平安時代
49	土師質	甕	A区 (20)	—	—	—	ヨコナデ ナデ スス附着	ヨコナデ 工具による 斜のナデ	褐灰	にぶい橙	灰色・白色の光沢粒	平安時代
50	土師質	甕	A区	—	—	—	ナデ、タテ・ 斜方向のハ ケ目	ヨコナデ、ナデ 斜方向のナデ 炭化物附着	にぶい褐	にぶい褐	白色・淡黄・透明な光沢粒 灰白・褐色の粒	平安時代

第5表 本池遺跡出土土器観察表(3)

イ 7カ 号	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
51	土師質	甕	A区	(22)	—	—	ヨコナデ	工具痕 ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	にぶい赤褐・灰色・黒色の粒	平安時代
52	土師質	甕	A区	—	—	—	スス附着 ヨコナデ	ケズリ 工具ナデ ヨコナデ	浅黄	浅黄	黒色・白色の光沢粒	平安時代
53	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ タテ方向のナデ 黒変	ヨコナデ ヨコ方向の 粗な削り	にぶい橙	にぶい赤褐	黒色・乳白色の粒	平安時代
54	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	透明に光る細砂粒 淡黄・にぶい褐の粒	平安時代
55	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ、タ テ方向のナデ 黒変	ナデ ヨコ方向の 粗な削り	にぶい橙	にぶい赤褐	黒色・乳白色の粒	平安時代
56	土師質	甕	A区	(15.8)	—	—	ヨコ・斜のナ デ 黒変	斜のナデ 工具による 斜のナデ 黒変	にぶい橙	にぶい赤褐	灰色・褐色の粒	平安時代
57	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	明赤褐	橙	白色の光沢粒、淡黄・灰色の粒	平安時代
58	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ 工具痕有り	浅黄橙	浅黄橙	透明な光沢粒 灰色・淡黄の粒	平安時代
59	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコナデ スス附着	粗いヨコナ デ	にぶい橙	にぶい橙	褐色の粒	平安時代
60	土師質	甕	A区	(23)	—	—	ヨコナデ ヨコナデ後、斜 のナデ、黒変	粗なナデ、 一部に削り	にぶい褐	にぶい橙	褐色・白色の光沢粒	平安時代
61	土師質	甕	A区	—	—	—	ヨコ・斜ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	灰白・茶褐色・半透明の粒 透明の光沢粒	平安時代
62	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	斜の平行タ タキ	円弧当て具痕 風化気味	にぶい黄橙	浅黄橙	茶・灰色・半透明の粒	平安時代
63	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	タテ方向の平行タ タキ 場所によって、ヨ コ・斜の平行タキ	円弧当て具痕 斜のナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	灰・茶・半透明の粒 透明の光沢粒	平安時代
64	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	斜のタタキ 所によりヨコ・ タテのタタキ	ナデ 炭化物附着	浅黄橙	にぶい橙	赤褐色・半透明・茶・灰色の粒	平安時代
65	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	斜方向のハ ケ目	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	乳白色・灰白・半透明の粒 黒の光沢粒	平安時代
66	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	ヨコ方向のハケ目 の跡がタテ斜 方向のハケ目	斜方向のナデ	灰赤	赤褐	茶色・乳白色の粒	平安時代
67	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	斜の後タテ にハケ目 斜のハケ目	ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	灰・茶褐色の粒	平安時代
68	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	斜方向の平 行タタキの 後ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	茶・灰・半透明の粒 黒い透明の光沢粒	平安時代
69	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	ヨコ方向の 平行タタキ、 スス附着	斜方向のナデ	にぶい橙	にぶい橙	乳白色・半透明の粒	平安時代
70	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	斜方向の後タテ 方向に格子状に 平行タタキ	当て具痕	灰白	明褐灰	茶・灰・灰白の粒	平安時代
71	土師質	甕 胴部	A区	—	—	—	斜・タテ方向 の平行タタキ	ヨコナデ 場所によって 当て具痕	灰白	灰黄褐	灰白・乳白色・茶・灰色の粒 半透明の光沢粒	平安時代
72	土師質	坏	A区	(13.6)	7.1	6.2	ヨコナデ 指痕あり、底部は ヘラ切り後ナデ	ヨコナデ	にぶい橙 灰褐	灰褐 にぶい橙	茶色・黒色・透明に光る粒	
73	土師質	坏	A区	(13.4)	(6.15)	(5.6)	ヨコナデ、ヨコナデ 後ヘラ削り、底部 ヘラ切り後ナデ	ヨコナデ ヨコナデ後 ヘラ削り	浅黄橙	浅黄橙	茶色・黒色・褐色・乳白色の粒	
74	土師質	坏	A区	(15.4)	—	—	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤褐色・黒色の粒	
75	土師質	坏	A区	(6)	5.7	(4.6)	ヨコナデ、底 部へヘラ切り 後未調整	ヨコナデ、 斜のハケ目	橙 黄橙	黄橙	淡黄・褐灰・透明な光沢粒	

第6表 本池遺跡出土土器観察表(4)

イ 77 群	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
76	土師質	坏	A区	(13.4)	(6.5)	4.5	ヨコナデ 底部～ヘラ切り 後ナデ	ヨコナデ ヨコナデ後 斜のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	透明に光る細砂粒 淡黄・灰色の粒	
77	土師質	坏	A区	(12.5)	(6.1)	4.5	ナデ 一部スス付着 底部～ヘラ切り	ナデ、変色し ている、スス 付着跡あり	灰白	灰白	赤褐色、透明光沢粒、黒色の粒	
78	土師質	坏	A区	(12.3)	(4.6)	(4.6)	ヨコナデ 底部～貼付け ナデ	ヨコナデ	橙	橙	微細な赤褐色・灰色の粒	
79	土師質	坏	A区	(12.5)	(6.1)	4.5	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	透明・半透明の光沢粒 乳白色・赤褐色・黒色の粒	
80	土師質	坏	A区	(12.5)	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	赤褐色・乳白色・黒色の粒	
81	土師質	坏	A区	(13.3)	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤褐色の粒、半透明・黒色の光沢粒 乳白色・黒色の粒	
82	土師質	坏 完形	A区	12.6	5.5	4.1	ヨコナデ、ヘラ削 り後ナデ、底部～ ヘラ切り後未調整	ヨコナデ	浅橙	橙	赤褐色・灰色の粒	
83	土師質	坏	A区	(13.6)	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	灰白色・乳白色・赤褐色の粒 透明・半透明の光沢粒	
84	土師質	坏	A区	(11.9)	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 橙	黒色・乳白色・微細な光沢粒	
85	土師質	坏	A区	(12.6)	—	—	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	黒色・乳白色の粒 微細な黒色光沢粒	
86	土師質	坏	A区	(12.2)	—	—	ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	半透明・黒色の光沢粒 赤褐色・乳白色の粒	
87	土師質	坏	A区	(19.8)	—	—	回転ナデ	回転ナデ	橙	橙	透明・黒色の光沢粒 灰白色・赤褐色の粒	
88	土師質	坏	A区	(13.2)	—	—	ヨコナデ 底部～ヘラ切り 後ナデ	ナデ	にぶい黄橙 浅黄橙	浅黄橙	赤褐色の粒 透明・半透明の光沢粒	
89	土師質	坏	A区	—	—	—	ナデ	ナデ	淡黄	淡黄	赤褐色・黒色の粒	
90	土師質	坏	A区	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄	淡黄	半透明光沢粒、黒色の粒	
91	土師質	坏	A区	—	—	—	ヨコナデ スス付着	ヨコナデ 一部スス付着	浅黄橙	浅黄橙	褐色・にぶい赤褐・淡黄の粒 黒色・白色の光沢粒	
92	土師質	坏	A区	—	—	—	ヨコナデ スス付着	ヨコナデ 後ナデ 一部スス付着	浅黄橙	浅黄橙	にぶい赤褐・褐色・淡黄の粒 黒色・白色の光沢粒	
93	土師質	坏	A区	—	—	—	ヨコナデ	内黒、ミガキ	にぶい橙	黒	灰・赤褐色の粒、粒微細な光沢粒	
94	土師質	皿	A区	(8.5)	(7.25)	(1.4)	ヨコナデ 底部～ヘラ 切り後ナデ	ヨコナデの上 に不定向ナデ	灰褐	明褐灰	乳白色・黒い粒	
95	土師質	坏	A区	—	6.4	—	ヨコナデ ヘラ切り、底 部～ヘラ切り	ナデ	橙	浅黄橙	半透明の光沢粒、黒色・乳白色の粒	
96	土師質	坏	A区	—	(6.4)	—	ナデ 底～ヘラ切 り痕	回転ナデ	灰白	浅黄	黒色・半透明光沢粒 赤褐色粒	
97	土師質	坏	A区	—	6.4	—	ヨコナデ 底部～ヘラ切り	ナデ	にぶい黄橙	淡黄	半透明の光沢粒、赤褐色黒い粒	
98	土師質	坏	A区	—	5.8	—	ヨコナデ 底部～ヘラ切り	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	半透明の光沢粒、黒色・灰白色の粒	
99	土師質	坏	A区	—	(5.3)	—	ナデ ヘラ切りの後ナデ 底～ヘラ切り	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤褐色、微細な半透明光沢粒	
100	土師質	坏	A区	—	(5.9)	—	ヨコナデ 底部～ヘラ切り の後ナデ	ナデ	橙	橙	乳白色・赤褐色の粒	

第7表 本池遺跡出土土器観察表(5)

レ イ 7 外 器	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
101	土師質	坏	A区	-	(6.1)	-	ヨコナデ ヘラ切り後指押え 底部~ヘラ切り	ナデ 一部スス付着	にぶい黄橙	にぶい黄橙	赤褐色の粒、半透明光沢粒	
102	土師質	坏	A区	-	6.25	-	回転ナデ 底部~ヘラ 切り	ナデ	浅黄橙	橙	黒色・半透明光沢粒	
103	土師質	坏	A区	-	(5.4)	-	回転ナデ 底部~ヘラ切り 後粗いナデ	ナデ	橙	橙	赤褐色の粒、微細な乳白色の粒	
104	土師質	坏	A区	-	5.5	-	ヨコナデ 底部~ヘラ 切り	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	半透明・黒色の光沢粒、乳白色の粒	
105	土師質	坏	A区	-	(5.2)	-	ナデ 底部~ヘラ切 り痕	回転ナデ	橙 褐灰	赤橙	微細な透明光沢粒 黒色光沢粒	
106	土師質	坏	A区	-	(5.96)	-	ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤褐色粒、微細な黒色光沢粒	
107	土師質	高台 付碗	A区	(13.5)	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	灰色・褐色・淡黄の粒	
108	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.4)	-	ヨコナデ	ミガキ 丹塗り	にぶい橙	橙	灰白・灰色・淡黄の粒 透明に光る細砂粒	
109	土師質	高台 付碗	A区	-	(7.2)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	橙	橙	透明に光る細砂粒、淡黄・灰色の粒	
110	土師質	高台 付碗	A区	-	(7.1)	-	高台内、ヘラ切 りの後未調整 ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	黒色の粒	
111	土師質	高台 付碗	A区	-	(7.7)	-	高台内、ヘラ切 りの後調整が粗い ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	透明・金色に光る細砂粒 淡黄・灰色の粒	
112	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.3)	-	黒変 ヨコナデ	ヨコナデ	橙	橙	褐色・淡黄・褐灰の粒	
113	土師質	高台 付碗	A区	-	(9.3)	-	細線による方眼状の 文飾が施されている ヨコナデ	一部ミガキ ヨコナデ	明赤褐	明赤褐	金色に光る細砂粒、淡黄・灰色の粒	
114	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.7)	-	高台内、ヘラ切 りの後回転ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	黒色・茶色の粒	
115	土師質	高台 付碗	A区	-	(8.8)	-	ヨコナデ	内黒	にぶい橙	黒褐	黒色の粒、微細な光沢粒	
116	土師質	高台 付碗	A区	-	(7.8)	-	高台内、ヘラ工 具による放射状 の割り、ヨコナデ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	黒褐	透明の光沢粒、灰・乳白色の粒	
117	土師質	高台 付碗	A区	-	(9.4)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	透明に光る細砂粒	
118	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.9)	-	ヨコナデ 高台内~ナデ	内黒 風化気味	橙	黒褐 にぶい黄褐	茶色の粒	
119	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.4)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	淡黄の粒、褐色・灰色の粒	
120	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.9)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	黄橙	黄橙	半透明に光る細砂粒、褐色・淡黄 の粒	
121	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.7)	-	高台内、ヘラ 切り後無調整 ヨコナデ	ヨコナデ	橙	橙	乳白色の粒、透明に光る粒	
122	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.4)	-	高台内、ヘラ切 りヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	透明に光る粒、黒色の粒	
123	土師質	高台 付碗	A区	-	(8.3)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	橙 浅黄橙	浅黄橙	無色透明な光沢粒、褐色・灰色・ 淡黄の粒	
124	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.4)	-	放射線状工具を 当てた痕あり ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	褐色・白色の粒	
125	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.8)	-	工具痕あり ヨコナデ	工具痕あり ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	淡黄・灰色の粒	

第8表 本池遺跡出土土器観察表(6)

レ イ ア ノ 観	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
126	土師質	高台 付碗	A区	-	(7.1)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	褐色・灰色の粒、透明に光る細砂粒	
127	土師質	高台 付碗	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	透明に光る細砂粒、褐色・灰色の粒	
128	土師質	高台 付碗	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	浅黄橙	茶色・褐色の粒	
129	土師質	高台 付碗	A区	-	-	-	ヨコナデ	内黒 ヘラミガキ ヨコナデ	橙	黒褐	乳白色、茶褐色の粒、微細な光沢粒	
130	土師質	高台 付碗	A区	-	-	-	ヨコナデ 底部へヘラ切 り	ヨコナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	褐色・淡黄・灰色の粒	
131	土師質	坏	A区	-	-	-	底部、ヘラ 切り墨書 ヨコナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	微細な赤褐色の砂粒、黒の光沢粒	墨書土器
132	土師質	坏	A区	-	-	-	底部、墨書 ヨコナデ	ナデ	橙	橙	赤褐色の粒、透明・黒の光沢粒	墨書土器
133	土師質	坏	A区	-	(6.0)	-	底部、ヘラ切 り墨書 ヨコナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい橙 にぶい赤褐	茶・黒褐色の粒	墨書土器
134	土師質	坏	A区	-	(6.2)	-	底部ヘラ切り 後ナデ、墨書、 スス付着、ナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄橙	茶褐色の粒	墨書土器
135	土師質	坏	A区	-	(5.4)	-	底部ヘラ切り ナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄橙	赤褐色の粒、微細な赤褐色・黒褐 色の粒	墨書土器
136	土師質	坏	A区	-	(5.6)	-	底部ヘラ切り ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	灰褐色の粒	墨書土器
137	土師質	坏	A区	(12)	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	橙	橙	赤褐色・灰色粒、微細な光沢粒	墨書土器
138	土師質	坏	A区	-	-	-	ヨコナデ 墨書あり	ナデ	橙	にぶい橙	灰白色粒、赤褐色粒 半透明光沢粒	墨書土器
139	土師質	坏	A区	-	-	-	ヨコナデ 墨書?	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤褐色粒、半透明粒	墨書土器
140	土師質	坏	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙 にぶい黄橙	浅黄橙 にぶい黄橙	赤褐色の粒	墨書土器
141	土師質	高台 付碗	A区	(12.6)	(5.8)	-	ヨコナデ 口縁~胴部上 黒変	内黒 ヘラミガキ	橙 褐灰	黒	茶色の粒、茶灰色の粒	墨書土器
142	土師質	碗	A区	(13.6)	-	-	ヨコナデ 黒変	内黒 ミガキ	黒褐 灰黄褐	黒	乳白色・灰色の粒	
143	土師質	碗	A区	(12.8)	-	-	ヨコナデ 口縁~黒変	内黒 ミガキ	にぶい黄橙	黒褐	茶・乳白色の粒	
144	土師質	碗	A区	(15.4)	-	-	ヨコナデ 口縁~黒変	内黒 ミガキ	橙	黒	灰・茶色の粒	
145	土師質	高台 付碗	A区	-	(6.8)	-	ヨコナデ 黒変	内黒 ナデ後ヘラ ミガキ	にぶい橙 黒褐	黒	赤褐色・乳白色・灰色の粒 透明の光沢粒	
146	土師質	鉢	A区	-	-	-	ヨコナデ	内黒 ミガキ	にぶい橙	にぶい橙 黒	茶・灰色の粒	
147	土師質	鉢	A区	(15.2)	-	-	口唇部粗いナデ 粗いナデ 指頭痕	布痕	浅黄橙	橙	赤褐色の粒	
148	土師質	鉢	A区	(15.4)	-	-	ナデ 灰白色物付着	布痕	橙	橙	微細な乳白色・光沢粒	
149	土師質	鉢	A区	(13.8)	-	-	ナデ	布痕	橙	橙	微細な乳白色・光沢粒	
150	土師質	鉢	A区	(11.2)	-	-	粗いナデ	布痕	橙	橙	橙色の粒	

第9表 本池遺跡出土土器観察表(7)

イ 7分 群	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
151	土師質	鉢	A区	(11.2)	-	-	口唇部粗いナ デ斜のナデ 白色物付着	布痕	橙 にぶい橙	橙 にぶい橙	微細な乳白色の粒	
152	土師質	鉢	A区	-	-	-	口唇部斜の ナデ粗いナデ	布痕	橙	橙	灰色・赤褐色・乳白色粒、透明光 沢粒	
153	土師質	鉢	A区	-	-	-	斜の粗いナデ	布痕	にぶい橙	にぶい橙	褐色の粒	
154	土師質	鉢	A区	-	-	-	粗いナデ	布痕 風化気味	橙	橙	橙色・乳白色の粒	
155	土師質	鉢	A区	-	-	-	ナデ 指頭痕	布痕	橙	にぶい橙	半透明・透明・光沢・乳白色の粒	
156	土師質	鉢	A区	-	-	-	口唇部クテ方 向の粗いナデ 粗いナデ	布痕	橙	橙	橙色の小石、灰色の粒	
157	土師質	鉢	A区	-	-	-	ヨコナデ	布痕	黄橙	黄橙	橙色の粒、微細な乳白色・光沢粒	
158	土師質	鉢	A区	-	-	-	斜のナデ 風化気味	布痕 風化気味	淡橙	橙	赤褐色の粒、乳白色の粒	
159	須恵器	坏蓋 つまみ	A区	3.75	2.95	1.2	ナデ、風化 ヨコナデ	回転ナデ	黄灰	灰白	精 良	
160	須恵器	坏蓋	A区	14.5	-	-	ヘラ切り	回転ナデ 指頭痕	灰白	灰白	灰白・黄灰の粒	
161	須恵器	坏蓋	A区	15.3	-	-	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	灰白色粒、黒色粒、半透明光沢粒	
162	須恵器	坏蓋	A区	(14)	-	-	ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙 黄橙	黄橙	きめ細かい、褐色・灰色の粒	
163	須恵器	坏蓋	A区	-	-	-	ナデ	ナデ	灰白	灰白	灰白色粒及び、微細な透明光沢粒	
164	須恵器	坏蓋	A区	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰黄	乳白色粒	
165	須恵器	坏蓋	A区	-	-	-	ナデ 浅い沈線	ナデ 風化	灰白	灰黄	赤褐色粒	
166	須恵器	坏蓋	A区	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	光沢粒、灰白色粒	
167	須恵器	坏	A区	(12.8)	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭痕	にぶい黄橙 灰黄褐	灰黄褐	乳白色粒、微細な光沢粒	
168	須恵器	坏	A区	12.2	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰	灰黄	褐灰色粒、微細な乳白色粒	
169	須恵器	坏	A区	-	-	-	ナデ、指頭痕 ヨコナデ	ヨコナデ	灰白	灰黄	褐灰色粒、微細な乳白色粒	
170	須恵器	坏	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白	灰黄	乳白色粒	
171	須恵器	坏	A区	-	-	-	ナデ	ナデ	黄灰	黄灰	乳白色粒、半透明光沢粒	
172	須恵器	坏	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄	浅黄	精 良	
173	須恵器	高付 台坏	A区	-	(8.2)	-	ヨコナデ ヘラ切り	ヨコナデ	灰	黄灰 灰	光沢粒	
174	須恵器	高付 台坏	A区	-	(7.5)	-	ヨコナデ ヘラ切り	ヨコナデ	灰白	灰白	黒褐色・灰色の粒	
175	須恵器	高付 台坏	A区	(8.1)	-	-	ヨコナデ、ヘ ラ切り、高台 内ヘラ記号	ヨコナデ	灰白	灰白	精 良	

第10表 本池遺跡出土土器観察表（8）

イ 79 号	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
176	須恵器	高台付 坏	A区	-	(8.3)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄 黄灰	黄灰 にぶい黄橙	精 良	
177	須恵器	高台付 坏	A区	-	(9.0)	-	ヨコナデ 粗なナデ	ヨコナデ ナデ	灰黄	灰黄	褐灰色・微細な乳白色、光沢の粒	
178	須恵器	高台付 坏	A区	-	(8.6)	-	ヨコナデ	ナデ	灰	灰	微細な乳白色の粒	
179	須恵器	壺	A区	(10.8)	-	-	ナデ 格子目タタキ	ナデ 当て具痕	灰 黄灰	黄灰	精 良	
180	須恵器	壺	A区	(12.0)	-	-	ナデ	ナデ	灰	灰	黒・乳白色の砂粒	
181	須恵器	壺	A区	(13.0)	-	-	ナデ	ナデ	灰	灰	灰・灰褐色の粒	
182	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精 良	
183	須恵器	壺	A区	(16.1)	-	-	ナデ	ナデ	浅黄	浅黄 灰黄	茶・灰・半透明の粒	
184	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナデ ナデ消し 平行タタキ	ナデ ナデ消し 円弧タタキ	灰黄 黄灰	灰黄	精 良	
185	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄 にぶい黄橙	浅黄	茶・灰色の粒	
186	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄	灰白	茶・灰色の粒	
187	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭痕	灰	灰	灰・乳白色半透明の粒	
188	須恵器	壺	A区	-	-	-	ヨコナデ 格子目タタキ	ヨコナデ 円弧あて具痕	灰 灰白	灰	灰・乳白色の粒	
189	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナデ	ナデ	灰オリーブ 褐灰	黄灰	半透明の光沢粒、丸い黒色の粒	
190	須恵器	壺	A区	-	(10.4)	-	ナデ 沈線	ナデ	黄灰 オリーブ	灰黄 黄灰	半透明光沢粒、丸い黒色の粒	
191	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナデ 自然釉	自然釉 ナデ	浅黄 黒褐	にぶい赤褐	微細な乳白色の粒	
192	須恵器	壺	A区	-	-	-	ナデ 自然釉	ヨコナデ	淡黄 にぶい黄	灰黄	黒褐色・乳白色の粒	
193	須恵器	壺	A区	-	-	-	格子目タタキ ヨコナデ	板状工具による ナデ及びタタキ の上をナデ	灰	黄灰	乳白色粒、黒色の粒、赤褐色粒、 光沢粒	
194	須恵器	壺	A区	-	-	-	格子目タタキ ヨコナデ	タタキの上を ナデ	灰	黄灰	微細な乳白色粒、光沢粒、丸い黒 色の粒	
195	須恵器	壺	A区	-	(11.0)	-	ヘラ 削り 後 ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰	褐灰 黄灰	乳白色・黒色の粒、半透明光沢粒	
196	須恵器	壺	A区	-	(8.15)	-	ヘラ 削り 後一 部ナデ、ヘラ 切りの後ナデ	ナデ	灰黄	褐灰 灰黄	乳白色粒、灰色粒、半透明光沢粒	
197	須恵器	壺	A区	-	(14.8)	-	格子目タタキ ナデ スス付着	ナデ、指頭痕 炭化物	灰	灰	乳白色の粒、丸い黒色の粒、半透 明光沢粒	
198	須恵器	壺	A区	-	(11.0)	-	かき目	板状工具によ るヨコナデ ナデ	灰	黄灰 灰	乳白色粒、赤褐色粒	
199	須恵器	壺	A区	-	(14.6)	-	格子目タタキ ナデ	ナデ	灰	褐灰 黄灰	赤褐色粒、乳白色粒、半透明光沢粒	
200	須恵器	甕	A区	-	-	-	タテ方向の平 行タタキ ヨコナデ	ヨコナデ、円弧あて具 痕の上をナデ、指頭痕 ヨコナデの平行タタキ	灰	灰	赤褐色の粒、灰白の粒	

第11表 本池遺跡出土土器観察表(9)

レ イ ア リ 器	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
201	須恵器	甕	A区	-	-	-	ヨコナデ、当て具痕タテ方向の平行タタキ	ヨコナデ、円弧あて具痕の上からナデ消し、円弧あて具痕	灰黄 灰	灰	赤褐色・灰白の粒	
202	須恵器	甕	A区	-	-	-	ヨコナデ格子目タタキ	ヘラ切り円弧あて具痕	灰黄褐 灰黄	灰黄褐 灰黄	乳白色・灰色の粒、透明光沢粒	
203	須恵器	甕	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデの後ナデ	灰黄褐	灰黄褐	乳白色・灰色の粒、透明光沢粒	
204	須恵器	甕 口縁	A区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	灰色粒	
205	須恵器	甕	A区	-	-	-	ナデ自然釉	ナデ自然釉	灰黄	灰黄 黄灰	黒い粒	
206	須恵器	甕	A区	-	-	-	ナデ平行タタキ	タテ方向のあて具痕、円弧あて具痕	灰 暗灰黄	黄灰 暗灰黄	灰・灰褐色・乳白色の粒	
207	須恵器	甕	A区	(20.9)	-	-	ナデ	ナデ	灰	灰	精 良	
208	須恵器	甕	A区	-	-	-	ヨコナデ、工具痕、タタキの後ナデ、格子目タタキ	ヨコナデ炭化物付着、円弧あて具痕	褐灰	褐灰 灰黄褐	精 良	
209	須恵器	甕	A区	-	-	-	ナデ平行タタキ	ナデ、タテ方向のあて具痕、円弧あて具痕	暗灰黄	暗灰黄 黄褐	灰色の粒	
210	須恵器	甕	A区	-	-	-	格子目タタキ	円弧あて具痕	黄灰	黄灰	褐色の粒、黒色・半透明の光沢粒及び微細な乳白色の粒	
211	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉貫入	施釉貫入	浅黄	浅黄	精 良	越州窯
212	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉貫入	施釉貫入	灰白	灰白	精 良	越州窯
213	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉貫入	施釉貫入	灰	灰	精 良	越州窯
214	青磁	皿	A区	-	-	-	施釉貫入	施釉貫入	灰オリーブ	灰オリーブ	精 良	越州窯
215	青磁	皿	A区	-	-	-	施釉貫入	施釉貫入	灰オリーブ	灰オリーブ	精 良	越州窯
216	青磁	皿	A区	-	-	-	施釉貫入	施釉貫入	灰オリーブ	灰オリーブ	精 良	越州窯
217	青磁	碗	A区	-	(5.4)	-	施釉蛇の目高台露胎	施釉	オリーブ黄	オリーブ黄	精 良	越州窯
218	青磁	碗	A区	-	(5.7)	-	蛇の目高台施釉	施釉	灰オリーブ	灰オリーブ	精 良	越州窯
219	青磁	皿	A区	-	(5.5)	-	施釉貫入	蛇の目袖ハギ施釉貫入	灰オリーブ	灰オリーブ	精 良	越州窯
220	青磁	碗	A区	-	-	-	施釉稜花	施釉	灰	灰	精 良	
221	白磁	碗	A区	-	-	-	玉縁、口縁施釉	施釉	白	白	精 良	中国産
222	白磁	碗	A区	-	-	-	玉縁、口縁施釉	施釉	白	白	精 良	中国産
223	白磁	碗	A区	-	-	-	玉縁、口縁施釉	施釉	白	白	精 良	中国産
224	白磁	碗	A区	-	(6.7)	-	施釉露胎	施釉	白	白	精 良	中国産
225	白磁	碗	A区	-	(6.7)	-	蛇の目高台施釉露胎	施釉	白	白	精 良	中国産

第12表 本池遺跡出土土器観察表 (10)

1791 号	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
226	白磁	碗	A区	-	-	-	施釉 蛇の目高台 貫入 露胎	施釉 貫入	白	白	精 良	中国産
227	白磁	瓶	A区	-	(9)	-	施釉 蛇の目高台 露胎	ナデ	白	白	精良・微細な黒い粒	
228	陶器	壺	A区	-	(15)	-	ヨコナデ 指頭痕	ヨコナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	乳白色・赤褐色・黒褐色、光沢粒	
261	縄文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部ナデ 浅線 文 横線 刺突文 ヘラミガキの後ナ デ	貝殻条痕 黒変	明赤褐 灰褐	明赤褐 灰褐	乳白色・灰色の粒・透明、半透明 黒色の光沢粒	松山式
262	縄文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面ヨコナ デヘラミガキによる連続 刺突文、貝殻条痕	貝殻条痕 炭化物付着	明黄褐 にぶい橙	灰黄褐	灰色・赤褐色の粒、透明・半透明 黒色の光沢粒	松山式
263	縄文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面凹線 連点文 ヨコナデ	ナデ	赤褐 灰褐	灰褐	透明・半透明・黒色の光沢粒 灰白色の粒	松山式
264	縄文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面 貝殻条 刺突文、浅線文、貝 殻条痕の後ナ デ	貝殻条痕の後ナ デ	黒褐	明赤褐	半透明の光沢粒、乳白色、褐色の粒	指宿式
265	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ナデ 沈線文、刺突文	ナデ	橙	橙	半透明の光沢粒、赤褐色の粒、乳 白色の粒・黒色の光沢粒及び微細 な雲母	指宿式
266	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ナデ	ナデ	橙	橙 にぶい橙	透明・半透明の光沢粒、赤褐色・ 灰色の粒、乳白色の粒	指宿式
267	縄文	深鉢	B区	-	-	-	連続刺突文 浅い沈線文	貝殻条痕	明赤褐 橙	橙	赤褐色・灰・乳白色、半透明の粒 微細な光沢粒	指宿式
268	縄文	深鉢	B区	-	-	-	連続刺突文 2条の沈線文	貝殻条痕	橙	明褐	灰・茶・乳白色の粒 微細な光沢粒	指宿式
269	縄文	深鉢	B区	-	-	-	連続刺突文 沈線文	貝殻条痕	明褐	明赤褐	赤褐色・乳白色・灰色の粒	指宿式
270	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ナデの後沈線	斜のナデ	橙	明赤褐	灰色・乳白色の粒	指宿式
271	縄文	深鉢	B区	-	-	-	刺突文	斜のナデ	黒褐	にぶい赤褐	茶・灰・乳白色の粒 微細な砂粒が多い	指宿式
272	縄文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面貝殻 刺突文、凹線 ナデ	ヨコナデ	橙	にぶい赤褐	透明・半透明の光沢粒、及び微細 な乳白色の粒	市来式
273	縄文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面貝殻 刺突文 貝殻条後	貝殻条痕	橙	橙 にぶい橙	透明・半透明・黒色の光沢粒 赤褐色の粒	市来式
274	縄文	深鉢	B区	-	-	-	口縁部上面 貝殻刺突文 凹線	ヨコナデ	橙	橙	半透明の光沢粒 微細な乳白色の粒	市来式
275	縄文	深鉢	B区	-	-	-	波状口縁 ヨコナデ、凹線 張付突帯	ヨコナデ	灰褐 にぶい橙	にぶい褐	透明、半透明の光沢粒 赤褐色、乳白色の粒	
276	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐 黒褐	にぶい赤褐	微細な透明、半透明の光沢粒 乳白色の粒	
277	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ナデ 沈線	ナデ 凹線	橙 にぶい橙	灰褐	黒色の光沢粒・半透明光沢粒	
278	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ 斜のナデ	灰褐 橙	橙	赤褐色・淡黄色の粒 半透明、黒色の光沢粒	
279	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	灰黄褐 にぶい黄褐	黄色の粒・褐色の粒	
280	縄文	深鉢	B区	-	-	-	ミガキ	丁寧なナデ	褐 にぶい赤褐	灰褐 黒褐	乳白色・半透明・灰色の粒 黒・透明の光沢粒	
281	弥生	壺	B区 SA1	-	-	-	ヨコナデ タテナデ	ナデ	褐灰	淡黄	茶色、灰色の粒・黒の光沢粒	
282	弥生	完形	B区 SC1	(7.9)	(7.3)	(24.8)	ヨコナデ ミガキ 一部黒変	ヨコナデ 指頭痕 斜のハケ目	にぶい褐	にぶい褐	茶・灰・乳白色の粒 半透明・透明の光沢粒	

第13表 本池遺跡出土土器観察表 (11)

レ イ 7 9 1 1	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
283	弥生	甕	B区 SC5	-	-	-	ケテ・斜のナデ スス附着	ヨコ・斜のナデ	黄橙 にぶい黄褐	にぶい橙	茶・灰色の粒、黒・透明な光沢粒	
284	弥生	甕	B区	-	-	-	金助先口縁 ナデ	ナデ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	透明・半透明、黒色の光沢粒 乳白色の粒	丹塗 須玖式
285	弥生	甕	B区	-	-	-	ナデ	ナデ	にぶい 赤褐色	橙	乳白色の粒・透明・半透明 微細な黒色の光沢粒	須玖式 丹塗
286	弥生	甕	B区	(30.0)	-	-	ナデ 刻み目突帯 スス附着	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄褐	にぶい黄橙	茶・灰色の粒 黒い透明、半透明の光沢粒	
287	弥生	甕	B区	-	-	-	ナデ 刻み目突帯	ナデ 指頭痕	橙	にぶい黄橙	茶・灰色・半透明の粒	
288	弥生	甕	B区	(27.6)	-	-	ナデ 刻み目突帯	ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙 灰黄褐	茶色の粒 茶・灰・黒色の粒	
289	弥生	甕	B区	(32.3)	-	-	ヨコナデ	ナデ 炭化物附着	浅黄橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	赤褐色・灰色、乳白色の粒 微細な砂粒	
290	弥生	甕	B区	(23.0)	-	-	口縁部上面 ヨコナデ ハケ目 黒変	ナデ	浅黄 黒褐	浅黄	乳白色・茶・半透明の粒 黒い光沢粒	
291	弥生	甕	B区	-	-	-	口縁部上面 ヨコナデ ハケ目	ナデ 指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	灰・茶・半透明の粒、黒い光沢粒	
292	弥生	甕	B区	-	-	-	口縁部上面ヨコナデ スス附着	ヨコナデ 黒変	褐 橙	橙 灰褐	茶色・半透明・乳白色の粒	
293	弥生	甕	B区	-	-	-	口縁部上面ナデ ヨコナデ	ナデ	にぶい褐 にぶい褐 黄橙	黄橙	茶・灰・黒の粒	
294	弥生	甕	B区	-	-	-	ヨコナデ	口縁部内面 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	赤褐色・茶・灰・乳白色の粒	
295	弥生	甕	B区	-	-	-	ヨコナデ	口縁部内面 ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	灰・茶色・半透明の粒	
296	弥生	甕	B区	-	-	-	ヨコナデ	口縁部内面ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 灰黄褐	微細な灰、乳白色の粒	
297	弥生	甕	B区	-	-	-	ヨコナデ ヨコナデのハケ目	口縁部内面ヨコナデ 斜のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	茶、灰色の粒	
298	弥生	甕	B区	-	-	-	ヨコナデ	口縁部内面ヨコナデ	橙	橙	黒・灰色・赤褐色の粒 黒・半透明の光沢粒	
299	弥生	甕	B区	-	-	-	ナデ 斜のナデ	斜のナデ ナデ	淡黄	にぶい黄橙	灰白の粒	
300	弥生	甕	B区	-	(5.9)	-	ケテナデ 黒変	ナデ 炭化物附着	にぶい橙 灰褐	黒褐 浅黄橙	茶褐色・灰・半透明の粒	
301	弥生	甕	B区	-	(7.9)	-	ケテ部のハケ目 ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙	灰・茶、半透明の粒 透明の光沢粒	
302	弥生	甕	B区	(19.8)	-	-	ヨコナデ、凹線 4条の貼付突帯 スス附着	口縁部内面 ヨコナデ ヨコナデ	明赤褐 黒褐	赤褐 明赤褐	黒色の光沢粒・半透明・灰、茶色 の粒	
303	弥生	甕	B区	-	-	-	ナデ ヨコナデ、スス附着 4条の貼付突帯	ナデ	橙 黒褐	褐 明褐	半透明の粒 黒色の光沢粒	
304	弥生	甕	B区	-	-	-	工具ナデ 凹線 4条の貼付突帯	工具ナデ 内黒 指頭痕	灰褐 にぶい褐	黒褐 にぶい橙	半透明・茶、灰色の粒 黒の光沢粒	
305	弥生	甕	B区	-	-	-	貼付突帯 ナデ	ナデ	黒褐	黒褐 にぶい赤褐	半透明・茶・灰色の粒 黒色の光沢粒	
306	弥生	甕	B区	-	-	-	4条の貼付突帯 ヨコナデ	ナデ	黒褐	黒褐	茶・半透明・灰、乳白色の粒 黒色の光沢粒	
307	弥生	甕	B区	-	-	-	貼付突帯 ナデ	ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	半透明・茶、灰色の粒 黒色の光沢粒	

第14表 本池遺跡出土土器観察表 (12)

レ イ 7 の 銘	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
308	弥生	甕	B区	-	-	-	ナデ	ナデ	にぶい赤褐 橙	黒褐 明褐	灰・乳白色、半透明の粒 黒の光沢粒	
309	弥生	壺	B区	(18.5)	-	-	ヨコナデ ナデ	口縁部ヨコナデ ヘラナデ ハケ目の後ナデ	橙	橙	灰褐色・赤褐色・淡黄の粒	
310	弥生	壺	B区	-	-	-	ハケ目の後ミガキ	ハケ目の後ナデ	にぶい橙 橙	橙	赤褐色・黒・灰色の粒 半透明・黒の光沢粒	
311	弥生	壺	B区	(24.2)	-	-	ヨコナデ ハケ目の後ナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	黒・茶・灰色の粒 黒い半透明の光沢粒	
312	弥生	壺	B区	-	-	-	工具ナデ ミガキ	ヨコナデ	淡黄	灰白	黒・茶・灰色・半透明の粒	
313	弥生	壺	B区	(16.3)	-	-	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤褐色・黒・灰白、半透明の粒	
314	弥生	壺	B区	-	-	-	ヨコナデ 貼付突帯	ナデ	褐灰 にぶい黄橙	橙	茶・灰色・半透明の粒 透明の光沢粒	
315	弥生	壺	B区	-	(9.1)	-	タテナデ 黒斑	ナデ	淡黄 黒褐	淡黄	灰・乳白色・半透明の粒 黒い透明の光沢粒	
316	弥生	壺	B区	-	(7.4)	-	ミガキ ナデ スス附着	ナデ	にぶい褐 橙	浅黄橙 にぶい褐	茶・灰・黒、半透明の粒 黒の光沢粒、微細な砂粒が多い	
317	白磁	碗	B区	-	-	-	端反り 施釉	施釉	灰白	灰白	精良	
318	白磁	碗	B区	-	-	-	端反り 施釉	施釉	灰白	灰白	精良	

第15表 本池遺跡出土石器観察表

ライト番号	出土地点	器 種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石 材	備 考
256	A区	砥 石	8.1	9.6	4.7	479.5	砂 岩	
257	A区	砥 石	(5.6)	(4.3)	(1.6)	(57.4)	砂 岩	
258	A区	砥 石	14.7	5.4	4.8	596.8	砂 岩	
259	A区		7.6	4.4	3.6	43.1	軽 岩	
260	A区		9.2	4.1	3.4	46.1	軽 岩	
319	A区	磨製石鏃	2.1	1.4	0.3	0.8	チャート	
320	B区	磨製石鏃	2.9	(2.3)	0.3	(1.9)	頁 岩	
321	B区	〃	2.9	(1.8)	0.3	(1.3)	〃	
322	B区	〃	(2.6)	1.8	0.2	(1.2)	〃	
323	B区	〃	3.8	2.7	0.5	6.0	〃	未成品
324	B区	磨製石斧	5.9	3.5	1.5	(43.7)	〃	
325	B区	打製石斧	4.8	3.1	1.0	13.6	〃	
326	B区	石 皿	(14.3)	(12.1)	(6.2)	(1170)	砂 岩	

第16表 本池遺跡出土土錘観察表

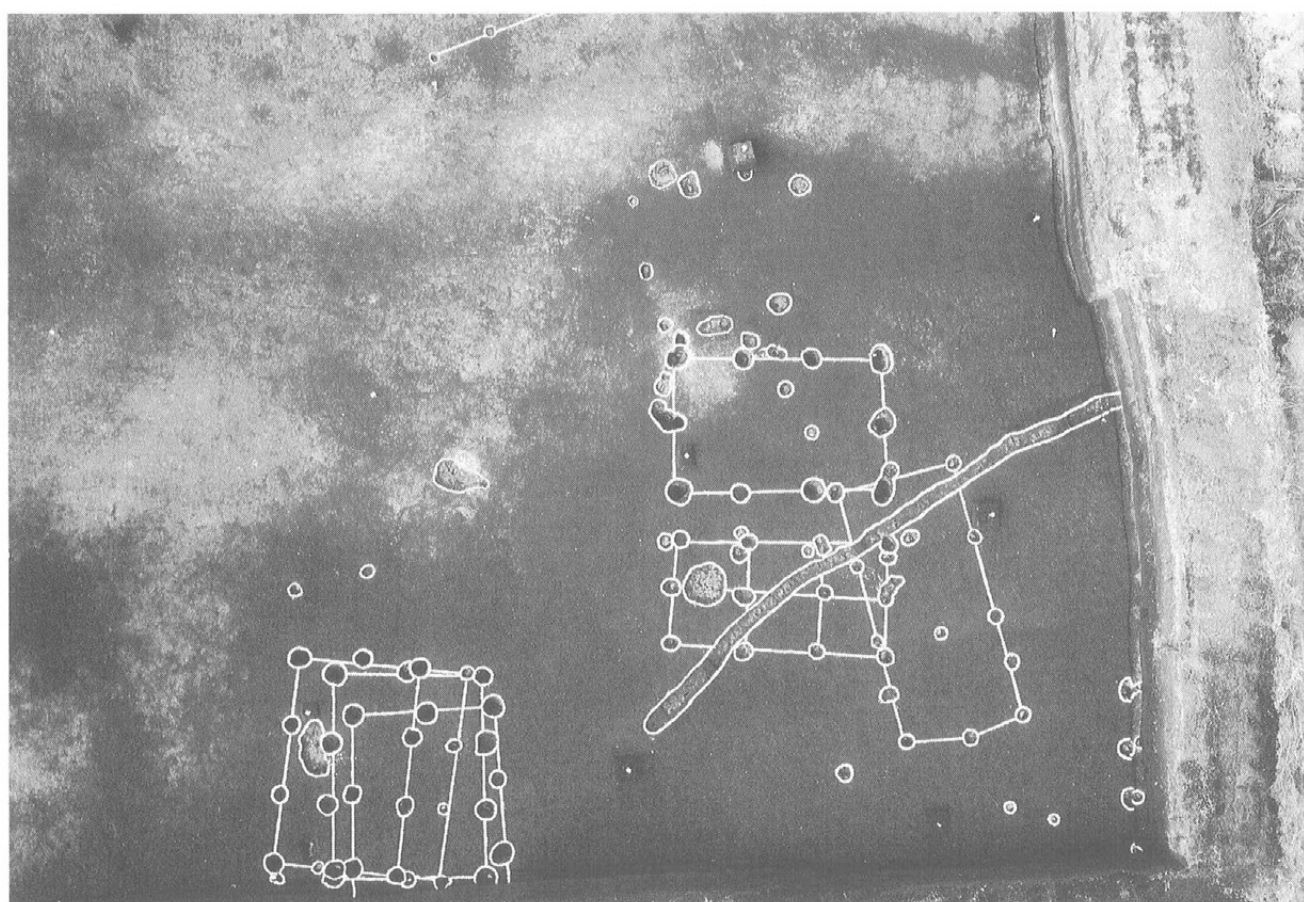
ライト番号	出土地点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)
231	A 区	土 錘	5.6	2.3		21.9
232	A 区	〃	(5.3)	2.5		(25.4)
233	A 区	〃	5.0	2.6		23.0
234	A 区	〃	5.6	2.3		21.5
235	A 区	〃	5.0	2.5		(19.2)
336	A 区	〃	5.2	2.1		18.1
337	A 区	〃	5.2	2.0		16.0
338	A 区	〃	5.5	2.4		(22.1)
339	A 区	〃	(5.5)	2.1		(18.8)
340	A 区	〃	5.7	2.4		(23.6)
341	A 区	〃	5.4	2.4		(26.4)
342	A 区	〃	6.0	2.2		19.1
343	A 区	〃	5.6	2.3		21.5
344	A 区	〃	(5.3)	2.2		(16.0)
345	A 区	〃	(5.2)	2.1		(17.2)
346	A 区	〃	(5.3)	2.3		(23.8)
347	A 区	〃	(4.8)	2.4		(21.7)
348	A 区	〃	(4.7)	2.1		(15.9)
349	A 区	〃	5.4	2.4		(20.3)
350	A 区	〃	5.6	2.4		(22.7)
351	A 区	〃	(5.0)	2.4		(17.0)
352	A 区	〃	4.3	2.3		16.8
353	A 区	〃	(3.9)	2.4		(16.0)
354	A 区	〃	(2.7)	(2.0)		(7.7)
355	A 区	〃	(2.7)	(2.4)		(10.5)

图

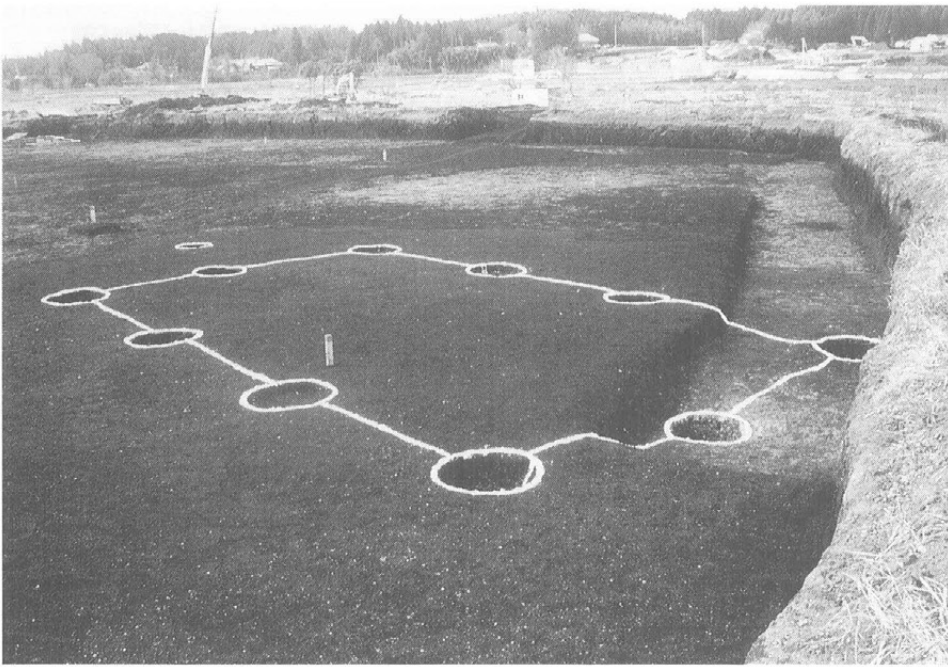
版



本池遺跡 A 区全景



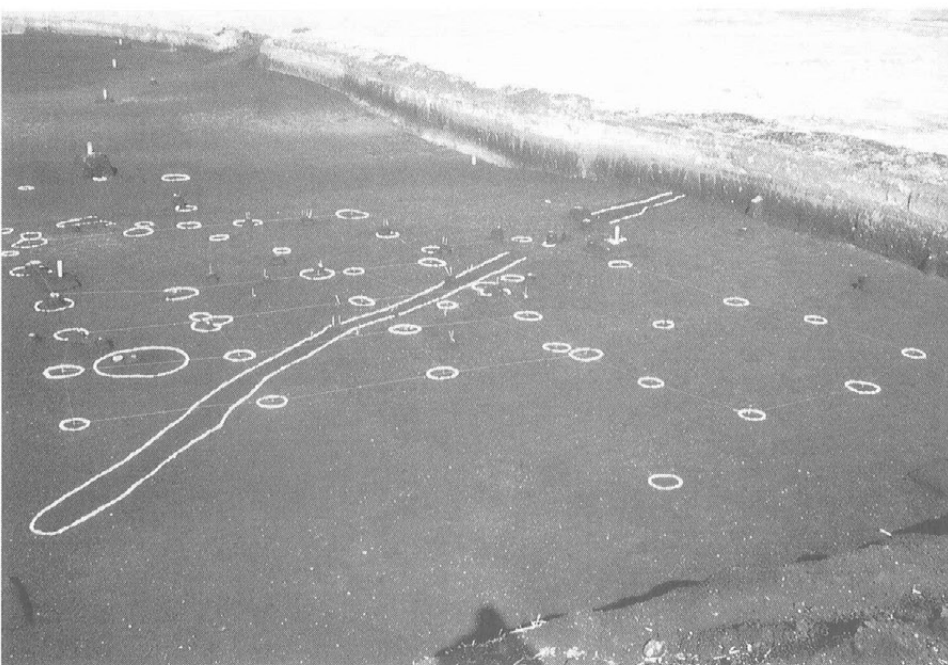
A 区平安時代遺構群



A区 SB1

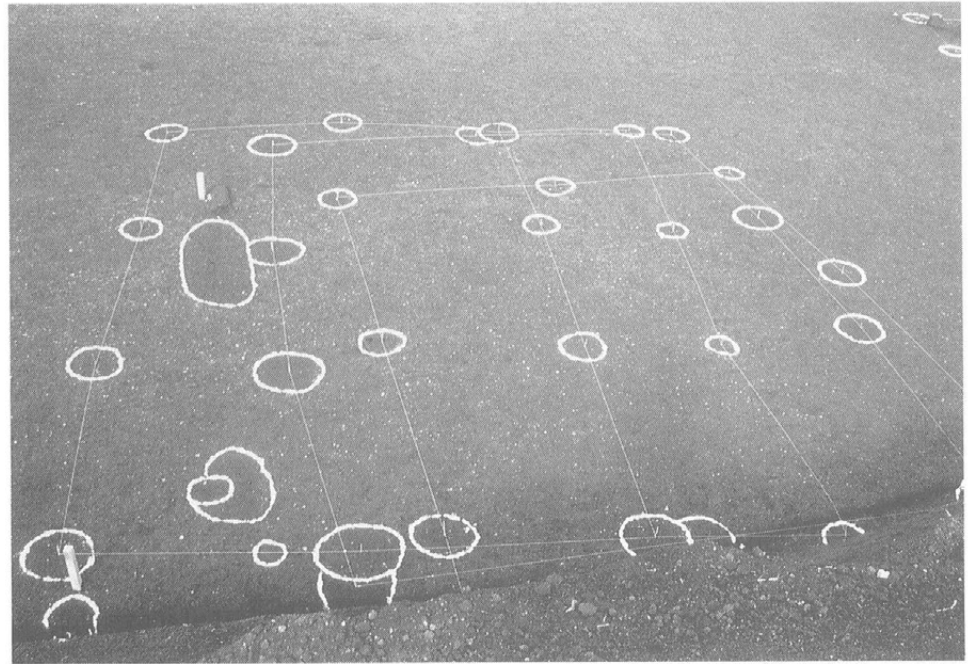


A区 SB1
柱穴断面

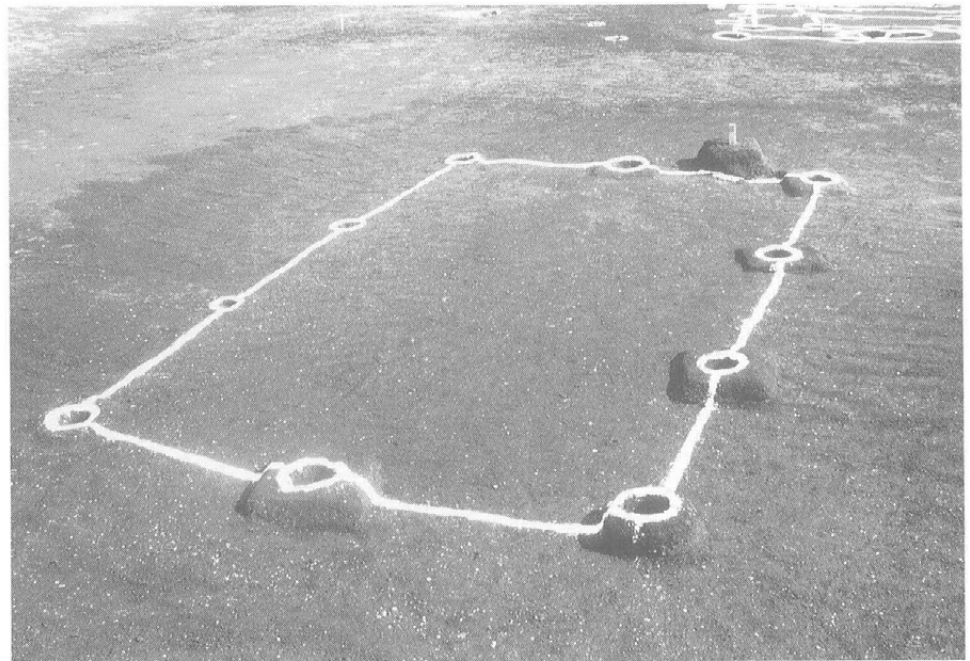


A区 SB2・3・4

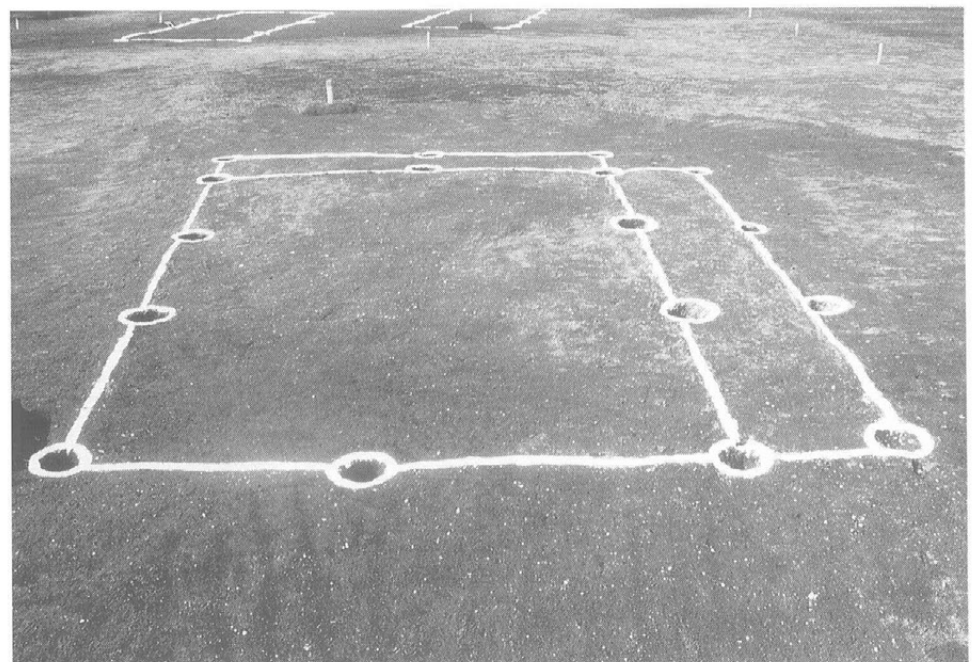
A区 SB5・6・7



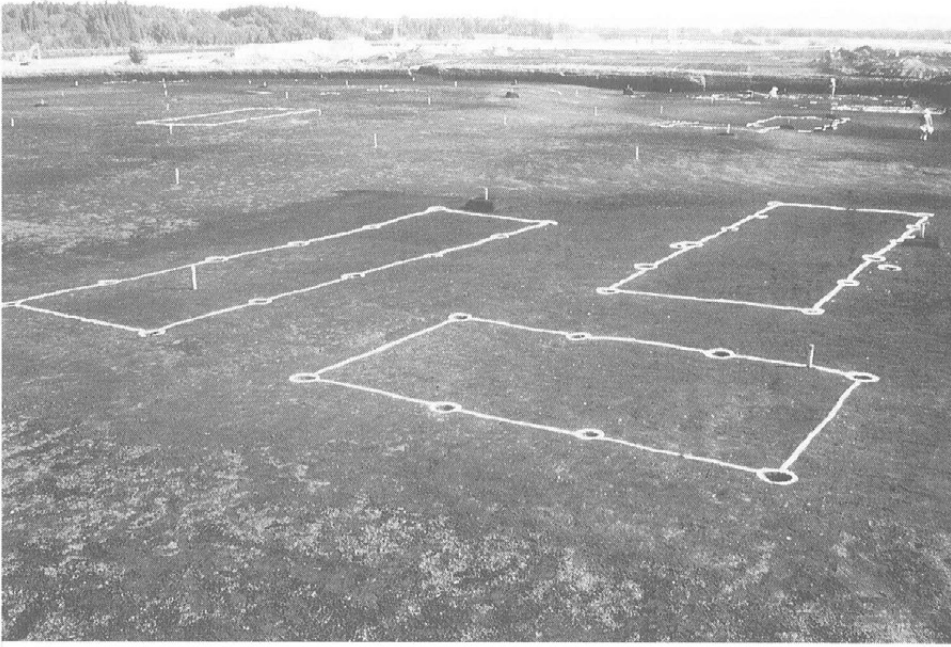
A区 SB8



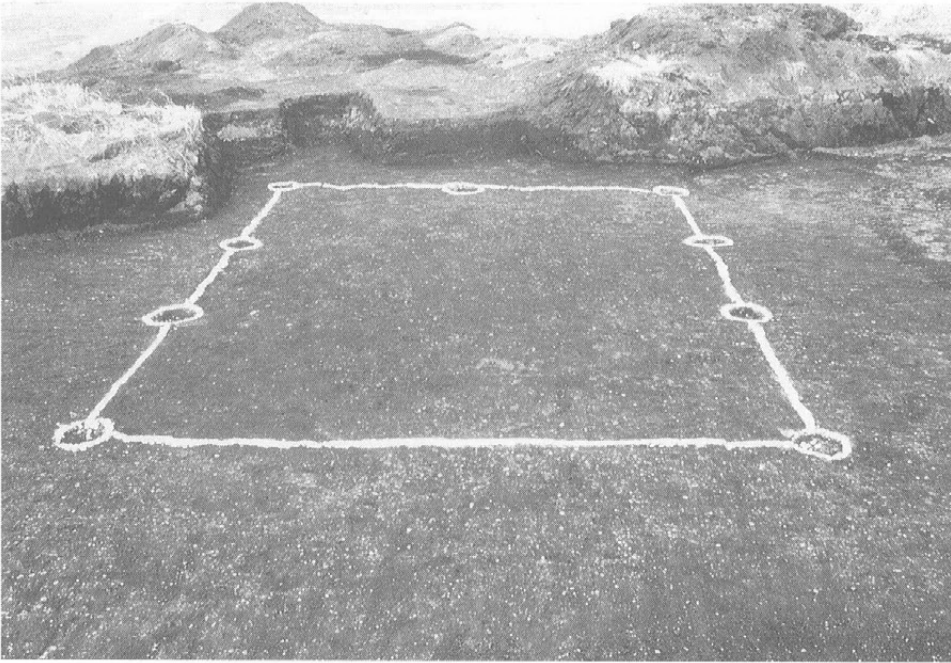
A区 SB9



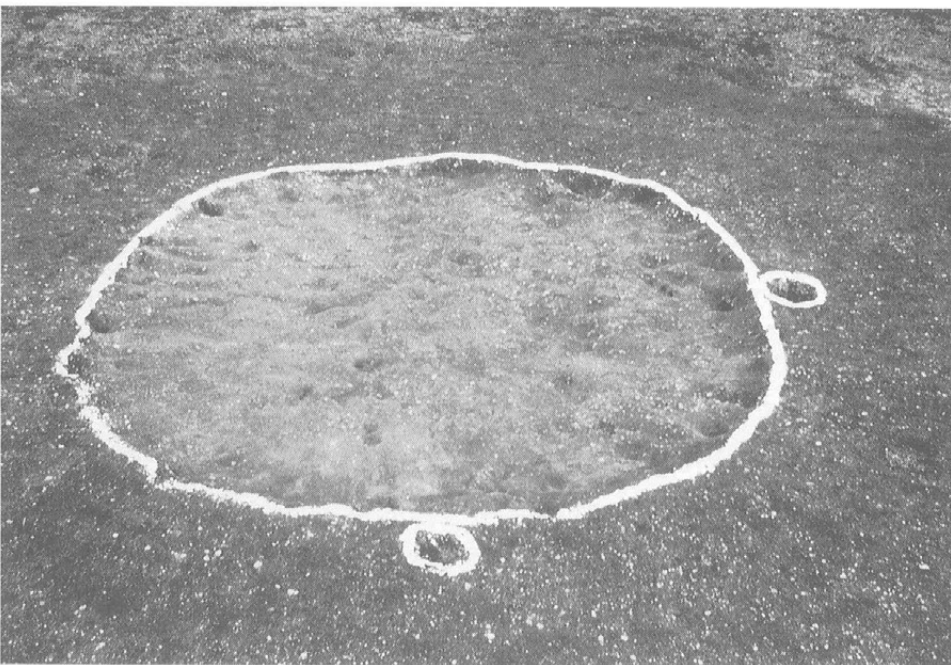
図版 4



A区 SB10・11・12

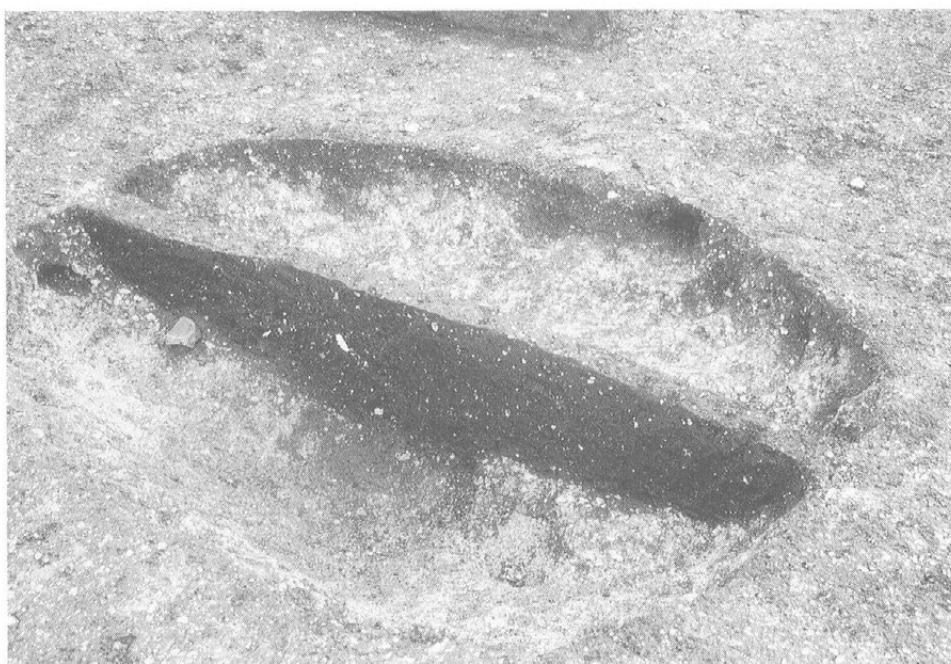


A区 SB14



A区 SA1

A区 SC1



A区 SZ1



A区 平安時代
遺物出土状況

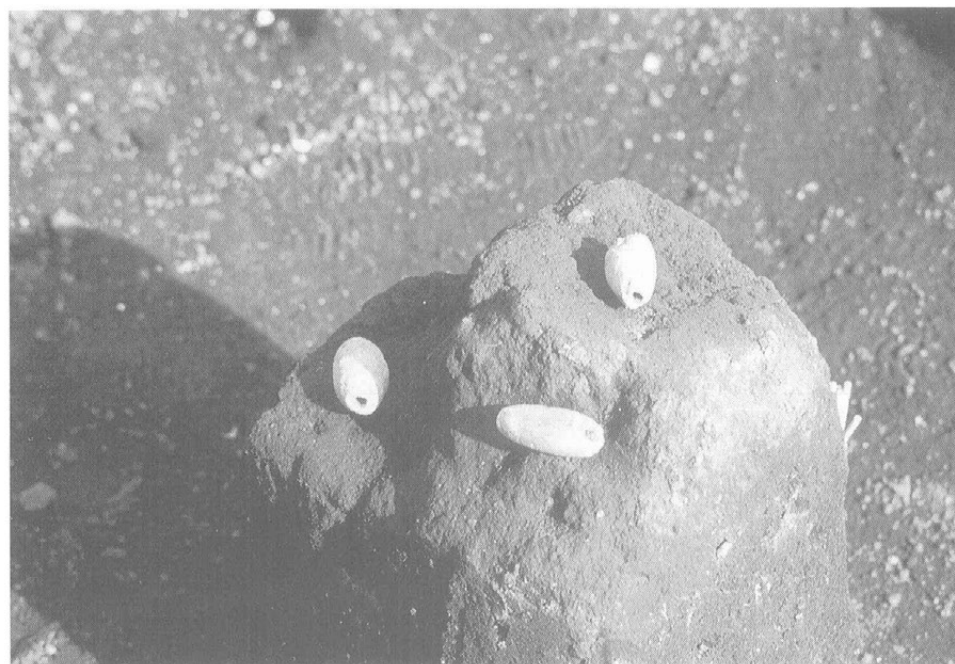




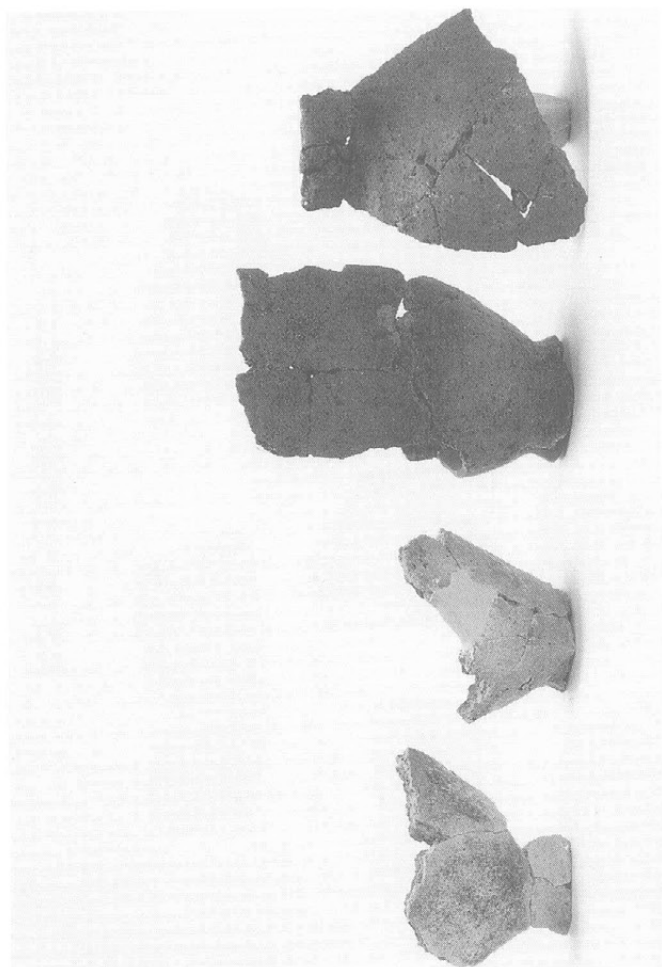
白磁出土状況



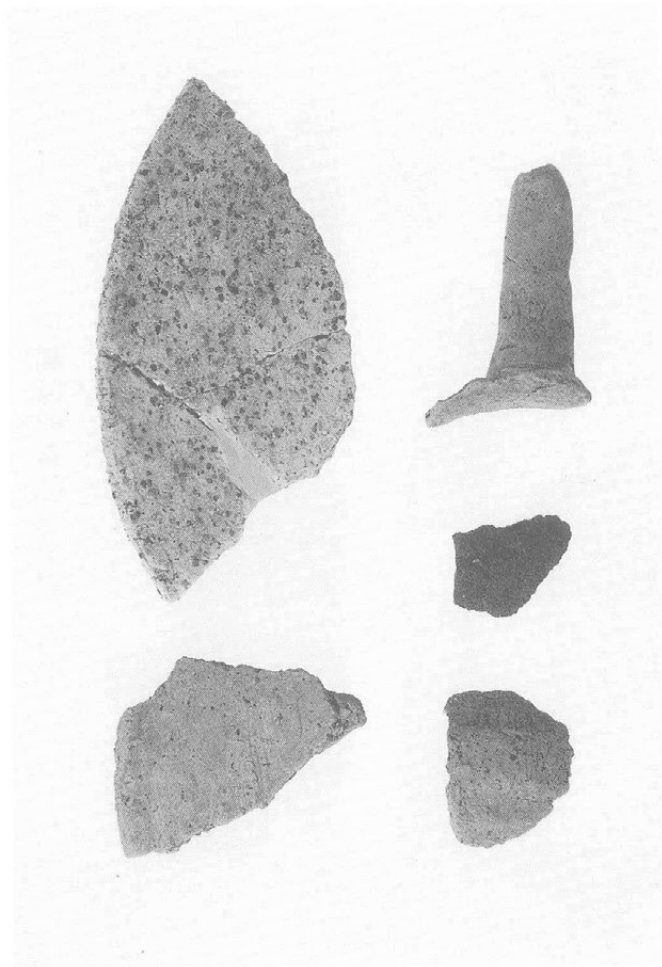
鉄製鈎針
出土状況



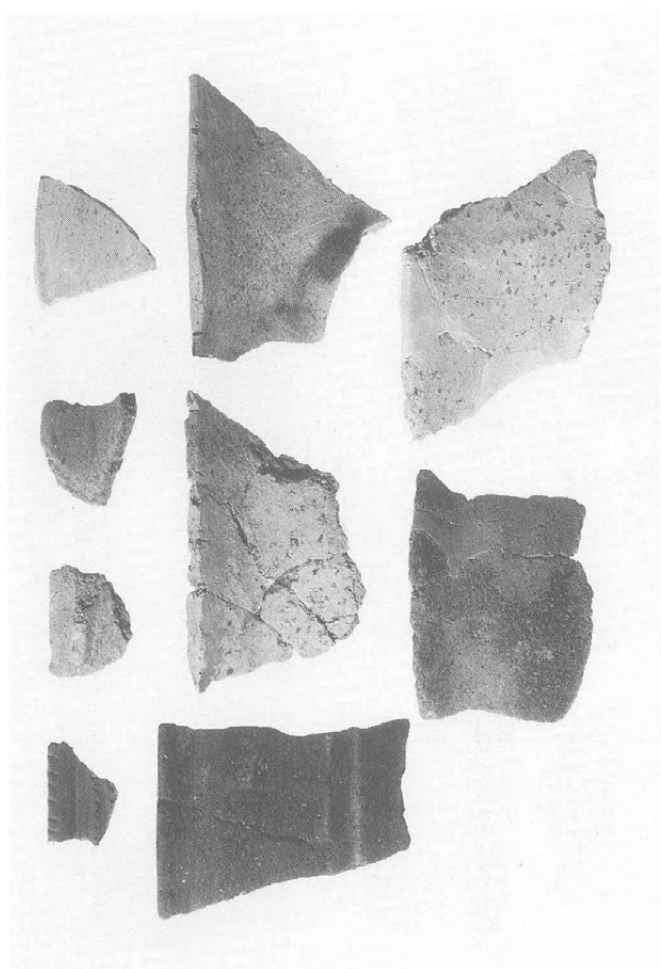
土錘出土状況



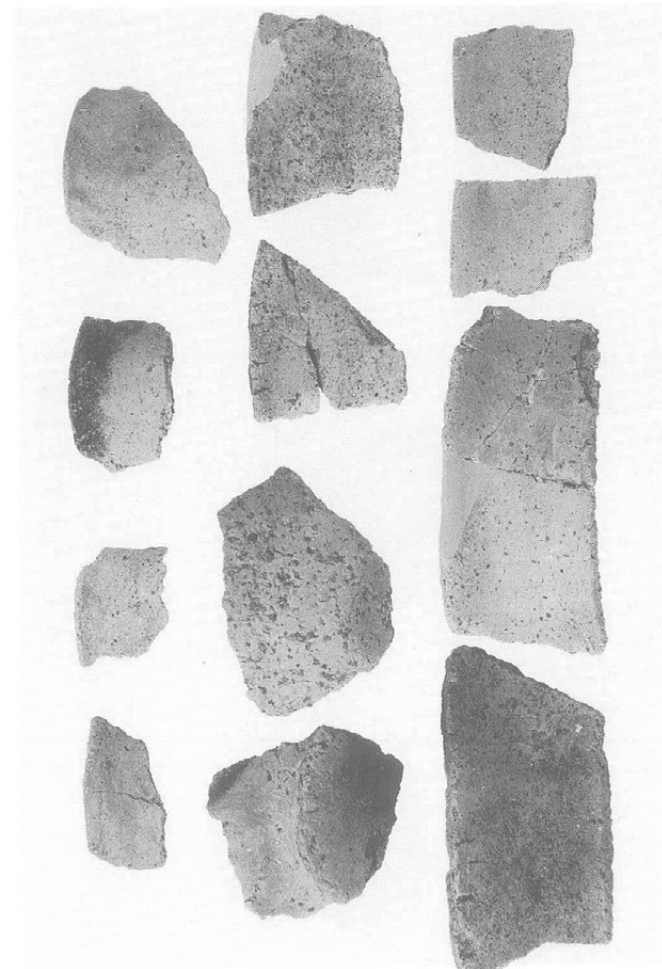
A区出土弥生土器(2)



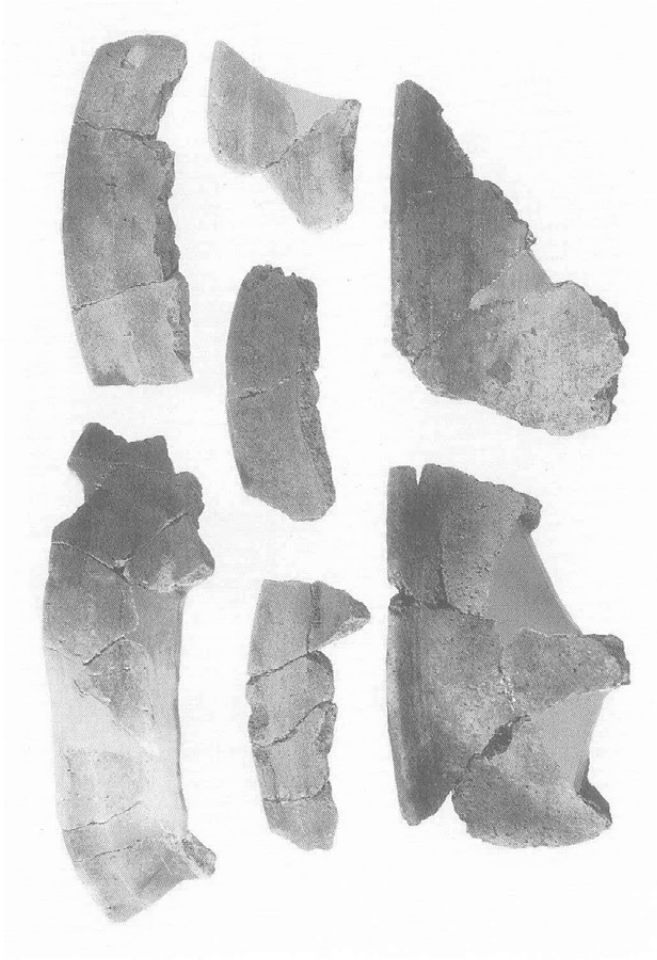
A区出土弥生土器(4)



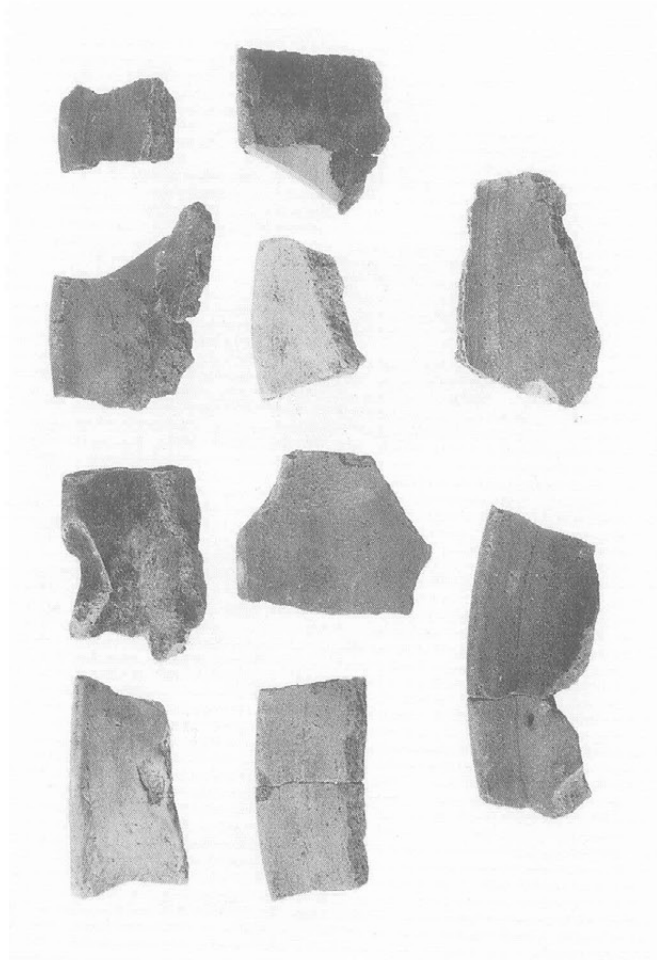
A区出土弥生土器(1)



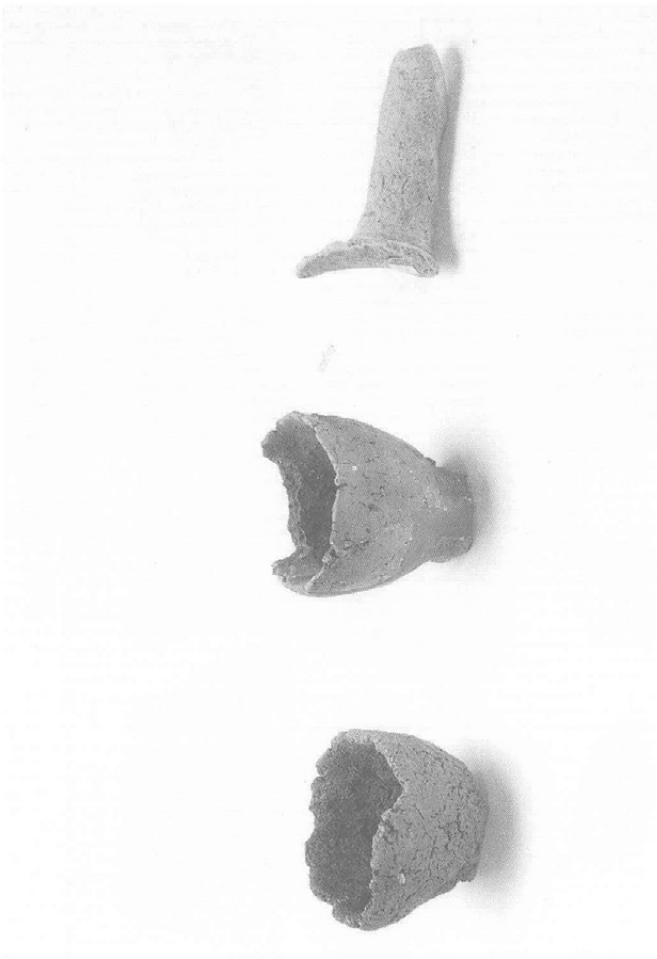
A区出土弥生土器(3)



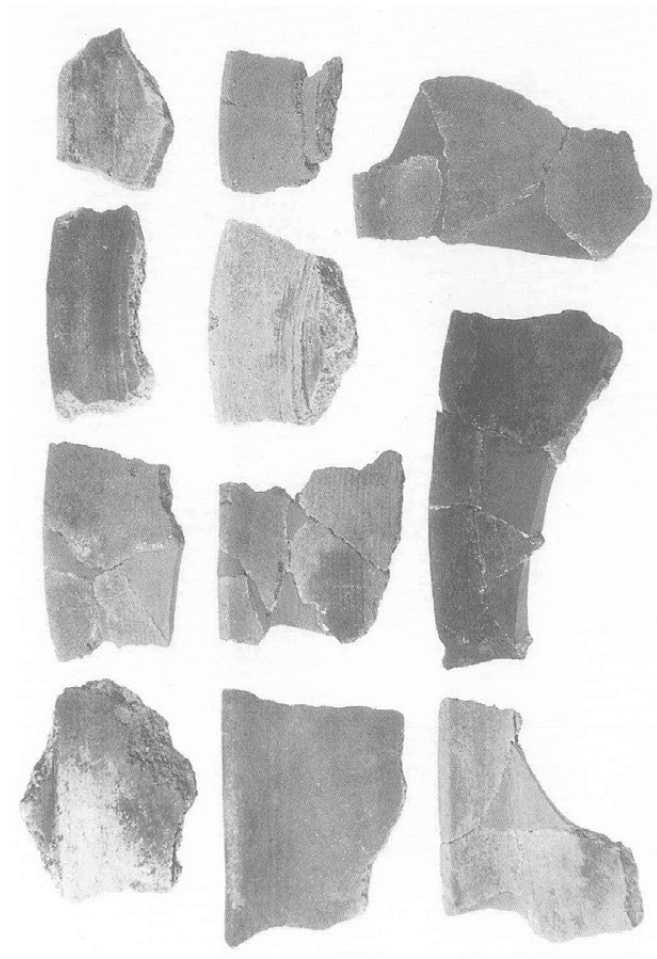
A区 出土师质土器甕(1)



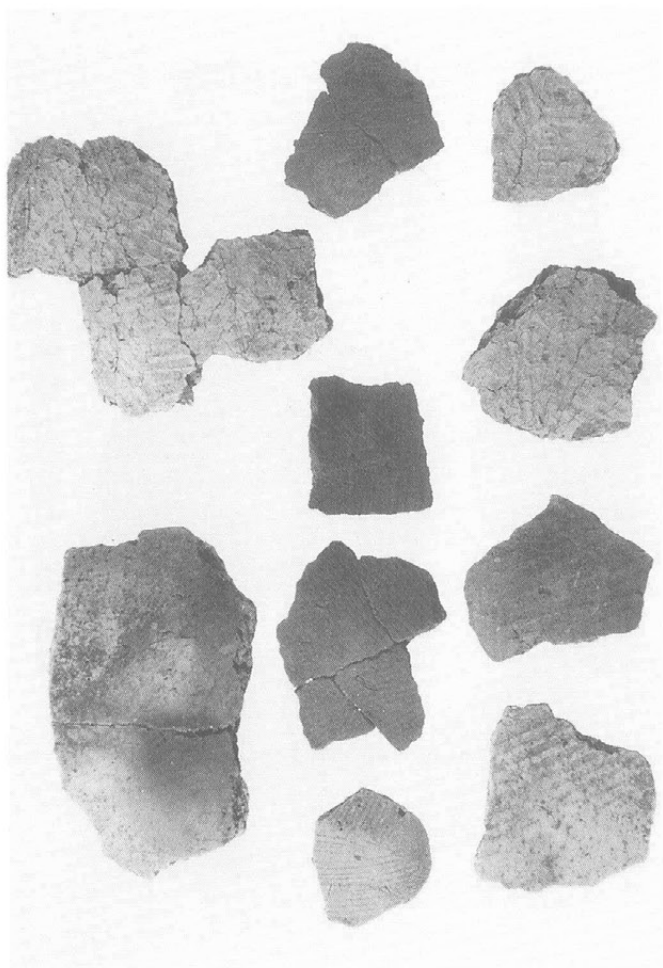
A区 出土师质土器甕(3)



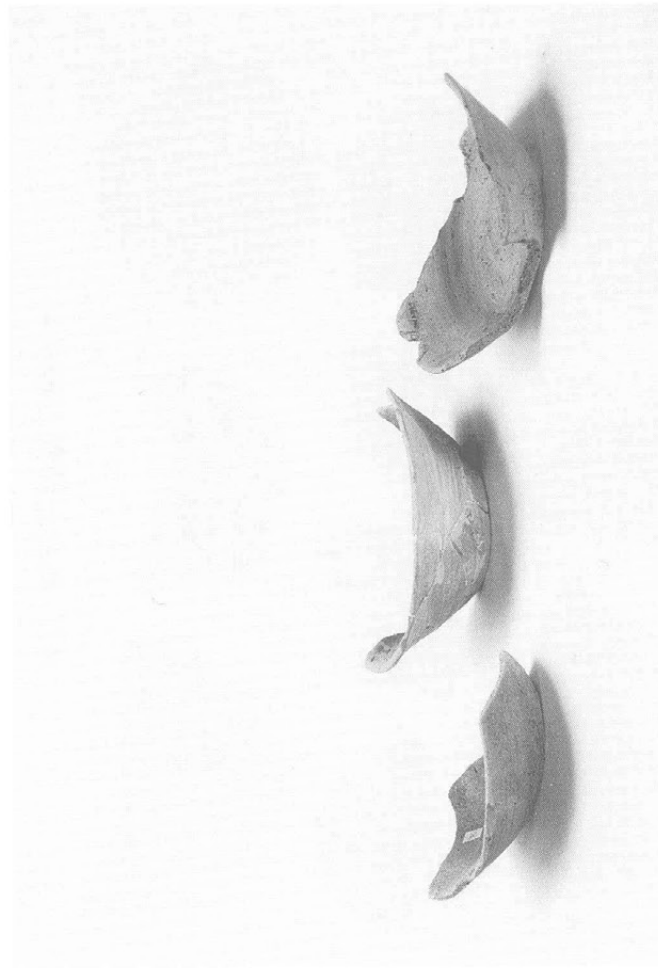
A区 出土弥生土器(5)



A区 出土师质土器甕(2)



A区 出土土師質土器甕(5)



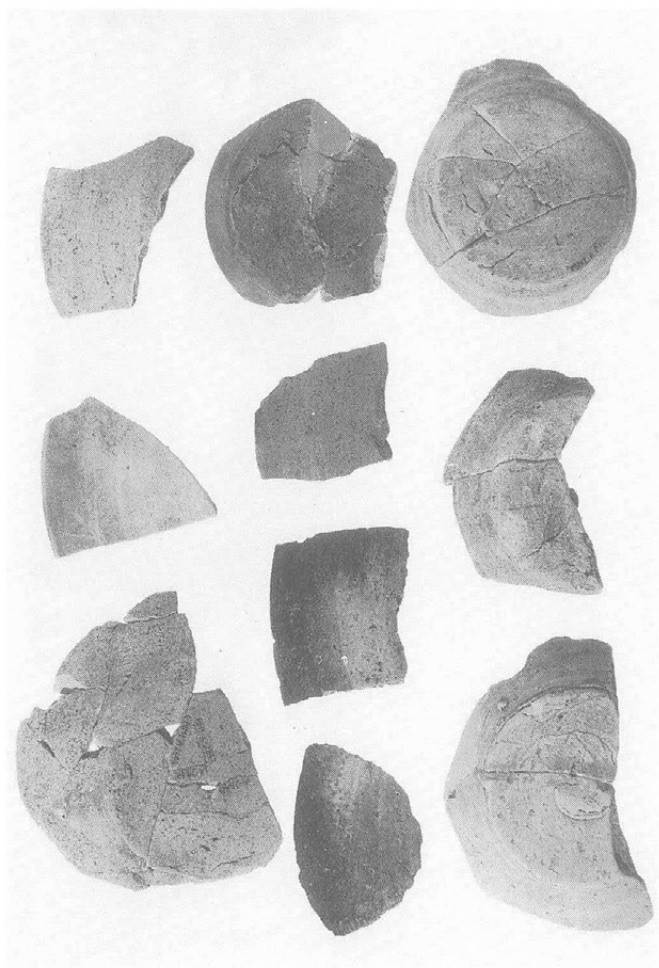
A区 出土土師質土器坏(2)



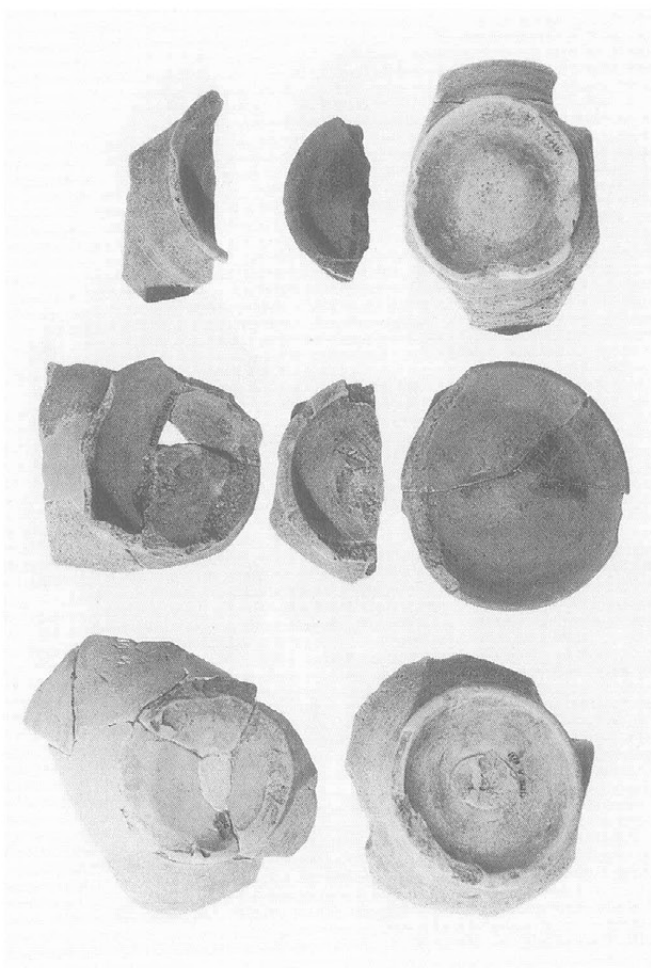
A区 出土土師質土器甕(4)



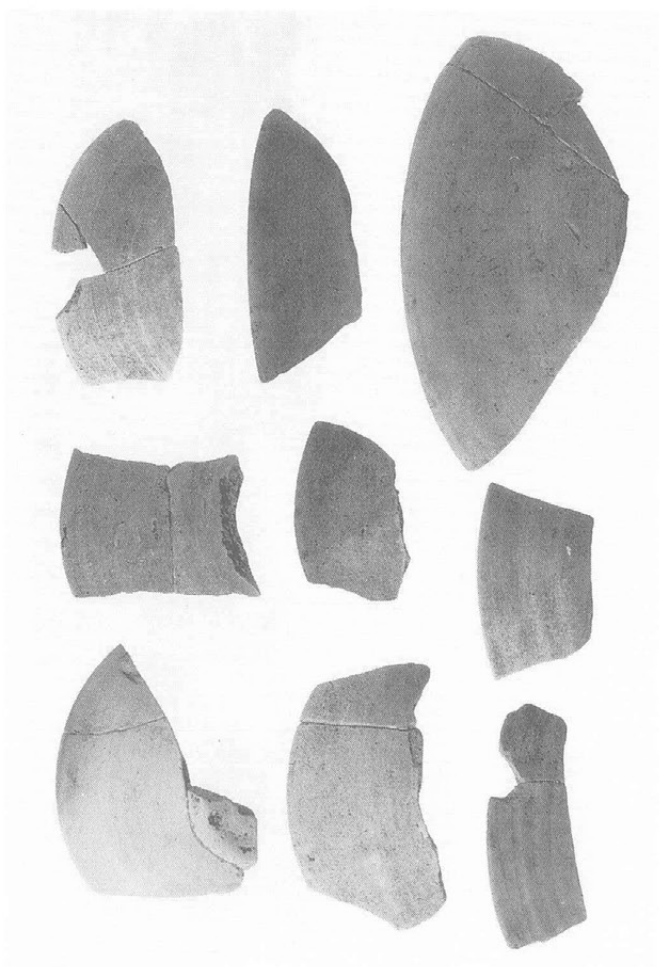
A区 出土土師質土器坏(1)



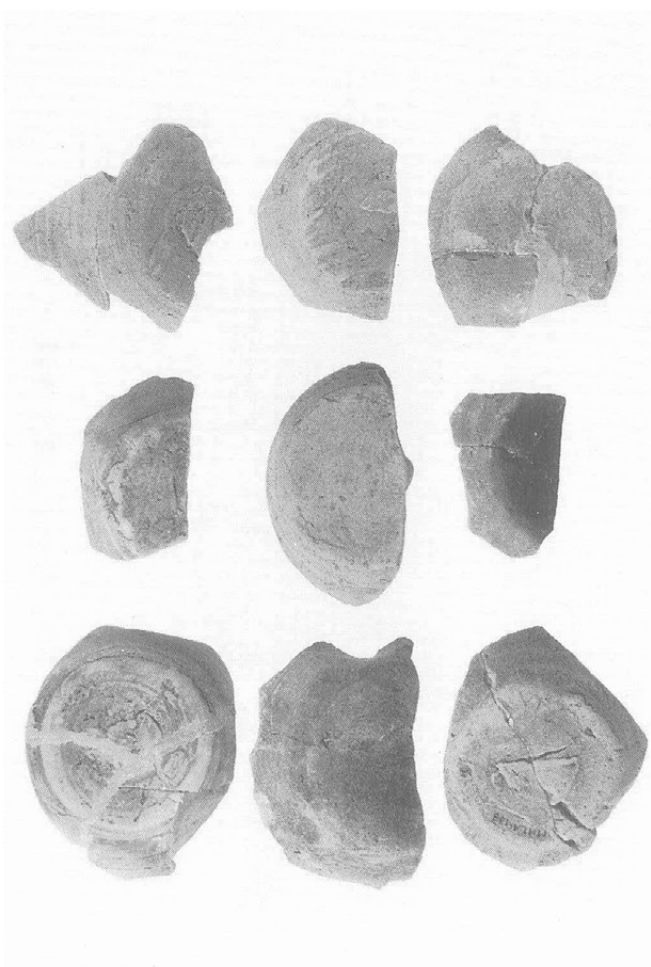
A区 出土土師質土器坏(4)



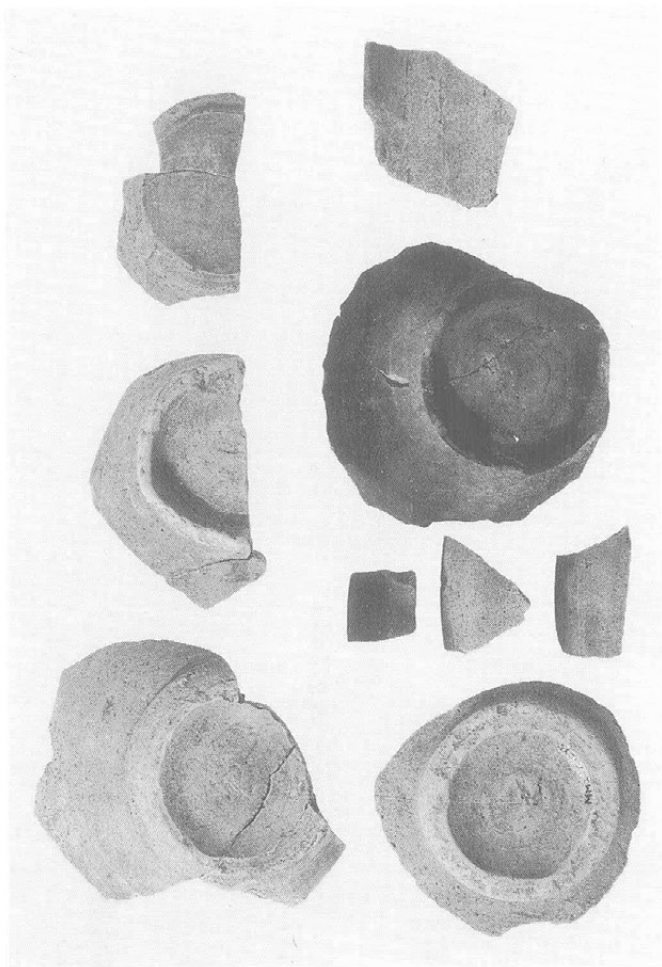
A区 出土土師質土器碗(1)



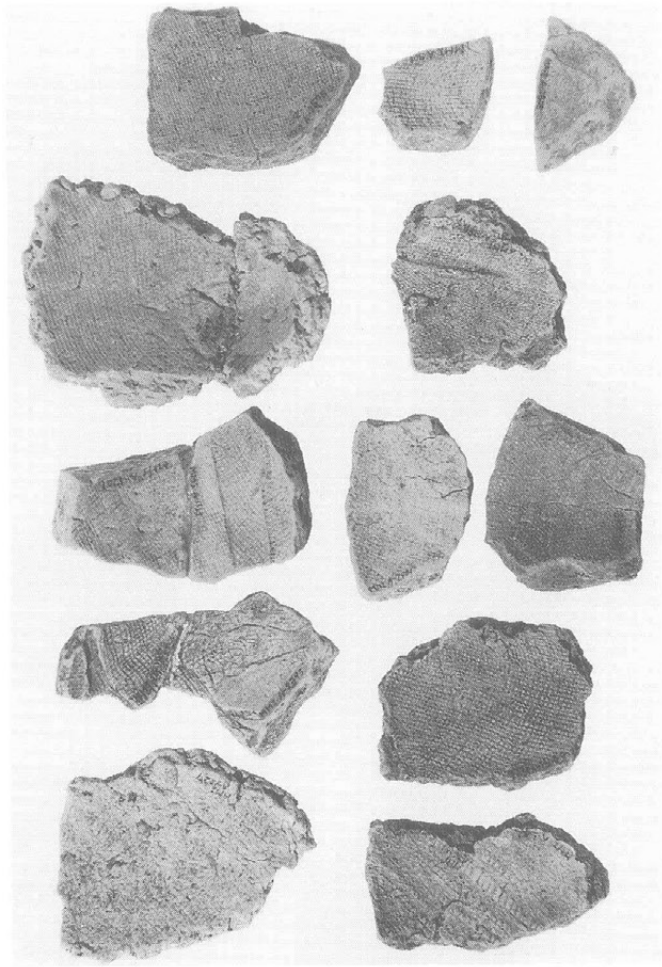
A区 出土土師質土器坏(3)



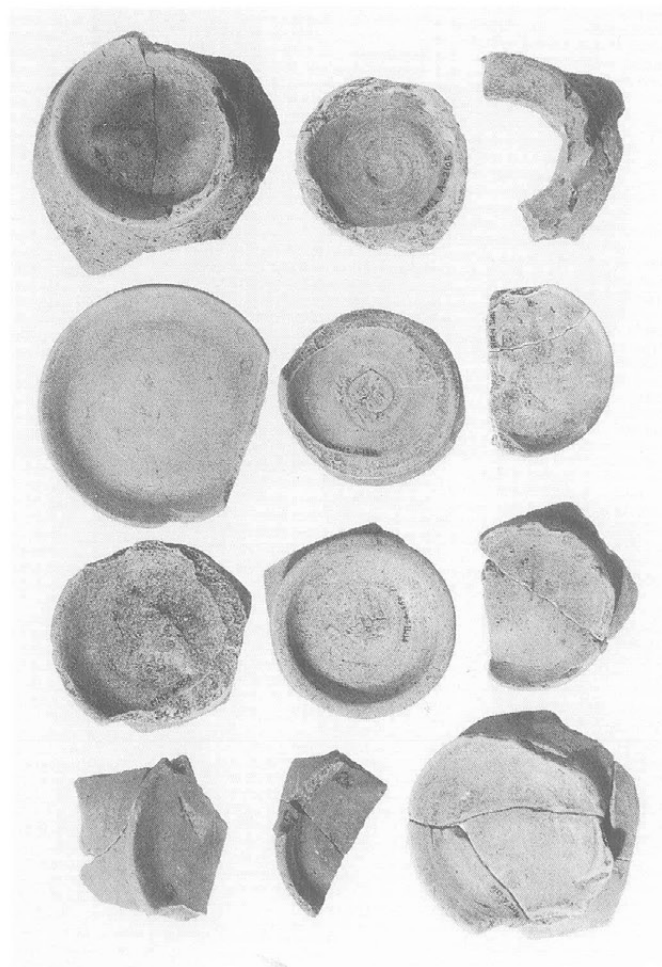
A区 出土土師質土器坏(5)



A区出土師質土器碗(3)



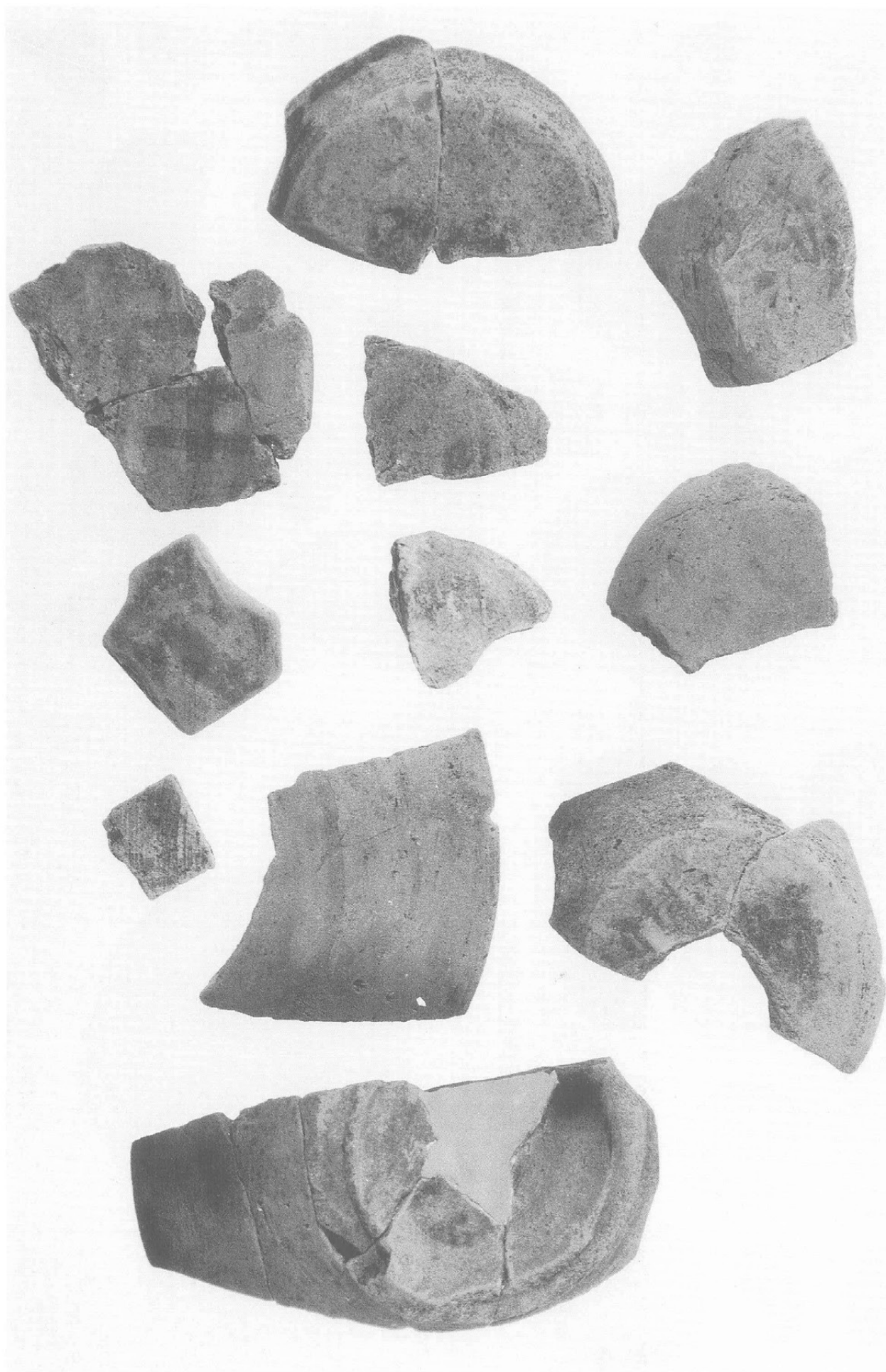
A区出土布痕土器



A区出土師質土器碗(2)



線刻土師質土器

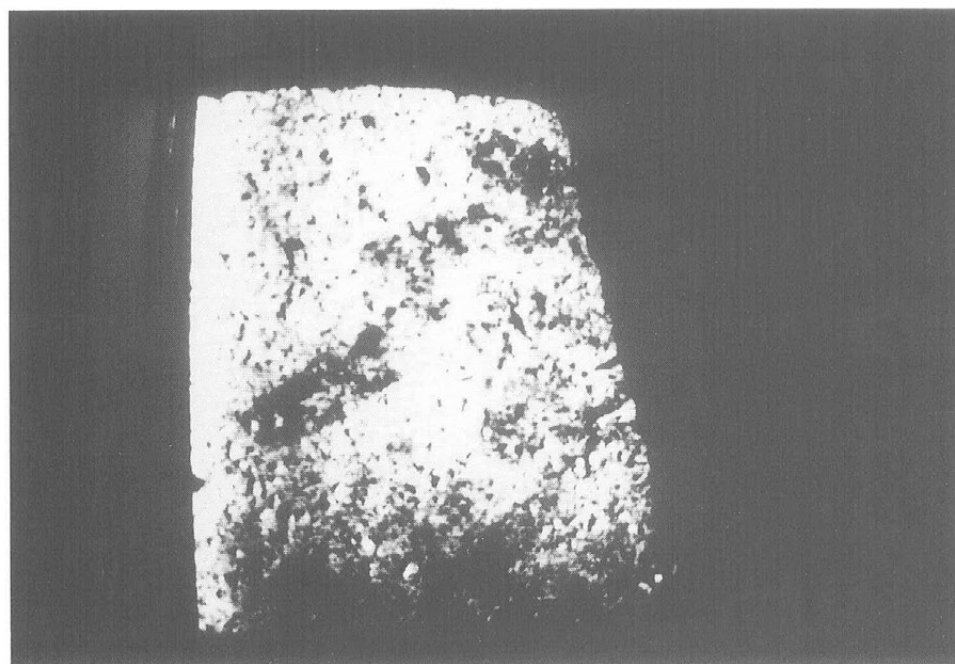


A区 出土墨書土器

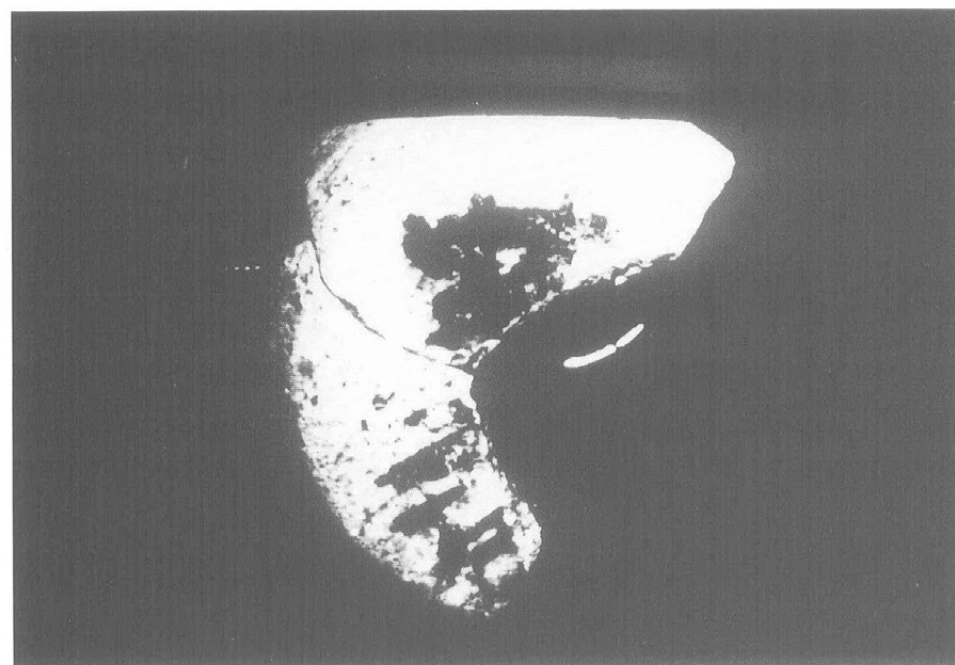
墨書土器
赤外線写真(1)
「奈」

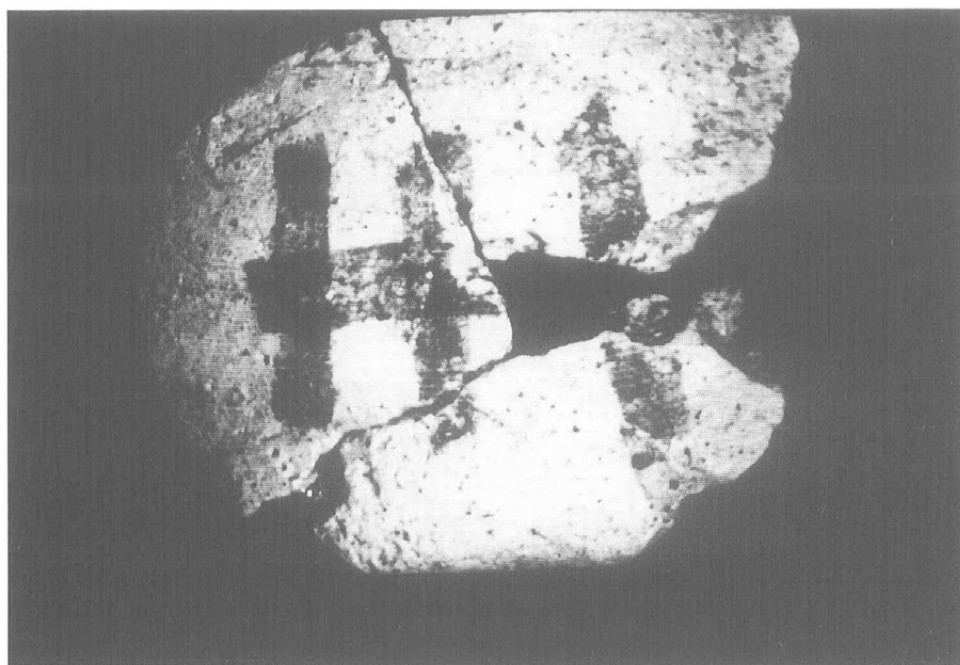


墨書土器
赤外線写真(2)
「廣」

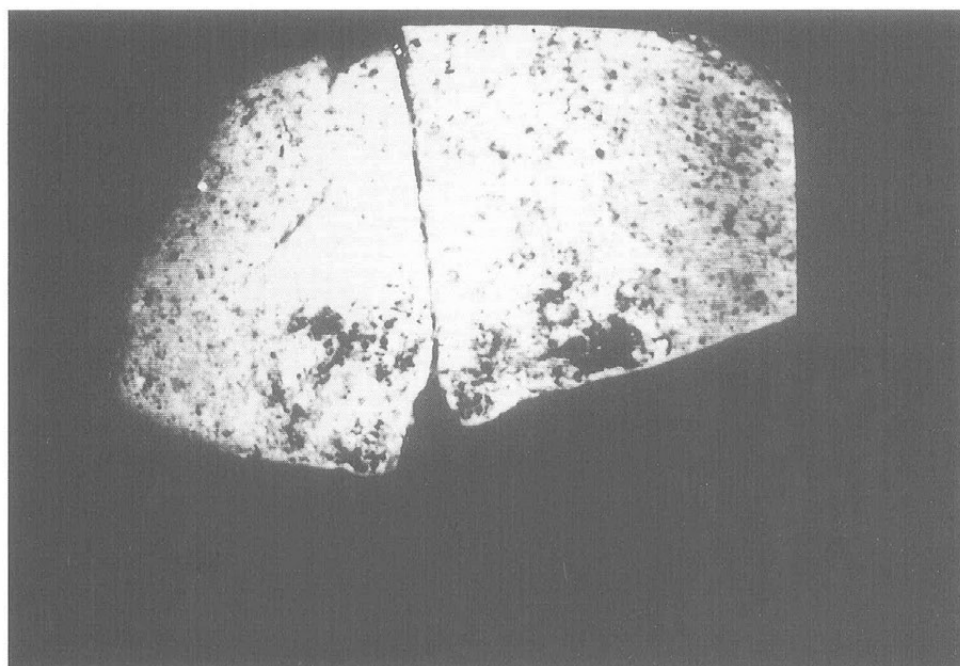


墨書土器
赤外線写真(3)
「萑 か」

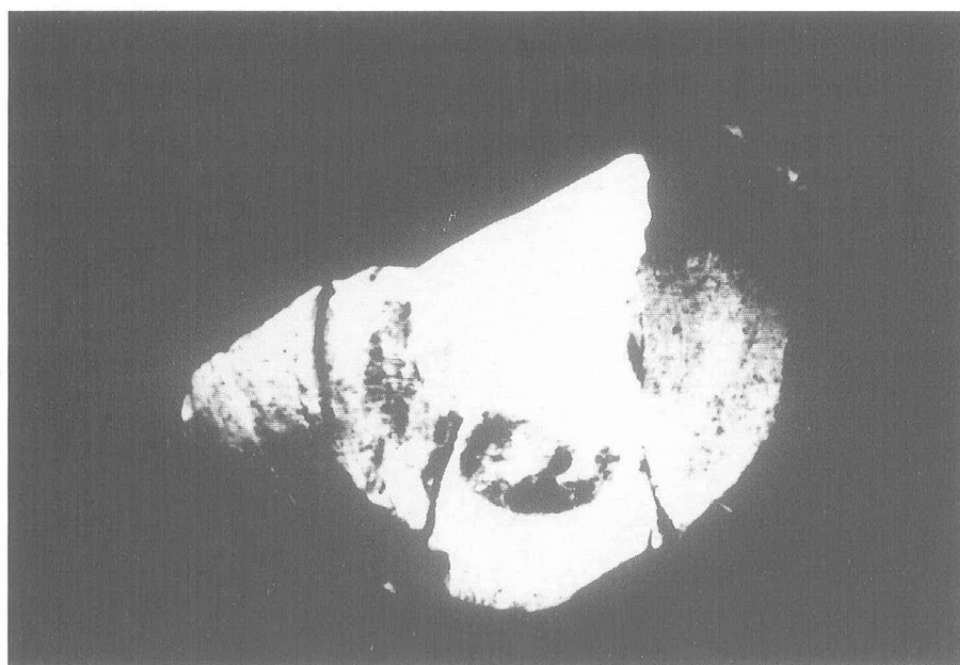




墨書土器
赤外線写真(4)
「卅」

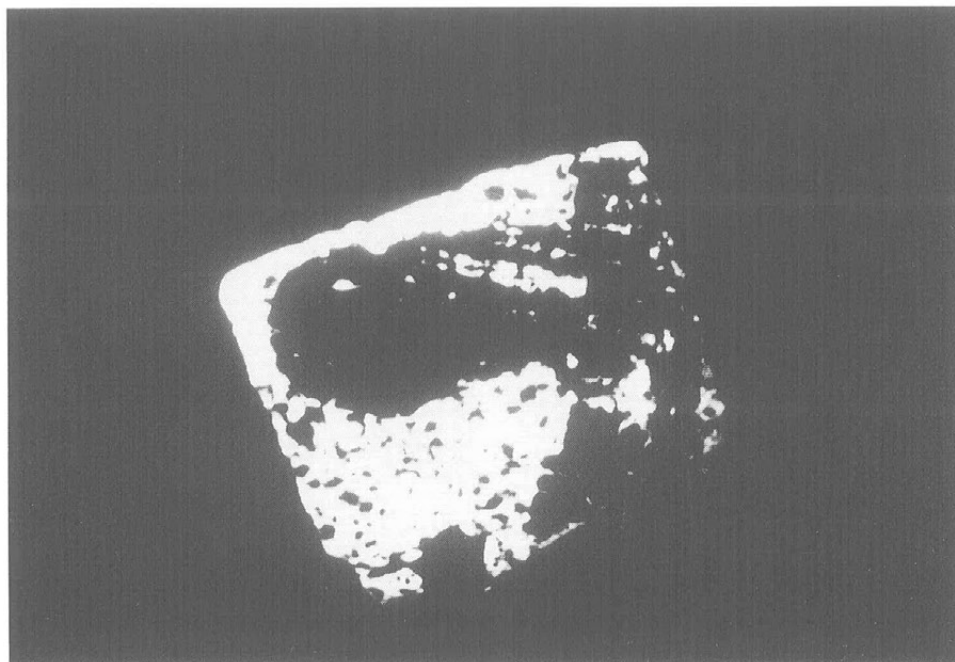


墨書土器
赤外線写真(5)

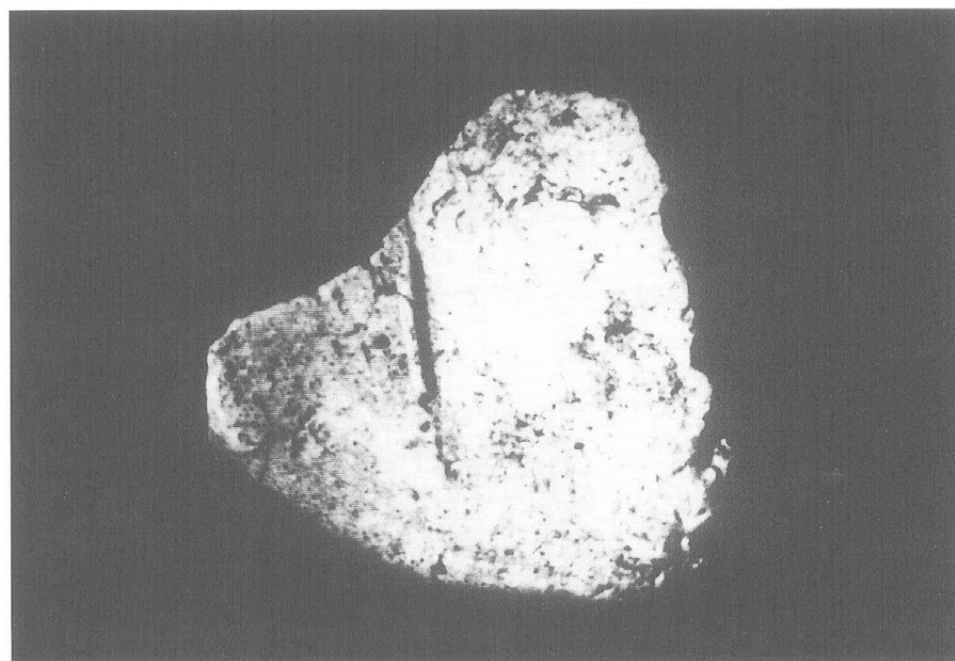


墨書土器
赤外線写真(6)

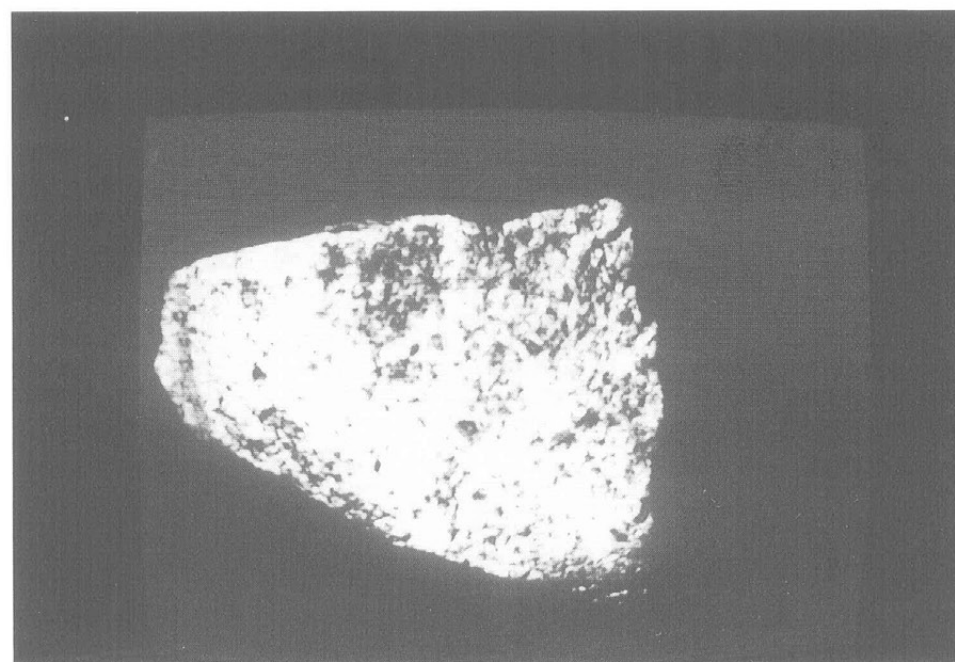
墨書土器
赤外線写真(7)

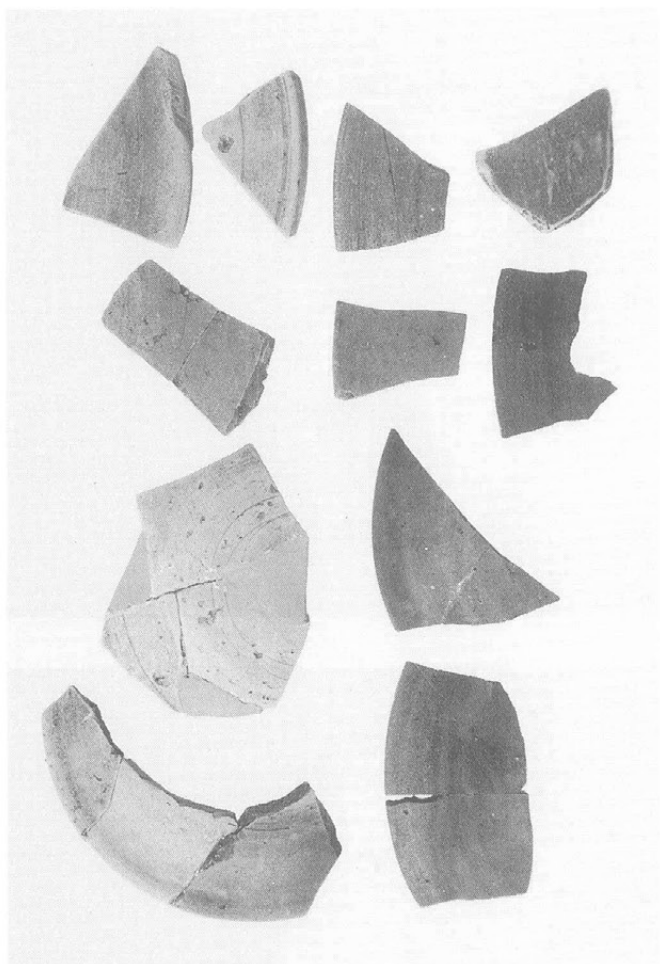


墨書土器
赤外線写真(8)
「了」



墨書土器
赤外線写真(9)

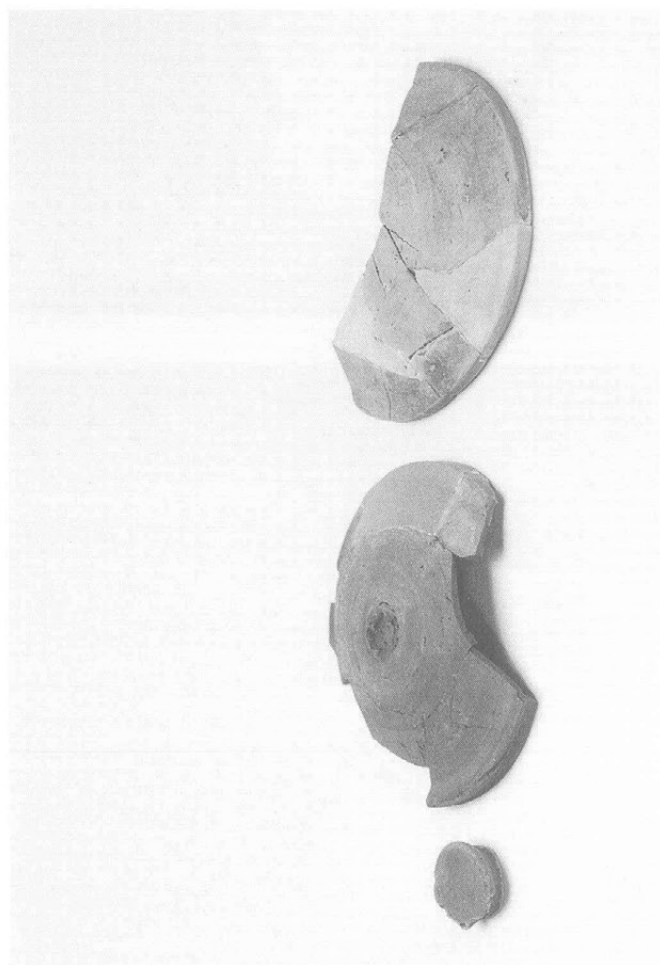




A区 出土須惠器(2)



A区 出土須惠器(4)



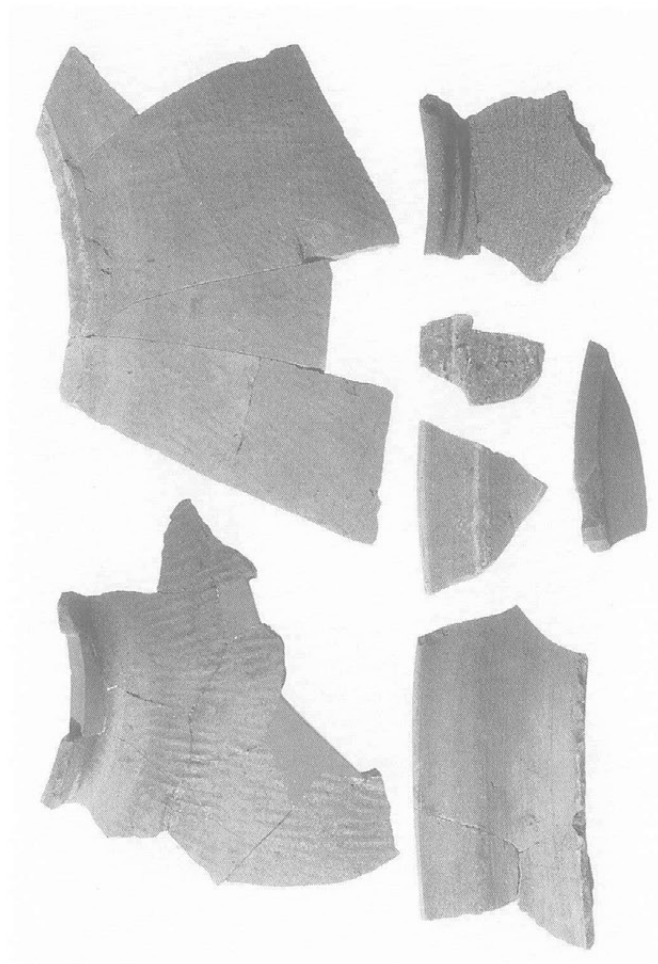
A区 出土須惠器(1)



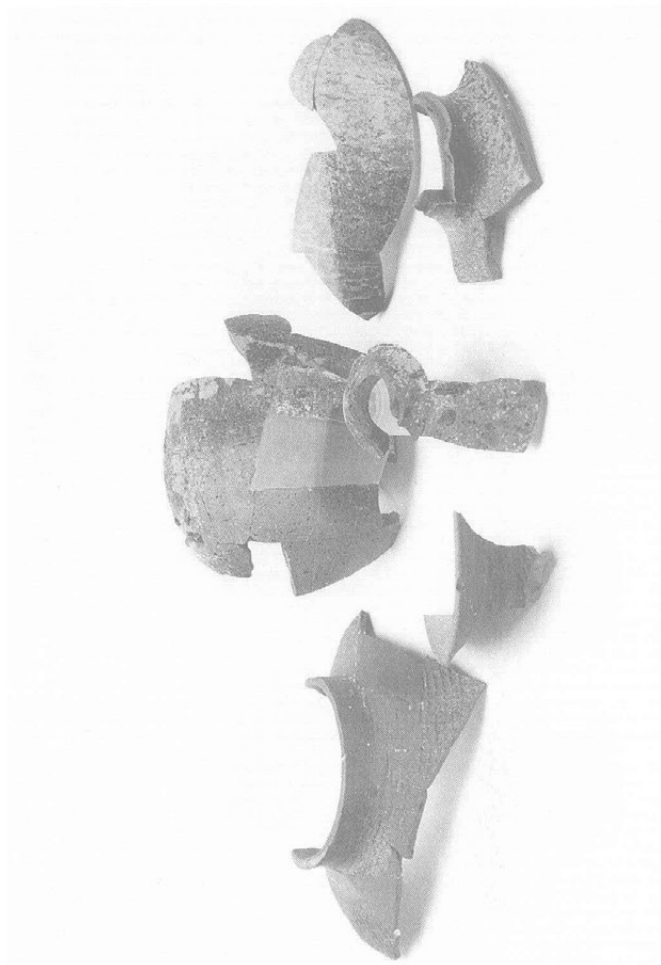
A区 出土須惠器(3)



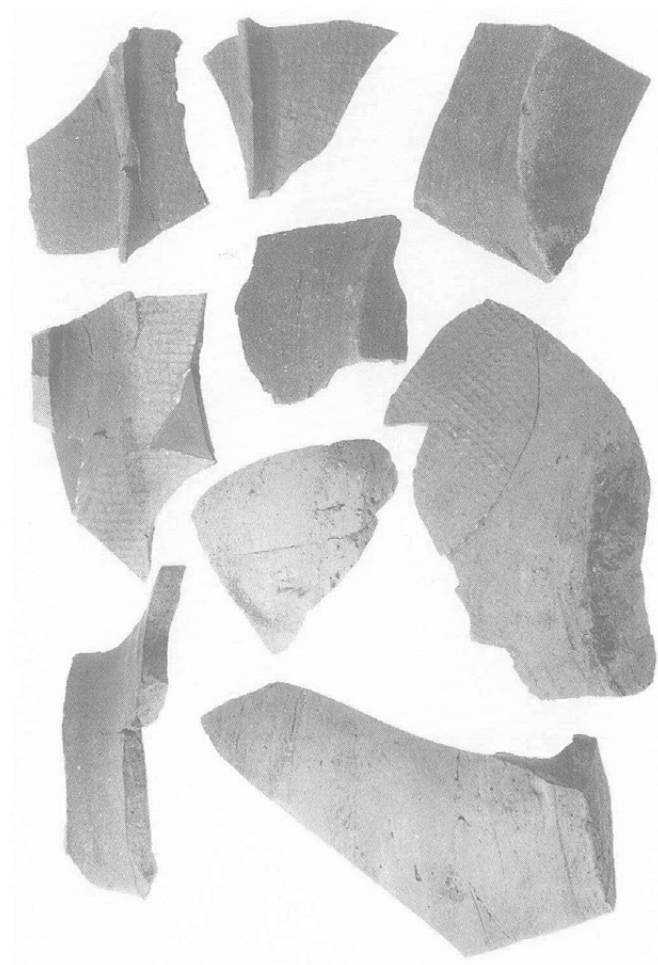
A区 出土須惠器(6)



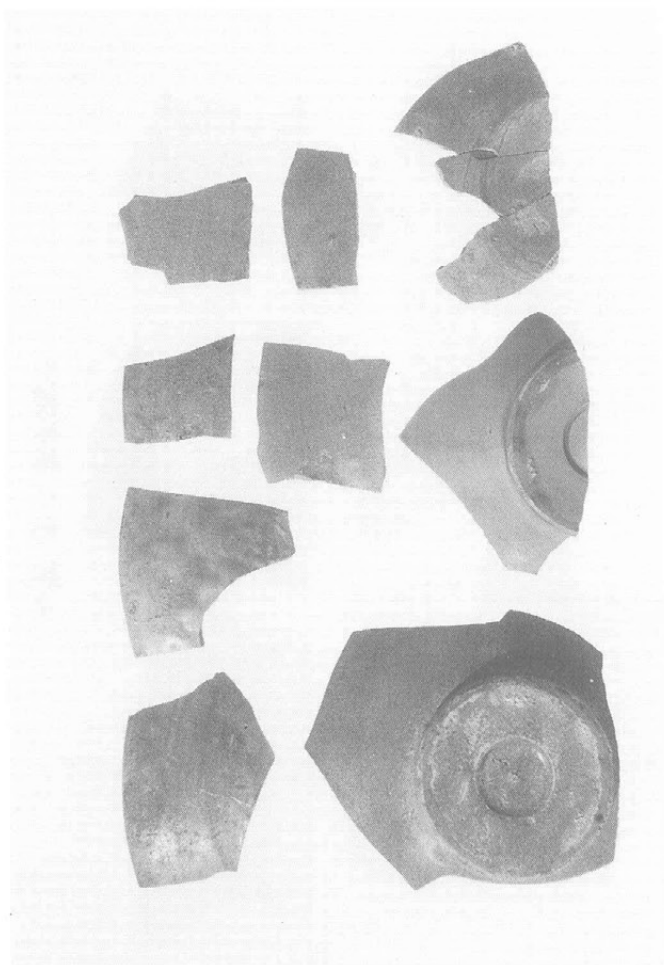
A区 出土須惠器(8)



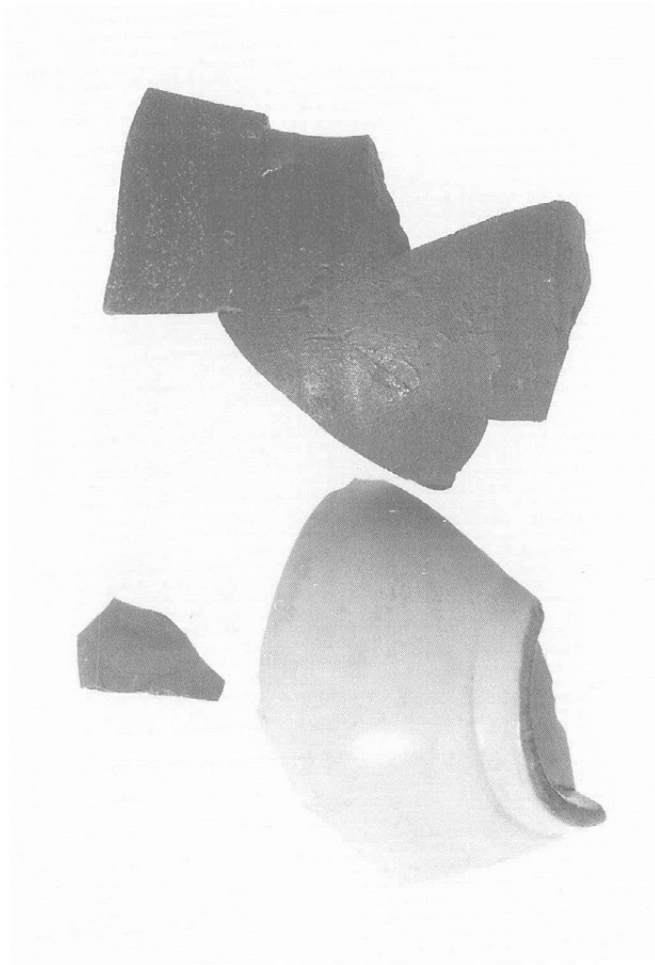
A区 出土須惠器(5)



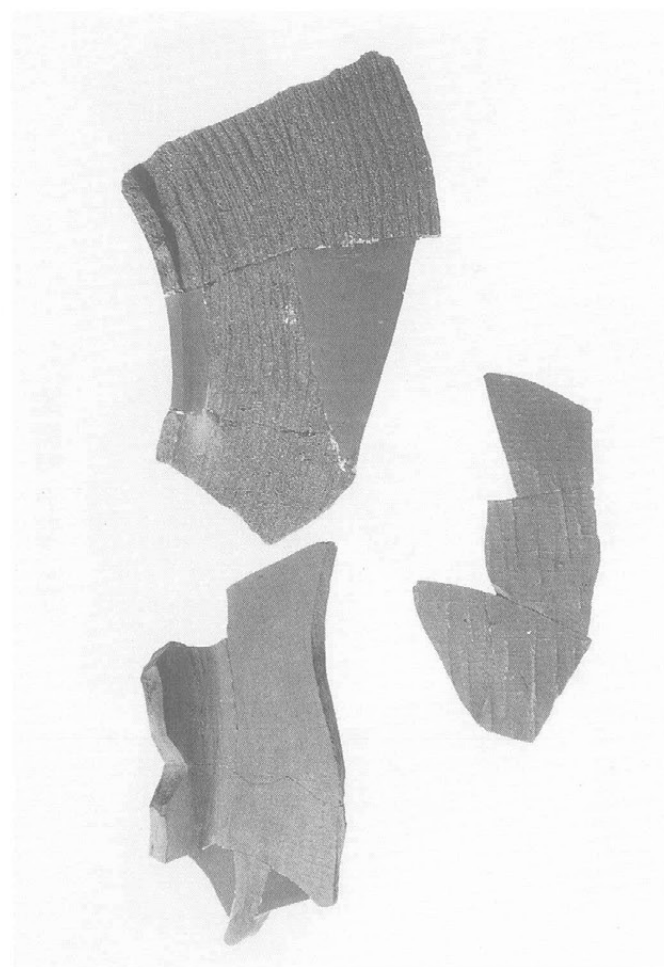
A区 出土須惠器(7)



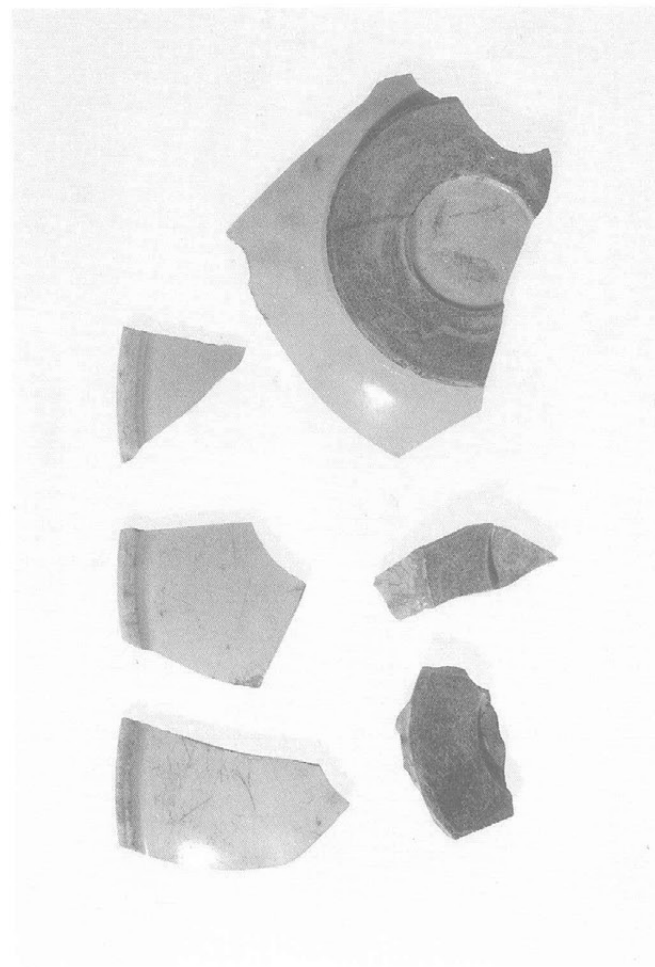
A区 出土越州窯青磁



A区 出土国産陶磁器



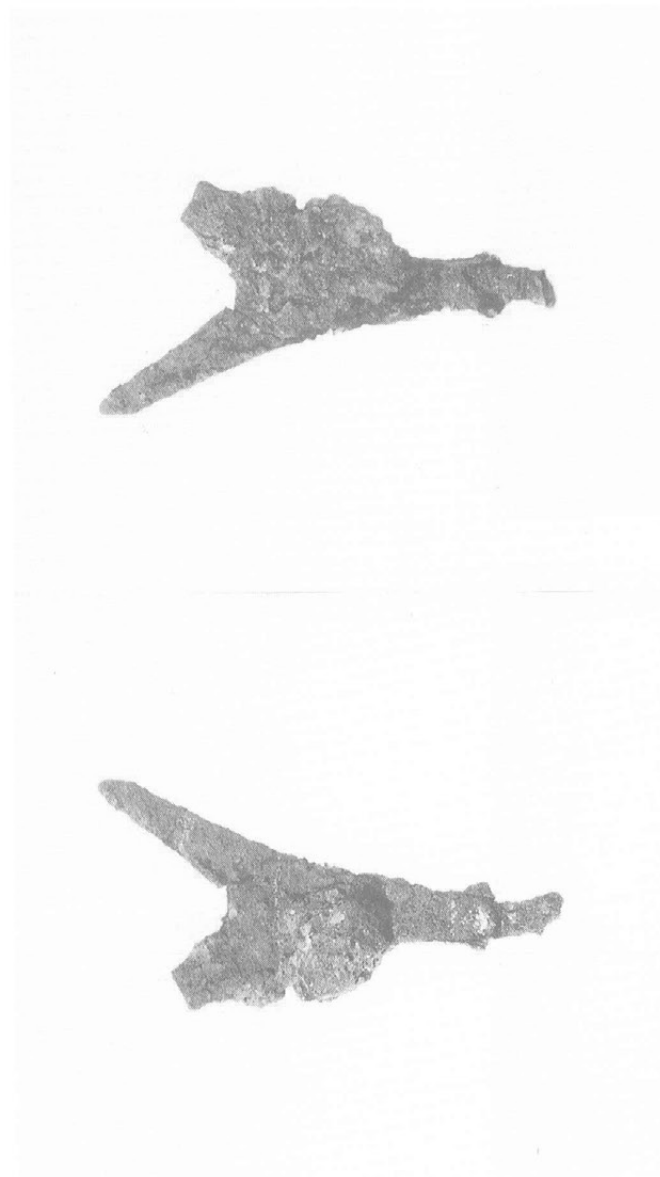
A区 出土須惠器(9)



A区 出土中国産白磁

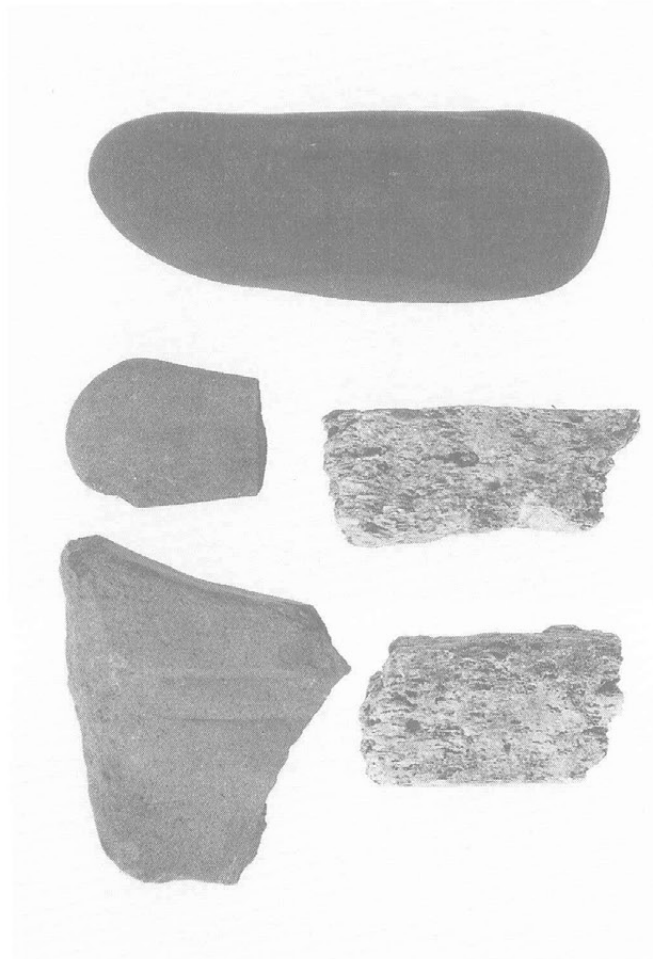


A区出土鉄鎌鈎針



A区SB2出土鉄鎌(表)

同左(裏)



A区出土石器



A区出土土錘